

平成28年度 松本大学大学院、松本大学、松本大学松商短期大学部
自己点検・評価報告書 目次

はじめに 4

第1部 平成28年度事業計画(大学委員会・理事会決定)に基づく総括的点検・評価

I. 全学的視点で見た事業計画実施状況の点検・評価6
II. 全学的点検・評価
1. 大学院 健康科学研究科 15
2. 総合経営学部 18
3. 人間健康学部 26
4. 教育学部設置準備室 34
5. 松商短期大学部 37

第2部 委員会・部会別点検・評価

I. 学生センター部門

A：教育推進充実部門

1. 教務委員会
(1) 全学教務委員会 42
(2) 総合経営学部教務委員会 45
(3) 人間健康学部教務委員会 48
(4) 松商短期大学部教務委員会 52
(5) 共通教養センター運営部会 57
(6) キャリア教育センター運営部会 59
(7) 資格取得支援センター運営部会 60
(8) 基礎教育センター運営部会 62
2. 教育改善推進委員会 63
(1) 教育企画推進部会 63
(2) FD・SD 運営部会 66
3. 教職センター運営委員会 69
4. 図書館運営委員会 72
5. 情報センター運営委員会 75
6. 国際交流センター運営委員会 77
7. 地域健康支援ステーション運営委員会 79
8. 地域づくり考房『ゆめ』運営委員会 85

B：学生支援部門

1. 学生委員会
(1) 全学学生委員会 89
(2) 総合経営学部学生委員会 91
(3) 人間健康学部学生委員会 92
(4) 松商短期大学部学生委員会 94

2. 就職委員会	
(1) 全学就職委員会	97
(2) 総合経営学部就職委員会	98
(3) 人間健康学部就職委員会	101
(4) 松商短期大学部就職委員会	103
II. 研究推進及び管理部門	
1. 研究推進委員会	107
(1) 研究誌編集部会	108
(2) 松本大学出版会運営部会	109
(3) 地域総合研究センター運営部会	109
2. 研究倫理委員会	111
(1) 動物実験部会	114
(2) 遺伝子組換え実験安全部会	117
III. 入試広報部門	
1. 入試委員会	
(1) 全学入試委員会	120
(2) 総合経営学部入試委員会	122
(3) 人間健康学部入試委員会	124
(4) 松商短期大学部入試委員会	129
(5) 入試問題検討部会	134
2. 広報委員会	135
3. 高大連携推進委員会	135
4. センター入試委員会	143
IV. 管理部門	
A: 大学運営管理	
1. 全学協議会	146
2. 衛生委員会	148
3. 自己点検・評価委員会	150
(1) I R推進部会	151
(2) コンプライアンス推進部会	152
(3) 認証評価準備部会	153
4. 人権委員会	154
5. 健康安全センター運営委員会	155
B: 施設管理	
1. 施設管理センター運営委員会	158
2. 危機管理委員会	159
(1) 環境保全部会	159
(2) 防災防犯対策部会	160

第3部 事務部門の点検・評価

I. 全学的事務部門	162
II. 総務課・管理課	166
1. 総務課	166
2. 管理課	173
III. 学生センター	176
1. 教務課	177
2. 学生課	181
3. キャリアセンター	185
4. 情報センター	194
IV. 入試・広報室	197

第4部 資料

I. 平成28年度委員会構成	206
II. アンケート調査結果（平成28年度）	
1. 松本大学卒業予定者アンケート	207
2. 松本大学松商短期大学部卒業予定者アンケート	246
3. 松本大学松商短期大学部在学生アンケート	259

はじめに

－2016(H28)年度の活動に対する自己点検・評価報告書の発行に当たって－

<2016(H28).4～2017(H29).4>

[全学的課題、各学部・学科での教育システム改善など多忙な一年間]

2016(H28)年度は、大きな出来事が3つの分野に分かれて生じた。

(1) 教育学部や教職課程についての対応

①教育学部の設置認可と小学校、特別支援学校の課程認定に伴う追加書類作成などがあったが、それぞれ無事クリアでき学部の設置(8月末)と課程認定(12月末)が決まった。②教育学部に中高の英語教職免許の申請(3月末)に向け、新たな課程認定とAC対応の準備に入った。③既存の教職免許課程に関する再課程認定(平成30年度)が実施されることが決まっているため、それへの怠りない準備が求められる。

(2) 学生募集への対応

また、長野大学が公立化して初めての入学試験が実施されたことで、本学にどのような影響が出るのか、また文科省の定員厳格管理の方針への対応など、①入学者選抜に係る複雑な対応を余儀なくされた。その結果として、②学科毎の定員見直しにも言及され、入学定員変更の手続きに入った。③それに伴って、各種試験毎の定員の設定や試験科目など入試制度に関する新たな対応が求められた。

(3) 学部・学科等の改善

①長年の懸案であった、教養科目の全学統一化に向けて、教育学部で先行的に実施されたモジュール化構想に習って、統一の目途が付き新学期からの変更に向け対応した。②各学部・学科のコース制度化など、専門的な内容にもメスが入り、各学部・学科の新しい学生募集戦略が決まった。③短期大学部が競争的資金であるAPに採択され、その実施に向けたシステムの整備に注力した。④総合経営学部大学院(修士課程)を設けるための準備に入ることが決まり、その体制を整備した。その他にも国内の大学や自治体を含む団体との連携協定や、国際交流センターが中心となって、⑤海外の大学との連携協定にも力を注いだ。

[県内の高等教育の在り方をめぐる状況]

上記のような状況が出現したのも、県立短大の4年制化に端を発し、それでは経営が成り立たないと判断した、長野大学や諏訪東京理科大学の経営陣が公立化の道を模索し始めた、またそれを県が後押ししたことに起因している。

長野清泉女学院大学や長野保健医療大学が、共に長野市で看護学部の設置計画を持っているのも同根の動きである。

さらに文部科学省でも少子化を迎え、一方では東京23区内に存在する大学には、定員増は認めないとしつつ、他方では経営が成り立たなくなっている大学は、国公私を問わず経営統合や時に

は廃校も視野に入れるとまでいう状況にある。

長野県下でも、これから数年間は新しい落ち着き先を模索しながら、それぞれの大学の苦闘がつづくものと思われる。大学同士、大学と短大等その経営統合などを含めた新たな動きに注目せざるを得ない状況にあることだけは確かであろう。

[自己点検・評価委員会としての活動]

今後の大学経営を見定めるために必要な多種・多様な分野における計画の立案やその進行に向けて多忙を極める状況の中で、各委員会、センター、部会などの担当責任者が、それぞれの部署を切り盛りし、良く対応していたと言えよう。こうした活動をとりまとめたのが当委員会の活動であったわけだが、本報告書は、そうした諸部門が展開した活動の成果の証しとなっている。

この「はじめに」の文章を書いている時期が、昨年に比べ約1ヶ月早くなっているのは、何とか7月下旬の発行に間に合わせようとする意識の現れでもある。

2017. 6. 25

自己点検・評価委員会 委員長 住吉 廣行

第1部 平成28年度事業計画（大学委員会・理事会決定）に基づく総括的点検・評価

I. 全学的視点で見た事業計画実施状況の点検・評価

(1) 「平成28年度事業計画」における全学的課題 <P>

1) 大学、短大をめぐる情勢と大学改革

(a) 大学設立などの状況

松本大学とほぼ同じ学部・学科構成（総合経営・管理栄養士養成）で開設されようとしている県立大学の動きに加え、松本駅前に進出した大手専門学校（スポーツ公務員、簿記会計）、長野市に設立された私立の長野医療技術大学（理学療法・作業療法）、さらに長野大学（経営・観光・福祉）および諏訪東京理科大学（経営情報・工）の公立化に加え北信地域での看護学部設置の動きもあるなど、県内私学をめぐる状況は風雲急を告げている。また、北陸新幹線の開業に伴う、石川・富山県からの旧国立大学を含めた攻勢も並々ならぬものがある上に、18才人口のさらなる減少期を控え、首都圏の大手私学が定員確保を至上命題に、長野県を標的にした募集活動を活発に展開している。

(b) 厳しい情勢に耐えうる将来計画の策定と実施

長野大学の動きは、こうした厳しい情勢の展開に、自らの努力だけでは耐えきれないとの判断が働いているのは疑いない。公立大学は、税金が投入されることで学費が安くなるため、これまでの経験でも、教育内容が全く変わらなくても、受験時の志願倍率は大幅に上昇することが分かっている。

そうしたことからすれば、これからは、県内の国公立の大学が例えば10年後どういった形で棲み分けているのか、激動の後の安定性をどこに求めるかといったことなどが大きな課題となる。本学がこれまで築いてきたGP及びCOC、COC+の獲得などの成果に安住しているだけでは済まず、そのために、二年間の検討を経て策定された将来計画を全学・全教職員の総力を挙げて実施に移すことが求められる。

(c) 教育学部の設置と各学部改革の迅速な推進

言うまでもなく、上記将来計画において中核的な位置を占めるのが教育学部設置であり、各学部改革並びに学部横断的改革である。これを向こう一年間で遅滞なく成し遂げるには、昨年度設けた職務担当副学長・学長補佐制度に象徴的な、従来にも増して明確かつ強固な責任体制の下でこれに取り組む必要がある。また、学部改革については、当該学部の主体性を重視しつつ、教育学部との関連および人的交流など全学的な視点を踏まえたものとして取り組むことが必要かつ重要である。

2) 学内改革・改善の更なる推進

以上のような状況への対応のほかに、絶えず自らの組織的活動を改革・改善する目を持ち続けなければならない。今年度も、未だ確立できていない部分を中心に、継続して改革に取り組む。

(a) 短期大学部のあり方

短期大学部の将来については、この間の議論で確認された4学期制の導入については遅滞なく

万全を期して進める。また、両学科の定員削減については、県立大学の開学に伴う志願者動向を見ながらあらためて検討し、結論を出すべく取り組む。

(b) 組織の見直し

ここ二年間、本学が取り組まなければならない課題が見えるように必要な組織を立ち上げ、課題解決に向けた機能的な組織へと改革してきた。

一昨年度は、全ての委員会を以下のとおり「大学運営」「研究」「教育」「地域貢献」の四分野に振り分け再編した。(i)「大学運営」には①自己点検・評価、人権問題、②入試広報、③施設管理の部門を、(ii)「研究」には①研究推進と②研究倫理の部門を、また(iii)「教育」には①教務、②学生、③就職に加え、④教育改善推進部門を置き、さらに、これまでエクステンション機構(教育部門)の下に置かれた、⑤教育関係の各種センターも配置した。加えて、(iv)「地域貢献」は、関連する活動を展開する全ての委員会をまとめ、COC戦略会議が統括的に進めることとした。また、上記の大きな委員会の下にはいくつかの部会を設け、これまでのように課題解決に当たるようにした。以上のように委員会の枠組みを重視したことによって、部会の活動はある程度制約を受けることも考えられるが、委員会が所管する分野を総合的に把握できる点を考慮すると、後から整合性を図るというより、当初から意識されることになるのでより合理的と思われる。

以上のように見直され実施されてきた新委員会制度について、ここ二年間の経験を基に、必要と判断される部分、箇所については適宜変更、改善を加えていく。

(c) 全学運営会議の下に諮問機関を設置 一規程整備と教職員評価指標開発一

学長の権限強化の流れの中で、小規模な組織である本学では、研究科長、学部長、事務局長からなる集団的な執行体制を敷いて、合意形成を図るよう対応してきている。しかしながら、主導性を発揮しなければ進まない課題も多く、そのためにいくつかの諮問会議を設けた。(i)その内の一つが①規程整備である。この間の学園、大学の急速な発展のため規程の整合性を含め不備な箇所があり、これを一掃するために諮問委員会を設けた。整合性のある新規規程の作成(多くの場合関連する委員会から上程されるが、これを整合性という観点から検討する)や既存規程の改定などを手掛ける。(ii)次が教職員の評価指標の開発を行う委員会である。これについても、ここ二年間の経験を基にIRの視点から点検・評価し、アニュアル・レポートの改善を中心に、必要と判断される部分、箇所を定めるとともに、それらのウエイトについても探求していく。また、昨年度初めて実施した学長表彰に加え、今年度は、学長裁量経費が承認されたことから、これを適正に実施する。

(d) 課題を解決して、ルーティン化

課題解決を目指す部会等では、ルーティン化を目指して多くが納得できる論理を、話し合いを通じて構築する必要がある。ルーティン化が完了すれば、学内の常識としてその後は円滑な流れが形成でき、さらに生じる新たな課題への挑戦が可能になってくる。今年も可能な限り多くの部会で、独自の課題解決ができることが課題である。

3) IRの充実

数値データに裏付けられて、大学改革を進める上では、IRは大学運営のあらゆる分野において欠かせない、戦略的意味合いを持っている。

(a) 広報の視点

松本大学の知名度が上がってきたことに伴い、受験者層にも変化の兆しが見えてきている。これは、ここ数年間にわたって取り組んできた ACD ポリシーの検討、確定および、それに基づく教学展開と入試広報の充実が奏功したものと判断できる。しかしながら、平成 26 (2014) 年度入試における健康栄養学科の受験者数の大幅減に象徴的であるように、全国的な厳しい状況と本学もまた無縁ではあり得ない。そうした状況の中でも、一昨年来実施してきた IR に裏づけられた健康栄養学科の試験対策の取り組みは一定の成果を示していることも事実であり、その全学的共通化を進めることが求められる。

また、各高校の実情にあった広報戦略を展開することが、今後の活動にとって大変重要になってくると考えられるが、過去のデータからどのような特徴を“売り”にするかを定めることも課題である。

(b) 教学の視点

研究成果として、GPA 分布の年次変化をカリキュラム・ポリシーの成功度を測る指標となる可能性がある」と指摘しているが、AP 申請が不採択に終わったことで本学の弱点も見えてきている。これを克服するのも、教職協働に基づいた IR になってくる。

(c) 学生支援の視点

入学前教育と初年次の退学率の強い相関が、IR の成果として明瞭になってきている。就職活動にも適用することを考え、科学的な手法を取り込むことで新たな飛躍をもたらしたい。

(2) 「平成 28 年度事業計画」における全学的課題の実施状況 <D>

1) 大学、短大をめぐる情勢と大学改革

(a) 厳しい攻勢にさらされる松本大学と将来計画

① 県内私立大学の公立化の影響

今年度、長野大学が私立大学の入試日程で、公立大学としての入学試験を実施した。過去の例に違わず、大幅な志願者増が見られた。しかし、県外からの受験生が増えた結果、入学者に占める県内高校生の割合及び絶対数は大幅に減少した。公立化のうたい文句が、「地域に開かれた大学」「地域活性化を目指す大学」となっていたが、県外からの学生の多くが卒業後に県内に残らなければ、看板に偽りありということになる。もう一つの関心事は本学の受験者、特に成績上位層が公立大学を目指すため減少し、競争倍率が低下するのではないかという点であった。しかし今年度の入試に関してみれば、これは杞憂に終わった感がある。

長野大学のある上田市を中心とした東信地域から、本学への受験生が増えたかということ、例年並みであり、目立った変化はなかった。長野大学が不合格となった県内学生がどこに流れたのか不明のままである。次年度には、諏訪東京理科大学が公立化することになるが、このことが本学の学生募集にどのような影響を及ぼすかを詳細に分析する必要がある。

② 大学経営の厳しい情勢に耐えうる将来計画の策定と実施

中長期計画において示されている本学の将来計画を完全実施するためには、財政面から見て順調な学生募集が不可欠である。健全な経営のための収入を確かなものにするによってはじめ

て、計画の実施が可能になるからである。

また、学部学科の教学面の見直しや入学定員の変更などソフト面の計画だけではなく、学生数の増加によって、対応すべきハード面での新たな課題も出てきている。その一つが駐車場スペースであり、もう一つは食堂の席数である。特に本学は始業時間を遅くし、その分昼休みの時間が短いため、後者の課題は教育学部の完成年度までには克服しなければならないものとなっている。幸いなことに、駐車場については、大学近隣に用地を確保することが出来たため、解決の見込みが立っている。

③教育学部の設置と各学部改革の迅速な推進

教育学部の設置認可及び教職課程（小学校一種、特別支援学校一種）が認定され、当初の目標は達成できた。ただし、入学者数は定員を満たすことが出来なかったため、学生募集にはもうひと工夫が必要であり、次年度に向けた周到な準備が求められる。

既に着手している平成30年4月からの改革に、①各学科の入学定員の増減（総合経営学科+10、健康栄養学科-10、スポーツ健康学科+20）、②教育学部における中高教諭英語一種免許の課程認定があり、いずれも平成29年3月に文部科学省に申請している。

また、総合経営学部では、平成31年4月実現に向けて、「地域創生」「地域政策」「地域経営」などの名称の研究科（修士課程）の設置を目指し、また、教育学部では完成年度を終えた平成33年4月に向けて、①「教育学」研究科（修士課程）、人間健康学部ではやはり同じ時期に、②健康科学研究科博士課程の実現を目指すという構想を検討している。

定員を確実に充足し、厳格に管理した上で、これらの構想を検討するための財源を確保することを中心とした経営的な課題もクリアし、学部が意図しているそれぞれの改革・拡充案を強力かつ迅速に推進することが課題となる。

2) 学内改革・改善の更なる推進

以上のような状況への対応のほかに、絶えず自らの組織的活動を改革・改善する目を持ち続けなければならない。今年度も、未だ確立できていない部分を中心に、継続して改革に取り組む。

①短期大学部のあり方

今年度は獲得したAPに示した計画を着実に実行することが課題であったが、その軌道に乗り始めるところまで到達できた。

また、入学試験に関してはいくつかの課題となる要素が見えてきている。一つは松本大学・総合経営学部総合経営学科の人气が上昇しており、短大経由で総合経営学科への編入学のルートを確立する必要性が出てきている。もう一つは、長野県短期大学の四大化に伴って、県内の短期大学志望の高校生がどのような動向を示すか、幼児教育系統では清泉女学院短大や上田女子短大があるが、ビジネス系短大へのニーズはどの程度なのか、これまでの入試結果の詳細な分析と次年度の予測に基づいたが学生募集活動が必要になってくる。

②組織の見直し

大学の課題を「研究」「教育」「大学管理・運営」「地域貢献」に分類し、課題毎に必要な委員会やセンター組織を配置してきている。このシステムも数年が経過し、おおよそ定着の域に入ってきている。これからは、多数存在する委員会の運営方式について、合理化を図っていくことが課題となってくる。今年度は部会制度を置くなど、簡素化への試行段階に入ったと言える。

また、新たな課題が発生したため、総合経営学部大学院設置準備室と総合経営・人間健康の二つの学部に跨った再課程認定特別部会の設置が決まっている。

③全学運営会議の下に諮問機関を設置 —規程整備と教職員評価指標開発—

規程整備については、関係する委員会等と協力してかなりの分野について、改訂へのてこ入れが行われた。新たに生じた課題への対応に伴って条文の改正や追加が必要になることもあり、また、新たな課題に対応していく上で、既に現状との齟齬が生じている条項については廃止をする措置もとられた。改正された規程や新たに制定された規程は、学内の規程管理システムにアップされ、教職員が閲覧出来るように整備されている。

④課題を解決して、ルーティン化

ある課題が解決出来て完全にルーティン化されれば、その委員会や部会そのものを無くしてしまうことが可能になる。組織整備に関してはこうした方向を目指しており、それが実現できれば現在の多数ある委員会数も減らすことができるが、今年度は未だこの域に到達できた組織は存在していない。

3) IRの充実

部会としての組織だった活発な活動には至っていないが、それぞれの部署において問題設定をしながら、その解決に向けて様々な試行が行われている。

(a) 広報の視点

入試業務に関する分析は各学部・学科毎に実施されており、毎年の結果を基にデータが蓄積され、学科毎に何らかの特徴が把握出来てきている。これを募集活動にどのように活かしていくか、その戦略の構築が課題となっている。

(b) 教学の視点

学生の学修活動の成果をGPAの指標を用いて分析することや授業評価アンケート、行動調査、アセスメントテスト結果などのデータが蓄積されてきている。こうした傾向を見る目が養われて来ていると感じているが、これを教職員が共有することができれば、新たな改善・改革の端緒が開けると思われる。共有するための会合の設定とそこでの意見交換が重要となる。

(c) 学生支援の視点

退学に至るにはいくつかの要因が考えられる。学生が考えに考えた挙げ句の路線変更としての退学ならば、むしろ前向きに評価すべきかもしれない。経済的な問題、精神的な問題、学業上の問題等多様である。教学の視点からの分析が進めば、学業上の問題から退学に至るプロセスが理解出来、上手くいけばそれを食い止めるために早期からの手立てを講じることが可能になるかも知れない。

(3) 「平成28年度事業計画」における全学的課題の点検・評価 <C・A>

1) 長野県高等教育の今後の姿をどうとらえるか

長野県の高等教育については、ここ数年激しい動きが見られる。これがどのような形に落ち着いていくのか見定めることはなかなか難しいが、本学の平成29年度の事業計画についても何らかの見通しのもとに考えなければならない。

(a) 各大学の動きと学生募集への影響

①公立化した長野大学の影響と入学試験の状況

平成 29 (2017) 年 4 月入学生を迎えるための、平成 29 年度入学試験が行われたが、これは長野大学が公立化した後の、最初の試験であった。私学の公立化が松本大学の入試にどのように影響するのかについて、当初予想を超えた状況が出現した。同系列の学科構成を持っているため、これまでと逆転して、本学に来ていた上位層が減少し、少し下位層の学生へと入れ替わってしまうのではないかと考えていた。しかし、長野大学は県外からの受験生も期待し、本学の上位層を超えた学生層をターゲットにした感がある。その結果、本学への志願者が予想を超えて増加したのであるが、定員管理上受け入れることが出来ないというジレンマに陥った。この課題を解決する必要がある。

②定員超過率と申請業務

今後の文部科学省に対する各種設置認可申請に関して、過去 4 年間の定員超過率が全学部において平成 29 (2017) 年度申請 (本学では教育学部設置がこれに当たる) に向けては 1.30 倍未満、平成 30 (2018) 年度申請 (本学では後に述べるように収容定員変更) では 1.25 倍未満、平成 31 (2019) 年度以降は 1.15 倍未満でなければ受け付けられないことになっている。

実は平成 28 (2016) 年度の総合経営学科の入学生が読み違いの影響で、1.42 倍を超える超過率で観光ホスピタリティ学科も 1.26 倍と高い値となってしまうため、総合経営学部として 1.15 未満を実現するためには、平成 29 (2017) 年度、平成 30 (2018) 年度ともかなり抑制的な対応を採らざるを得なくなっている。人間健康学部については、スポーツ健康学科が毎年 1.3 倍近くの入学生を迎えているが、健康栄養学科が厚生労働省の指導で 1.1 倍未満に抑えるようにという指導があり、また平成 26 (2014) 年度入試では定員を割り込み 0.81 倍であったため、総合経営学部に比べ 29 年度入試における抑制度については少し緩和されていた。

③定員超過率緩和及び入学者数増を図る定員増及び各種入学試験での定員管理

こうした志願者数の増加という状況に対応して総合経営学科で 10 名、スポーツ健康学科で 20 名の定員増を、健康栄養学科では県立大の開学をにらんで 10 名の定員減を計画している。これが実現したとしても平成 30 年度に採用できる学生数は最大で総合経営学部 (2 学科合計の定員 170 名) に対して 180 名、人間健康学部 (2 学科合計の定員 170 名) に対して 181 名となる。推薦入試、AO 入試、一般入試、センター入試などの定員管理について至急対応策を練り、高校側への丁寧な説明が求められる。

また、少子化がもう一段階進んだ時点での定員超過率に関しては、1.0 を基準とするという、より厳しい方向が打ち出される可能性も視野に入れておく必要があるだろう。

④長野県立大学と諏訪東京理科大学の公立化の影響

長野大学に続いて、長野県立大学が開校し諏訪東京理科大学が公立化した平成 30 年度の入学試験がどのように展開されるかについては予断を許さない。諏訪東京理科大学が工学系統のみになるため、県内で競合するのは信州大学・工学部のみであり、他の私学は当面影響が出ないだろう。しかし経営情報学科を廃止するため、この学科を対象としていた学生の動向がどうなるのか。山梨県への流出、公立長野大学の経営系、本学の経営系、短期大学などがその受け皿になる可能性がありそうだが、不確定要素が多い。

⑤北信地域での二つの看護学部設立の動き

長野市に設立された私立の長野医療技術大学（保健科学部：理学療法・作業療法）、さらに清泉女学院大学（人間学部・心理コミュニケーション学科）において、二つ目の学部として看護学部設置の動きがあり、公立の長野大学には理科系の学部増設の話もある。新潟薬科大学が上田地域に進出するという動きは、その後の進展が定かではない。さらに新規に考えられている「専門職業大学」の流れに沿って、専門学校が名乗りを上げる可能性もあるだろう。また諏訪日赤病院の動きにも注意を払っておく必要がある。

⑥高等教育再編の動きが収束した後をどう描くか

短期大学部においても「専門職業大学」への移行の動きや県立短大の廃止に伴う受け皿機能の強化を図る動きが出てきても不思議ではない。こうした大学、短大、専門学校等における一連の流れが収まった後の、県下高等教育の地図がどのようになっているのかについても、多様な可能性を想定しつつ、対応を怠らないようにしておく必要がある。

(b) 教育学部の設置と各学部改革の迅速な推進

①中高英語免許課程の創設

教育学部設置については、アンケート調査では好調だったが学生募集に苦戦したのは、過疎地域を多く抱える長野県において進む、小中一貫の義務教育学校（特に施設一体型）への対応に不十分さがあつたためではないかと思われる。こうした学校の教員に対しては、小学校だけではなく、例え二種ではあっても中学校の免許も必要とされるからである。現在の教育学部では小学校と特別支援の教職免許だけなので、この点に弱みがあつた。今回、中学校の英語教育の免許を取得できるように、課程認定の申請及び設置に関してのAC（After Care）において、こうした対応を認めて貰うように力を注ぐことは、特に重要である。

また、学生募集への対応強化策としては、新たに赴任される先生方の日常的な活動を前面に押し出して、教育学部の内容・特色を高校生や進路指導の先生方にアピールすることも重要である。

②再課程認定への対応

本学の全ての学科及び大学院での専修免許に対して、再課程認定が行われる。具体的には、総合経営学科（高校：情報・商業）、観光ホスピタリティ学科（高校：地歴・公民、中学：社会）、健康栄養学科（栄養教諭）、スポーツ健康学科（中高：保健体育、保健、養護教諭）、健康科学研究科（専修：栄養教諭、保健体育）に対する認定である。教職課程については、専任教員を一名補充し強化を図ると共に、全学教職センターのもと、学部長や各学科の教務委員が検討に入る。ただし、観光ホスピタリティ学科における福祉分野については廃止の手続きを既にとっている。

今回の大掛かりな再課程認定においては、全国の多くの大学でその科目の教職課程を存続させるかどうかの判断を迫られると思われる。その時に基準となる言葉が「相当性」であり、ある学科にその科目を設置することが妥当であるかどうかの判断に際して用いられるであろう。本学においても、「相当性」を満たすほどに科目充実を図れるのか、或いはそれを無理と判断して、廃止を決定するかが迫られることになる。

2) 学内改革・改善の更なる推進

以上のような状況への対応のほかに、絶えず自らの組織的活動を改革・改善する目を持ち続け

なければならない。今年度も、未だ確立できていない部分を中心に、継続して改革に取り組む。

(a) 各学部・学科の教育改善への取組

総合経営学部、人間健康学部、教育学部、松商短期大学部、健康科学研究科それぞれに、研究科長、学部長、学科長を中心に自らの抱える課題解決に向けて取り組む。欠員人事については、将来の構想と絡めた人材を獲得すべく柔軟に対応し、必ず補充し教育内容の充実を図る。

(b) 組織の見直し

ここ数年、本学が取り組まなければならない課題が見えるように必要な組織を立ち上げ、課題解決に向けた機能的な組織へと改革してきた。特に、全ての委員会を「大学運営」「研究」「教育」「地域貢献」の四分野に振り分け再編している。このように見直され実施されてきた委員会制度について、必要な箇所については適宜変更、改善を加えていく。

(c) 全学運営会議の下に諮問機関を設置

学長の権限強化の全国的な流れの中で、小規模な組織である本学では、研究科長、学部長、事務局長からなる集団的な執行体制（全学運営会議）を敷いて、全学の合意形成（全学協議会）を図るよう対応してきている。広い観点から対応すべき課題については、諮問会議を設けている。例えば、規程整備である。この間の学園、大学の急速な発展のため規程の整合性を含め不備な箇所があり、これを一掃するために諮問委員会を設けた。整合性のある新規規程の作成（多くの場合関連する委員会から上程されるが、これを整合性という観点から検討する）や既存規程の改定などを手掛ける。また、一昨年度初めて実施した学長表彰に加え、昨年度は、学長裁量経費が承認されたことから、これを適正に実施する。

(d) 緊急度を要する施設設備について

学生数の増加と非常勤を含む教員の増加に伴って、駐車場の確保は喫緊の課題である。

農地転用に対して厳しい規制があるため、大学に近いところで、農地以外の駐車スペースを捜す必要がある。

また、昼食時間が通常の大学に比べ40分と短いため、食堂の利用効率の向上と営業面積の増加が求められている。生協食堂とは異なる業者の導入も検討課題となってくる。

図書館については、7号館にラーニング・コモンズとなるスペースが出来たこと、教育学部の8号館に「教学半」と名付けられた学習室ができたこと等で、ある程度の解決ができています。

3) IRの充実

数値データに裏付けられて、大学改革を進める上では、IRは大学運営のあらゆる分野において欠かせない、戦略的意味合いを持っている。

(a) 広報の視点

①経営の根幹をなす学生の募集戦略

松本大学の知名度が上がってきたことに伴い、受験者層にも変化の兆しが見えてきている。これは、ここ数年間にわたって取り組んできたACDポリシーの検討、確定および、それに基づく教学展開と入試広報の充実が奏功したものと判断できる。

しかしながら、平成26（2014）年度入試における健康栄養学科の受験者数の大幅減に象徴されるように、全国的な厳しい状況に本学も無縁ではあり得ない。そうした中でも、一昨年来実施し

てきた IR に裏づけられた健康栄養学科の試験対策の取り組みは一定の成果を示していることも事実である。各学部・学科においても、それぞれに特徴的で必要な対応を考え、全学的な特色ある取組として前面に打ち出し推進することが求められる。

②各高校対応の募集戦略の重要性

また、各高校の実情にあった広報戦略を展開することが、今後の活動にとって大変重要になってくると考えられるが、過去のデータからどのような特徴を“売り”にするかを定めることも課題である。各学部・学科での「学修内容」と「就職・進学先」との関係を、進路指導の先生方に分かり易く説明することが特に重要である。

③各学科の募集戦略に対する意思統一と ACD ポリシー

特に平成 29 年度の入試状況等に鑑み、学科毎に緻密な学生募集戦略を構築することの重要性が増している。また、ACD ポリシーに表現される各学科の特色がどの辺りにあるのかを強く意識して取り組むべきである。

(b) 教学の視点

研究成果として、GPA 分布の年次変化をカリキュラム・ポリシーの成功度を測る指標となる可能性がある」と指摘しているが、AP 申請が不採択に終わったことで本学の弱点も見えてきている。これを克服するのも、教職協働に基づいた IR になってくる。

学修行動調査や卒業生アンケートなどのデータを用いて、最近の学生の動向を正確に把握すると共に、大学や短大部に内包している課題を洗い出し、その解決に向けてより洗練された教育システムを考える必要がある。

(c) 学生支援の視点

入学前教育と初年次の退学率の強い相関が、IR の成果として明瞭になってきている。就職活動にもどのような効用が出ているのかを吟味するなど、科学的な手法を取り込むことで新たな飛躍をもたらす。

また、クラブ活動に対する一貫した対応のあり方について整理するとともに、強化部に入部する人数など、入試との関連についても全学的な合意が得られるようにする。

＜執筆担当／学長 住吉 廣行＞

II. 全学的点検・評価

1. 大学院 健康科学研究科（修士）

（1）年度当初の目標 <P>

長野県立大学や近県での管理栄養士養成課程の新設、管理栄養士養成課程を有する山梨学院大学でのスポーツ科学部開設や新潟医療福祉大学健康スポーツ学科の定員増員など、本学人間健康学部を巡る環境は厳しさを増している。これらの大学は完成年度に大学院の設置が予想される。その中で差別化を図り、本大学院としてのよりよい特長を伸ばすために、

- ①カリキュラムの変更
- ②研究倫理教育の強化
- ③キャリア教育にもつながる長期インターンシップの導入
- ④グローバル化・高度化の対応に向けた博士課程の設置
- ⑤入試
- ⑥広報活動
- ⑦その他

などあらゆる方策を検討していくこととした。

（2）目標の実施状況<D>

1) カリキュラムの変更

- ①本大学院が扱う「健康科学」領域を厚生労働省の「健康日本21」の「栄養」・「運動」・「休養」からWHOが提唱する「健康」に変更した。
- ②平成28（2016）年度より人間健康学部から本研究科の専任教員として福島准教授が異動した。なお、担当科目は社会人必修科目の「健康と病の社会学特論（社会調査法含む）」「ガストロノミー論」「特別研究」である。また、平成29（2017）年度より同様に斉藤准教授が異動予定である。
- ③領域変更に伴い、総合経営学部の矢崎准教授に「臨床心理学特論」を、松商短期大学部の川島准教授に「運動と脳科学特論」を、金子准教授に「フードマーケティング特論」を担当していただいた。加えて、非常勤講師として久留米大学医学部児島教授に「内分泌学特論」を、鈴鹿医療科学大学中東准教授に「病態栄養学特論」を担当していただいた。次年度は、総合経営学部の真次教授に「スポーツと法特論」を、人間健康学部の石原准教授に「調理科学特論」を、斉藤准教授に「指導者のための実践心理学特論」「実践心理学演習」「特別研究」を、新設される教育学部の守教授に「心理学研究法入門」を担当していただくこととした。また、非常勤講師として、国立病院機構まつもと医療センターの青木雄次先生に「病態栄養学演習」を担当いただくこととした。

2) 研究倫理教育の強化

研究は社会的活動であり、いずれの時点においても倫理的配慮が求められる。研究倫理教育として、必修科目の「健康科学特論」に加えて、日本学術振興会の e-ラーニングコースを全員に受講させた。加えて、教職員のみ対象であった研究倫理に関する講習会にも参加も促した。

3) キャリア教育にもつながる長期インターンシップの導入

健康運動士資格を有する一般入試の院生1名を「特別研究」の中で、ある企業の歩行分析の現場にインターンとして派遣した。

4) グローバル化・高度化の対応に向けた博士課程の設置

大学院進学希望学生・院生・修了生からの希望が多い博士課程設置希望を、メンバーに変更があった研究科委員会において再決議し、全学運営会議や全学協議会などで学内の理解を得る努力を行った。

5) 入試

今年度から、主に現役の学部生が受験する入試区分を一般入試と推薦入試の2つにした。一般入試では従来通り英語筆記試験・専門科目筆記試験・口頭試問を課した。推薦入試では健康栄養学科で2.7以上、スポーツ健康学科で2.6以上のGPAを獲得している上位12~13%の学生を受験資格の対象とし、口頭試問のみを課した。ただし、特待生を目指す場合には、一般入試と同様、英語筆記試験と専門科目試験も受験しなければならないこととした。

社会人が受験する社会人入試では、きめ細やかな事前面談を行うことで十分な専門性の有無を検討できているとの考えから、英語筆記試験のみとした。

今年度入学の社会人に初めて長期履修学生制度を適用した。本制度は、修士課程の修業年限は基本的には2年であるが、社会人の労働環境等を考慮して、予め研究会委員会で承認を受ければ、当初から修業年限を3年や最大4年として認めていくものである。この場合、2年分の授業料を3年又は4年で支払うことができる。

過去において、入試問題の内容が健康栄養学科の受験生には運動系の問題が難しく、スポーツ健康学科の受験生には栄養系の問題が難しく感じられた。そこで、出身学科による偏りを是正するために入試問題の内容について検討を行い、栄養系と運動系の専門的問題を複数作成し、そのなかから自由に選択させる形式に変更することにした。

6) 広報活動

大学院全体としては、オープンキャンパスや進学説明会等にあわせた信濃毎日新聞への広告掲出や大学HPでの研究成果の記事掲載により広報した。また、海外留学を経験した院生、長期インターンシップを行った院生、大学教員として就職した修了生に関する記事もHPに掲載し、受験を考えている学生に入学後あるいは修了後の進路についてイメージしやすくした。

社会人院生向けには、HPや募集要項で昼夜開講制度や長期履修制度など働きながらも学びやすい環境である点を強調した。

7) その他

- ①松本大学大学院履修規程を整備した。
- ②社会人院生1名の指導教員を河野准教授から福島准教授に変更した。
- ③平成28年度入学者は10名（学部卒：6名、社会人：4名）で、在学者5名（学部出身者：5名）を加え、在籍者は計15名となった。

(3) 点検・評価の結果（目標の達成状況）＜C＞

1) カリキュラムの変更

- ①今年度から専任教員が1名増加し、1名が転出した。結果的に、専任教員数は10名と変更がなかった。
- ②社会人院生には基礎的な研究能力の涵養に努めるために、研究能力の開発とリカレント教育の

充実した科目を配置したところ、院生からの評判も良かった。

- ③次年度は、総合経営学部から1名、人間健康学部から2名、教育学部から1名、非常勤講師も新たに1名に科目担当をしていただくこととなり、科目数を5増やした。このことは院生の受け皿を広めることにもつながると思われる。

2) 研究倫理教育の強化

院生全員から「研究倫理 e-learning コース」の修了証書を受領した。複数名が研究倫理講演会に参加した。

3) キャリア教育にもつながる長期インターンシップの導入

スポーツ健康学科卒で米国留学経験のある大学院生は長期インターンシップ先で高評価だった。

4) グローバル化・高度化の対応に向けた博士課程の設置

博士課程では留学生の比率も上昇するためグローバル化・高度化に対応するためにも、修士課程の定員の安定的確保のためにも博士課程の設置が重要である。また、博士課程に占める社会人院生の割合は全国平均約32%であり、社会的な要請も強いと思われる。事実、本学修士課程修了者で大学教員をしているものの中にも、将来的に博士の学位の取得を目指すものもいる。

5) 入試

今年度社会人入学者2名を標準収容年限を3年とする長期履修学生として承認した。

平成29(2017)年度入試に推薦入試制度を導入したところ、基準を大幅に上回るGPAを獲得した優秀な学生が入学予定者となった。平成29(2017)年度入学予定者は2名となり、院生総数は13名で、事務上は経常費補助金を得るための最低ラインの10名を確保することができた。

今年度の受験者は健康栄養学科生のみであったため、専門科目を選択問題にはしなかったため、選択問題導入の評価は今後に譲る。

また、看護師資格を有する社会人1名が平成29(2017)年度に研究生として入学予定となった。

6) 広報活動

塩尻市内の小学校教員や松本市内の看護師から、大学院入学についての問い合わせと面談があるなど、一般への大学院の認知度は上がっていると思われる。HPは充実することができたが、引き続きコンテンツをより充実させている必要がある。

7) その他

①継続を含めて文部科学省の科学研究費に4名が採択された。

②大学院2年生2名が一般財団法人長野県科学振興会から平成28(2016)年度科学振興会助成金を受領した。

③廣田教授が、有意義な審査意見を付した平成28年度科学研究費審査委員として日本学術振興会から表彰された。

④修了生4名は、それぞれ希望の就職先に就職できた。うち1名は、長期インターンシップを行った企業に就職した。

(4) 次年度に向けて<A>

①より魅力的な大学院になるように、今年度研究科で議論し提案した案を成果が出るように実践していく。

②領域変更により拡張することになった人文・社会的領域は、健康科学研究科の基盤となっている人間健康学部だけではまかなえないため、今後も総合経営学部・教育学部や松商短期大学部と連携を深めていく。

③インターンシップ先について、慎重かつ積極的に開拓していく。

④大学院博士課程設置の申請に向けて努力する。

＜執筆担当／大学院健康科学研究科 研究科長 山田 一哉＞

2. 総合経営学部

(1) 計画 <P>

現在の大学に要請されるいくつかの観点からみて、総合経営学部の現状・改善計画は以下のよう
に総括される。

1) 3ポリシーについて

- (a) アドミッション・ポリシーについては現在の両学科の教育内容に合わせて、平成27（2015）年3月に改定を行った。この改定されたアドミッション・ポリシーに則って本年度も学生募集を行っていく。学生募集に関して本学部は今までのところ、幸いなことに学部入学定員の確保を継続的に実現できてはいる。しかしながら志願者数が十分ではないために、アドミッション・ポリシーに合致した学生の選考を十分に行うまでには至っていない。学生について最低限の量の確保から質の担保に移行するためには、より多くの受験生の確保が必要である。昨年度は学生募集に用いる新たな学部イメージ図の再検討を行い、平成29年度入学生募集に向けた新たな学部イメージ図の基本的合意がなされた。今回の変更は基本的なポリシーの変更ではなく、3ポリシー実現のためのデザインの変更である。この新しいイメージ図を利用し、学部・学科の教育方針・内容を的確に発信し、高校や受験生に周知徹底していくことが今年度の学生募集のポイントである。そのための有効な広報手法を積極的に駆使していく。
- (b) カリキュラムについてはいずれの学科においても、平成25年度導入の課程が今年度は完成年度を迎える。このカリキュラムは、基礎教養科目、社会教養、専門教育のバランスを意識し、「何を教育するか」という特徴ある授業科目の配置に加え、学生の実情に合わせて「どのように教育するか」という視点を重視して、実際の授業としてのカリキュラム・ポリシーの具現化をめざしたものであった。具体的には、基礎学力の担保を実現するため、情報処理能力（ワープロ、表計算）簿記、英語については、学部全体で能力別にクラスを編成し、それぞれのクラスで学生の能力に合わせた適切な目標（検定試験合格）を具体的に設定し、成果の見える形での基礎学力の養成を行っている。また、「キャリア形成Ⅰ」「キャリア形成Ⅱ」をゼミⅡゼミⅢに代わる二・三年生学部必修科目と位置づけ、クラス数を増やし就職時の採用試験で要求される社会人基礎力の養成と強化に取り組んでいる。いずれのクラスも、専任教員が授業担当者として参加して、責任を持って実行するかたちをとったものである。これらの試みの成果を冷静に評価し、次年度以降のカリキュラムに改良を加えていくことが今年度の課題となる。
- (c) ディプロマ・ポリシーにかかわる成績評価の厳格化と基準の統一化はほぼ達成されていると考え

ている。ポリシー達成のより明確な成果指標として学生の就職状況を考えることができる。学生の就職状況をより好転させるための具体的な方策として、現在各種の資格取得対策の本格化をめざしている。これは、従来個々の教員の草の根活動的な取り組みとして実行されてきた資格取得指導を、正規の授業科目として学部・学科のカリキュラムの中に組み込んだものである。今年度は現行カリキュラムの完成年度であり、資格合格実績ならびに、それを踏み台にした就職状況改善について効果の測定及び評価を行い、目標資格の見直しや指導システムの改良をさらに行っていく必要がある。

2) 学部の中長期整備

総合経営学部の両学科において、平成 25 (2013) 年度に導入した現行カリキュラムが完成年次を迎える。この年次進行中の新カリキュラムを在籍学生に着実に実行していくこととあわせて、その効果を適切に評価し、次年度以降のカリキュラムのさらなる改善を図っていくことが本年度の課題である。すでに両学科ともに平成 29 (2017) 年度学生募集用の学科イメージに関しては合意ができています。この新しい学科イメージ図を活用した学生募集を展開していくとともに、よりいっそうの教育内容やカリキュラムの充実を目指して改良を加えていく。

現在、国の政策として「地域創生」が謳われ、地域産業や地域社会と大学の連携を後押しする政策が進められている。この政策を追い風に地域との連携をより密にし、入り口側では高大連携や出前授業を利用して高校生との活動を増やして学生募集につなげ、出口側ではインターンシップや共同研究を利用して地元産業界との結びつきを強め卒業後の就職へと結実していく。これら地域との結びつきの強い入口と出口とを効果的につなぐよう、アウトキャンパス・スタディやPBL型の授業の拡大を図り、学部のカリキュラムアレンジを考えていく。特に高大連携に関しては、COCによる地域連携協定に加えて、昨年度末には長野県商業教育研究会と連携協定を結び、また同一法人には松商学園高校が存在している。これらを活用し松商学園高校や県内高等学校との連携をより強め、より多くの優秀な学生の確保につなげていく。

また、平成 29 (2017) 年度設置開設予定の教育学部との学生募集上のカニバリティーを避けるため、「義務教育の教員養成課程」である教育学部との対比の鮮明化として社会科学の専門教育の学部としての色彩を強めていく必要がある。それに加えて、長野県内の非理工系学生の受け皿として、人文科学的な分野の専門教育も総合経営学部の特色の一つとしていくことを考える。具体的には語学、文化、歴史といったものを学科カリキュラムの中に適切に取り込む可能性を再検討する。その際には東京オリンピックの存在や社会の国際化の流れをいかに効果的に取り込んでいくかが重要なポイントである。また、歴史や文化は地域アイデンティティーの核として活性化の鍵となることも重要なポイントである。

ネット接続されたスマホの携帯が当たり前となり、Big Data が広く活用される時代となったことをうけ、情報系専門技術者ではなく、ICT を活用してデータを読み論理的に考えられる普通の社会人が企業や地域で求められている。

社会科学の専門教育はもちろんのこと、上記の地域との連携も、人文科学的な色彩も ICT も、いずれも COC 活動やマーケティング塾、学芸員資格、情報活用論などすでに学部内に存在する要素であり、まったく新しいものではない。既存の内容を生かしながら授業やカリキュラムのより発展的な展開を進めて行くものである。

また、昨年は該当者なしに終わった学部教員の採用人事を確実に遂行し、将来の大学を担う若手人材の登用を図ることも急務である。

3) 新規事業

平成 26 (2014) 年度私立大学活性化事業補助金を利用した、学内教務システムのスマートフォン対応化を行ってきたが、システムの本格稼働が本年度にスタートする。その端末として購入した iPad Air を平成 27 年度同様に平成 28 年度も総合経営学部新入生全員に貸与する。これには 2 つの狙いがある。第一は学生を「タブレットを携帯する ICT 環境」に慣れさせることである。ネットの常時接続と大量データの利用が当たり前となった生活を日常とすることによって、現代の高度情報化社会に適応した社会人へと自然と成長していくことを期待するものである。第二は ICT を利用した教務関連作業の単純化で、出席管理や成績管理に ICT を活用することにより、教員の作業負荷の軽減とデータに基づく学生指導とを容易とし、指導の質の向上と教員が自身の研究や教材研究をする時間を確保することである。今年度システムの本格稼働実現の見込みであり、後者の目的である「スマート学部システム」の実現・運用を計る。また、第一の目的のためには、タブレットで学生に何をさせたいのかを十分に考え、適切な教材と機会を用意することが特に肝要である。

以上学部として両学科共通の現状・改善計画を述べてきた。一昨年度から始まった地域づくりのための PBL 授業など両学科共通の科目も多く、現状認識と将来の課題については両学科教員で基本的な認識は一致している。

学科ごとの具体的な計画については以下のとおりである。

【総合経営学科】

- ①平成27 (2015) 年度に決まった新しい学科イメージを構成する「経営管理」、「経営戦略とマーケティング」、「生活の経済学」、「働く人の心理」を四本の柱として学科の教育課程を再検討し、時代の変化と学生のニーズを考えて今後10年を見据えた教育内容となるよう充実を図る。
- ②飯田市も含めた三者連携協定にもとづく飯田O I D E長姫高校および、観光ホスピタリティ学科及び短大と合同で行っている穂高商業高校、この両校との高大連携事業に積極的に協力・参加し、地域貢献と合わせて学生募集につなぐ。
- ③資格取得を促進するため、学科として取り組むべき重点的資格として、従来のITパスポート、FPに加え宅地建物取引主任者、消費生活アドバイザー、通関士を追加選定している。これらの資格対策を、カリキュラムを通じた正課教育と課外での学生支援との両面で、専任教員が責任を持って指導を担当し手厚くサポートし、実績を出すべく進めていく。また、目標資格の再検討も進めていく。
- ④既存の授業科目である「公務員対策講座」と大学が設けた全学的な「公務員講座」とを有機的に連結活用し、国家・地方いずれをも対象とした指導を実施する。
- ⑤国土交通省の進める「道の駅を利用した地域活性化」に積極的に参加し、地域貢献と学生教育に活用する。

【観光ホスピタリティ学科】

- ①昨年度の検討で確認した新しいイメージ図のキーワードである「観光とまちづくり」「地域づくり

とマーケティング」「福祉と地域社会」の三つを柱とする学科の教育体制の整備を進める。

- ②受験者数増加に向けた方策の一環として、引き続き高大連携事業を推進する。丸子修学館高校、飯田市を含めて三者協定を結んだ飯田O I D E長姫高校に加え、穂高商業高校との高大連携活動や長野県商業教育研究会と合同で行っているマーケティング塾を積極的に活用し、学生の地域貢献と合わせて学生募集の拡大を図る。
- ③資格取得を促進するため、学科として取り組むべき重点的資格を、社会福祉士、国内旅行取扱管理者、総合旅行取扱管理者（いずれも国家資格）と設定し、専任教員が指導を担当する。カリキュラムを通じた正課教育と、課外の学生支援との両面から、これらの資格および、平成27（2015）年度はじめて合格者の出た「行政書士」など他の国家資格取得に重点を置いた教育を充実させる。
- ④既存の授業科目である「公務員対策講座」と大学が設けた「公務員講座」を有機的に連結活用し、国家・地方いずれをも対象とした指導を実施する。
- ⑤英語教育に関する体制を充実させ、同時に大学全体の教養教育を構築するため、英語の専任教員（教授）を中心に体制を整備する。

（2）実施と検証 <D・C>

平成28（2016）年度は、長野大学の公立化にともなう最初の入試が行われた年であり、この動向と対策を考えつつ、その一方で本学部が社会的に要請される観点も含ませ、学部の更なる充実に取り組んだ1年となった。以下、学部全体、次いで両学科がそれぞれ取り組んだ事業について報告する。

1）学部全体の取組

- (a) アドミッション・ポリシーについては現在の両学科の教育内容に合わせて、平成27（2015）年3月に改定を行い、これに則って本年度も学生募集を行った。学生募集に関して本年度は両学科とも幸い好調であり、アドミッション・ポリシーについて、高校並びに高校生への理解・周知がなされつつあり、これに合致した学生の選考を行うことが可能となってきていると思われる。また、学生について量の確保から質の担保に移行する端境期であると考えられ、入試広報室などの関連部署と協力し、学部・学科の教育方針・内容を的確に発信し、学習意欲のある学生の確保を目指して取り組んだ。
- (b) カリキュラム・ポリシーについては、両学科とも平成25年度導入の課程が今年度は完成年度を迎えた。このカリキュラムは、基礎教養科目、社会教養、専門教育のバランスを意識し、「何を教育するか」という特徴ある授業科目の配置に加え、学生の実情に合わせて「どのように教育するか」という視点を重視して、実際の授業としてのカリキュラム・ポリシーの具現化をめざしたものであった。具体的には、基礎学力の担保を実現するため、情報処理能力（ワープロ、表計算）簿記、英語については、能力別にクラスを編成し、それぞれのクラスで学生の能力に合わせた適切な目標（検定試験合格）を具体的に設定し、成果の見える形での基礎学力の養成を行っている。また、「キャリア形成Ⅱ」「キャリア形成Ⅲ」を3・4年生学部必修科目と位置づけ、就職時の採用試験で要求される社会人基礎力の養成と強化にも取り組んだ。
- (c) ディプロマ・ポリシーにかかわる成績評価の厳格化と基準の統一化はほぼ達成されてい

ると考えている。本年度はポリシー達成のより明確な成果指標となる学生の就職状況を好転させることを目指した。その具体的な方策として、現在各種の資格取得対策の本格化に取り組んでいる。これは、資格取得指導を正規の授業科目として学部・学科のカリキュラムの中に組み込んだものである。今年度は現行カリキュラムの完成年度であり、資格合格実績などから目標資格の見直しや配当学年の変更を行った。

(d) カリキュラムについて、総合経営学部の両学科では平成 25 (2013) 年度に導入した現行カリキュラムが完成年次を迎えた。この区切りの時期に更なる学習効果の充実という観点から効果と課題について検討し、重点資格の入れ替え、配当学年の変更、教養科目と専門科目の見直し、PBL 型の授業の拡大などの改善策に取り組んだ。

(e) 現在、国の政策として「地域創生」が謳われ、地域産業や地域社会と大学の連携を後押しする政策が進められている。この政策を追い風に地域との連携をより密にし、入り口側では高大連携や出前授業を利用して高校生との活動を増やして学生募集につなげ、出口側ではインターンシップや共同研究を利用して地元産業界との結びつきを強め卒業後の就職へと結実すべく取り組んだ。これら地域との結びつきの強い入口と出口とを効果的につなぐよう、アウトキャンパスや PBL 型の授業の拡大を図り、高大連携に関しては、COC による地域連携協定に加えて、長野県商業教育研究会との連携協定など、県内企業・自治体および高等学校との連携をより強め、より多くの優秀な学生を確保すべく努めた。

(f) 平成 26 (2014) 年度私立大学活性化事業補助金を利用した、学内教務システムのスマートフォン対応化を行ってきたが、システムの本格稼動が本年度にスタートした。その端末として購入した iPad Air を平成 27 年度同様に平成 28 年度も総合経営学部新入生全員に貸与した。これには 2 つの狙いがある。第一に学生を「タブレットを携帯する ICT 環境」に慣れさせることであり、第二は ICT を利用した教務関連作業の簡単化である。今年度この 2 つの狙いに則したシステムの実現・運用を計るべく努めた。

2) 総合経営学科

①平成 27 (2015) 年度に決まった新しい学科イメージを構成する「経済学 マネジメント」、「経営戦略 マーケティング」、「消費生活」、「人と心理学」を四本の柱として学科の教育課程を再検討し、時代の変化と学生のニーズを考えて今後 10 年を見据えた教育内容となるよう充実化に取り組んだ。

②飯田市も含めた三者連携協定にもとづく飯田 O I D E 長姫高校および、観光ホスピタリティ学科及び短大と合同で行っている穂高商業高校、この両校との高大連携事業に積極的に協力・参加し、地域貢献と合わせて学生募集につなぐことができた。

③資格取得を促進するため、学科として取り組むべき重点的資格として、従来の IT パスポート、FP に加え宅地建物取引主任者、消費生活アドバイザー、通関士を選定している。今年度も一定数の合格者が出ている。これらの資格対策を、カリキュラムを通じた正課教育と課外での学生支援との両面で、専任教員が責任を持って指導を担当し手厚くサポートし、実績を出すべく進めていく。また、目標資格の再検討も進めていく。

④既存の授業科目である「公務員対策講座」と大学が全学を対象として設けた「公務員講座」とを

有機的に連結活用し、国家・地方いずれをも対象とした指導を実施した。また、今後の同講座の教育効果の向上を考える上で、受講生の確保、学生の定着、科目の導入、費用対効果などについて検討した。

- ⑤国土交通省が進める「道の駅を利用した地域活性化」に積極的に参加し、地域貢献と学生教育に活用した。

3) 観光ホスピタリティ学科

- ①昨年度の検討で確認した新しいイメージ図のキーワードである「観光 マネジメント」、「地域文化マーケティング」、「福祉 まちづくり」の三つを柱とする学科の教育体制の整備を進めた。
- ②受験者数増加に向けた方策の一環として、引き続き高大連携事業を推進する。丸子修学館高校、飯田市を含めて三者協定を結んだ飯田O I D E長姫高校に加え、穂高商業高校との高大連携活動や長野県商業教育研究会と合同で行っているマーケティング塾を積極的に活用し、学生の地域貢献と合わせて学生募集の拡大を図ることができた。
- ③資格取得を促進するため、学科として取り組むべき重点的資格を、社会福祉士、国内旅行取扱管理者、総合旅行取扱管理者（いずれも国家資格）と設定し、専任教員が指導を担当する。今年度も一定数の合格者が出ている。カリキュラムを通じた正課教育と、課外の学生支援との両面から、これらの資格に重点を置いた教育を行った。
- ④既存の授業科目である「公務員対策講座」と大学が全学を対象として設けた「公務員講座」とを有機的に連結活用し、国家・地方いずれをも対象とした指導を実施した。また、今後の同講座の教育効果の向上を考える上で、受講生の確保、学生の定着、科目の導入、費用対効果などについて検討した。

(3) 来年度に向けて <A>

総合経営学部を取り巻く社会の変化は大きく、これによる影響も看過できないものがある。このような現状を認識し、両学科の特性を生かした改善が必要となってくる。以下本学部ならびに両学科が取り組むべき課題をあげるものとする。

1) 学部全体の取組

- ①カリキュラムツリーとして学科ごとに教育目標を達成するために必要な授業科目の流れおよび各授業科目のつながりを示した。これに基づきカリキュラムの点検を行う。

総合経営学科の各学年の到達目標は次の通りである。1年次は、経営についての基礎知識、社会の仕組みと広い教養を身につけることである。2年次は、経営についての具体的な知識、高度化・複雑化するICT化社会における技術およびリテラシーの基礎知識、さらに社会人として適切かつ広い視野を身につけることである。3年次の到達目標は、経営および企業経営についてマクロ的・ミクロ的視点から分析を試みることができること。また、地域産業を理解し、地域社会で生きるための知識と技能を有していることである。4年次は、地域社会において、社会人として生きるための知識や技能、地域社会に貢献できる基礎力を身につけていることである。

次に、観光ホスピタリティ学科の各学年の到達目標は次の通りである。1年次は、「観光」「地域」「福祉」の各要素について基礎的知識を理解していること。また、各要素を通して地域社会に関

心を持ち、現状認識ができ、人との関わりの中で大切な社会性や人間力を身に付ける姿勢が持てることである。2年次は、3要素について資格取得など実践的知識を理解していること。また、各要素を通して地域社会の課題解決に向けた取組みができ、地域社会との関わりの中で自己覚知できることである。3年次は、3要素について課題の分析など応用的知識を理解していること。また、各要素を通して地域社会での有効な実践を身につける取組みができていること。これまでの学びを根拠にした新しい自分像を描けることである。4年次は、3要素について研究や本格的な実践など展開的知識を理解していること。また、各要素を通して地域の変化に責任ある行動ができ、世界を捉える視座が持てることである。

- ②休・退学者問題は、以前から学部全体で強い問題意識を持って対応し、これらの減少に努めることにより一定の成果を上げているものの、ここ2年ほどはなかなか減少せずにいる。この現状から更なる成果をあげるため、来年度は休・退学者対策として基礎ゼミナールに重点を置くものとする。休・退学の理由にはさまざまなものがあるが、これらの中には、学業不振、学校生活不適應など、学生が高校と大学の教育上のギャップに適應できていないことから生じているものがあり、更にこの問題に取り組む必要がある。そのため、担当教員数を増やし、講義内容の再評価と充実、担当教員間の連携の強化などを図り、「初年次教育」として大学における良好な学習・生活環境の確保、学ぶ上で必要となる基礎的な知識と技術の習得などに積極的に取り組むこととした。
- ③東日本の大震災以降、防災教育に対する国民の関心は高くなっている。本学部では、災害の防災・減災を図る防災士の養成を目的として「防災総論」、「防災各論」、「地域の防災」の3科目を設置した。これらの科目は、企業の視点から学ぶことにより「企業の危機管理」、地域の視点から学ぶことにより「地域防災」として位置づけられ、両学科にそれぞれ配置している。防災士の養成は地域防災力の向上に有効であると考えている。
- ④大学院の設置を目指して準備したいと考えている。本学部は、地域貢献の理念のもと、長年にわたって活動をしており、地域社会全体の運営だけではなく、企業・行政・住民など、地域社会を構成するさまざまなものを適格に運営するマネジメント能力を養成する場として役割を果たし、また周囲からも一定の評価を受けてきた。これらのことから、研究科としては、「地域経営研究科」あるいは「地域政策研究科」といった方向性のものが相応しいと考えられ、この方向性での設置を検討している。
- ⑤平成28年度に福祉系の1名の採用人事が成功したものの、経営系と観光系の採用人事が残っており、改めて教員採用人事を行う。カリキュラム・ポリシーおよび今後の両学科の展開に留意して行うものとする。
- ⑥高大連携事業、自治体および企業との連携事業については、両学科の特徴を生かせる方向で取り組んでいく。また、既存の連携事業はさらなる発展を目指すものとする。

2) 総合経営学科

- ①総合経営学科の新しいイメージである「経済学 マネジメント」、「経営戦略 マーケティング」、「消費生活」、「人と心理学」の4分野を核として、カリキュラム・ポリシーに即した学科のカリキュラムを点検・検討し、社会と学生の要望に応えるような教育内容となるよう一層の充実と発展を図

る。

- ②基礎ゼミナールを充実させることにより休・退学者の減少を図る。ゼミの数は従来の4ゼミと同じではあるが、前期と後期で担当者が交代することにより担当教員数を4人から8人に増やす。これにより、学生は、身近に対応してくれる学科の教員をより多く知ることができ、気軽に相談しやすい環境を作る。また、講義内容の再評価と充実、担当教員間の連携の強化も図る。
- ③防災士の資格取得を目指し、教育の充実を図り、この資格を生かした有為な人材を輩出する。この資格は、「企業の危機管理」として位置づけられるものであり、平時において、企業の継続計画の立案、災害対応マニュアルなどを整える等、ひいては企業機能の維持・回復に資するものである。
- ④学科では、ITパスポート、ファイナンシャル・プランナー、宅地建物取引士を重点資格としてとらえ、対応する正課内科目の指導のみならず正課外における学生の自主的な勉強会へのサポート等、学生の資格取得を支援していく。また、これら重点資格は、必要に応じて再検討し、追加および入れ替えを行っていく。
- ⑤地域貢献、学生教育、学生募集および広報的効果などの観点から、飯田市と飯田O I D E長姫高校との三者連携協定、国土交通省の進める「道の駅を利用した地域活性化」など、高大連携事業および地域貢献事業の推進を図る。
- ⑥正課科目である「公務員対策講座」と大学が正課外に設けた「公務員講座」との関係を検討し、両者の強みが発揮できる形の模索、ならびに省力化を図り、両者による相乗効果を図る。

3) 観光ホスピタリティ学科

- ①観光ホスピタリティ学科に設けられている分野である「観光 マネジメント」、「地域文化 マーケティング」、「福祉 まちづくり」について、学科のカリキュラムを点検・検討し、社会と学生のニーズに応えるような教育内容となるよう一層の充実と発展を図る。
- ②基礎ゼミナールを充実させることにより休・退学者の減少を図る。ゼミの数を従来の4ゼミから8ゼミに増やし、担当教員を増やすことにより少人数制のゼミとする。また、基礎ゼミの担当者を少しずつ交代させ、「オール学科」で対応する。講義内容の再評価と充実、担当教員間の連携の強化にも努める。
- ③防災士の資格取得を目指し、教育の充実を図り、この資格を生かした有為な人材を輩出する。この資格は、「地域防災」として位置づけられるものであり、平時において、地域の継続計画の立案、自主防災組織およびボランティア団体内での活動等、ひいては住民および社会の維持・回復に資するものである。
- ④学科では、国内旅行取扱管理者、総合旅行取扱管理者、社会福祉士を重点資格としてとらえ、対応する正課内科目の指導のみならず正課外における学生の自主的な勉強会へのサポート等、学生の資格取得を支援していく。また、これら重点資格は、必要に応じて再検討し、追加など行っていく。なお、厚労省の指導のもと新たな社会福祉士の養成のあり方が検討されており、議論の推移をにらみつつ検討していく。
- ⑤地域貢献、学生教育、学生募集および広報的効果などの観点から、高大連携事業をさらに

推進していく。主な事業として、長野県商業教育研究会と合同で行っているマーケティング塾、農業系高校と行っているクラーク塾の他、福祉系においても同様のプログラムが整えられている。

- ⑥正課科目である「公務員対策講座」と大学が正課外に設けた「公務員講座」との関係を検討し、両者の強みが発揮できる形の模索、ならびに省力化を図り、両者による相乗効果を図る。

＜執筆担当／総合経営学部 学部長 増尾 均＞

3. 人間健康学部

(1) 「平成 28 年度事業計画」＜P＞

創設 10 年目となる今年度は、新県立大学の開学および昨年 4 月の大原専門学校の松本開校等の動向を睨みつつ、一昨年度来の検討・論議を経て昨年 11 月の定例教授会において承認され、学部・学科の新たな方向性とあり方を示した改革案について、来年度実施に向けて具体化に取り組む 1 年となる。

また、人間健康学部を構成する健康栄養・スポーツ健康両学科の連携によってこそ、「健康」領域各分野における特色ある研究・教育を行うことができるとの観点から、従来にも増して相互理解と協力の実を上げるべく取り組む。この点に関して言えば、健康科学研究科との連携についても同様である。

以上のような観点から、まず学部全体が、次に両学科がそれぞれ取り組むべき諸課題を以下に挙げる

1) 学部全体の取組

- ①アドミッション・ポリシーに関しては、十分とは言えないまでもおおむね高校・受験生などに理解されつつあると判断しており、今年度についても、いわゆる「資格志向」受験生のニーズを的確に捉え、入学試験の改革・改善を通じて、学習により意欲的な学生の確保に努める。その際、この間取り組んできた入試改革とそれに伴う受験者および合格者の変化について分析し、その成果を反映すべく取り組む。また、長野県内は当然のことながら、県外からの受験生・学生確保を重視し、入試広報室等関係部署と連携して学習により意欲的な学生の確保、定着化を図り、併せて、過去二年間にわたって実施してきた松商学園高校との入試連携事業については、今年度もさらに充実させる方向で取り組む。
- ②カリキュラム・ポリシーに関しては、上述した学部・学科の改革に向けて、コース制の導入と、それに伴うカリキュラムの検討、確定こそが最大の課題である。そのためにも、学部教務委員会を中心に具体案を検討し、問題点の洗い出しと対応策について確認していくことが必要である。また、今年度もまた、一昨年度課題として取り上げたいいわゆる「教養教育」について、新設される教育学部のものも参考に、内容及び構成等を総合経営学部と連携しつつ議論を深め、一定の方向性を見出すべく取り組む。
- ③ディプロマ・ポリシーの謳う教育目標の達成度に関しては、成績評価の厳格化はおおむね達成されており、それは、卒業生が、医療施設や給食関連企業、スポーツ関連企業等に就職を決めている

ることにも反映していると判断される。したがって、今年度もこうした動向を推進すべく積極的に取り組む。そのために、キャリア教育の実効性をさらに高めるべく、キャリア職員と協力して取り組む。また、県外出身学生の就職指導について、県外からのよりいっそうの学生確保という中期的展望を踏まえ、関係部署と連絡を密にしつつ取組を進める。

- ④ 学部・学科として、あるいは個別研究室単位で行う講演会および各種教室の実施など各種取組を、COC+事業、あるいは教育企画推進事業に位置づけ、地域健康支援ステーションも含めいっそう充実した形で展開する。また、COC+事業に関連して導入された一年次科目「地域課題研究B『健康』」について、学部として同科目の円滑な運営、実施に協力していく。この点に関しては、来年度開設する教育学部に設置される教養科目「こころと体の健康」についても同様である。
- ⑤ 高大連携事業については、従来の岡谷東高校および松商学園高校に加え、飯山高校等とも連携・協力を進めるべく検討を進め、可能な部分から実施に移す。
- ⑥ 自治体および企業などとの連携事業については、両学科の特性を生かしつつ取り組む。また、実習場所の確保という観点を重視し、広報効果の側面についても軽視せずに進める。その際、現行の地域健康支援ステーションの活用を積極的に検討し可能性を探る。
- ⑦ 両学科共に、退職・転出者の後任人事について、先の学部・学科の改革実現の観点に立って早急に取り組む具体化する。
- ⑧ 一昨年度より国際交流センターを中心に進められている国際交流事業について、スポーツ健康学科と中国・嶺南師範学院・体育学部との交流促進をはじめ、健康栄養学科も含め可能な形で協力していく。
- ⑨ 上述した諸事業の運営・実施にあたって、事務組織と教員組織との間の役割分担や指示系統などの明確化を進め、両者がいっそう緊密に連携・協力できるよう見直し、必要に応じて改善を図る。とりわけ、6号館事務室スタッフが、地域健康支援ステーション職員、COC+事業職員、スポーツ健康学科専任助手などから構成されることを踏まえ、その職場環境の整備を進めるとともに、事務分担の明確化と協力体制の構築に努める。

2) 健康栄養学科

- ① 本学科に進学した学生のほとんどが専門性を生かした職に就くことを希望し、とりわけ管理栄養士資格取得を目指して国家試験合格を強く志望している。現状の課題として、成績が優良である学生とそうでない学生との幅が拡大しているという点が挙げられ、これが国家試験の合格率にも影響している。成績が伸びてこない学生の専門基礎科目や専門科目の教育をいかに進めるかを検討していくとともに、新設する1年次の「大学入門」も活用し、学科全体として4年間を通した確かな基礎学力の養成と専門知識の修得に努める。また、各科目で設定している基準に基づいて厳格な評価を行う。
- ② 今後連続する教員の定年等の転退職に伴う教員構成の変化を踏まえ、教授内容を見直し、設定したカリキュラム・ポリシーにそった教育の充実を図る。
- ③ 年々、新入生の学力は向上してきていたが、平成24（2014）年度は全国的な動向もあり、受験生が減少し、応募状況が良好とはいえなかった。翌年度も楽観視できる状況ではなかったことを踏

まえ、新入生の学力や学習意欲を見極め、必要な対応策を講じていく。

1年次より、早期体験学習を含めた現場の管理栄養士業務を意識させるキャリア教育を通して学習への動機づけを強化し、教員の教授力の向上にも努める。

- ④管理栄養士国家試験等の合格率アップと資格取得を奨励するため、学科教員が一体となって取り組む。具体的には、集中講義や模擬試験によって実力の充実を図るとともに、受験に必要な学習環境や書籍などの整備を図り、さらに国家試験対策ワーキンググループによる学習支援と成績管理を行う。特に、平成29（2017）年度に実施される予定である管理栄養士国家試験の早期実施に向けた対策について検討を進める。
- ⑤COC事業の採択を受けて、これまで進めてきた長野県内の行政や観光産業、外食産業、食品製造産業等と連携・共同した事業を充実・強化し、地域貢献事業の推進を図る。また、スポーツ健康学科との連携を図りつつ、健康づくり・地域づくりに食の面からの地域貢献の実を挙げるべく積極的に取り組み、他大学にはない本学・本学科の独自性を強化する。また、その成果についての広報を充実させる。
- ⑥学生が、それら食に関する諸事業をコーディネートする能力を高められるよう、学内外の管理栄養士現職者等との連携を深め、学生の教育課程内および課外での学習を充実させる。

3) スポーツ健康学科

- ①本学科の教育理念である「運動・スポーツを通じた健康づくりの視点で、地域の活性化に貢献できる人材を育成する」を踏まえ、一学年100名を超える学生の年次毎の実態を把握することに努め、一人ひとりが大学四年間および将来に向けた目標を定めつつ自ら学ぶ姿勢を育てていくための教育・研究環境の構築を促進する。
- ②1年次の「大学入門」、2年次の「スポーツ科学入門」の両科目について、過去2年間の経験を踏まえて、学年毎の目標を明確にしつつ、基礎科目として学生の運動・スポーツへの関心を、地域課題である健康への志向性に向け、内容的にも方法的にも検討しさらに充実させていく。
- ③来年度からの3コース制の導入とそれに伴う改正カリキュラムの円滑な実施に向けて、定例の学科会議を中心に検討、確定すべく取り組む。
- ④A0入試の内容変更など見直しが進む入試制度について、これを遺漏なく実施し、その効果や影響などを入試課と連携して的確に把握し分析に努める。
- ⑤地域貢献事業に求められる企画力・マネジメント力といった実践力を培うために、導入段階として1年次科目に「地域課題研究B『健康』」を開設した。1年を通じアウトキャンパス・スタディの機会を設け、学生自身が大学生活で目標とする地域課題発見の道筋に向けていく。
- ⑥この間に生じた転出者の後任人事について、来年度からの学科改革を実現しより充実したものにするという観点に立って早急に取り組む。

(2) 「平成28年度事業計画」に対する実施状況 <D・C>

創設10年目の今年度は、2017（平成29）年4月の長野大学の公立化および2018（平成30）年4月の長野県立大学の開学などを睨みつつ、一昨年11月の定例教授会において承認された、学部・学科の新たな方向性とあり方を示す改革案の具体化に取り組んだ。また、人間健康学部を構成す

る健康栄養・スポーツ健康両学科の連携によってこそ、「健康」領域各分野における特色ある研究・教育を行うことができるとの観点から、相互理解と協力の実を上げるべく取り組んだ。この点に関して言えば、健康科学研究科との連携についても同様である。

1) 学部全体の取組

本学部の今年度における主要課題は、上記のとおり、2017（平成 29）年 4 月の長野大学の公立化および 2018（平成 30）年 4 月の長野県立大学の開学を迎え、学部・学科の新たな方向性とあり方を示す改革案の具体化であった。

とりわけ、長野県立大学と管理栄養士養成で競合する健康栄養学科は、その影響を免れ得ないとの見通しに立って改革案を練り、主要な柱として学科における中・高の理科教職免許課程の設置および 4 コース制の確定と明示に取り組んだ。その結果、後者については滞りなく進めることができたが、前者については、設置準備委員会を設けて事務手続きを精力的に進めたものの、12 月の文部科学省への事前相談の席で学科の理念と理科の教免課程との不整合（「相当性」の問題）を厳しく指摘され、断念を余儀なくされた。それを受け、次善の策として、入学定員を現行 80 名から 10 名削減して 70 名とすることを審議、了承し手続きに入った。

さらに、スポーツ健康学科についても、長野大学および諏訪東京理科大学の公立化によって県内高校生の進学先の狭隘化が起こるとの予測と、健康栄養学科の削減分の吸収という二つの理由から、入学定員を 20 名増やして 100 名とすることを審議、了承し、手続きに入った。

以上、年度当初には予想していなかった事態への迅速な対応について述べたが、次に、3 ポリシーの観点から述べる。なお、今年度は、その 3 ポリシーについても教務委員会を中心に検討を加えて修正し、確定した。

- (a) アドミッション・ポリシーに関しては、十分とは言えないまでもおおむね高校・受験生などに理解されつつあると判断しており、今年度についても、いわゆる「資格志向」受験生のニーズを的確に捉え、入学試験の改革・改善を通じて、学習により意欲的な学生の確保に努めた。併せて、過去 3 年間にわたって実施してきた松商学園高校との入試連携事業について、今年度もさらに充実させる方向で取り組んだ。
- (b) カリキュラム・ポリシーに関しては、昨年度確定したコース制の導入と、それに伴うカリキュラムの検討、確定こそが最大の課題であった。そのため、学部教務委員会を中心に慎重に論議を進め、カリキュラムおよびカリキュラムツリー、学習モデルなどについて検討し、成案を得ることができた。また、懸案であったいわゆる「教養教育」についても、教育学部のものも参考に、モジュール方式を採用した新たなカリキュラムとして確定することができた。
- (c) ディプロマ・ポリシーの謳う教育目標の達成度に関しては、成績評価の厳格化を引き続き追求してきた。
- (d) 学部・学科として、あるいは個別研究室単位で行う講演会および各種教室の実施などの各種取組を、COC+事業、あるいは教育企画推進事業に位置づけ、地域健康支援ステーションの活動も含め充実した形で展開することができた。
- (e) 高大連携事業については、従来の岡谷東高校および松商学園高校については例年どおり順調に進めることができたものの、年度計画にあった飯山高校等との連携・協力については未達成である。

- (f) 自治体および企業などとの連携事業については、従来どおり、両学科の特性を生かしつつ取り組むことができた。スポーツ健康学科と池の平ホテル&リゾートの取組が『日本経済新聞』に取り上げられ、三越劇場（東京）でのこうえん講演会とともに同紙の「健康セミナー」覧に掲載されたことおよび、健康栄養学科の矢内専任講師が、一般社団法人日本有機資源協会主催の「食品産業もったいない大賞」で農林水産大臣賞を受賞したことなどは、その典型例であると言ってよいだろう。
- (g) 両学科の今年度扱った人事では、まず、健康栄養学科の「応用栄養学」分野人事について、スポーツ健康学科のスポーツ栄養学関係科目をも担当可能な人材を採用することができ、また、スポーツ健康学科については、学科改革と関連して運動指導分野の強化という観点を踏まえて人事を進め採用できるなど、先の学部・学科の改革実現の観点に立って具体化することができた。
- (h) 国際交流事業については、今年度は根本学科長が現地に赴き、同学部学生などを対象に指導法を教授するなど、スポーツ健康学科と中国・嶺南師範学院・体育学部とのいっそうの交流促進が図られた。

2) 健康栄養学科

- (a) 本学科に進学してくる学生のほとんどが専門性を生かした職に就くことを希望し、とりわけ管理栄養士資格取得を目指して国家試験合格を強く志望している。成績優良学生と不良学生との幅の広さが、授業内容の理解度の向上、さらに国家試験の合格率にも影響している。そこで、専門基礎科目や専門科目に関する学びのモチベーションを高めるために、1年次の「大学入門」で各教員が担当する授業内容の充実を図った。また、FDに関する研修や授業評価結果などを活用し、学科教員が全体として、4年間を通した確かな基礎学力の養成と専門知識の修得に向けた教授力の向上に努めた。本学科の学生1名がフードスペシャリスト協会から認定試験結果優秀者として特別表彰されたことおよび、学生向けの外部研究助成事業に採択され、研究成果発表で最優秀賞を授与した研究生がいたことなどは、その成果ともいえる。
- (b) 今後連続する転退職に伴う教員構成の変化を踏まえ、教授内容を見直し、応用栄養学分野とともにスポーツ栄養学分野も担当できる教員を採用することができた。併せて、公衆栄養学分野の採用人事も進めたが、これについては次年度に見送りとなった。採用人事にあたっては、大学院健康科学研究科との連携を重視し、研究科長とも協議して進めることができた。
- (c) 管理栄養士国家試験等の合格率アップと資格取得を奨励するため、学科会議でこれまでの国家試験対策について評価し、基本的な対策方針について検討した上で、それぞれの学年を担当するワーキンググループの指導方針のもと、学科教員が一体となって取り組むことができた。本年度は、大学からの学長裁量経費による支援も得て、従来からの対策以外に新しい取組も実施することができた。また、平成29（2017）年度の管理栄養士国家試験の早期実施に向けた対策についても、新しいワーキンググループにより、検討が進められている。
- (d) 入試については、年によって受験者動向が異なり、12月までのA0入試や推薦選抜などの合格者数と、年明けの一般選抜・センター入試の合格者数を見極めることが難しい。そのような状況

のなかで、過不足ない入学者を確保できるよう、入試委員を中に慎重な審議が行われた。

2018(平成30)年の長野県立大学の開設も踏まえ、対応を検討しつつある。

- (e) COCおよびCOC+事業の採択を受けて、これまで進めてきた長野県内の行政や観光産業、外食産業、食品製造産業等と連携・共同した事業を充実・強化し、地域健康支援ステーションと連携して、地域貢献事業の推進を図ることができた。具体的には、イタリアンレストランで提供されるメニューの提案に際して、長野県が実施している「3つの星レストラン事業」としての実施を提案し実現したこと、地域の組織や機関と協働し、本学において食育関連のイベントを実施できたこと、これまで学内で実施していた「1日限りのレストラン」の学生提案メニューが松本市内のホテルレストランで販売されることになり学生がスタッフとして活動したことなどが新しい展開であり、その活動の広報も充実させることができた。こうした活動は、学生の専門的な知識やスキルを高めることに寄与するだけでなく、地域の中の多用な方々と関わる中で、社会人基礎力の向上にもつながっている。

3) スポーツ健康学科

- (a) 本学科の教育理念である「運動・スポーツを通じた健康づくりの視点で、地域の活性化に貢献できる人材を育成する」を踏まえ、毎月1回開催される学科会議を中心に、学科教務委員並びに各ゼミ担当者などから適時学生の動向が報告され、一学年100名を超える学生の年次毎の実態を把握することに努めてきた。さらに、学生一人ひとりが大学4年間および将来に向けた目標を定めつつ自ら学ぶ姿勢を育てていくために、問題点については、全学科教員が一致した対応をとるべく努めるなど、教育環境の整備・構築を進めてきた。
- (b) 初年次教育の「大学入門」、2年次の「スポーツ科学入門」の両ゼミナールについては、本学科教員の共通理解を重視し、昨年度の実施状況を踏まえて内容的にも方法的にも協力して検討し、いっそう充実させることができた。現在、学士号取得後に問われている社会人基礎力の養成という視点からも、不得意科目を中心に、基礎教育センターの協力を得つつ1年次は8コマ分、2年次は5コマ分設けた。また、2年次は、3年次よりスタートする専門ゼミを見据えて、専門分野毎に教員の指導の下、導入部ではあるが研究の実践についても学ぶ機会を設定した。
- (c) 上述されている学科改革の一環として、来年度から導入される3コース制の円滑な実施に向け、各コースの見直しとカリキュラムの見直しを定例の学科会議にて検討をした。
- (d) 入試の内容変更など見直しが進む中、松商高校生については模擬授業3回の受講とそれに関わるテスト及び事前面談を実施するなどしたことによって、導入に際して期待した狙いを一定程度達成できたと判断している。これらの改革、実施については、入試委員を通して、入試広報室など関連部署と適宜連絡を取りつつ実施した。
- (e) 1年を通じてアウトキャンパス・スタディの機会を設け、学生自身が大学生活で目標とする地域課題発見の道筋に向けていくために、1年次開講科目である「地域課題研究B『健康』」の開設、運営に努めた。なお、今年度の履修者数は8名であった。
- (f) 教員の転出者に伴う補充人事として「健康づくり」分野で1名の採用を行った。さらに、転出教員および来年度から実施される定員増に伴う採用人事については引き続き検討中である。

(3) 「平成 29 年度事業計画」＜A＞

創設 11 年目となる今年度は、本年 1 月の定例教授会並びに法人理事会において承認された、健康栄養学科入学定員の 10 名減（現行 80 名を 70 名に）及びスポーツ健康学科入学定員の 20 名増（現行 80 名を 100 名に）を踏まえ、それが施行される 2018（平成 30）年度以降の教学展開について議論し改革案を得る一年となる。その際、一昨年度に承認されている、管理栄養士養成で競合する長野県立大学の来年度開学への対応を念頭に策定されたコース制採用等の改革案との融合を重視し、その具体的実施に取り組みねばならない。

また、健康栄養・スポーツ健康両学科の連携によってこそ、「健康」領域各分野における特色ある研究・教育を行うことができるとの観点に立って、従来にも増して相互理解と協力の実を上げるべく取り組む。この点に関して言えば、健康科学研究科との連携についても同様である。

以上のような諸点を踏まえ、まず学部全体が、次に両学科がそれぞれ取り組むべき諸課題を以下に挙げる。

1) 学部全体

- (a) 「資格志向」受験生のニーズを的確に捉え、入学試験の改革・改善を通じて、学習により意欲的な学生の確保に努める。その際、長野県内は当然のことながら、県外からの受験生・学生確保を重視し、学習により意欲的な学生の確保、定着化を図る。また、松商学園高校との入試連携事業については、さらに充実させる方向で取り組み、新たな方策についても検討、協議を進める。
- (b) 一昨年度来の学部・学科改革の具体化であるコース制の導入とその円滑な運営並びに、来年度から実施される両学科の入学定員の増減に伴うカリキュラムの検討、確定こそが、今年度最大の課題である。そのためにも、学部教務委員会を中心に具体案を検討し、問題点の洗い出しと対応策について確認していく。
- (c) この間取り組んできた成績評価の厳格化はおおむね達成されており、今年度もそれを推進すべく積極的に取り組む。
- (d) キャリア教育の実効性をさらに高めるべく、キャリア職員と協力して取り組む。また、県外出身学生の就職指導について、県外からのよりいっそうの学生確保という中期的展望を踏まえ、関係部署と連絡を密にしつつ取組を進める。
- (e) 今年度実施が予想される教職免許課程の再課程認定申請に向け、申請準備委員会と協力して、関連科目の精査並びに担当教員の業績確認などに積極的に取り組む。
- (f) 両学科共に、退職者、退職予定者の後任人事及び新規採用予定人事について、先の学部・学科改革の実現並びに両学科の入学定員の変更を踏まえたカリキュラム改革を念頭に、早急に取り組み具体化する。その一例として、今年度より、健康栄養学科の応用栄養学分野でスポーツ栄養を専門とする教員が赴任することから、両学科に共通する運動と栄養という境界領域分野を成長、充実させることを念頭に、ゼミ配属を含めた学科間の学生交流を検討する。
- (g) 講演会・教室の実施など各種取組を、COC+事業、あるいは教育企画推進事業に位置づけ、いっそう充実した形で展開する。また、「地域課題研究B『健康』」について、円滑な運営、実施に

協力していく。この点に関しては、教育学部に設置される教養科目「こころと体の健康」についても同様である。

- (h) 国際交流事業について、スポーツ健康学科と中国・嶺南師範学院・体育学部との交流促進をはじめ、健康栄養学科も含め可能な形で協力していく。
- (i) 高大連携事業については、従来の岡谷東高校および松商学園高校に加え、飯山高校等とも連携・協力を進めるべく検討を進め、可能な部分から実施に移す。
- (j) 自治体および企業などとの連携事業については、両学科の特性を生かしつつ取り組む。また、実習場所の確保という観点を重視し、広報効果の側面についても軽視せずに進める。その際、現行の地域健康支援ステーションの活用を積極的に検討し可能性を探る。

2) 健康栄養学科

- (a) 本学科に進学する学生の多くは管理栄養士の資格を取得し、専門性を生かした職に就くことを希望しているが、一部に学力の不足する学生がいるのが現状である。対策として、学力によるクラス分け等も含め、平成27（2015）年度入学生から設定、適用した3年次への進級要件制度を有効活用する。また、新設した1年次の「基礎ゼミナール」を活用し、管理栄養士として必要な専門知識修得のための基礎学力を養成する。また、各科目のシラバスで設定した評価基準に基づき、厳密な成績評価を行う。
- (b) 長野県立大学の開学に伴って受験生の減少や入学生の学力低下が危惧されるため、従来の教育レベルを維持する対策が必要となる。その一つとして、来年度より入学定員を10名減らして70名とし、35名2クラスによる少数教育で教育効果の向上を図る。また、今年度から実施される4コース制については、運用上予想される問題点を精査し、実施に支障がないよう準備を行い、各種資格修得が円滑に進むよう努める。さらに、1年次の早期体験学習などにより、現場業務を意識させ学習への動機づけを強化する。
- (c) 管理栄養士国家試験等の合格率アップと種々の資格取得のため、学科教員は一致して協力力を尽くす。また、従来の国家試験対策に加え、昨年度より大学からの支援を受けた試験対策を始めたが、内容、予算等についてさらに検討を進める。さらに、来年度から管理栄養士国家試験が3月第1週に行われるため、検討してきた対応策を滞りなく実行し、万全の準備を行う。
- (d) 今後連続する教員の定年等の転退職に伴う教員構成の変化を踏まえ、教授内容を検討し、昨年度見直したカリキュラム・ポリシーに沿って教育の充実を図る。
- (e) これまで進めてきた長野県内の行政や観光産業、外食産業、食品製造産業等と連携・共同した事業を充実・強化し、地域貢献事業をいっそう推進する。また、スポーツ健康学科と連携して地域貢献の実を挙げるべく積極的に取り組み、本学科の独自性を強化する。具体的には、教員が個別に取り組んでいるプロジェクトの事業化や、研究成果を反映した商品化を促し、一次から三次産業までを含めた地域企業との連携と地域への貢献を目指す。
- (f) 学生には、(e)の食に関する諸事業をコーディネートする能力を高められるよう、学内外の管理栄養士現職者や企業の商品開発部門等との連携を深める場を設け、学内はもとより、課外、学外での学習を充実させる。また、他大学や企業などとの連携を通じて、学生の国際会議への

派遣や外国企業との共同開発を行うなど、可能な形で国際交流の機会を設ける。

3) スポーツ健康学科

- (a) 本学科の教育理念である「運動・スポーツを通じた健康づくりの視点で、地域の活性化に貢献できる人材を育成する」を踏まえ、一学年100名を超える学生の年次毎の実態を把握することに努め、一人ひとりが大学四年間および将来に向けた目標を定め自ら学ぶ姿勢を育てていくために要する教育・研究環境の整備、構築をいっそう促進する。
- (b) 一年次の「大学入門」、二年次の「スポーツ科学入門」の両科目について、学年毎の目標を明確にし、学生の運動やスポーツへの関心を地域の課題と結びつけつつ、内容的にも方法的にも検討しさらに充実させていく。
- (c) 地域貢献事業に求められる企画・マネジメント力といった実践力を培うために、導入段階として1年次科目に「地域課題研究B『健康』」を開設した。それを含め、1年を通じアウトキャンパス・スタディの機会を設け、学生自身が大学生活で目標とする地域課題発見の道筋を見出すよう仕組み、それを意識した指導に努める。
- (d) 来年度から実施される入学定員80名から100名への増員を念頭に、一昨年度確定した3コース制の内容について、今年度実施予定の3名の教員補充を勘案した科目の新設、改廃などカリキュラム改革に取り組み、定例の学科会議を中心に協議、検討し、より充実した形で成案を得る。
- (e) 転出者の後任及び定員増に伴う増員など今年度実施可能な3名の採用人事について、上記のように来年度からの学科改革及びカリキュラム改革と連動させ、より充実したものにすべく早急かつ着実に取り組む。
- (f) A0入試の内容変更など見直しが進む入試制度について、これを遺漏なく実施し、その効果や影響などを入試広報室と連携して的確に把握し分析に努める。
- (g) 自治体及び企業との連携強化をいっそう進め、同系学部・学科と差別化できているヘルスケア分野をいっそう充実させるべく取り組む。

＜執筆担当／人間健康学部 学部長 等々力 賢治＞

4. 教育学部設置準備室

(1) 事業計画 <P>

①設置認可申請、②課程認可申請、③寄附行為変更申請の3つの申請を、決められた日程と内容を遵守して、滞りなく受け付けられるように、文科省等からの多様な指摘・注文に機敏に対応していく。認定後は、趣意書に則り学生募集や4月からの開講に向けて、授業の準備を含め事務的な手続きを着々と進めていく。入試業務を入試委員会と連携しながら怠りなく遂行し、アドミッションポリシーに沿った定員80名を越える優秀で意欲的な人材の確保に努める。

(2) 実施状況 <D・C>

平成28年3月に文部科学省に申請した教育部学校教育学科の設置は、平成28年6月末の補正申請を経て、8月31日付で認可となった。また、同時に申請していた小学校教諭一種免許および

特別支援学校教諭一種免許の教職課程については、7月から9月にかけての審査会を経て、11月28日付で認定された。

教育学部の教員組織は最終的に専任教員19名、非常勤講師50名となった。専任教員19名の内、新たに採用した教員は15名で既存学部から4名異動する形をとった。事務局教務課に専任職員を1名増員し、教育学部担当者を置いた。既存の教職課程担当者と連携しながら開設の準備にあたり、スムーズな立ち上がりに務めた。

はじめての学生募集については、一般入試にシフトした形をとったが、教育学部の志願者は国公立大学を始めとする他大学との併願者が多く、最終的に入学者は65名に留まった。

(3) 次年度に向けて <A>

松本大学は、これまでも「地域貢献」という基本理念のもと、「まちづくり」「健康づくり」「ひとづくり」をテーマに掲げ、特長である専門教育+実践教育を推進してきた。新たに教育学部を開設されることは、「まちづくり」の総合経営学部、「健康づくり」の人間健康学部に加え「ひとづくり」の教育学部というそれぞれの学部が特色のある総合大学として専門教育を行うことが可能になる。

開設される教育学部は、長野大学および諏訪東京理科大学の公立化が進む中で、長野県内の唯一の私立大学として、さらに、近県を含む地域での唯一の小学校教員養成課程を持つ私立大学として、学部・学科の新たな方向性とあり方を方向づけてゆく年となる。

その内容は、教員を目指す高校生に進学機会を提供し、これからの社会に求められる「真の人間力」を持った教員養成を目指す。初年度であり、一年次生のみとなるため、より細やかな教育現場体験の指導と、地域での様々な実践活動を通して、子どもの心を理解し、信頼される教員の資質を高める。

1) 教育学部全体の取組

① 3 ポリシーについて

(a) アドミッション・ポリシーについて

教育学部のアドミッション・ポリシーとして次の7項目をあげている。①子どもの人格形成に大きな影響を及ぼす存在になるという自覚を持った高校生②子どもが好きで、子どもに寄り添いながらその成長を願う心を持った高校生③子どもの教育に必要な知識、技能、表現力を積極的に身につけようとする高校生④自ら課題設定ができ、その解決に向けて前向きに努力しようとする高校生⑤幅広い分野に興味・関心を持ち、絶えず自身の許容量を広げようとする高校生⑥教育現場の教職員、保護者を含む地域の方々との連携を重視し、協働できる高校生⑦同僚との協力を強め、地域の教育の質向上に向けて絶えず努力できる高校生。

これらを高校・受験生などに理解されるように、広めてゆく。また、初年度の受験生の動向を詳細に分析し、さらに充実した入試の方向を探ってゆく。2年目の受験生をむかえるH29年度も県外からの受験生を含めた教員志望の学生に対する広い認知を目指して、入試広報室等関係部署と連携し、意欲的な学生の確保、定着化を図る。

(b) ディプロマ・ポリシーについて

教育学部では、以下の「八つの力」を備えた人材を育成する。カリキュラム・ポリシーと関連して、一年次生へのきめ細かい指導を行う。

① [地元力] 長野県の初等教育を誠実に担って行こうとする意欲を持った人材：学校教育の周辺分野において、学校現場をサポートできる力量を持ち、地域社会の発展と地域文化の振興に資する力量を持った人材も包摂している。② [子ども理解力] 子どもの発達段階に応じた育ちのあり様を理解しようとする人材：現場体験の中で子ども達の行動様式を観察・確認するだけでなく、心理学的な学びを深めることで、子ども個々人の内面からの洞察も加えられるようにする。③ [授業力] 子どもの学ぶ力を引き出す分かりやすい授業を展開できる人材：初等教育の基本となる、分かりやすくやる気を引き出せる授業を展開できる能力や児童の間違った思考過程をクラス全体の深い理解に活かせる柔軟な指導力を獲得する。④ [学級運営力] 子どもの個性を尊重しながら学級を運営できる人材：学級の構成員である子ども達の和を保ちつつ、それぞれの能力を引き出し、学校で学ぶことが楽しいと思えるクラス運営を実施できる力を獲得する。⑤ [生徒指導力] 同僚の協力を得ながら生徒指導の諸課題に対応できる人材：最近の複雑な様相を呈する生徒指導・進路指導の諸課題に、人間的幅の広さを備えて、他の教師と協力しながら対応できる力を培う。⑥ [地域連携力] 地域の力を学校教育に導入・活用できる人材：児童の多様な能力を引き出すには、保護者を含む地域の教育力を学校に取り込み、地域と一体となって子ども達を育てる、柔軟かつ原則的な対応ができる能力を培う。⑦ [学校運営力] 同僚と協力して学校運営をできる人材：他の教師と協力して学校運営に携わることができるのは、学校に生起する諸課題を前向きに改善するために必要な資質であり、その力を獲得する。⑧ [自己開拓力] 自分の守備範囲を拡げることにより意欲的である人材：小学校の教員免許取得にとどまらず、特別支援学校や中学校の一種免許など時代の要請に応じて、自分が携わることのできる教育の範囲を絶えず拡げようとする意欲的な姿勢を養成する。

(c) カリキュラム・ポリシーについて

教育学部での、カリキュラムの編成方針として、①教養科目と専門科目のバランスがとれた配置で、専門性の獲得とそれを支える広く深い教養を身につけ、教育者あるいはその支援者としての魅力を高める。②教養科目はモジュール化し、科目設定の大学側の意図を明示する。③教師としての八つの力を基に、小学校教諭一種免許や特別支援学校教諭一種免許を取得する専門的力を身につけることができる専門科目を配置する。④教育現場との交流を重視した「教育実践科目群」や「教育実習科目群」を配置する。を基本としている。

この編成方針のもと、小学校や特別支援学校の教員を目指す学校教育学科の教育課程は、各教科の知識や指導力を深め、1年次から学校現場を体験できるプログラムを用意する。多くの問題の解決に向けて、討論・バズセッション・ロールプレイなどアクティブラーニングを多用して、他者と協働できる人間力を身につける、バランスのとれた教育が特長です。また、教養教育も重視し、現代社会をテーマにした幅広い知識の修得と多様な考え方に触れる科目を配置しています。少人数教育を実施できる強みを活かし、一人ひとりにきめ細かい指導を行うとともに、学生同士が学び合う環境を用意する。

2) 学校教育学科の取組

(a) 座学だけではなく、教育現場との結びつきを強め、子ども達の実態に基づいた教育ができるよ

- うにするため、PBL型のアクティブラーニングを取り入れた授業展開を重視する。
- (b) 学生間同士の切磋琢磨により、教員としての力量の向上を目指すため、「教学半」のような学びのスペースや、教員への積極的質問を受けつける相談窓口としての各種センターを設け対応する。
 - (c) ゼミナール等少人数教育を推進し、講義以外の演習や実習形式の授業も重視する。
 - (d) 正課外の活動にも、教師としての成長を促す要素が数多くあることから、学生の自主的な課外活動を支援する。
 - (e) 一貫した教育目標・内容・方法を設定して、学生の活動意欲の向上と学修支援に取り組み、厳正な出席管理や成績評価を実施する。
 - (f) GPA値の見える化など、学修成果をフィードバックすることで、PDCAサイクルを自身で回し、絶えず学修計画の見直しを図れるようにする。その判断結果の妥当性等を、ゼミナール担当教員等が話し合いの中で評価しアドバイスする。
 - (g) ⑦「教育実習」とその事後指導や「卒業論文」など、学修成果をまとめ発表させることで、学位授与に向けた人材育成の達成度評価の場とする。

＜執筆担当／教育学部設置準備室長 川島 一夫＞

5. 松商短期大学部

(1) 計画 <P>

以下の5つの施策は常に改革が求められる施策である。従って、平成28年度も、前年度に引き続き実施する。

1) 入学者選抜段階における施策

「特待生入学制度」および「入学金割引制度」を維持し、入学生に対する経済的支援を継続すると同時に、本学進学のための経済的優位性を高校生にアピールする。また、一昨年度から始まったグローバル人材育成教育をさらに進めるため、海外留学支援制度の創設に対応した入試制度改革を検討する。

2) 修学意欲向上のための施策

「資格奨励金制度」および「学業成績優秀賞授与制度」を維持し、本学学生の学業に対するモチベーションの維持・向上につとめる。同時に、専任教員の手による本学独自の講義テキストの開発および作成を維持し、本学学生に合わせたわかりやすい授業の展開と学生の学習意欲の向上を図る。また、導入4年目となる入学直後のプレースメント・テストの実施を継続させ、入学生の基礎学力のデータを収集するとともに状況把握を行い、本学の教育活動・学生募集活動に活用する。

3) 進路支援に対する施策

学内合同企業説明会および企業単独学内説明会の充実・拡大、講座開設による公務員試験対策の強化、四年制大学への編入対策の充実を図る。また、県内企業の海外展開傾向を加味して、英語等の語学力育成とグローバル・コンピテンス育成に取り組む。さらに、就職内定者に対しては、早期離職防止の対策強化を図る。

4) 地域貢献のための施策

従来通り、本学の地域貢献の柱である高大連携事業に取り組むとともに、11年目を迎える穂高商業高等学校との連携の知見を活用し、キャリア教育として有効性の高い高大連携の取り組みを他の商業高校にも拡大させる。また、松商学園高等学校との連携を強化し、高校・短大5年間の教育を視野に入れた「高短大接続教育プログラム」の研究と開発を進める。

5) 教育改革に関する施策

前年度の「自己点検・評価報告書」では記載されていなかったが、本学では着実に教育改革が進められてきている。この教育改革も常時取り組む必要がある。ここ数年、本学では、地域企業や地域社会が求める人材育成の観点から、異文化理解を促し、多文化共生社会に対応したグローバル・コンピテンスの育成に力を入れてきた。具体的には、「国際コミュニケーション・フィールド」の開設、英語の必修化、海外留学等の促進も意図した4学期制導入、海外協定校や海外研修実施校の確保、などである。また、今年度、平成28年度は、文部科学省の「大学教育再生加速プログラム（AP）」の高大接続改革：テーマV「卒業時における質保証の取組の強化」に選定・採択された。このプログラムは、本学のこれまでの教育改革を加速化するプログラムであるため、この改革スケジュールに従って本学の教育改革を進める。

(2) 実施・検証<D・C>

1) 入学者選抜段階における施策

入学者選抜段階での施策としては、「特待生入学制度」と「入学金割引制度」がある。今年度の特待生は、授業料全額免除の第Ⅰ種特待生が3名、半額免除の第Ⅱ種特待生が5名となった。前者の第Ⅰ種特待生は、スカラシップ推薦入学試験経済支援特待生コースで2名、松商学園高校特待生第Ⅰ種特待生で1名の計3名であった。後者の第Ⅱ種特待生は、スカラシップ推薦入学試験経済支援特待生コースで1名、学力特待生資格試験で2名、一般A入学試験で1名、センター1期入学試験で1名の計5名であった。また、入学金割引については、入学時点で30名の申請があり、専門資格取得割引対象者が14名（漢検9、英検またはGTEC3、簿記2、情報処理1、ただし1名は漢検と簿記両方取得）、兄弟姉妹割引が16名であった。

県立短大の募集停止、景気変動、18歳人口の減少等、外部環境が変化する中、確実に経済格差は拡大してきており、入学者選抜段階での経済的修学支援はその重要性を増してきている。従って、これからも上記二つの制度の充実を図っていく必要がある。さらに、短大卒ではあってもグローバル人材の育成は急務となっており、経済的側面からの留学支援体制の構築も必要である。そこで、次年度以降、入学者選抜段階から海外留学を希望して入学する学生に対して、経済的な支援をおこなう制度の導入を検討することになった。

2) 修学意欲向上のための施策

今年度も「資格奨励金制度」と「学業成績優秀賞授与制度」を実施した。しかしながら、前者については、前年度に奨励金支給資格の見直しを行った結果、奨励金受給者数が3割ほど減少したが、今年度も前年度並みの水準となった。それに伴い、支給総額も前年並みの水準となった。また、後者については、他学部が1年に一回、各学科で1名を表彰しているのに対して、短期大

学部は前期と後期の年2回、成績優秀者の上位10名を表彰していることから、学部間での質・量の差異が表面化してきていた。そこで、他学部との同質性を確保する観点と短期大学部の独自性を確保する観点から、次年度に向けて見直しを行うことになった。

短期大学部としては、入学後の学習意欲の向上と就職活動支援の観点に加えて、経済的な修学支援の観点から同制度を導入した経緯があり、これまで一定の成果を確保してきていた。しかしながら、他学部の意図とは大きく異なっている点が課題であった。したがって、短大部で同制度を導入した意図を再確認し、他学部との整合性を取りつつも、他学部とは異なる独自性を持った制度として再構築することとした。

3) 進路支援に対する施策

学内合同企業説明会と学内企業単独説明会は例年通り実施された。開催回数は、前者が3回、後者が37回であった。今年度も景気回復と労働力不足を背景として、高い有効求人倍率を維持し、平成29年5月時点の最終就職内定率は両学科とも100パーセントとなった。また、編入希望者も全員編入先が決定し、最終的な進路決定率も95パーセントを超える高い水準となった。

4) 地域貢献のための施策

本学の地域貢献の取り組みの柱のひとつは、「ひとづくり」に関連する10年を超える高大連携授業である。今年度も夏と春に穂高商業高等学校や諏訪実業高等学校の生徒が参加してチャレンジ型連携を本学で行った。また、本学の教員が出向いて授業(簿記)を行うチャレンジ講座も実施された。その他、金子ゼミナールの「バレンタイン・スイーツ」や出前講義なども例年通り実施された。

5) 教育改革に関する施策

平成28年度は、これまでの本学の教育改革を基礎に「大学教育加速プログラム(通称AP)」に選定・採択されたため、多くの教育改革に取り組むこととなった。

①4 学期制移行

前年度に引き続き4学期制移行について議論し、平成29年度からの導入を目指して準備を始めた。特に、APに選定・採択されたことにより、4学期制導入の動きが加速することになった。

② コンピテンス育成とルーブリック作成

AP申請書の記載に基づき指標作成委員会とAP実施委員会が設置され、コンピテンス配分表と本学のコア・コンピテンス、さらにはルーブリックを決定し、AP実施委員会により着実に教学改革を実施することになった。

③ シラバスの改善

AP事業の実施に伴い、最終的に「ディプロマ・サプリメント」を発行することから、学修成果の蓄積と授業外学修の管理が求められるようになった。そこで、学籍管理の「メソフィア」と学修管理の「グレクサ」の改修・改善が求められ、AP事業の予算を使用してシステム改修が行われた。また、富山短大のウェブ・シラバスを参考に本学のグレクサの改修が進められることになった。

④ICT を活用した教育の推進

数年前から本学でも「iPad」等を使用した教育を進めているが、本学のウェブ・シラバスの構築とグレクサの改修に伴って、本年度は ICT を活用した教育手法の検討を進めた。

⑤グローバル化対応

本学のグローバル化対応については、国際交流センター運営部会の報告に示されているように、多様化が進んだ。また、次年度以降、学期中に海外留学を行う学生の経済的負担を軽減させるため、海外留学期間に応じて授業料等と同額を支援する制度の構築を検討するとともに、入試改革を含むグローバル人材育成のための教学改革を進めることになった。

6) 外部資金獲得の取り組み

今年度も文部科学省「活性化設備整備事業」に申請し、タイプ I 「教育の質的転換」に申請し、採択された。この補助金により、ゼミ教室の設備の充実が図られた。また、大学教育再生加速プログラム (AP) テーマ V 「卒業時における質保証の取組の強化」に申請し選定・採択された。

(3) 平成 29 (2017) 年度計画 <A>

前年に引き続き以下の 5 つの施策を実施するとともに、AP 事業を着実に実施する。

1) 入学者選抜段階における施策

「特待生入学制度」並びに「入学金割引制度」を維持し、入学生に対する経済的支援を継続する。また、本学進学のエconomic優位性を高校生にアピールする。さらに、グローバル対応力育成の観点から、学期中に海外留学を希望する高校生に対して、経済的側面から修学支援を行う制度を構築するなど、入試改革を含む教学改革を行う。

2) 修学意欲向上のための施策

「資格奨励金制度」並びに「学業成績優秀賞授与制度」を維持するとともに、他学部との関係で改善を求められている点を考慮しつつ、本学独自の制度として再構築する。また、前年に続いて本学オリジナル・テキストの作成を継続し、本学の学生に対応したわかりやすい授業展開と学生の修学意欲の向上に努める。さらに、数学、英語、人文社会のプレースメント・テストの結果をその後の学修につなげる仕組みを構築するなど、学生の修学意欲の向上に資する改革を進める。

3) 進路支援に対する施策

前年同様、学生の意識改革に効果的な学内合同企業説明会と学内企業単独説明会を実施し、その充実を図る。また、基礎教育センターや公務員対策講座の活用、編入対策の強化等を通して進路決定率の向上につとめる。さらに、就職内定率を高めるのに効果的と考えられる就職活動支援の充実に加えて、早期離職を防止する観点から、意識改革に有効と考えられるキャリア教育の充実を図る。

本学には、キャリア教育を担当するキャリア教育センターと就職活動支援を担当する就職委員会が設置されている。しかしながら、4 年前までキャリア教育センターが設置されていなかったこともあり、就職委員会がキャリア教育も担当し、両者の棲み分けは行われてこなかった。そこで、平成 29 年度は、キャリア教育センターが中心となって、就職活動支援とキャリア教育の棲み

分けと、本学のキャリア教育のあり方について整理する。

4) 地域貢献のための施策

本学の地域貢献の柱である高大連携事業をさらに進める。特に、松商学園高等学校商業科と検討している高短大接続教育プログラムの開発を進め、高校と短大を連結する5年一貫教育の仕組みの構築を目指す。平成28年度に選定・採択されたAP事業のテーマは「高大接続改革」であり、コンピテンス育成の面からも検討する。

5) 教育改革に関する施策

本学の教育改革は、AP事業の選定・採択により明確なスケジュールに従って進められることになった。従って、AP事業の申請書、並びに毎年提出する次年度の教育改革のスケジュールを示した調書に従って、着実に進めることが求められている。平成29年度は、上記3)の①から⑤の取り組みをさらに発展させ、その成果を検証するとともに、卒業時の質保証として発行される「ディプロマ・サプリメント」の開発が中心となる。また、4学期制のメリットを最大限に発揮させるために、海外留学や長期インターンシップ等を積極的に実施するための仕組みを構築する。

6) 外部資金獲得の取り組み

平成29年度は、前年度獲得したAP事業を確実に実施することが求められるため、教学改革に関係する補助金申請は難しい。また、平成28年度から始まったブランディング事業は、前提条件を満たす準備が必要であるため、平成29年度は次年度申請に向けて検討を始める。他方、海外留学等を推進するための外部資金獲得はAP事業を促進する観点からも望ましい。従って、国際交流関連の外部資金獲得には短期大学部としても積極的に進める。

＜執筆担当／松短期大学部 学部長 糸井 重夫＞

第2部 委員会・部会別点検・評価

I. 学生センター部門

A : 教育推進充実部門

1. 教務委員会

(1) 全学教務委員会

各学部選出委員及び教務課職員を構成員とする全学教務委員会は、短期大学部も含めた教務に関わる学部横断的課題・事項に関する審議・決定機関であり、さらに、共通教養・キャリア教育・資格取得支援・基礎教育の各センター運営部会をも統括している。原則として一ヶ月に一度開催される定例会議において、日常的な教務事項の円滑な運営、遂行を基本としつつ、教学を巡る学内外の動向を的確に捉え、その充実に必要な諸課題の把握と対応に努め、各種報告事項についても適宜取り扱い情報の全学的共有化に努めてきている。

今（平成28）年度もまた、10回の定例会議において、日常的な教務事項の推進並びに進捗に伴って確認、整理された諸課題について慎重に審議し決定することを中心に、報告事項についても適切かつ適確に周知を図るべく努めた。

1) 計画 <P>

上述したように、本委員会の主要な任務は日常的な教務事項の円滑な運営、推進であり、本年もまたそれを第一義に取り組む。加えて、今年度は、ここ数年間取り組んできた教学改革の中で懸案事項となっている①教養科目の共通化、②学修指導の実質化、③カリキュラムマップ・ツリーの作成、④成績基準の策定と明確化、⑤アクティブラーニングの充実におけるクラスサイズの見直し、⑥出欠席の適正な管理、⑦規程の整備などをさらに進め、一定の合意を得ることが主要な課題である。

2) 実績・現状 <D>

年度当初の計画に基づいて、今年度もまた、8月と3月を除く毎月一回、計10回の定例会議を開催し、以下に挙げる諸事項を中心に審議、決定するとともに、報告事項についても、適宜取り上げ情報の全学的周知・共有化を図った。

今年度、本委員会で取り上げられ審議、承認された主たる事項は以下のとおりである。

- ①成績評価「Q（履修放棄）」の廃止について、本年度より短期大学部においても履修抹消制度が導入されたことを受け、本成績評価を廃止することが提案、承認された。
- ②自然災害時等の休講について、「松本大学一斉休校及び臨時休業に関する基準運用細則（案）」が示され、一部修正したうえで承認された。
- ③「松本大学履修規程（案）」について審議がなされ、前項の「松本大学一斉休校及び臨時休業に関する基準運用細則（案）」を受けて条項を追加し、さらに、オフィスアワーと追試験要件についての修正を加筆、成績評価「R」の表現を「出席不足」へ変更することが提案、承認された。
- ④オフィスアワーに関する内規について、非常勤講師を含む表現に変更すること及び、オフィスアワー等の面談記録用紙を「オフィスアワー実施記録表」として月ごとの一覧に変更することが諮られ、承認された。

- ⑤共通教養センター運営部会で審議されたカリキュラム表が示され承認された。併せて、共通教養科目の理念・目的及び概念図について審議、承認がなされ、これを大学案内に盛り込む際は各学部のページとは別に掲載することについても確認がなされた。
- ⑥教育学部を含む他学部履修及び教職課程の履修について、教職センター専任会議での議論、決定を受け、以下の点について審議し、承認された。
- ・教育学部の学生が既存学部の教職課程を履修する場合は、中学校社会二種、中高保健体育二種、中高理科二種（平成30年度から）を許可する。各免許の定員は8名程度（各学科の定員の一割、以下同じ）以内とする。
 - ・既存学部の学生が教育学部の教職課程を履修する場合は、小学校二種、中高英語一種を許可する。ただし、中学校免許履修者は定員8名程度以内とする。
 - ・既存学部の学生が別の既存学部の教職課程を履修することを許可する（栄養教諭、養護教諭は除く）。それぞれの教職課程での定員は8名程度以内とする。
- ⑦次年度大学案内の掲載について、全学共通教養科目のページを学部ページの前に設け、3ポリシーは各学部のページに記載することが提案、承認された。
- ⑧共通教養科目に関するルールについて、以下のとおり審議、確認がなされた。
- ・学生のメソフィア上での出欠確認については、現状のままとする。
 - ・全学共通教養科目における再試験は実施しない。
 - ・原則として、Rとなる学生の調査及び発表を行う。
 - ・成績の素点については、現状のままとする。
- ⑨以下の各規程と内規について提案、承認された。
- ・松本大学修業年限を越えた留年生の学費に関する規定（改訂）
 - ・松本大学オフィスアワーに関する内規（改訂）
 - ・松本大学授業のクラスサイズに関する内規（改訂）
 - ・松本大学スチューデント・アシスタントに関する内規
- ⑩2015年度入学生より、両学部に「進級に関する規程」を導入したことに伴い、進級判定会議及び3年次への進級生発表を行うことを確認した。併せて、「進級に関しての異議申し立て書」を承認した。
- ⑪海外プログラム危機管理対応マニュアルについて、3ページの国際班に国際交流センター係長が明記され、5ページのマニュアル2、研修・オリエンテーションの4）を明記したことが説明、承認された。
- ⑫GPAの活用について、「松本大学履修規程」の第24条を「退学を含む指導を行う」に修正することが承認された。併せて、「学生指導における基準」においても、GPAの活用について、3期連続1.0未満となった学生に対して「退学を含む指導を行う」ことが諮られ、承認された。
- ⑬総合経営学部の専門科目群である「専門発展科目」と人間健康学部の「専門科目」を教育学部と同様の「専門応用・発展科目」に統一することが提案、承認された。
- ⑭各学科のDP・CPについて、体裁を整えた案が提示され承認された。また、大学案内ではそれぞれの学部のページに配置されることが確認された。
- ⑮教育実習等における出席の取り扱いについて、教職センター運営委員会での確認を受け、教育

学部及び教職課程を履修している学生が、教育実習期間、介護等体験実習期間、実習の事前打ち合わせ日、授業におけるボランティア活動の事前打ち合わせ日（遠方の場合は移動日も含める）などの理由で講義を欠席した場合、全学的にその欠席について配慮することが審議、承認された。

なお、教育実習等を含む欠席により 2/3 以上の出席を満たすことができなくなった場合、実習等の欠席回数範囲で配慮することとする。ただし、教職課程を履修している学生に対しては、教育実習等以外の欠席について従来どおり適正に指導していくよう、教職センターに依頼することとした。

⑩「松本大学履修規程」、「松本大学松商短期大学部履修規程」、「松本大学総合経営学部進級に関する規程（改訂）」、「松本大学人間健康学部進級に関する規程（改訂）」、「松本大学教育学部進級に関する規程（新規）」について、全学協議会での指摘事項を反映した案が承認された。

⑪各学部学科の 2017 年度カリキュラムに基づき、カリキュラムツリーが承認された。

⑫次年度から学部が増えること及び全学共通教養科目がスタートすることを踏まえ、随時行っていた補講の設定を、期限を設けて日時や教室の調整を行う必要があることから、新制度用の「休講届兼補講希望届」を使用することが提案され、承認された。

⑬適正な出欠管理について各教員に依頼する文書案が示され、授業の代返の対応、教育実習（看護実習を含む）等による欠席の取り扱い及び短期大学部の第 1 週目からの対応について審議され、一部文言修正の上、承認された。また、教育実習等による欠席の取り扱いは、全学教務委員長及び教職センター長名で発行される「欠席配慮願」を使用して、教務課から各科目担当教員へ連絡することを確認した。

以上が、今年度、本委員会が取り扱い一定の結論を得た事項である。このほか、教学改革に関することとして、年度別退学分析と学生指導の強化、入学年度別卒業率・卒業率・留年率の分析、シラバスの充実（準備学修の目安時間の明示、成績評価基準の明示、授業種別の細分化）、プレイスメントテスト結果分析等に取り組み、さらに、キャリアセンターとの協働による入学前セミナーの実施、入学式当日における新入生保護者説明会の実施、短大部 4 学期制の導入作業、履修登録期間の変更（開講前登録）、入学前教育及び新入生保護者説明会アンケート結果報告などについても検討し、実施に移した。また、会議の都度、教務に関する諸報告も合わせてなされ、関連する情報が全学的に共有化され各学部に円滑に伝達された。

3) 点検・評価の結果 <C>

上述したように、本委員会の主要な任務は日常的な教務事項の円滑な運営、遂行であるが、くわえて、それに関連する諸規程・内規などの検討、整備にも多くの時間を費やした。その際、例えば履修規程などのように、各学部間の調整と本委員会における数度にわたる審議、決定にくわえ、最高意思決定機関である全学協議会への上程、そこでの論議を反映して修正を加えるなど、懸案事項については慎重な対応を心がけ結論を見出すべく努めた。

前述した今年度の活動内容の多くは、そのようにして合意に達することができたものであり、それはまた、ここ数年間、本委員会を中心に議論してきた事柄であった。その意味で、懸案事項のいくつかを解決できた一年であったと言える。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

本委員会は、次年度もまた、原則として一ヶ月に一度開催される定例の会議において、日常的な教務事項の円滑な運営、遂行を基本としつつ、教学を巡る学内外の動向を的確に捉え、その充実に必要な諸課題の把握と対応に努め、各種報告事項についても適宜取り扱い情報の全学的共有化に努めることである。

そのうえで、次年度は教職課程の再課程認定が予定されることから、今年度以上に諸事項を前倒しの日程で進めていく必要がある。特に、文部科学省への事前相談を10月に行う予定であることから、カリキュラム表は平成30年度及び平成31年度のを同時に検討し、次年度9月までに平成30年度カリキュラム表の確定、10月までに平成31年度カリキュラム案を作成すべく力を尽くさねばならない。関連して、同一学科に複数の免許種を設置している場合に、各課程の履修モデル及び各学部の履修細則が必要となることから、カリキュラム変更とともに各学部において次年度前期を目処に作成することが求められる。

このほかにも、点検・評価活動の一環として、全学共通教養科目の実施状況の点検と確認、CAP及び他学科履修の上限の再検討、演習科目の適切なクラスサイズ運営のチェック等にくわえ、新たな取組として、次期外部評価受審(平成33年)に向けた具体的なロードマップの作成及び準備開始、平成29年度中の新シラバスの様式決定(平成31年度から施行)、全学的な成績評価基準の検討(新シラバスに搭載)、IRを活用したDP・CPのチェック体制及び教学改革サイクルの構築、アクティブラーニングの推進と充実、時間外学修の測定及び実質化方法の検討、ICTを活用した授業の充実(e-learning、クリッカー等)などが、次年度に取り組み解決すべき課題として挙げられる。

<執筆担当/全学教務委員会 委員長 等々力 賢治>

(2) 総合経営学部教務委員会

1) 年度当初の予定 <P>

平成28年度当初に計画された総合経営学部教務委員会の事業は、以下の通りである。

- ・DP・CP見直しをする。
- ・カリキュラムツリーの作成をする。
- ・松本大学履修規程の整備、制定を全学教務委員会と協力して行う。
- ・共通教養科目の見直しをする。
- ・共通教養科目の理念・目的の策定を行う。
- ・共通教養科目に関するルールの制定を行う。
- ・共通教養科目におけるナンバリング表記方法の制定を行う。
- ・専門科目群の科目区分名称の統一を行う。
- ・補講申請方法の変更をする。
- ・非常勤講師におけるオフィスアワーの実施をする。
- ・新様式でのオフィスアワー面談記録の作成と提出依頼をする。
- ・「松本大学一斉休校及び臨時休業に関する基準運用細則」の制定をする。
- ・教育実習等における出席の取り扱いを検討する。

- ・進級に関する異議申し立て書の作成をする。
- ・他学部教職免許取得ルールの制定を行う。
- ・キャリアセンターとの協働による入学前セミナーの実施をする。
- ・入学式当日における新入生保護者説明会を実施する。
- ・定期試験における不正行為の対応と防止の徹底をする。
- ・履修登録期間の変更（開講前登録）をする。
- ・シラバスの充実（準備学修の目安時間の明示、成績評価基準の明示、授業種別の細分化）をする。
- ・欠席調査を実施する。
- ・防災士に関する科目を、次年度カリキュラムへ追加をする。

2) 計画の実施・現状の説明 <D>

多くの事業は、計画通り実施された。

- ・DP・CP見直しを行った。
- ・カリキュラムツリーの作成をした。
- ・松本大学履修規程の整備、制定を全学教務委員会と協力して行った。
- ・共通教養科目の見直しを行った。
- ・共通教養科目の理念・目的の策定を行った。
- ・共通教養科目に関するルールの制定を行った。
- ・共通教養科目におけるナンバリング表記方法の制定を行った。
- ・専門科目群の科目区分名称の統一を行った。
- ・補講申請方法の変更をした。
- ・非常勤講師におけるオフィスアワーの実施をした。
- ・新様式でのオフィスアワー面談記録の作成と提出依頼をした。
- ・「松本大学一斉休校及び臨時休業に関する基準運用細則」の制定をした。
- ・教育実習等における出席の取り扱いを検討した。
- ・進級に関する異議申し立て書の作成をした。
- ・他学部教職免許取得ルールの制定をした。
- ・キャリアセンターとの協働による入学前セミナーの実施をした。
- ・入学式当日における新入生保護者説明会を実施した。
- ・定期試験における不正行為の対応と防止の徹底をした。
- ・履修登録期間の変更（開講前登録）をした。

シラバスの充実（準備学修の目安時間の明示、成績評価基準の明示、授業種別の細分化）をした。

- ・欠席調査を実施した。
- ・防災士に関する科目を、次年度カリキュラムへ追加をした。

3) 点検・評価の結果 <C>

平成28年度は、議論を深めながら業務を遂行できた点は評価したい。以下に、点検・評価の結果について示す。

- ・DP・CP見直しを行った結果、各ポリシーがより分かりやすいものとなった。

- ・カリキュラムツリーの作成をした結果、カリキュラムの内容がより分かりやすくなった。
- ・松本大学履修規程の整備、制定を全学教務委員会と協力して行った結果、履修規定がより分かりやすいものとなった。
- ・共通教養科目の見直しを行った結果、共通教養科目が充実した形になった。
- ・共通教養科目の理念・目的の策定を行った結果、理念や目的がはっきりした。
- ・共通教養科目に関するルールの制定を行った結果、よりよい共通教養科目の運用がよりよくできるようになった。
- ・共通教養科目におけるナンバリング表記方法の制定を行った結果、共通教養科目の分類や内容が分かりやすくなった。
- ・専門科目群の科目区分名称の統一を行った結果、専門科目群の科目が分かりやすくなった。
- ・補講申請方法の変更をした結果、補講申請がよりきちんと実施できるようになった。
- ・非常勤講師におけるオフィスアワーの実施をした結果、非常勤の先生方からも学生により指導をして頂ける形を実現できた。
- ・新様式でのオフィスアワー面談記録の作成と提出依頼をした結果、オフィスアワー面談の状況をきちんと把握できるようになった。
- ・「松本大学一斉休校及び臨時休業に関する基準運用細則」の制定をした結果、一斉休校及び臨時休業の運用がしっかりと行えるようになった。
- ・教育実習等における出席の取り扱いを検討した結果、教育実習等における出席の取り扱いが明確になった。
- ・進級に関する異議申し立て書の作成をした結果、進級に関する異議申し立てが書面で行えるようになった。
- ・他学部教職免許取得ルールの制定をした結果、他学部教職免許取得ルールが明確になった。
- ・キャリアセンターとの協働による入学前セミナーの実施をした結果、入学前セミナーが充実した形となった。
- ・入学式当日における新入生保護者説明会を実施した結果、保護者への情報の伝達がうまく行えた。
- ・定期試験における不正行為の対応と防止の徹底をした結果、不正行為の防止に貢献できた。
- ・履修登録期間の変更（開講前登録）をした結果、履修登録をうまく運用できた。
シラバスの充実（準備学修の目安時間の明示、成績評価基準の明示、授業種別の細分化）をした結果、学生にとってより分かりやすいシラバスとなった。
- ・欠席調査を実施した結果、欠席の多い学生への指導の徹底ができた。
- ・防災士に関する科目を、次年度カリキュラムへ追加をした結果、次年度カリキュラムをより充実することができた。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

平成 29 年度は、以下の事業を予定している。

- ・平成 30 年 3 月提出の再課程認定申請への対応と具体的なロードマップの作成を行う。
- ・平成 29 年度中に、新シラバスの様式を決定する。
- ・成績評価基準の検討を行う。

- ・アクティブラーニングの推進、充実を目指す。
- ・時間外学修の測定および実質化方法の検討を行う。
- ・ICTを活用した授業の充実（e-learning、クリッカー等）を行う。
- ・全学共通教養科目の実施状況の点検と確認を行う。
- ・CAP、他学科履修の上限の再検討を行う。
- ・演習科目の適切なクラスサイズ運営のチェックを行う。

＜執筆担当／教務委員会 総合経営学部主任 小林 俊一 ＞

（３）人間健康学部教務委員会

人間健康学部教務委員会(部会)は、両学科から2名ずつ選出された教務委員と、教務課職員4名の8名により構成され、月1回のペースで計12回の部会を開催した。今年度は課題が多かったこともあり、部会の開催数は前年度に比べ2回増となっており、委員及び教務課職員には負担をかけることとなった。

1) 計画 <P>

教育学部の開学に合わせた共通教養科目の改変があるため、教養科目のカリキュラム変更や時間割の作成などの実務面で、全学教務委員会と連携して滞りなく準備する。また、平成29年度より両学科でコース制の導入などを含めたカリキュラム変更を予定しているため、こちらも遅滞なく準備を進める。また、健康栄養学科では4コース制の導入に関連した将来計画において、理科の教員免許取得を可能とする申請を行うとの方針が示されたため、文部科学省への申請に向けた準備を進める。さらに昨年度改訂されたシラバスの更なる充実、オフィスアワーを活用した学生指導とそのエビデンスの集積、資格取得へ向けた継続的指導や、学生の就職に関わる講座への積極的な参加を促すなど、課題は山積している。また、新入生オリエンテーションは従来3月中に開始していたが、入学前の学生とその保護者を来校させることに疑義が呈されたため、4月冒頭に行うこととし準備を進める。

2) 実績・現状 <D>

①共通教養科目について

- ・科目区分名を検討し、全学教務委員会にて各学部が受け入れられる名称に変更した。
- ・共通教養科目の設定や理科免許の申請を考慮し、一部科目を専門科目へ移動させた。

②シラバスについて

今期も引き続きシラバス改革を進めた。シラバスの充実化を図る目的で、以下の点を付記することとした。

- ・事前事後学修の具体的内容および所要時間を明記した。
- ・成績評価、S、A、B、Cの評価基準を明記することで、学生の学修目標を明らかにした。

③学生の指導について

- ・学生指導の基準、退学を含めた学生の指導などにGPAを活用することとし、GPAの指導基準値を明確にした。
- ・スポーツ健康学科においては、再試験を4年生前期に導入することとした。
- ・オフィスアワーを利用した学生について、学生の面談相談記録の提出率が低いのではとの懸

念から、記録用紙の簡略化を図り、相談日時を記録した一覧表の提出に切り替えた。

- ・新入生オリエンテーションとして入学前セミナーを4月3、4日に行い、4月5日の入学式後に保護者説明会を行うこととした。

④コース制の導入

- ・平成29年度より両学科でコース制を導入することとした。栄養学科は臨床栄養、スポーツ栄養、食品安全、フードデザインの4コース制をとり、スポーツ健康学科は予防医学・健康づくり、ヘルスケア・スポーツビジネス、学校体育・健康教育の緩やかな3コース制をとることとした。コース制導入にあたり、その基盤となる学位授与の方針（ディプロマポリシー、DP）について再検討を行った。また、DPの変更に伴い教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー、CP）との齟齬が出ないように、CPの再検討も併せて行った。
- ・栄養学科の4コース制の導入に伴い、新たに5つの資格（レクリエーション・インストラクター、フードコーディネーター、健康食品管理士、HACCP管理者、理科教員免許を申請することとした）。
- ・両学科でカリキュラムの階層性と各コースで取得できる資格などを学生に明示するため、各コースでカリキュラムツリーの作成を行った。併せて各コースの履修モデルを作成し、新入生オリエンテーションで開示することとした。
- ・栄養学科のコース制導入に合わせて臨地実習の科目として臨地実習Ⅳ（臨床栄養学）を4年後期に配置し、臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）と選択必修とすることとした。これにより病院の管理栄養士をめざす臨床栄養コースの学生に対する病院実習の充実を図るとともに、学生の選択の幅を広げた。

⑤理科教員免許の申請

- ・平成28年12月21日（水）に行われた教職課程認定申請に係る事前相談において、文部科学省から理科免許については、学科と免許の相当性が認められないため、健康栄養学科において課程認定申請をすることは困難である、との説明があった。この結果を受け、理科免許状教職課程認定申請準備委員会にて検討した結果、理科免許の申請を断念することとした。

⑥資格取得について

本学部で取得できる資格の合格者（取得者）数は以下の通りであった。健康運動指導士の受験者は昨年度と同数であったが、合格者は昨年度を上回り合格率は80%を超えた。また、健康運動実践指導者の合格率は昨年度を大きく上回り、95%を超える合格率となった。管理栄養士の合格率も80%を回復した。全国の合格率を上回っている資格もいくつかあり、各学科、各担当教員の指導が数値として示されたと判断して良いであろう。

しかし、健康栄養学科の主要資格である管理栄養士については、全国平均を下回っており、さらなる合格率上昇が求められる。管理栄養士合格率が全国平均を下回る一因に、「成績不振者の国家試験受験に制限をかけない」という健康栄養学科の方針があると思われる。管理栄養士国家試験受験に対する大学、学部からの支援も充実してきており、さらなる合格率の上昇と、合格率80%以上の維持が今後の課題である。

資格名	平成 28(2016)年度			
	受験者	合格者 (取得者)	合格率	全国合格率
健康運動指導士	22	18	81.8%	54.8%
健康運動実践指導者	29	28	96.6%	66.1%
レクリエーション・コーディネーター	1	1	100%	-
レクリエーション・インストラクター	-	3	-	-
トレーニング指導者	4	4	100.0%	-
第一種衛生管理者	-	70	-	-
スポーツ指導者 (21年度入学生より適用)	-	9	-	-
中学校教諭一種免許状 (保健体育)	-	22	-	-
高等学校教諭一種免許状 (保健体育)	-	22	-	-
中学校教諭一種免許状 (保健)	-	2	-	-
高等学校教諭一種免許状 (保健)	-	2	-	-
養護教諭一種免許状	-	3	-	-
小学校教諭二種免許状	-	5	-	-
フードスペシャリスト	52	51	98.1%	84.0%
フードスペシャリスト専門 (食品開発)	11	1	9.1%	20.3%
フードスペシャリスト専門 (食品流通・サービス)	9	4	44.4%	31.1%
栄養教諭一種免許状	-	6	-	-
管理栄養士	79	68	86.1%	92.4%
栄養士	-	89	-	-
食品衛生管理者 (任用資格)	-	69	-	-
食品衛生監視員 (任用資格)	-	69	-	-

3) 点検・評価の結果 <C>

①共通教養科目について

本年度開学した教育学部を含め、松本大学の3学部の学生を対象とした共通教養科目の授業がスタートした。各科目区分、科目群には科目がほぼ均等に分配され、学生は学年進行に合わせ適宜受講できるシステムとなっている。人間健康学部の学生は、ほぼすべての開講科目を受講することが可能で、興味のある分野を集中的に受講するか、広く様々な科目を受講して幅広い教養を身につけるかは学生の選択に任されている。今後学生の受講傾向を分析し、必要とあれば指導していくことも必要であろう。しかし、共通教養科目が全学の学生に向けて開講され、真の共通化を達成できたとは言いがたい。全学教務委員会の検討事項ではあるが、いわゆる一般教養や基礎学力の修得に向けて、学部の枠を超えた受講を可能にする検討が必要と思われる。

②シラバスについて

シラバスの事前事後学習における具体的な学修時間の目安を示すことで、学生に授業外学習の必要性和その目標時間を明示することができた。授業外学習の目標時間を達成するには、事前事

後学習のための課題などを課す必要があるかもしれない。また、成績評価の基準を明確にすることで、その授業において、教員が学生に求めている学修成果を示すことができた。各学生が明確な目標に向かって、学修を積み重ねることを期待する。

③オフィスアワーについて

オフィスアワー制度は今後も継続する計画であるが、面談相談記録については提出率の上昇と、教員の負担減をめざして簡便化を行った。その結果、面談記録の提出率は微増したが、より簡便な方法、例えばメソフィア教員ポータルなどからの直接入力など、考案する必要があると思われる。一方、記録の提出が一定数以上増加しない理由として、面談数が増加していない可能性も考えられた。既に記録提出はきちんとおこなわれており、記録の提出方法の変更が提出数に影響しないことが考えられる。オフィスアワーの活用の検証をどのような方法で行うか、その検討こそが必要なかもしれない。

④コース制の導入

今年度入学生より両学科でコース制を導入し、学生が目的とする資格修得に向けて効率よく学習できるよう、カリキュラムツリーを提示した。今後学年進行に合わせた学生指導、カリキュラムの微調整等が必要になる可能性がある。アンケート等を実施し、学生の動向を探り、対応していく必要がある。

⑤理科教員免許の申請

4 コース制導入に合わせて、食品安全コースの学生に対するインセンティブの一つとして、理科免許の申請を予定していたが、学科と科目の相当性が合わないということで、申請には至らなかった。これまでに取得できなかった資格として、このコースを希望する学生には新たに HACCP 管理者の資格が修得できるよう体制を整えているが、さらに新規の資格取得を考える必要があるかもしれない。

⑥資格取得について

両学科の主要資格である、健康運動指導士、健康運動実践指導者、管理栄養士の取得者数が増加し、合格率はいずれも 80%を超えた。

⑦その他、学修成果について

各学科、各学年の GPA 平均値の推移（下表）を見ると、健康栄養学科では年度による変動が見られるのに対し、スポーツ健康学科では安定した傾向にある。また、全体を通して、スポーツ健康学科の学生の GPA が高い傾向にある。両学科ともおおむね平均 GPA が 2.0 を超えており、学習成果がそれなりに上がっていると考えられる。できれば GPA の平均値が 2.5 を超える状況（受講した講義の半分以上が A）が達成できれば理想的である。しかし、2015 年度入学生を見ると、両学科とも 2 年次の GPA が入学時より低下し、2.0 を切る状況になった。健康栄養学科では 2 年次の GPA は横ばいか低下する傾向にあったが、2015 年度学生の低下は著しいと言える。今後これら学生の学修状況を継続的に観察する必要がある。

入学年度	2013 年度入学生		2014 年度入学生		2015 年度入学生		2016 年度入学生	
年度 \ 学科	健康栄養	スポーツ健康	健康栄養	スポーツ健康	健康栄養	スポーツ健康	健康栄養	スポーツ健康
2013 年度	2.24	2.28	-	-	-	-	-	-

2014年度	2.14	2.20	2.03	2.20	-	-	-	-
2015年度	2.28	2.24	2.05	2.22	2.11	2.23	-	-
2016年度	2.32	2.22	2.18	2.20	1.96	1.97	2.08	2.25

4) 今後の課題 <A>

①共通教養科目導入の評価

- ・共通教養科目の改変による教育効果の変化について評価を行う必要がある。受講者数、単位取得者数とその成績分布などの調査、あるいは授業アンケート等を通じて、学生の受講態度に変化が見られるか調査が必要と思われる。

②学修指導の推進

- ・シラバス改革やオフィスアワーの継続による学習指導の効果をどのように評価するか検討が必要となろう。基礎ゼミナール等の時間を活用した基礎学力評価、授業の成績（GPA 平均値）、試験の平均得点の推移、退学・休学者数の変化、さらに資格取得者数と合格率の変化などが評価対象となるかもしれない。これらのデータと面談記録などを手がかりとして、学修指導の充実とその評価を進める。

③コース制導入への対応

- ・平成 29 年度入学生より両学科においてコース制が適応されることから、実際の学生の動向に注視し、両学科の履修モデルやカリキュラム編成に問題がないかを検討しつつ、対応する必要がある。また、コースにより学生の偏り等が生じた場合の対応も考えておく必要がある。健康栄養学科では、コース制の導入により時間割編成の困難さが増すことが予想されるため、現在 2 クラスで行っている実習科目などの、同時間帯平行開講についても検討する必要がある。

④教職課程の再課程認定

- ・教職課程の再課程認定の申請（健康栄養学科の栄養教諭、スポーツ健康学科の保健体育、保健、養護教諭）に向けての準備を進める。具体的には、平成 31 年度のカリキュラム案の作成を行う。

<執筆担当者／教務委員会 人間健康学部主任 木藤 伸夫>

(4) 松商短期大学部教務委員会

1) 年度当初の予定 <P>

平成 27 年度の自己点検・評価報告書で報告されている、平成 28 年度当初の計画は以下のとおりである。

①4 学期制への対応について

平成 28 年度は、その次の年度に向けて、本格的に稼働する 4 学期制のカリキュラムを作成することとなる。もちろん、カリキュラムや時間割だけでなく、以下のような様々な点を同時に考える必要があるが、未だに曖昧な点も多く、教務委員会として決めなければいけないことを確実に審議し結論づけていく。

a) カリキュラムについて

4 学期科目と 2 学期科目を両立させるのかどうか、どの科目を 4 学期科目とするのか。また、集中講義をどのように行うのかなど。

b) 時間割

カリキュラムにも関連し、4 学期科目（週 2 回講義）をどのように配置し、2 学期科目と上手く両立ができるか。非常勤講師を含めた教員の講義時間帯の調整など。

c) 年間行事予定

4 学期をどのように配置し、学期の間をどのようにするのか。他学部との関連はどのようにするのか。また、ガイダンス講義週間や試験(追試験・再試験)から成績発表までどのように実施するのかなど。

d) 必修講義のありかた

ゼミやキャリア科目を含め、必修講義をどのように考え、実施していくのか。

e) 長期海外研修やインターンシップの実施について

年間行事予定とも関連し、長期のイベントをどのように実施し、単位等はどうするのか。

f) 履修登録の方法について

4 学期とも履修登録を行うのか、オリエンテーション時期や内容、カリキュラムマップやナンバリング、履修放棄制度なども含めて考える必要がある。

g) メソフィア等のシステム

現状のシステムのままで良いのか、新規に何か作る必要があるのか。

h) その他

学則や授業料などのルールの変更が必要になるか。他の委員会等と調整する必要がある事項はないかなど。

②その他

4 学期制に伴う改革以外にも、以下の点は継続審議していく必要がある。次年度は余裕があまりないかも知れないが、FD 委員会等と協力をしながら、少しでも議論を進めていきたい。

a) 3つのポリシーとの関連について

教務委員会が単独で議論すべき内容ではないが、現在の3つのポリシーは、冗長な部分もあり、現状に合わないところも出始めている。そのため、現在のままだと、カリキュラムや必修講義のあり方を考える上での基準として考えづらく、議論が進まない要因の一つとなっている。カリキュラムなどを考えると同時に3つのポリシーをどうするか議論を平行して行い、決定していくことが望ましいと考えられる。

b) ループリック等の評価基準について

単位の実質化や成績評価基準の明確化が強く求められており、それに対応するため、議論を継続して行う必要がある。

c) 授業外学修について

1 単位 45 時間の学修という単位の实質化のため、授業外学習の増加が求められている。4 学期制に伴い、学生の授業外学習がどうなるかを確認し、今後の対策を考えていきたい。

2) 計画の実施・現状の説明 <D>

① 4 学期制への対応について

平成 29 年度からの 4 学期制実施に向け、総務委員会のもとに設置された指標作成委員会および AP 実施委員会と連携を取りながら、教育効果の向上を念頭に置いた具体的な方策を検討し準

備作業を行った。

a) カリキュラムについて

平成 27 年度に前倒しで 4 学期に対応させた科目の実績や FD・SD 活動の中で得られた教職員の意見等を踏まえ、まずは現カリキュラムの開講科目の中から 4 学期対応できるもののできないものを整理する作業を進めながら、科目の統廃合と配置換えを行った。4 学期化することで教育効果の向上が期待できる資格関連を中心に、週 2 回～4 回の講義が行われる科目を設けた。

また、卒業要件の見直しを行い、これまでのユニット取得のルールを廃止して新たに教養科目 10 単位以上取得を設けた。なお、選択必修科目の取得条件については、対象科目を 8 科目（16 単位）とし、4 科目（8 単位）以上の取得を条件とすることに変更した。

AP 関連では、各科目を指標作成委員会が作成したループブック評価のためのコンピテンス表（情報リテラシー、論理的思考力、コミュニケーション、課題解決能力、チームで働く力）と結びつける作業を行った。ただし、平成 29 年度カリキュラムは専任教員が担当する科目に限定した。なお、基礎ゼミを除くゼミナール関連科目については、学習内容が異なることから担当ごとに設定した。平成 28 年度は約 120 科目（ゼミナール科目を除く）にコンピテンスを設定することができた。

b) 時間割

他学部の時間割作成に足並みを合わせながら、実習室や体育館等の施設利用や兼任教員、非常勤講師の調整を行うとともに、必修・選択必修科目の再履修者対策や教育効果等を念頭に時間割を作成した。新旧カリキュラムがある中で 1、2 年生に対してわかり易くするための工夫として、学年別に分けた時間割を作成した。また、4 学期科目と 2 学期科目が混在するため、各時限枠を上下に分割し、上段に 2 学期科目、下段に 4 学期科目を配置した。

c) 年間行事予定

例年、原則として全学共通の行事予定を組んできたが、全学教務委員会の了承を得て、短期大学部独自の予定を組んだ。1、2 学期および 3、4 学期の間に 1 週間の特別学修期間（追再試やアウトキャンパス等が実施される期間）を設けるため、これまで各期の第 1 週に実施していたガイダンス講義週間を廃止した。また、専門ゼミナール選定や体育大会、ウエルカムフェア等の実施時期やセンター入試前日の休講についても調整を行った。

d) 必修講義のありかた

必修科目については、基礎簿記や Excel、キャリア関連科目の見直しを行い、学生が集中して学習ができる利点を活かすべく 4 学期化を行った。また、Excel については短期間で上位級取得や再チャレンジが可能となるように、複数の学期に同一科目を配置した。

選択必修科目についても見直しを行った。ユニット取得が卒業要件から取り外される代わりとして、選択必修科目を 8 科目中 4 科目取得する条件に変更し、併せて教養科目（フィールド 9～16）10 単位以上という要件を追加した。

e) 長期海外研修やインターンシップの実施について

国際交流や就職の各委員会から出された案について検討を行った。海外研修については、海外研修 I～IV、海外事情 I・II といった科目を 1・2 年次の 2 学期と 4 学期に配置して研修の機会を増やした。また、図書館司書関連で県内図書館を対象にインターンシップを行う科目を用意した。

f) 履修登録の方法について

全学教務委員会の動きに合わせ、在学生の履修指導や高校生向けの説明などに活用できる資料としてカリキュラムツリーを作成した。また、ナンバリング、履修規程の検討・作成を行った。ガイダンス講義週間を廃止して第1週目からの講義に合わせて履修登録期間を設定した。

g) メソフィア等のシステム

AP実施委員会を中心にメソフィアおよびグレクサの機能の追加・変更について検討した。メソフィアについてはシラバスの仕様変更と4学期制対応について検討し、グレクサについてはAP実施委員会で追加機能の詳細を検討してもらった。

h) その他

4学期制に合わせた履修規程を作成した。卒業要件や学生指導の判断基準にGPAを併用することについて検討した。

②その他

次の点について総務委員会やFD委員会の中で議論を進めてもらった。

a) 3つのポリシーとの関連について

各学部の教務委員会で3つのポリシーの見直し作業を行っている機会に合わせ、短期大学のポリシーも見直しをしてはどうかとの意見が出されたが、ポリシーの見直しは短期大学部全体に関わる案件となることから総務委員会に判断をゆだねた。

b) ルーブリック等の評価基準について

指標作成委員会、AP実施委員会が新設され、両委員会のもとでコンピテンシーの作成が行われ、これに基づいてカリキュラムの作成作業を行った。

c) 授業外学修について

全学教務委員会にてシラバスに講義各回に必要な事前事後学習時間を明記する方針が出されたのを受け、次年度担当教員に対してシラバス内の表記を依頼した。作成された全科目のシラバスについて確認作業を行い、記入漏れ等のある科目について再確認の依頼を行った。

3) 点検・評価の結果 <C>

①4学期制への対応について

4年制に向け、指標作成委員会、AP実施委員会、FD委員会と連携しながら準備作業を進めることができた。

a) カリキュラムについて

平成29年度のカリキュラムは、1年次と2年次の開講科目数の比率は約6:3となり、全科目のうち4学期に対応する科目は約25%であった。今年度は専任担当科目を中心に4学期対応を検討したが、今後は対象を非常勤担当科目に広げる方向で調整する必要がある。

非常勤担当の科目について、担当教員を新規に採用する過程で教授会承認後に担当者の都合により変更せざるを得ない事態が出てしまった。今後は十分な確認をした上で教授会へ上程したい。

b) 時間割

他学部との間で実習教室等の調整をしながらの時間割作成であったが、大きな問題はなくまとめることができた。しかし、教育学部が完成年度を迎える過程でさらに綿密な調整が必要となることが予想される。

c) 年間行事予定

これまで全学共通を原則として作成してきた年間行事予定を、4 学期制移行によって短大部独自に予定を組めるように全学教務委員会に働きかけ認められたことは、今後様々な新しい試みを予定表に盛り込みやすくなる点でよかった。特別学修期間の有効な使い方については、さらに検討が必要であると思われる。

d) 必修講義のありかた

新カリキュラムでの卒業要件を検討する中で、学生の学びのスタイルに合わせて柔軟に履修できる点と効率的に学習ができる点を重視してユニット制度を廃止した。その一方で、専門と教養をバランスよく学んでもらえるように、取得すべき選択必修科目を増やして教養科目 10 単位の取得要件を盛り込むこととした。まずはこのカリキュラムでスタートさせ、学生の反応を見ながら必要に応じて調整をしていきたい。

e) 長期海外研修やインターンシップの実施について

平成 29 年度は 2 学期科目も多く残ることから、長期海外研修やインターンシップの本格的な取り組みはできなかった。次年度以降、4 学期化が進む中で段階的に取り組んでいきたい。

f) 履修登録の方法について

ガイダンス講義週間をなくしたことで、学生の科目選択のミスマッチが多くなるのか懸念されるところであるが、状況を見て方策を考える必要がある。

g) メソフィア等のシステム

メソフィアについては、4 学期制に伴って大幅な機能追加が必要となり開発業者と調整をしているところであるが、他学部との共同利用のシステムであるために、平成 28 年度末現在においては具体的なロードマップが明らかになっていない。今後に向けて他学部や AP 関連の委員会と連携しつつ、必要な機能を盛り込んでいく必要がある。

グレクサは短大部独自のシステムであるが、今後グレクサをフロントエンドとしてすべての機能を利用可能な環境にしたいという要望があることから、予算や開発業者との調整の中で可能かどうかも含め具体化していく必要がある。

h) その他

履修規程は、他学部も含めこれまで正式なものが存在していなかったが、4 学期制への移行期に入る前に無事まとめ上げることができた。

②その他

a) 3つのポリシーとの関連について

現行のポリシーに基づいて AP 申請が採択されたことなどもあり、今年度は大幅な変更は難しいと判断したが、継続して検討する案件であると考えている。

b) ルーブリック等の評価基準について

新設された指標委員会および AP 実施委員会にゆだねられ、具体案が作成され決定した。

c) 授業外学修について

FD 委員会主催で開かれた議論の場で授業外学修についても課題等が出されたが、具体的な方策を考えるまでには至らず、シラバスに学習時間を示すにとどまった。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

①AP事業の推進

4年制対応科目の充実や学外学修の機会増など、教務の側面からAP事業を押し進める。

a) カリキュラム

平成30年度のカリキュラムでは、4学期に対応する科目の比率を上げる。そのために、非常勤担当科目についても調整を進める。

b) 時間割

実習教室や兼任教員について他学部との間で綿密な調整が必要となる。なるべく早い時期から時間割作成に向けた調整をしていきたい。

c) 年間行事予定の見直し

平成29年度は大きく変更されるため、再検討すべき事項が出てくると予想される。特に各種行事の実施時期や特別学修期間の使い方について検討を重ねたい。

d) 履修者数調整について

以前から上がっている1クラス当たりの履修者数について議論をし、基準を見直したい。

e) 長期海外研修やインターンシップの実施について

関連する委員会と調整しながら、カリキュラムに盛り込んでいきたい。

f) 学習支援システム

フィアについては他学部やAP関連の委員会と連携しつつ、必要な機能を盛り込む作業を進める。グレксаについては、フロントエンドとして必要とする全機能を利用可能な環境にできるかを、関連の委員会とも議論しながら検討し具体化していきたい。

②その他

a) 3つのポリシーについて

引き続き総務委員会へ検討を依頼する。

b) 授業外学修について

AP関連委員会やFD委員会とも連携し授業外学修について具体的な方策を検討していきたい。

<執筆担当/教務委員会 短期大学部主任 矢野口 聡>

(5) 共通教養センター運営部会

各学部選出委員及び教務課職員を構成員とする共通教養センター運営部会は、全学教務委員会の下におかれ、本学における共通教養の推進と運営に関する諸事項について審議し、一定の結論を得た上で、必要な事項については全学教務委員会に上申する任務を担っている。

1) 年度当初の計画 <P>

今年度の主要な課題は、昨年度大まかに合意を得た、課題などのテーマで科目を大括りにして学生に分かりやすく示すモジュール方式による教養科目の共通化と、それを踏まえて理念・目的を確定することである。

2) 実施状況 <D>

①前後2回の部会会議を経て、総合経営・人間健康両学部での検討結果を集約した共通教養科目案が示され、それに基づいて議論し、以下の結論を得た。

・科目区分名称 → 総合経営学部のみ、第2科目区分にある「科目群」の表記を削除し、第2

科目区分全体を示す欄に「科目群名」と記載する。なお、人間健康学部については、教育学部と同様に第2科目区分に「〇〇科目群」を付す。

- ・学部による科目区分の変更 → ヒューマンベシックスの「地域を考える科目群」及び「キャリア教育科目群」の2つについては、総合経営学部のみ設けず、当該科目群中の「地域課題研究」、「キャリア入門」の2科目を「大学で学ぶための基礎」へ配置変更する。
→ 「人間といのちを考える科目群」の名称については、総合経営学部も「こころと体の健康」を開講することとし、それを踏まえて名称を統一する方向で再検討する。
- ・留学生支援科目群の創設 → 「留学生支援科目群」を、総合経営学部及び人間健康学部共通に設置し、コモンベシックスに配置する。
- ・共通科目の単位数 → 単位数の異なる「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」については、総合経営学部のみ「基礎ゼミナール（1年通年4単位）」とし、共通化しない。
- ・カリキュラム表 → 学生に表示するカリキュラム表については、学部ごとに開講する教養科目を表記した一覧表とする。

②上記の決定事項を踏まえ、検討課題となっていた部分について各学部の教養科目カリキュラム表が示され、審議の結果、以下の結論を得た。

- ・カリキュラムについて → ヒューマンベシックスの「人間といのちを考える（科目群）」の名称を統一する。

【総合経営学部】

- ・『文学』については、名称変更を検討していたが『文学』のままとする。
- ・『地理学』と『芸術文化』については、「現代の日本社会を理解する（科目群）」の科目群に配置する。
- ・『日本国憲法』については、開講年次を1年後期から1年前期に、『情報処理Ⅴ（ホームページ）』を3年前期から1年後期とする。

【人間健康学部】

- ・『QOLと健康』については、専門科目に配置する。
- ・『情報処理Ⅱ（EXCEL初級）』を1年後期から1年前期、『キャリアデザインⅠ』を3年前期から2年後期に、『キャリアデザインⅡ』を3年後期から3年前期とする。
- ・間割の作成について → 今回承認された教養科目を基に共通教養科目の時間割作成作業を始めることとし、次年度の時間割作成については、3学部が共通して開講できる時間を確保するため、①共通科目、②非常勤科目、③兼担科目、④各学部の科目という優先順位で作成していく。9月には第1案を提示する。

③科目区分が保留となっていた2科目（「地域課題研究」、「地域企業特論」）について、前者は、総合経営学部の『現代の日本社会を理解する』科目群に配置する。また、後者については、原案どおり『現代の日本社会を理解する』科目群に配置する。

④平成29年度共通教養科目について、各学部の教養科目カリキュラム表における科目の並び順及び、その他の検討課題について最終確認がなされた。

⑤全学共通教養科目の理念・目的等について、各学部で確認し承認された。また、イメージ図については、全体的に承認され、本案を次年度の大学案内及び大学ホームページ等に掲載し

ていくことを確認し、全学教務委員会での審議を経て、広報担当者に掲載方法等を要望し、調整していくこととした。

3) 点検・評価結果 <C>

前述のように、今年度における本運営部会の活動は、年度当初の計画に示されたモジュール方式による教養科目の共通化と、それを踏まえて理念・目的を確定することに集中した。論議の課程では、総合経営・人間健康両学部の違いが前面に出る場面もあり、一致点を見出すことが困難な場面や事項もあったが、新設の教育学部のものを参考にしつつ議論を重ねたことによって、既述の結論を得ることができた。その意味で、今年度初期の目標を達成できたと評価できる。

4) 次年度に向けて <A>

次年度の優先課題は、昨年度、モジュール方式の採用を柱に改革され、不十分ながらも全学的に共通化が図られた教養教育の目標並びにカリキュラムについて、新たに始まる教育学部も含め円滑な運用、実施に努めることである。また、その過程で明らかになった問題点や課題について精査し、迅速な対応が必要なものについては適宜、そうでないものについては次年度に向けて整理し、その充実に資することも求められよう。

さらに、複雑なカリキュラムの調整、学部・学科間の調整などを担当する者の責任と権限を明確にすることにも取り組まねばならない。

<執筆担当者 共通教養センター運営部会長 等々力 賢治>

(6) キャリア教育センター運営部会

1) 当初の計画 <P>

今年度は、各学部のカリキュラム改革の動向やキャリア教育の現状を把握する必要があり、目立った活動を行わなかった。しかしながら、前年度、キャリア教育に資する科目の設定等、本運営部会が主体的に科目等の設定をすることが求められていた。そこで、今年度は、前年度のキャリア教育と就職活動支援の棲み分けに加えて、科目設定の前提となる本学のキャリア教育の明確化を検討することにした。

2) 実施状況 <D>

本学では、就職委員会中心に就職活動支援を行ってきたが、従来就職委員会で就職指導として実施されていたプログラムが、教育的側面を強くした単位認定科目として展開されるようになったことから、就職委員会の業務は、キャリア教育的側面と就職活動的側面の2面生を持つようになった。そこで、今年度は、就職委員会の活動をキャリア教育の視点から再整理するために、松商短期大学部で就職委員会からキャリア教育センター運営部会へ業務移管を行った。

3) 点検・評価 <C>

松商短期大学部での業務移管により、キャリア教育の面から、キャリア教育センター運営部会が主体的にキャリア教育と就職活動支援の棲み分けに係ることができるようになった。

4) 次年度に向けて <A>

次年度1年かけて、松商短期大学部のキャリア教育のあり方を検討するとともに、就職活動支援との棲み分け、さらにはより効率的な就職活動支援の提案と、より効果的なキャリア教育の展開を検討

する。

＜執筆担当／キャリアセンター運営部会長 糸井 重夫＞

（7）資格取得支援センター運営部会

資格取得支援センター運営部会は昨年度（平成 26 年度）より、全学教務委員会の下部組織として再編されており、その初年度で浮き彫りにされた課題を検討しつつ、全学教務委員会とも連携を取りながら事業を進めてきた。

1) 年度当初の予定 <P>

平成 26 年度の自己点検・評価報告書および平成 27 年度事業計画に記載されている本センター運営部会の計画は以下の 2 点である。

- ①奨励金制度の見直し
- ②公務員対策講座

2) 計画の実施・現状の説明 <D>

①奨励金の見直し

平成 27 年度より奨励金支給金額の新しい基準を設けており、その新制度で実施を始めた最初の年度であった。そのため、平成 27 年度の奨励金の支給金額をとりまとめるとともに、前年度までと比較して、支給金額全体の変化や変化の大きい資格などを注意深く確認し、次年度に向けた奨励金の見直しの方向を決定した。平成 28 年度からの新しい奨励金の資格や金額は、新年度の最初の部会にて審議した。

②公務員対策講座

a) 公務員対策講座の実施

前年度に検討し開講を予定していた公務員講座を計画通り実施した。平成 28 年度に実施した講座と新規受講者は以下の表のとおりである。

対象学年	講座	新規受講者
学部 4 年	実践演習講座（教養）	9 名
	実践演習講座（専門）	開講せず（H29 より）
学部 3 年	基礎講座（教養）	14 名
	基礎講座（専門）	11 名
学部 2 年	プレ基礎講座（教養）	38 名
	プレ基礎講座（専門）	12 名
学部 1 年	基礎力養成講座	62 名
短大 2 年	実践演習講座（教養）	5 名
短大 1 年	プレ基礎講座（教養）	37 名

b) 公務員講座オリエンテーションの実施

公務員講座の開講に先立ち、在学生へは後期試験中および在学生オリエンテーションの時間を利用して在学生説明会を計 7 回、また後期から開始希望の学生にも 5 回実施した。

（前期開始希望者）

1月30日(月)～2月3日(金)：5日間の計5回

3月22日(水)、23日(木)：2日間の計2回

(後期から開始希望者)

7月4日(月)～7月8日(金)：5日間の計5回

また、新入生に関しては、入学後の説明会を下記のとおり実施した。

5月9日(月)～13日(金)：5日間の計5回

c) 模擬試験の実施

公務員講座の受講者以外にも対象とした模擬試験を LEC の協力のもと、無料で実施した。

4月16日(土) 13:30～17:30

8月20日(土) 9:40～13:00

d) 合同会議(意見交換会)の実施

昨年度、計画されていた、本部会だけではなく、基礎教育センター、キャリアセンター、学部公務員対策講義担当教員、東京リーガルマインド(LEC)を含めた関係者での合同会議を3回開催し、現在の講座や学生の問題点等話し合い、次年度の講座の方針を決定した。

3) 点検・評価の結果 <C>

①奨励金の見直し

昨年度、曖昧だった奨励金の決定までのプロセスや方針を、本センター運営部会で決定し運営してきた結果、2資格4項目について見直しを行った。

②公務員対策講座

今年度は、受講者の中から合格者を輩出できたことが一連の成果として挙げられる。受験学年だけではなく、1年次からの積み上げ式で正課外の公務員対策講座を開講し2年目を迎えた。学年や科目によっては、受講者が予想よりも少なかったが、計画通りに講義は実施されており、今後、参加人数や出席率を始め、効果なども測定していきたい。

また、基礎教育センターやキャリアセンター、学部公務員対策講義担当者、東京リーガルマインド(LEC)の講師等の関係者が参加する連絡会議を開くことで、本学の学生にとっての問題点や今後の方針など、非常に内容の密な議論ができた。これを今後につなげていきたい。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

①奨励金の見直し

奨励金の実績を毎年確認しつつ、社会が求める資格の変化やカリキュラムの変更等による本学が身に付けさせたい知識やスキルに応じて、奨励金の見直しを継続して柔軟に対応していくこととする。

②公務員対策講座

今年度の実績を確認しながら、昨年度と同様な課題でもあるが、以下の点を考慮しながら、計画の見直しを状況に応じて柔軟に対応していき、次年度の計画を作成していくこととする。そのためにも、関係委員会や関係者が出席する合同の連絡会議を定期的で開催し、連携をとりながら、今後の講座へとつなげていくこととする。

- i. 公務員対策講座と、学部、学科等で開講している正課科目や基礎教育センターやキャリアセンターでの指導内容等の調整

- ii. 開講時間が多くなっていくため、正課授業との時間の調整
- iii. 開講科目の拡大による事務作業の増加への対応
- iv. 学生から徴収する受講料の適正化と全体的な財政の健全化への調整
- v. (とくに短大生の) 民間の就職活動と公務員受験との調整

<執筆担当/資格取得支援センター運営部会長 田邊 愛子>

(8) 基礎教育センター運営部会

平成28年度、基礎教育センターにおける業務は、教務委員会担当の等々力副学長、基礎教育センター運営部会長の福島(智)、及びセンター教員の福嶋(紀)、日野谷、田野口、丸山、センター事務職員の鈴木の計7名で担当した。

センター運営委員会は以上の7名に加え、各学科より1名ずつ選出された教員、及び丸山教務課長により構成され、今年度4回の運営委員会を開催した。

本センターの主たる任務は、センターにおける個別指導を中心とした「リメディアル教育」にくわえ、近年では学部学科の実情や要望に応えるべく、講義等における学生全体を対象とした基礎学力の底上げなど幅広い活動が求められ、対応してきている。このような事情も踏まえた上で、平成27年度の自己点検・評価報告書で指摘されているアクションプランに基づいて、PDCAサイクルに沿って点検・評価を行う。

1) 年間計画 <P>

前年度の基礎教育センター運営部会において確認されている、平成28年度に向けた課題(計画)は以下の通りである

- ①低学年段階での基礎学力作りへの取り組み
- ②公務員対策講座への関わり
- ③長期休業における課題の再検討(入学前学習用問題集含む)

2) 活動状況 <D>

①低学年段階での基礎学力作りへの取り組み

- ・引き続き、短大部1年生前期キャリアスタンダードⅠにおいて15回、及び後期のキャリアスタンダードⅡにおいて15回、基礎教育センターによる一般教養に関する内容の授業を行った。
- ・健康栄養学科からの要望に基づき、同学科1年「大学入門」において、「計算力と文章表現」(全3回)を実施した。
- ・スポーツ健康学科1・2年生において、基礎学習として「一般教養基礎問題」を実施した。また、スポーツ健康学科からの要望に基づき、同学科1年「大学入門」、2年「スポーツ科学入門」において、「基礎教養学習(英語・数学・国語・時事)」をそれぞれ8回、4回実施した。
- ・すべての学部・学科において、「入学前学習用問題集」「春期課題問題集」、及び「夏期課題問題集」を通して基礎学力の向上を図った。
- ・これまでと同様の取り組みとして、「朝の学習講座」、「基礎数学、SPI数学、時事問題、基礎英語、ことばの力」を朝9時から9時半まで継続して実施し、基礎学力向上への取り組みを行った。

②公務員試験対策講座への関わり(連絡会議を通して)

- ・今年度より LEC 公務員試験対策講座の「基礎力養成講座」の一部を日野谷、田野口、丸山が担当した。振り返りとして、担当教員の負担が大きいことが確認された。

③長期休業における課題の再検討

- ・長期休業における課題の内容、実施について各学科で検討した結果を運営会議で確認した。短大部、健康栄養学科においては来年度から実施せず、それ以外の学科については基本的に実施の方向となった。各学科の実情に合わせた内容への変更、解答方法をマークシートに変更することが確認された。

3) 活動に対する評価 <C>

①低学年段階での基礎学力作りへの取り組み

- ・昨年に引き続き、教員4名体制となったことにより個別相談・指導の質的・量的充実が図られた。
- ・短大部、健康栄養学科・スポーツ健康学科の1年次学生に対する基礎学力向上の取り組みが拡大し、センター教員の関わりが大きくなってきている。スポーツ健康学科2年次についても同様である。
- ・朝の学習講座に参加する学生が増加し、学生の間でも朝学習が浸透してきている。
- ・「地域社会と大学教育」での演習授業(30分)を引き続き実施した。

②公務員試験対策講座への関わり

- ・1年次に開設される「基礎力養成講座」の一部を、今年度はセンター教員が担当した。

③長期休業における課題の再検討

- ・各問題集の目的や内容、提出率等を踏まえ、長期休業中の課題について各学科で検討し、いくつかの改善点が挙げられた。実施となった学科では、来年度の実施状況をみて、引き続き検討する必要がある。

4) 次年度に向けた課題 <A>

基礎教育センター運営部会において確認されている次年度への課題は、以下の通りである。

- ① 基礎学力作りへの取り組みの定着と評価
- ② 公務員試験対策講座へのセンター教員の関わり方
- ③ 長期休業における課題の実施と再評価
 - ・各学部で実施している講義とどのように連携させるか

<執筆担当/基礎教育センター運営部会長 福島 智子>

2. 教育改善推進委員会

教育改善推進委員会は、教育企画推進部会とFD・SD運営部会からなり、研究科・学部・学科単位での教育の企画推進と教育改善および職員の業務改善のための活動を支援している。

(1) 教育企画推進部会

教育企画推進部会は、研究科・学部・学科を単位とした各々のカリキュラムポリシーの実現のために提案された教育的企画に対して、その妥当性を検討し、資金的な面からその実践を支援することを目的としている。

1) 当初の計画 <P>

各学科の取組は、総合経営学科が「『道の駅』と連携した経営創造教育、協働教育の推進」、観

光ホスピタリティ学科が「国内旅行業務取扱管理者試験・総合旅行業務取扱管理者試験・社会福祉士の資格取得強化」、健康栄養学科が「管理栄養士国家試験対策模試」、スポーツ健康学科は「講演会」および「ラジオ体操指導者講演会」、松商短期大学部が「オリジナルテキスト制作」および「アウトキャンパス・スタディにおけるバス代の補助」である。

2) 実施した活動の概要 <D>

a) 総合経営学科

総合経営学科の「『道の駅』と連携した経営創造教育、協働教育の推進」については旧中条村（長野市中条）地域の活性化に向けて、地域の特産物である西山大豆を使った商品開発を考案するために、西山大豆の種まきおよび収穫を行った。また、中条地域最大のおまつり「むしくらまつり」において、次の4つの企画を実現した。①学生考案の笹おやき新パッケージを披露し1000個販売、②塩釜港直送東北復興応援おでん200皿(600本)販売、③Dance Show Time in 道の駅「中条」(学生が企画したダンスイベント)の実施、④きのこ千人鍋の調理とふるまい。さらに、道の駅と大学連携成果発表交流会で2016年度の88プロジェクトの成果を発表し、他大学の学生と意見交換を行った。

b) 観光ホスピタリティ学科

観光ホスピタリティ学科は、国内旅行取扱、総合旅行取扱、社会福祉士の各資格取得に向けた受験用参考書籍を購入し対策講座を実施した。

c) 健康栄養学科

健康栄養学科は、平成28、29年度の本学の管理栄養士国家試験受験者(3・4年生)を対象に国家試験対策模擬試験を実施した。

d) スポーツ健康学科

スポーツ健康学科は、元NHKラジオ・テレビ体操指導者および現役テレビ体操アシスタントを講師として招きラジオ体操指導者講演会を実施し、本学科1・2年生全員および3・4年生資格取得希望者が参加した。

e) 松商短期大学部

松商短期大学部については、オリジナルテキストとして新たに2冊を制作、1冊の増刷を行った。また例年通り、アウトキャンパス・スタディを実施した。更に、当初の予算立てには無かったものの補正として学生(2年生220人)に貸与するiPad miniのソフトレザーカバーの買替えを行った。

3) 点検・評価 <C>

a) 総合経営学科

総合経営学科の取組については、平成27年度の「道の駅中条」との協定締結以来、国土交通省との連携を図りながら、今年度も「道の駅」との協働によるアウトキャンパス・スタディを行った。

b) 観光ホスピタリティ学科

観光ホスピタリティ学科の取組については、当学科の基幹資格となる3つの資格について合格率を高めるための対策講座の内容充実を図るものであった。年度当初の予定では、資格受験指導のプロを講師として招く予定もあったが叶わず、受験のための参考書籍の購入にとどまった。当

初の計画通りにトライアル的な実行から実績の充実を図り、2～3年の試行を経て定形化を見出したい。

c) 健康栄養学科

健康栄養学科の取組においては、国家試験に類似した模擬試験の実施により、客観的な指標である試験結果をもとに学修を進めていくことが可能となった。具体的には、模試の結果から、教員が学生の理解度を把握し、4年生対象科目である「総合栄養学演習Ⅲ・Ⅳ」の講義内容に反映させることで、学生の学修レベルに応じた講義を常時展開することが可能となった。また、学科会議において模試の結果を報告し、学科内で情報を共有しながら学生指導にあたることもできた。

d) スポーツ健康学科

スポーツ健康学科の取組については、日本の幅広い年齢層に定着しているラジオ体操について、その指導法を一流の講師陣が本学科の学生に教授、将来地域社会、学校等様々な場面において健康づくりに関わってゆくことが求められている学生達にとってラジオ体操の意義を再認識する良い機会となった。

e) 松商短期大学部

松商短期大学部の取組については、本学部の教育の柱の一つであるアウトキャンパス・スタディの実施を通して、教室での授業と実社会との往還による実学教育の充実が図られた。また、オリジナルテキストについては、学生にとってよりわかりやすい授業の実現のために必要不可欠な取組となってきている。iPad mini のソフトレザークバーの買い替えについては、学生配布の直前になって、その老朽化に気づき、やむを得ず補正での対応をお願いすることとなった。学生が気持ちよく使うためには必要な措置であったと同時に、それによって本学科の IT 教育にも良い効果が得られた。

4) 次年度の事業計画 <A>

a) 総合経営学科

総合経営学科は、「道の駅中条」を学びの場とした地域課題研究、継続性を考慮した経営学習ならびに販路の拡大、国土交通省が主導するインターンシップの実現などを盛り込んだ経営教育の推進を図る。

b) 観光ホスピタリティ学科

観光ホスピタリティ学科は、今年度に引き続き、国内旅行業務取扱管理者試験・総合旅行業務取扱管理者試験・社会福祉士の資格取得対策強化の観点から対策講座の内容を充実させていく。

c) 健康栄養学科

健康栄養学科においては、開学以来、管理栄養士国家試験合格率が全国平均を毎年下回り、全国の合格率ランキングでも下位に甘んじている。そこで、この状況を改善し、より多くの健康栄養学科の学生が管理栄養士国家試験に合格するために、次年度も全国模試の受験機会を確保し、その結果を合格のための指導に役立てていく。

d) スポーツ健康学科

スポーツ健康学科では、高校教育から大学教育へ移行していく上で導入部分を担っている重要な科目である「大学入門ゼミナール」において、学生と教員のコンタクト促進と能動的な学習手法、学習時間の確保の重要性等について実践をもって身につけていくための授業展

開を行う。その上で、効果的な教材を活用することで、教員の負担の軽減、学年における共通化を試みる。

e) 松商短期大学部

松商短期大学部は、昨年度に引き続き、オリジナルテキストの充実を図り、全専任教員による松商短大テキストのシリーズ化を試みる。これによって、授業改善が促進されていく。また、本学で実施される情報処理関係の検定試験の受験支援として、貸出用ノート型パソコンのソフトウェアの充実を図る。

＜執筆担当／教育企画推進部会長 山添 昌彦＞

(2) F D・S D 運営部会

1) 年度当初の計画 <P>

- ① 授業アンケート
- ② 授業参観
- ③ 卒業生等へのアンケート
- ④ FD・SD 研修会

2) 実施した活動の概要 <D>

① 授業アンケート

通常の 15 回の授業中、6～9 回目の授業において中間アンケート、および、およそ 13 回目授業以降に「授業についての学生アンケート（授業アンケート）」を実施するよう依頼した。中間アンケートはすべての授業での実施が依頼され、内容は自由であるが、平成 25 年度に作成された雛形を任意で使用するよう配布された。授業アンケートは、専任教員においては前後期各 2 科目程度、および、非常勤教員の全科目において実施した。アンケート項目は、今年度から学修到達目標の達成度についての質問も加えて 7 項目となり、それに伴って各授業で学修到達目標をしっかりと学生に伝えるよう依頼された。

アンケートのデータ集計後には、各授業担当者に「改善計画等」の記入を依頼した。同様に、各区分別集合データには学長、学部長、学科長、全学教務委員長などに「改善計画等」の記入を依頼した。以上の内容について点検および校正の後、「授業についての学生アンケート集計報告書～分かりやすい授業を目指して～」の松本大学版、および、松本大学松商短期大学部版を発行した。なお、改善計画等の依頼時には、後期の授業アンケート結果の集合データをもとに、区分別データの経年変化、履修人数別比較、および、区分別の比較などについて文書で報告した。それを参考データの一つとして、改善計画等について記入を依頼した。

今年度から、アンケート集計結果の各ページに、S～D までの 5 段階評価の人数と割合、および平均 GPA 数値を追加表示した。また、授業アンケートデータ読み取りシステムが導入されるのに伴って、改善計画等の記入が WEB を通して行われるようになった。次年度からは、授業外学習についての質問の時間設定をそれぞれ 2 倍にし、最大で 2 時間以上、最低で 30 分未満とすることを決定した。

② 授業参観

半期中に約 2 週間の実施期間であった前年と異なり、今年度は、授業全期間を対象として授業

参観への参加を促した。なお、参加率を高めるために、学部長からも参加を促進する発言をしてもらうとともに、およそ9～10回目の授業の頃にはキャンペーン期間としてメールで案内した。

前期においては全専任教員71人（4名の嘱託専任教員を含む）中、46名から「授業参観アンケート用紙」が提出され、参加率は64.8%であった。後期においては、42名から提出があり、参加率は59.2%であった。

③卒業生等へのアンケート

前年度（平成27年度）実施のアンケート結果をもとに、各部署でFD・SD活動を行うよう依頼した。それにより、一部の部署で、教育活動や学校運営業務の改善についてディスカッションが実施された。

また、各学部の「卒業生アンケート」および松商短期大学の「在学生アンケート」について、一部質問項目を見直し、後期末のオリエンテーションで実施した。集計し、個人名の秘匿などチェックの後、自己点検・評価報告書に掲載される。また、個人名で指摘があった場合には、該当者に学長から返却した。

④FD・SD研修会

9月12日（月）に「大学におけるアクティブ・ラーニング」と題したFD・SD研修会を開催した。講師は早稲田大学教育・総合科学学術院の三尾忠夫氏であった。参加者は、専任教員39人、職員12人であった。

3月21日（火）に「Webシラバス・システムによる『学修成果』の可視化」と題したFD・SD研修会を開催した。講師は富山短期大学経営情報学科の坂井一貴氏であった。参加者は、専任教員29人、職員5人、外来者16人であった。

各部署でのFD・SD活動は、スポーツ健康学科で1回、松商短大部で6回、事務局で2回実施された。

外部でのFD・SD研修にも参加した。5月20日（金）に教育ソフトウェア主催「FD学習会2016」、8月29日（月）～30日（火）に「第6回大学コンソーシアム八王子FD・SDフォーラム」、8月29日（月）に諏訪東京理科大学でのSD研修、11月5日（土）～6日（日）に大学人サミット、12月から1月にかけて防災管理者資格取得講習などに参加した。また、十文字学園女子大学や共愛学園前橋国際大学と連携協定が結ばれ、2月22日（水）には共愛学園前橋国際大学におけるFD・SD研修会に参加した。

⑤その他

新人研修を実施するよう、新任者のいる学部長および事務局長に依頼した。

3) 点検・評価の結果 <C>

①授業アンケート

例年通り実施するとともに、いくつかの改善を目指して検討を行ってきた。今年度から学内にデータ読み取りシステムを採用し、作業の効率化・迅速化が図られたが、初年度ということもあって実際には早くなっていない。一方、生データへのアクセスができるようになり、データの分析が容易になった。これまで「学生の積極性」と「教員の熱意」の関係性についてデータを示しているが、その他の関係性についても誰でも自由に分析できる状態になった。また、今年度から学修到達目標の達成度について質問することになり、次年度から授業外学習の質問の設定時間を

変更することになった。それらデータの蓄積によって、効果的な教育手段のヒントが見つかるかもしれない。

②授業参観

参加率は前後期それぞれ、64.8%および59.2%であった。昨年度は、それぞれ67.6%および43.8%であったので、やや改善したとも言える。

一方、当運営部会でも議論したが、そもそも授業参観が授業改善にふさわしい形式なのかどうか問題でもある。「授業のウデを上げるためには授業見学が有効」という考えのもと授業参観を実施している。しかしながら、現在のルールでは授業の参観者が実施者に対してフィードバックを義務づけておらず、それでは意味がないという意見もある。一方、フィードバックをルール化すると授業参観参加率が下がるのではないかという懸念もある。そもそも、授業参観という方法以外でも授業改善はできるはずなので、どういった方法が授業改善として有効なのか、検討してもいいのではないか。そこで、来年度は現行通り授業参観を実施しつつ、今後どうしていくか学部あるいは学科単位で検討するよう依頼したところである。

③卒業生等へのアンケート

昨年同様、結果のとりまとめだけでなく、それについての議論の実施を目指した。しかしながら、議論は一部でしか行われなかった。学生の意見をもとにした改善への意識をもっと高めるよう仕向ける必要があるだろう。

④FD・SD研修会

研修会は、昨年度のアンケートの回答にアクティブ・ラーニングについての要望がいくつかあったため、9月にはそれについて実施した。講師の選定が難しかったため、授業アンケートの取りまとめでもお世話になっている株式会社教育ソフトウェアの助けを得ることで実施できた。

一方、部署ごとのFD・SD活動を活発化することとし、部会の会議ごとに書面に残していくことになったものの、それほど活発に実施されなかったようである。教育や学校運営の改善のためにも、教授会や職員会議という多くの人が集まるタイミングを利用して実施するよう呼びかけていくべきなのかもしれない。

⑤その他

今年度から新人研修を実施するよう、各学部長や事務局長に依頼した。今後も継続していければと考える。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

次年度に向けては次の項目について改善・改革を検討していく。

①授業アンケート

例年通り実施するとともに、データ分析などを促進する。

②授業改善活動

従来通りの授業参観を継続しつつ、より良い授業改善の手法について議論する。

③卒業生等へのアンケート

貴重なアンケートデータについて吟味し、教育および学校運営の改善につながるようにする。

④FD・SD活動

教職員のレベルアップのために必要な研修会について検討する。また、部署ごとでのFD・

SD活動を活発化する。

⑤新人研修

＜執筆担当／FD・SD運営部会長 川島 均＞

3. 教職センター運営委員会

昨年度から、行われている教職センター内の主要な活動における会議の議事進行役を分担することでより内容の充実を図った。分担した活動は、教育実習連絡会議関係、小学校2種免許状取得支援プログラム会議、教員採用受験指導センター運営部会及びその他であった。

＜今年度の到達目標＞

年度当初の目標を検討し次の項目が到達目標としてあげられた。

- 1) 教員採用試験の合格を目指し、センターでの活動を具体化する。
- 2) 「教員免許状更新講習」の速やかな実施を目指す。
- 3) 教職課程カリキュラムの充実のために、組織および内容を充実させる。
- 4) 教職センターの業務内容のシステム化とその共有化を目指す。

＜作成時点での視点＞

平成28年度においては、前年度に引き続き、到達目標と関連する主要な活動における会議の議事進行役を分担し、それぞれの目標の具体化をめざした。分担は、教育実習連絡会議関係を小松教授、小学校2種免許状取得支援プログラム会議を征矢野教授、教員採用受験指導センター運営部会を藤枝准教授、その他を川島が担当した。

内容として行われたことは、1) 教員採用試験の合格を目指し、センターでの活動を具体化すること。特に、春季休業中から教員採用試験に向けて、受験生の動機づけを高め、実力をつけるための方策を考えてゆくこと。教員採用二次試験対策のための個人面接及び模擬授業が行われた。2) 教員免許状更新講習については、2年目となった本年度は、文科省からの指示に基づき新教員免許更新講習として必修科目を2つに分けて実施することが計画された。また、教員免許更新講習に関連する事務手続きについても速やかな実施を目指して変更を行う。3) 教育学部の設立と平行して教職課程カリキュラムを充実するために、教職センターにおける授業内容の充実を行う。3) 本年度から変更した授業担当と時間割の変更に伴うカリキュラム全体を把握しやすくするために、授業科目のナンバリングなどを改善してゆく。4) 教職センターの業務内容および共通の授業資料のシステム化と共有化を行い、シラバスの点検などを含む業務内容の明確化及びRidocを活用することであった。

○教員採用試験の合格を目指し、センターでの活動を具体化する。

1) 目標 <P>

教員採用試験の合格を目指し、センターでの活動を具体化する。特に、春季休業中から教員採用試験に向けて、受験生の動機づけを高め、実力をつけるための方策を考えてゆく。

2) 目標への成果・実績 <D>

「教員採用受験指導センター運営部会」においては、教員採用試験の合格を目指し、センターでの活動を具体化すること。特に、春季休業中から教員採用試験に向けて、受験生の動機づけを高め、

実力をつけるための方策を考えた。その成果として、過年度生、6名の合格と現役での公立学校教員採用試験の補欠者を出すことができた。活動内容は、昨年度と同様に、①教員採用一次試験のために集団面接を開催、②教員採用一次試験体育実技対策講座の開催、③教員採用二次試験対策のための個人面接及び模擬授業(事例対応)練習を開催、④「梓友会」の開催と並行して在学生および教員採用試験を受験する卒業生のために教員採用試験受験に向けて外部講師による講座を開催、⑤年度当初に、受験への動機付けを高めるために教員採用試験対策公開模試の日程掲示を行った。この流れの強化を目指し、来年度からの教育学部との連携の中で、より、広範囲での教員免許の取得の可能性と共に、現在、明星大学との連携による小学校免許取得希望者についても、持続して指導を行っている。また、学習室での当センター教員を日常的に配置して指導を強めるなど、具体的施策に取り組む。

3) 成果・実績の点検・評価 <C>

教員採用試験の受験指導の各項目の充実が図られたことは評価できる。昨年度と同様に、当教育センターの教職経験者を中心に行われた面接及び面接練習は効果が見られた。学生に対する教職課程履修に関する相談支援活動は、教員を主たる進路とする学生向けに、丁寧に行われたことは今後の可能性へと続くものである。

4) 次年度への改善事項及び課題 <A>

各項目での充実した活動が行われた。昨年度と同様に当教育センターの教職経験者を中心に行われた教員採用一次試験のために集団面接、および教員採用一次試験体育実技対策講座、さらに教員採用二次試験対策のための個人面接及び模擬授業(事例対応)練習は、今後も、教職センターの教員を中心に、他の学外の教員をも含めて継続して行われることが望まれる。これらの活動は、来年度の教育学部における指導にも続くものとなるであろう。

○「教員免許状更新講習」の速やかな実施を目指す。

1) 目標 <P>

「教員免許状更新講習」を速やかな実施を目指し準備をしてゆく。

2) 目標への成果・実績 <D>

2年目となった松本大学教員免許状更新講習が開催した。松本大学での教員免許更新講習は必修講習(1講習)受講者145名、選択必修講習(5講習)受講者134名、選択講習(18講習)受講者323名を開講し、述べ602名が受講した。事後アンケートにおいても好評を得た。昨年と同様に5月から11月の期間において、全更新講習が順調に開講できた。事務職員を中心とした教職センターの構成員の努力により運営のみならず講習の経営にも順調な成果をあげることができた。

3) 成果・実績の点検・評価 <C>

講座終了後の評価は、全般を通しておおむね好評であった。委員会における反省において必修講習および選択講習の選択の段階で、内容が教員免許状更新講習にふさわしいものであるかどうかの検討が行われたことは評価できる。受講後に講習生の受講資格について問題が生じ解決に迫られた。本来ならば来年度、受講すべきところを受講してしまった受講生がいた。受講の資格は、受講生の学校管理者が確認し押印することで受講資格が生ずるのであるが、そのチェックと本学での事務上のチェックが甘かったということになった。

終了後の委員会において反省として提出された栄養教諭向けや幼稚園教諭向けの講習を増やしてほしいという受講生からの要望は、今後検討する事となった。

4) 次年度への改善事項及び課題 <A>

本年度から必修講習(2日間)について変更があり、1日目は全受講者が受講する必修領域、2日目は複数の講習を開講し少人数での選択必修が実施されたが、受講生の申し込みが多く、定員を大幅に上回った。来年度は、必修領域2講習、選択必修領域10講習、選択領域20講習が開講される予定で準備が進められている。また、来年度についてはより多くの学内の教員に参加してもらえるように働きかける必要がある。

○教職課程カリキュラムの充実のために、組織および内容の整備を行う。

1) 目標 <P>

教職課程カリキュラムの充実のために、組織及び内容を充実させる。カリキュラム全体を把握しやすくするために、授業科目のナンバリングなどを改善してゆく。

2) 目標への成果・実績 <D>

①教職科目担当教員増加により、集中講義が減り、通常の時間割の中に組み込むことで長期休業期間中の学生の活動の幅が広がった。②昨年度と同様に、複数回にわたり学年ごとに教職課程カリキュラムガイダンスおよび説明会を実施した。③2年生に対し、教育実習を準備するにあたって教職科目の履修について意思確認のオリエンテーションを継続した。④授業科目のナンバリングについては、教職センター以外の科目との関連において整合性が保ちにくいことから実現しなかった。

3) 成果・実績の点検・評価 <C>

教職関係授業の改定により長期休業期間中の学生の活動の幅が広がったことは評価できる。授業科目のナンバリングについては、教職センター以外の科目との関連において整合性が保ちにくいことから実現が難しかった。昨年度と同様にカリキュラム全体を把握しやすくするために複数回にわたり学年ごとに教職課程カリキュラムガイダンスおよび説明会を実施する過程で、項目の分類が行われた。さらに、実習および来年度から始まるインターンシップにむけての検討が必要であろう。

4) 次年度への改善事項及び課題 <A>

学生のカリキュラム全体を把握し易くするために複数回にわたり学年ごとに教職課程カリキュラムガイダンスおよび説明会の実施は継続して行われることが望ましい。2年生に対し、教育実習を準備するにあたって教職科目の履修について、それまでの成績のGPAを基準とした、学習の進捗をチェックし、教職センター教員による綿密な面接等を通しての指導が計画されている。

○教職センターの業務内容のよりいっそうのシステム化とセンター員間の情報の共有化を目指す。

1) 目標 <P>

教職センターの業務内容のシステム化と共有化を行う。そのために、教職センター専任教員以外のシラバスの点検などを含む業務内容の明確化及びRidocを活用した業務内容と書類の共有化を行ってゆく。

2) 目標への成果・実績 <D>

教職専門科目以外の、シラバスの点検などを含む業務内容については、教員の増加によって、負担

が減少した。Ridoc を活用した業務内容と書類の共有化を行ってゆくことについては、年度末において見ると一応は達成されており、共通化の効果はあったと言える。

3) 成果・実績の点検・評価 <C>

教職センター内での Ridoc の使用は、頻繁ではなかったが、実習関係の書類を中心に、共有すべき書類はアップロードされている状況にあることは評価できる。実際の運用としてアップロードされた書類を有効に活用することについては、どのくらい活用されているかは明らかではない。会議書類については会議の場面でプリントアウトされたものが配布されることから、必要性に欠けているのかもしれない。

4) 次年度への改善事項及び課題 <A>

業務内容のシステム化として教職センター内での Ridoc の利用は頻繁ではなかったが、実習関係の書類を中心に、共有すべき書類をアップロードすることは継続されることが望ましい。昨年度課題であったアップロードされた書類をどのように有効活用するかについては、今後の課題である。

<執筆担当/教職センター運営委員会 委員長 川島 一夫>

4. 図書館運営委員会

1) 年度当初の計画 <P>

(1) 教育における図書館の機能を果たす

本学の図書館において、最優先させるべきことは教育機関としての図書館の機能である。そのため、図書館の認知度をさらに高め、学習や教育で活用される図書館にしていく必要がある。

今年度から課題支援のための活動を始めたが、今後は対象の科目や支援内容を一層充実させていく。そのためには、利用者のニーズを把握し、蔵書の質を高めていくことが求められる。レファレンスサービスの充実も求められよう。

学習・教育に役立つ図書館ではあるが、そのためには主たる利用者である学生が気軽に利用できる環境でなければならない。そのためには、直接学習・教育につながらない場合でも刺激を与え楽しさを感じられる居心地のよい場とする配慮も求められる。

(2) デジタルネイティブ世代を意識した活動をする

学生の大半がデジタルネイティブ(生まれたときからパソコンやインターネットなどの情報通信が整った環境にある)となった。従来の図書館サービスや広報では図書館からの情報が伝わりにくくなっているのではないかと。ツイッター等のソーシャルメディアの活用をもっと積極的に行う必要がある。

また、この世代は、情報機器の操作には優れているが、情報の収集や活用については充分ではない。情報の切り取りには優れているが、体系的な理解には難がある。情報リテラシーの涵養を積極的に働きかけて、大学での学習や卒業してからも通用する学力・知力をつける基盤づくりに役立てたい。具体的には、図書館の利用方法、情報検索、データベースの利用、読書力の育成、等である。これらは、教員との連携が不可欠である。また、各学部・学科・ゼミにおけるオリエンテーションの充実やデータベース講習会の頻度をあげるなどの施策も必要だろう。

(3) 次の項目は、2016 年度で実現するのは難しいが、今後に向けて計画を進めていけるとよい

- a) 学生図書委員の創設、育成
- b) 機関リポジトリの収録範囲の拡大
- c) 留学生への図書館サービス

2) 利用統計及び点検評価 <D・C>

【利用統計】2016（平成28）年度

図書(雑誌)貸出数・AV資料閲覧点数（図書：冊、AV資料：点）

	所 属	貸出数	合 計	AV 閲覧	合 計
短大	商学科	681(4)	1,356(5)	375	655
	経営情報学科	675(1)		280	
総合経営	総合経営学科	1,182(24)	2,117(51)	260	731
	観光ホスピタリティ学科	935(27)		471	
人間健康	健康栄養学科	2,150(62)	3,155(112)	225	1,111
	スポーツ健康学科	1,005(50)		886	
	健康科学研究科	326(30)	326(30)	0	0
	教職員	1,115(124)	1,115(124)	2	2
計		8,069(322)	8,069(322)	2,499	2,499

学生1人あたり貸出数

年 度	学生数 5/1 現(人)	貸 出 数 (冊)	1 人当り貸出数 (冊)
26 年度	1,927	8,599	4.46
27 年度	1,888	7,408	3.92
28 年度	1,952	6,954	3.56

入館者数（延べ人数） (人)

	26 年度	27 年度	28 年度
館内利用者	90,794	88,348	80,286
学 外 者	153	268	797

(1) 教育における図書館の機能を果たす

○課題支援のため、対象の科目や支援内容を一層充実させていく。

- ・今年度からシラバス冊子体が廃止され電子版のみになった。これを受けて、シラバスを印刷したものを用意し閲覧できるようにした。
- ・図書館入門の授業で館内探検クイズを実施
- ・2017年度開設の教育学部関連資料の収集・受入
- ・ゼミ課題に合わせた展示（7月選挙特集）
- ・利用者のニーズを把握するため、受入時のコードを細分化（リクエスト、シラバス、学科選定など）。統計結果から傾向を把握し、今後の選書に活かすようにする。
- ・卒論貸出の受付期間が限定されていたのを廃止し、通年で受付可能とした。貸出期間は無期

限であったものを1ヶ月（延長含め最大2ヶ月）にした。必要な資料が、いつでも、必要な人に貸出できるように改善した。

- ・レポート・論文の書き方講座開催。好評であったため継続して行いたい。
- ・授業における図書館利用は今年度は4件（情報サービス演習、情報サービス演習Ⅱ、図書館入門、八木ゼミ）。教員への働きかけを強化する。

○レファレンスサービスを充実させる。

- ・レファレンス件数が前年比441%と増加した。一方で、ILL（Inter Library Loan: : 図書館間貸出）利用率は前年比51%と減少した。利用指導や所蔵調査など簡単な質疑が増えたことから、気軽にカウンターへ相談できる体制が整いつつあると考えられる。本来のレファレンス機能である事項調査やILLの利用減少については検証が必要であるが、サービスの周知やスタッフのレファレンス技能の向上に努める。利用指導や所蔵調査は利用者自身で行えることが望ましいため、情報リテラシーを強化したい。
- ・リクエスト件数が前年比330%に増加した。図書館に対する期待の発現とも取れるが、図書館の蔵書と利用者ニーズが合致していない懸念もある。今後検証が必要である。いずれの場合も、図書館を積極的に利用しようとする姿勢が感じられる。

○学生が気軽に利用できる環境づくりを進める。

- ・iPadの館内貸出を開始。初年度の利用件数は5件と低調であった。有効活用してもらえよう利用者へ働きかけをしていく。
- ・グループ学習室の環境改善としてエアコンを設置。
- ・投書箱をリニューアル（ご意見箱と改称）し、定期的な回収を開始。利用者からの意見を広く取り入れるようにした。
- ・排架場所の見直しを行い、資料を再排架した。これにより、同じ主題の資料がまとまり、資料が見つけやすくなった。
- ・11月の読書月間で脱出ゲームを開催した。図書館をあまり利用しない学生のきっかけになること、また図書館の一部だけでなく全体を知ってもらうことを目的とした。参加者24名、脱出者2名。周知不足と難易度が少々高かった点が数値に表れているが、学生からの評判は良く今後も継続していきたい。
- ・姜尚中氏講演会および図書館公開講座、イベントに絡めた企画等を行い、図書館への足を運ぶきっかけ作りとともに地域開放を進めた。
- ・昨年同様、学生による学生のための選書として、司書講座内でのビブリオバトルに登場した本や、司書課程受講生による新入生にオススメの本の紹介を行った。
- ・グループ学習室の稼働率が前年比59%と減少した。個人利用のイメージが強い図書館の新たな利用方法の周知を今後の課題としたい。

○その他

- ・学外者への生涯学習支援として図書館を開放している。松本大学図書館ゲストカードの発行を開始。初年度は申請8名。
- ・選書方法を見直し、見計らいに加え新刊案内書からの選書を開始した。
- ・館内整備（郷土資料、児童書の請求番号、排架コードの修正）

- ・書庫の環境整備として換気扇始動。
- ・新書書架の段数増設

(2) デジタルネイティブ世代を意識した活動をする

- ソーシャルメディアの活用をもっと積極的に行う。
 - ・着手できなかった。今後の課題とする。
- 情報リテラシーの涵養を積極的に働きかける。
 - ・情報館、OPAC のバージョンアップを行い、個人ページ機能のサービスを開始した。利用状況確認、貸出延長、予約が Web 上で可能となった。
 - ・新規データベース導入のトライアル実施（メディカルオンライン）
- 各学部・学科・ゼミにおけるオリエンテーションを充実させる。
 - ・新入生オリエンテーション、図書館ツアー（総経1年、観光1年、図書情報資源概論）、ゼミツアー（スポーツ江原ゼミ、栄養1年大学入門）、短大各期オリエンテーション（各学年）、在学生オリエンテーション（各学科各学年）を開催。例年通りの開催にとどまった。
- データベース講習会の頻度をあげる。
 - ・ジャパンナレッジ講習会実施（図書館入門）
 - ・文献探索法の講習会開催（山田先生バイオメディカル文章理解講義内）

(3) 次の項目は、2016年度で実現するのは難しいが、今後に向けて計画を進めていけるとよい

- a) 学生図書委員の創設、育成、b) 機関リポジトリの収録範囲の拡大、c) 留学生への図書館サービスについては、さらに今後の長期的課題として扱って行く。

3) 2017年度の計画 <A>

2016年度より、業務の全面的委託を開始した。2年目以降、業務充実を目指して、2017年度は以下のことを目標として遂行したい。

- 図書館サービスの充実と利用の拡大
 - ・入館者・貸出冊数・レファレンス件数の拡大
 - ・オリエンテーション、利用教育、授業対応等の充実
 - ・論文レポート講座、講演会、データベース講座等の開催
 - ・ILL、各種機器等、利用案内の周知徹底
 - ・各種情報発信、企画展示等の継続的開催
- 図書館の基盤整備の促進
 - ・選書、蔵書、排架の質の向上
 - ・教育、研究への支援体制の向上
 - ・過ごしやすい図書館環境の向上
 - ・ホスピタリティも含めた職員の資質向上

<執筆担当/図書館運営委員会 委員長 伊東 直登>

5. 情報センター運営委員会

1) 年度当初の予定 <P>

情報センターでは、通常業務として「研究・教育の支援（パソコン教室（ハード・ソフト）整備、

コンピュータ関連科目整備、学生向けオリエンテーション実施、学生アシスタント手配、資格管理)」、
「情報機器の維持・管理(教職員パソコン、貸出ノートパソコン等、ネットワーク、サーバー類等)」、
および学内外に対して「講習会の実施」等を行っている。その中でも、平成 28 年度当初に計画され
た情報センターの新規事業は以下のとおりである。

- ① 学術研究・教育の支援 (新規・単発事業)
 - (a) メソフィアカスタマイズ (在籍管理等)
 - (b) 会議システムサーバーカスタマイズ (Smart Discussion)
 - ② 情報機器の維持・管理 (新規・単発事業)
 - (a) 学内ネットワーク機器・システムメンテナンス (ヘルプデスク)
 - (b) 基幹系ネットワーク機器 新規導入
 - (c) TV 会議用ファイアーウォール 新規導入
 - (d) データセンター内ファイアーウォールサーバー 新規導入
- リスク管理対策 (PFU iNetsec Smart Finder) 導入

2) 計画の実施・現状の説明 <D>

多くの通常事業および新規事業は、計画通り実施された。当初予算より変更されたもの等につい
て、以下に記述しておく。

- ・データセンターネットワーク回線使用料 (増)
- ・リース返却機器の引き取り手数料 (増)
- ・入試広報用シムカード年間契約 (増)
- ・2 号館サーバーラック内機器の老朽化のための入れ替え (増)
- ・データセンターへのサーバー移行費用・移行に伴うメソフィアの設定変更費用 (減)
- ・データセンターへのサーバー移行費用・移行に伴う会計システム他設定変更費用 (減)
- ・ICT ソフト Glexa のサーバーホスティング (増)

3) 点検・評価の結果 <C>

平成 28 年度は、委員長と情報センターの職員や一部の教員とで相談・議論をしながら、委員
会を開催すること無く様々な事項を決定してきた。本委員会では、毎年と同様の通常事業が多く、
ほとんどの事業に関してはこのやり方で問題ないかと思うが、学部・学科の違い等によって様々
な事情や考え方の違いもあるため、定期的に委員会を開催し、議論を深めながら、業務を遂行し
ていく必要があると考えられる。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

平成 29 年度は、通常業務に加えて以下の新規事業を予定しており、予算申請を行っている。ただ
し、情報機器の変化は激しく、学生や教職員から求められるものも、立場の違いによって様々であ
る。そのため、いずれの事業においても委員会を開催し検討しながら慎重に決定していきたい。ま
た、今年度から教育学部が新設され、新たな校舎や設備も増えている。これまでにない研究・教育
に対する支援や新たな情報機器の購入やメンテナンスなども新たに考慮する必要があると考えられ
る。限られた予算内で、学生の満足度を上げることができるよう今まで以上に慎重な議論を重ね
ていきたい。

- ①学術研究・教育の支援（新規・単発事業）
 - (a) データセンターへのサーバーの移行（継続）
 - (b) 教職員使用デスクトップPC 導入（新任含む）
 - (c) 会議システムの入替え
 - (d) 教員業績管理システム導入
- ②情報機器の維持・管理（新規・単発事業）
 - (a) 各階フロア設置パソコン入れ替え
 - (b) 貸出用ノートパソコンの入れ替え
 - (c) 学内ネットワーク機器システムメンテナンス（ヘルプデスク）
 - (d) 1号館ネットワークアクセスポイント構築
 - (e) 2号館サーバー室ラック内機器の老朽化のための入れ替え
 - (f) 3号館ネットワーク配線老朽化のための入れ替え
 - (g) メソフィアカスタマイズ（継続）
 - (h) 無線 LAN 脆弱箇所改修
 - (i) サーバー内ファイルアクセス権限管理ソフト導入

＜執筆担当／情報センター運営委員会 委員長 浜崎 央＞

6. 国際交流センター運営委員会

1) 計画 <P>

現在、本学のグローバル戦略は、学内のグローバル化の推進と、多様な留学先の確保が中心となっている。したがって、前年度の計画でも、「①協定校との関係強化：「短期日本語プログラム」の実施と充実等」、「②海外研修先の整備」、「③通常業務の充実」の3つが挙げられていた。平成28年度も、基本的には上記の3つの目標を計画の柱に据えた。

2) 活動内容 <D>

2-① 協定校との関係強化：「短期日本語プログラム」の実施と充実等

本年度も夏と冬に「短期日本語プログラム（15日間）」を実施した。夏のプログラムには、協定校である中国の嶺南師範学院から2名、連携校であるニューヨーク市立大学ラガーディア校から4名の計6名が参加した。冬のプログラムには、嶺南師範学院から2名、オーストラリアのニューカッスル大学から2名、ニューヨーク市立大学から1名の計5名が参加した。残念ながら今年度は大韓民国の東新大学からの参加者はいなかったが、アメリカ合衆国やオーストラリアからも参加者があり、徐々にではあるが多様化してきている。

協定校側でも様々な短期プログラムを実施し、夏休みには、湘北短期大学と共催のニューカッスル大学語学研修に13名（内短大生3名）、アメリカ合衆国のノートルダム大学語学研修に4名（短大部）、嶺南師範学院のサマーキャンプに1名（短大部）、大韓民国の済州大学のサマーキャンプに1名（短大部）、東新大学の9月の語学コースに1名（短大部）参加し、冬には、アメリカ合衆国のメルビル大学の語学コースに1名（人間健康学部）、イギリスのリージェンツ大学の語学コースに1名（人間健康学部）、カナダ・TRU（トンプソン・リバーズ大学）のプログラムに1名（短

大部) が参加した。その結果、平成 28 年度に単位認定科目「海外研修」の現地研修で派遣された学生は 23 名であった。

さらに、協定校である嶺南師範学院から 3 名、東新大学から 4 名の計 7 名の学生を交換留学生(科目等履修生)として受け入れた。また、本学からは、協定校である済州大学に人間健康学部の学生 2 名が 1 年間、交換留学生として派遣された。

他方、教員交流では、短期大学部の科目である「海外事情 I」で東新大学の柳在淵先生が集中講義を行った。また、短大部と嶺南師範学院の覚書に基づき、山添教授と糸井が嶺南師範学院で集中講義を行った。山添教授が 3 月に「簿記」「会計学」の授業、糸井が 9 月に「世界経済論」と「貿易商務論」の授業を担当した。

2-②海外研修先の整備

今年度は、イギリスのリージェンツ大学、カナダの TRU で各 1 名の学生が短期研修を行い、2 校との連携を強化することができた。また、夏休みにはオーストラリアのニューカッスル大学の語学担当や留学担当者と意見交換を行い、本学の冬のプログラムに同大学からの参加者を受け入れることができた。さらに、台湾の高雄市教育長の紹介による義守大学と協定締結に向けた交渉を開始するととなり、平成 29 年度中の協定締結に向けて準備することとなった。このように、今年度は海外研修先を着実に広げる年となった。

2-③通常業務の充実

国際交流事業で学生を海外に派遣する場合、また海外の学生を受け入れる場合、渡航費用等、学生の経済的な負担は大きくなる。経済的な理由で留学をあきらめてしまう学生も多い。そこで、経済的な面からの支援体制の整備が求められるが、本学では、政府等の公的補助金を活用した支援、地域企業等の民間の支援金を活用した支援、同窓会等の本学が関係する団体からの支援、そして本学自身の支援、の 4 種類に対応した取り組みを本年度も行った。

今年度の政府の補助金申請としては、学生支援機構の「海外留学支援制度(タイプ B)(短期研修・研究型)」に、「日本語プログラム」のテーマで申請した。内容は、2 年前に補欠で採択された申請書を参考に申請したが、採択率が 2 割程度ということもあり採択には至らなかった。地域企業等、民間からの留学支援については、村瀬組からの支援金を得ることができ、海外留学支援に特化した企業支援制度の創設に向けて検討を開始することになった。一昨年創設された同窓会支援金については、今年度も継続され、20 名を超える学生に給付された。さらに、平成 29 年度からの 4 学期制移行に伴って海外留学や長期インターンシップの実施を促進させるが、第 3 学期や第 4 学期を活用して海外の大学等に留学する学生に対する支援を充実させるため、海外留学時の学費相当額を支援するなど、入試改革を含めた経済支援制度の創設に向けた議論を開始することになった。

その他の活動としては、スピーチコンテストへの参加や本学訪問団への対応、留学生の生活環境の改善、「フィールド・トリップ」等の留学生支援、海外研修の事務手続きや引率業務等、本学学生の支援活動を行った。特に、留学生の生活環境の改善に関しては、総務課の協力の下、10 部屋の個室と共用キッチンからなる国際寮を確保することができた。このような今年度の活動の詳細については、アニュアルレポートを参照されたい。

3) 点検と評価 ・次年度に向けて<C・A>

上記のように、一定の評価も可能であるが、本年度は課題が表面化した年でもあった。まず、上

記「2-①」に関連して、「短期日本語プログラム」の語学レベルの問題がある。欧米の学生とアジアの学生では、前者が日本語検定3級以下なのに対して後者が2級以上であり、一つのプログラムで参加者全員の満足度を高めることが難しい。そこで、夏と冬のプログラムの差別化を図るなどの対応が次年度の課題となる。また、上記「2-②」に関連して、海外研修先が増加するのに伴って、事前・事後学修を要しない、現地のプログラムだけで単位認定と評価が可能な仕組みの構築が求められる。これも今後の課題である。さらに、上記「2-③」に関連して、補助金申請等、外部の支援金確保とともに、学内の支援制度や仕組みの構築も重要な課題として残っている。

＜執筆担当／国際交流センター運営委員会 委員長 糸井 重夫＞

7. 地域健康支援ステーション運営委員会

文部科学省平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」大学教育推進プログラム【テーマA】「食の課題解決に向けた質の高い学士の育成～地域の食に関する課題解決への意欲と実践的能力を有する食の専門家の育成～」の採択を受け、人間健康学部健康栄養学科内に設置され平成22年4月から本格的に活動を開始した。文部科学省の財政支援が切れた後の平成24年度からは本学の特徴ある取り組みとして継続された。平成25年9月に文部科学省COC事業の採択を受け、健康運動指導士を専任スタッフとして配置したことから、栄養と運動の両面から地域貢献を理念とし、スポーツ健康学科も含めた人間健康学部全体の地域活動と学内教育をつなぐ窓口として活動の幅を広げている。

1) 組織と会議

- a) 組織：運営委員長1名（健康栄養学科長） 委員3名（スポーツ健康学科長、総合経営学科、観光ホスピタリティ学科各1名） 事務局5名
- b) 運営委員会：1回 5月9日

2) H28(2016)年度当初の事業計画 <P>

地域健康支援ステーションのH28(2016)年度の事業計画は以下の通りである。

- a) 健康づくり指導事業
 - ①栄養健康教育 ②運動実践指導・レクリエーション
- b) 学生との連携による実践的活動
- c) サポート教員
- d) その他専門活動
- e) 広報・啓発事業
- f) 卒後フォローアップ事業

3) 事業報告 <D>

地域健康支援ステーションの独自の取り組みと、文部科学省より採択を受けたCOC+事業を並行して実施した。

(1) 健康づくり指導事業

公共機関、企業、団体等からの依頼を受け、個別指導・集団指導・講演・セミナー・スポーツ栄養サポートなどを行った。主として指導教員と専任の管理栄養士・健康運動指導士スタッフが指導を行い、学生はその補助等を行った。

① 栄養健康教育

依頼元からのテーマに応じて、クイズや食事診断などの参加型の内容を組み入れて講話を行った。学生の同行が可能な場合には、クイズや食事診断など学生の補助により実施した。

「ハイリスク学生個別栄養指導」 (3回)

(依頼元：本学健康安全センター、指導教員：廣田直子)

「保健指導員会総会研修会での講演」 (1回) (依頼元：辰野町長、指導教員：廣田直子)

「松本広域給食協議会研修会での講演」 (1回)

(依頼元：松本広域給食協議会、指導教員：廣田直子)

「岡谷市食育推進研修会での講演」 (1回) (依頼元：岡谷市長、指導教員：廣田直子)

「林業作業士研修会の講師」 (2回) (依頼元：長野県林業労働財団、指導教員：廣田直子)

「吉田地区健康教室での栄養指導」 (1回)

(依頼元：塩尻市吉田公民館、指導教員：廣田直子)

「せば福祉施設介護予防教室での栄養指導」 (1回)

(依頼元：塩尻市社協、指導教員：廣田直子)

「本山地区介護予防運動教室での栄養指導」 (1回)

(依頼元：塩尻市社協本山分会、指導教員：廣田直子)

「床尾地区健康教室での栄養指導」 (1回)

(依頼元：塩尻市社協床尾分会、指導教員：廣田直子)

「健康経営推進プログラム参加企業栄養指導」 (3回)

(依頼元：一般財団法人長野経済研究所、指導教員：廣田直子)

「企業社員の健康づくり栄養講座の講師」 (1回)

(依頼元：昭和電工セラミックス(株)塩尻工場、指導教員：廣田直子)

「食育イベントでのだし汁の試飲体験コーナー」 (1回)

(依頼元：諏訪保健福祉事務所、指導教員：廣田直子)

「高齢者の健康栄養講座の講師」 (1回) (依頼元：シルバーカフェ、指導教員：廣田直子)

② 運動実践指導・レクリエーション

健康運動指導士スタッフが中心となり、時にスポーツ健康学科の学生も参加して地域住民及び企業社員並びに障害のある方に、講話と運動指導を行った。学生はスタッフを及び参加者を補助した。企業からも社員の体力測定を依頼され実施した。年間を通して定期的に開催される運動講座では、参加者が継続して楽しく通えるよう、運動の意義についての資料を毎回配布、その後できるだけ講話に沿った内容で運動を行った。内容がマンネリ化しないよう、口腔ケアなどの外部講師を招いたりゲームを取り入れるなど工夫した。また、昨年につき当ステーション所属の管理栄養士による個別栄養指導も行った。定期的に開催されるいずれの講座でも、初期の段階で簡単な体力測定を実施し、参加者一人ひとりが目標を持てるよう指導した。今年度、地域及び企業等から講師依頼のあった健康づくり講座等は述べ133回で受講者は延べ2,669人であり昨年を上まわった。

参加者からは、運動の重要性について改めて認識した、家でも「ながら運動」をするように

なった、膝痛がなくなった、教室参加のメンバーでウォーキングチームをつくった、等の感想をいただき好評であった。

「せば福祉施設介護予防教室の講師」 (10回) (依頼元：塩尻市社協、指導教員：根本賢一)

「吉田地区健康教室の講師」 (39回) (依頼元：塩尻市吉田公民館、指導教員：根本賢一)

「床尾地区健康教室の講師」 (20回) (依頼元：塩尻市社協床尾分会、指導教員：根本賢一)

「本山地区介護予防運動教室の講師」 (21回)

(依頼元：塩尻市社協本山分会、指導教員：根本賢一)

「原新田地区地域サロンの講師」 (3回) (依頼元：朝日村、指導教員：根本賢一)

「アイリス古見地区地域サロンの講師」 (3回) (依頼元：朝日村、指導教員：根本賢一)

「宮田村速歩教室の講師」 (3回) (依頼元：宮田村公民館、指導教員：根本賢一)

「転ばぬジェントルマンとレディーの会の講師」 (17回)

(依頼元：朝日村社協、指導教員：根本賢一)

「峰原地区速歩教室の講師」 (1回) (依頼元：峰原地区、指導教員：根本賢一)

「広丘地区速歩教室の講師」 (2回)

(依頼元：塩尻市広丘ヘルスアップ委員会、指導教員：根本賢一)

「企業社員の健康づくり運動の講師」 (4回)

(依頼元：昭和電工セラミックス(株)塩尻工場、指導教員：根本賢一)

「塩尻ロマン大学大学院体力アップ速歩講習会の講師」 (1回)

(依頼元：塩尻市、指導教員：田邊愛子)

「ヘルスメイトステップアップ研修会の講師」 (1回)

(依頼元：松本市保健福祉事務所、指導教員：根本賢一)

「精神障がい者施設通所者の体力づくりの講師」 (2回)

(依頼元：朝日村、指導教員：根本賢一、犬飼己紀子)

「長野県栄養士会研修会ロコトレ講師」 (1回)

(依頼元：長野県栄養士会研究教育事業部、指導教員：廣田直子)

「塩尻市民生児童委員研修会分科会講師」 (1回)

(依頼元：塩尻市児童民生委員協議会、指導教員：根本賢一)

「下洗馬地区地域サロンの講師」 (1回) (依頼元：朝日村、指導教員：等々力賢治)

「健康経営推進プログラム参加企業運動指導」 (3回)

(依頼元：一般財団法人長野経済研究所、指導教員：廣田直子)

(2) 学生との連携による実践的活動

県・市町村、企業からの依頼を受け、人間健康学部の学生が主体となり、当ステーションの管理栄養士、健康運動指導士の専門的サポートと学科教員の指導のもとに、メニュー開発や大学の専門的な機器を使った体力測定などを実施した。

「食育パネル展ブース担当」 (2回) (依頼元：松本市、指導教員：廣田直子)

「ホームタウンイベントブース担当」 (1回) (依頼元：松本市、指導教員：廣田直子)

「松本山雅スタめし提案プロジェクト第7期」 (3品商品化)

(依頼元：(株)松本山雅、指導教員：廣田直子)

- 「南相木村保健補導員研修会ほか」 (2回)
(依頼元：南相木村、指導教員：廣田直子、中島節子)
- 「山形村健康づくり推進員研修会」 (1回)
(依頼元：山形村健康づくり推進員会、指導教員：廣田直子、中島節子)
- 「川上村保健補導員研修会」 (1回) (依頼元：川上村、指導教員：廣田直子、中島節子)
- 「社員食堂ヘルシーメニュー提案」 (4回)
(依頼元：(株)サイベックコーポレーション、指導教員：廣田直子)
- 「イタリアンレストランのヘルシーメニュー提案」 (7品商品化)
(依頼元：(株)レオパレス 21、指導教員：廣田直子)
- 「登山同好会会員の体力測定」 (2回) (依頼元：穂高登高会ワタスゲ、指導教員：中島節子)
- 「新村ニュースポーツ大会体力測定ブース担当」 (1回)
(依頼元：新村公民館、指導教員：中島節子)
- 「SAT システム食事診断ブース担当」 (1回) (依頼元：岡谷市、指導教員：廣田直子)
- 「世界健康首都会議 健康弁当提案プロジェクト」 (1品商品化)
(依頼元：松本市ほか、指導教員：廣田直子、成瀬祐子)

(3) 教員サポート

授業を担当する教員から、講義のサポートを依頼され実施した。

- 「地域課題研究 B (運動、スポーツイベント、林業従事者研修会の現場及び事前事後学習)」
(4回) (担当教員：廣田直子)
- 「セルフヘルスケア～健康の 3 本柱の栄養について～」 (担当教員：中島節子)
- 「大学入門～行政栄養士の活動の実際について～」 (担当教員：矢内和博)
- 「健康マネジメント論」 (担当教員：中島節子)
- 「臨床栄養学実習Ⅱに於いてロコモ度テストの演習」 (担当教員：藤岡由美子)

(4) その他専門活動

- 「ポリ袋で料理を作ろうコーナーの実施」 (松本広域ものづくりフェアへのイベント参加)
- 「一日限りのレストランの運営支援」 (本学健康栄養学科主催事業)
- 「専門職訪問サービスモデル構築検討委員会打合せ出席」
(長野経済研究所主催事業への支援)
- 「咀嚼と認知機能の研究への協力」 (東京医療保健大学ほか実施の研究への協力)
- 「一日限りのレストラン at 松本東急 REI ホテル」 (ホテル主催のイベントへ参加)
- 「料理コンクール審査」 (料理コンクール実行委員会審査員)

(5) 広報・啓発事業

ホームページ、学報「蒼穹」、キャンパスガイド等で、内外に当ステーションの活動内容等を紹介したほか、在学生へのオリエンテーションにて当ステーションの活動を紹介し学生の参加を促した。

また学外の講演会や研修会、イベント等において当ステーションの活動と具体的な取組みを発表した。

- 「地域健康支援ステーションのホームページ更新」 (随時)

「学報『蒼穹』当ステーションのページ掲載」(4回)

「長野県健康づくり研究討論会への参加」(活動事例紹介:

演題「学生が提案するヘルシーメニュー～3つの星レストランの取り組み～」)

「在学生オリエンテーションに於いて当ステーションの活動紹介」(新2、3、4年生対象)

(6) 卒後フォローアップ事業

人間健康学部の卒業生および在學生を対象に、健康知識の習得やキャリアアップをめざした事業を実施した。

事例発表および講演会 演題「『食べもの情報』ウソ・ホント」

講師 群馬大学名誉教授 高橋 久仁子 氏

4) 点検・評価の結果 <C>

(1) 健康づくり指導事業

①栄養健康教育 ②運動実践指導

地域からの依頼を受け入れた健康づくり指導事業は32件で受講者は延べ3,185名であった。そのうち、学生の同行した事業は4件で延べ14名の学生が参加した。

ステーションスタッフが講師となって出向き指導したことにより、地域の食と栄養による健康づくりの意識の啓発および実践者の増大に寄与したものと考えられる。

また、学生にとっては、現場に同行した活動においては健康教育におけるプロセス(PDCA)を、実践的に学ぶことができ、学内で既習の内容を実際の教育現場で活用することで自身の専門知識の不足を知り、更に深く学び直す等省察につながった。また、学外に出て地域の人々と接する中で言葉づかいや態度等を学び、就職活動や就職後の就業にも活かされる経験となった。学生の同行が難しい講座では、事前に教育教材の作成補助など教育現場を想定しながら健康教育の内容を企画立案する形で学生と連携する活動も行った。

指導の依頼主の中には、学生が関与することにより活気が生まれる等の成果が出るとの声も聞かれ、好評であった。

(2) 学生との連携による実践的活動

学生との連携による実践的活動は12件で活動に参加した学生は延べ235名であった。学生は今までの学習の振り返りとこれからの学びのポイントを掴むことができた。

大学教員とステーションスタッフのコーディネートのもと学生が主体となって取り組んだメニュー開発については、アイデアを提案するものから学生自身が実際に試作調理するもの、飲食業者に採択され商品化されるもの等、幅広い分野において活動を展開することができた。実際に商品化された物として、松本山雅フットボールクラブのスタジアム飲食物は3品目で、販売日にはそれぞれ完売した。世界健康首都会議で販売した健康弁当は当日300食が完売し、その後も業者が注文販売に応じている。イタリアンレストランのヘルシーメニューは7品目が商品化され県内のみならず北陸地域の店舗でも販売されるなど、その売り上げを始め話題の提供等地域に貢献することができた。学生にとって、自分のアイデアが具体化され商品となって実際に売買される達成感は大きいと思われる。

運動指導現場への学生の参加は、ゼミ等で実際に運動指導を行う際のバリエーションの豊かさに繋がっている。また、研究ゼミ等で現場を持っていない学生にとっては指導者としての心構え

やスキルアップ習得の場となっている。低学年での現場参加は高学年で履修する現場実習の予習の位置づけとしても活用できる。学生の多くは参加したことは大変有意義だったと答えていることから今後も積極的に当ステーション活動に勧誘していきたい。参加学生の活動はテレビ・FMラジオ・新聞等に数多く取り上げられ、地域に学生の活躍が広く知られることとなっている。

(3) 広報・啓発事業

ホームページへ実際の活動内容を逐次掲載するように心がけ、訪問数は1,161で多数の方に当ステーションの活動を披露することができた。学報「蒼穹」への原稿執筆は年4回行い、多くの読者に広報を行うことができた。

掲示板や在学生へのオリエンテーションを通して学生の活動参加を促すと共に、学外の講演会や研修会、学会、イベント等あらゆる機会を活用して当ステーションの活動と具体的な取組みを発表することで健康づくり関係機関等に存在をアピールできた。

(4) 卒後フォローアップ事業

在学時に登録した卒業生や在学生、地域の方々を対象にキャリアアップや専門知識習得をめざし、COC+講演会と併催で行った。参加した在学生や卒業生からは知識が広がったと好評であったが、学生の参加人数が少ないことから開催内容を検討するなどして卒業生の参加者の増大を図りたい。

5) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

地域から当ステーションに依頼される件数は、口コミや広報により年々増加している。限られた専任スタッフでは、すべての依頼に対応することが難しくなっており、人材の確保をどうするのか依然として当ステーションの課題である。この問題を解決するためには学校全体の方向性の中で探っていく必要がある。

また、受託した事業への学生の参加者をできる限り増大させ、その活動を通じて人間健康学部として広い視野を持った学生の育成にも寄与したいと考えている。

(1) 健康づくり指導事業

健康づくりには栄養と運動のバランスが重要である。地域の健康づくりを効果的に支援するために、地域や企業において管理栄養士スタッフと健康運動指導士スタッフが有機的に連携した活動を展開した。今後においてもこうした連携により、人間健康の視点を意識した活動に充実させるとともに、栄養と運動の両面から地域活動をさらに推進したいと考えている。

(2) 学生との連携による実践的活動

イベントでのブース担当や体力測定や食事診断を伴う研修会などは、広く地域住民の皆様とふれあえる貴重な機会であり大学のゼミナール活動や実習にも応用できる取り組みも多い。そのため、さまざまな機会を捉えて学生にそのメリットを伝えると共に興味あるより多くの学生が参加しやすくなるよう工夫していきたい。メニュー提案は専門知識の学習がまだ十分ではない低学年でも行いやすい取り組みであり、活動を通じて学年を超えた交流ができるという特徴がある。そのため学生への働きかけを工夫したいと考えている。

(3) サポート教員

教員のサポートを可能な限り実施していきたいと考えている。

(4) その他専門活動

依頼された事業のみならず地域の健康づくり支援に繋がる案件については可能な限り関わり貢献したいと考えている。

(5) 広報・啓発事業

活動報告を記事としてまとめ、積極的にホームページや学報等に掲載していくとともに、内外へステーション活動のアピールについて機会を捉えて行っていく。

(6) 卒後フォローアップ事業

人間健康学部の卒業生の資質の充実および向上を図るための事業として、より多くの卒業生の参加を促すために事業の内容等の周知方法について更に試行錯誤を重ねていきたい。

<執筆担当/地域健康支援ステーション運営委員会 委員長 廣田 直子>

8. 地域づくり考房『ゆめ』運営委員会

平成28年度も昨年度に引き続き、地域づくり考房『ゆめ』（以下『ゆめ』という）には専任職員はいるが、専任教員不在であり学生と地域を実質的にコーディネート及び学生の教育的なサポートをする常駐スタッフ不足の体制であった。運営委員は、学部各学科より教員1名（総合経営学科と観光ホスピタリティ学科は、総合経営学部として1名）、事務職員3名にて運営した。このような体制であったため、昨年度に引き続き継続して活動をしている学生及び地域への支援に重点を置いた1年であった。また、昨年度の反省から、学生の参加状況の改善に取り組んだ結果、より多くの学生がゆめの活動に興味を持ち活動への参加が見られた。しかし、学生の活動の活発化により、学生の支援や地域との連携業務の負担は増大するため、常駐するスタッフの体制改善の重要性を再認識した1年であった。

1) 当初の事業計画 <P>

地域づくり考房『ゆめ』の平成28年度当初の計画は以下のとおりである。

- ①学生の地域活動促進事業
- ②学生と地域との連携による社会貢献活動へのコーディネート事業
- ③『ゆめ』自主事業
- ④『ゆめ』運営組織の整備
- ⑤広報啓発事業

2) 事業報告 <D>

①学生の地域活動促進事業

新入生の『ゆめ』への活動促進を図るため、ウェルカムパーティーにて活動紹介を行ったり、各プロジェクト等の活動を紹介するチラシや小冊子を配布したり、学生スタッフ及び各プロジェクトによる説明会「ゆめカフェ」を行った。

今年度の『ゆめ』に対して地域からの年間受入れ件数は66件、そのうち学生の年間参加件数は26件あり、参加学生の延べ人数は62人となった。

②学生と地域との連携による社会貢献活動へのコーディネート事業

i 学生の自主企画

学生の自主企画による活動は、学生チャレンジ奨励制度対象プロジェクトが7チーム、対象外

プロジェクトが2チーム、松本大学支援によるプロジェクトが1チーム稼働した。

ii 地域からの依頼による活動

行政や企業、自治会、NPO等からの依頼を受けて学生が参加したイベントは26件あった。また、新村地区との関係も重視し、地域づくりセンターや公民館との情報交換を行い、新村地区運動会のお手伝いやオープン大会・新村文化祭への参加などにつながった。

③『ゆめ』自主事業

28年度学生チャレンジ奨励制度と企画書作成指導

28年度の地域づくり学生チャレンジ奨励制度審査会は、継続的事業については3月（前年度）に行い、1年生などが加わることができる新規事業については、9月に行った。本年度は7プロジェクトが活動し、2団体は9月に応募したプロジェクトである。9月応募の1プロジェクトは、前期から活動を実践し企画内容など模索しながら生まれた新規プロジェクトである。

プロジェクトについては、これまで『ゆめ』の専任教員が個別指導や活動の指導を行っていたが専任教員が不在であるため、昨年度の引き続き運営委員が分担し活動の担当を決め、『ゆめ』の職員と協力して活動の指導や相談、会計指導・報告書作成指導などの支援を行うことで、奨励金の適切な運用を管理しつつ自主事業の支援を行った。また、3月15日には、学生チャレンジ奨励制度の活動報告会を実施した。さらに、同日次年度の学生チャレンジ奨励制度の審査を行い、4プロジェクトが認定された。

④『ゆめ』運営組織の整備

専任職員3名（課長・パート2名）、学生スタッフ6名により、学生活動の相談・支援体制に加え、運営委員5名が分担して各プロジェクトの補助的支援を行った。また、専任職員が地域からのニーズの相談窓口となり、活動に関する情報の収集・整理、学生への活動紹介等を行い、学生が地域活動をスムーズに展開できるよう支援した。

⑤広報啓発事業

学内外に向け、ウェブサイト（ゆめHP）・学生ブログによる情報発信やゆめ通信による広報紙発行、蒼穹への活動記事掲載を行った。また、(株)アルピコの好意で設置していただいている北新松本大学駅前の掲示板を活用し学生や地域の駅利用者への情報発信を行った。新聞社各社にも記事として学生の活動が取り上げられた。月刊イクジイには、毎号活動を紹介し学生プロジェクトへの参加者を募った。

3) 点検・評価の結果 <C>

①学生の地域活動促進事業

専任教員が不在となったことで、ゆめカフェなどを運営する学生スタッフへの支援体制及び教育・指導体制が機能しなかったため、学生の参加状況が減少してしまい反省点となった。本年度は、学生も活動するためには人員確保が重要である事を認識し、広報活動についての研修を受講し準備を進めてきた。チラシや掲示物、映像資料などについてその目的を明確化し「まず『ゆめ』に興味関心を持っていただき、『ゆめ』に来ていただく」ことに取り組んだ結果、ゆめカフェの参加数や年度初めに『ゆめ』を訪れ登録する学生が増加した。学生が、自ら学習、行動し結果に繋げ、その反省から次の活動に取り組む『ゆめ』本来の学生活動が展開できた結果である。しかし、次年度の課題として、年度当初に登録した学生を、継続してプロジェクトの活動に繋げていくことや、興味関

心を継続させていくための取り組みが挙げられている。

また、3月6日に行われた『ゆめ』活動報告会では、一緒に活動してきた地域の皆様にも参加いただき、情報交換や地域の人の思いを学生が直接受け止める機会となった。ポスターセッション形式により行われた活動報告は、参加者と学生のコミュニケーションが促進された。

②考房『ゆめ』自主事業

平成28年度地域づくり学生チャレンジ奨励制度は、27年度からの継続及び在学生の新規事業の募集を3月に行い、さらに1年生の企画も含めて9月に追加募集も行った。しかし、3月の募集は5件、9月の追加募集では2件であった。9月応募した1プロジェクトは、前期に『ゆめ』に活動に関する相談があり、実現可能な活動を模索し、地域との連携を図りながらプロジェクトとして成長できた事例である。

③『ゆめ』運営組織の整備

学生が自主的に『ゆめ』を運営していけるようにするために、学生スタッフを中心となり、各プロジェクトの横の繋がりを知り、お互いに支え合っていけるような体制を目指した。昨年まで行っていた夏の研修会を、学生スタッフを中心となってプログラムを検討し「国立信州高遠青少年自然の家」にて合宿形式で行った。中間ではあるがこれまでの活動内容について報告集をまとめ、それぞれの団体によるプレゼンテーションやワールドカフェにより、後期からの『ゆめ』の活動を活発にするための意見交換がされた。また、3月9日の活動報告会も学生スタッフを中心となり企画し、地域の皆様も参加できるような工夫をし、学生だけではなく地域の皆様にも活動を紹介する場を設けることができた。学生の企画力やプレゼンテーション能力、そして地域の人との交流を通して、地域のニーズを直接受け止めることができた。

⑤広報啓発事業

毎年4回発行してきた広報誌「ゆめ通信」については、本年度は職員体制の変化により、2回の発行とした。内容も学生が中心となって情報を発信できるようにするため、学生に記事の作成を依頼し、教職員で内容の確認をした。分かりやすい広報誌を目指し、活動や本学の教育・学生支援活動への理解が深まり、学生と地域住民との円滑な連携を促す効果となった。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

地域社会の創造と発展に寄与する人材を育成するために、『ゆめ』を拠点に、施設・人材の両面で拡充をはかり、支援体制の一層の充実・発展を目指して事業展開していく。

①学生の地域活動促進事業

- ・学生の地域活動の原点となる開設以来の「地域受け入れ票」については、学生の参加状況や活動内容の再確認を行い、学生のスムーズな地域活動への受け入れ体制を整えていく。学生が地域活動に興味を持っていただくような情報提示を模索する。

②学生と新村地域とのコーディネート促進

- ・新村地区と松本大学は「地域づくりに係る包括連携協定」を締結したことで、学生の地域活動への参加も期待されている。学生も勉学と両立しやすい新村の活動に参加しやすいようにコーディネート促進したい。また、新村地区も学生に参加だけではなく、学習の場となるように工夫する姿勢もあり、学生成長の場として期待したい。

③考房『ゆめ』自主事業

- ・地域づくり学生チャレンジ奨励制度は、3月と9月年の2回の募集とすることで、既存プロジェクトは年度当初から事業展開をすすめ、未熟な自主企画についてはじっくりと時間をかけて企画から支援を展開していく。専任教員が確保できない場合は、本年度と同様に運営委員による補助的支援を行うこととなる。しかし、学生の活動の補助だけではなく、教育的支援や精神的サポートも重要であり専任教員の配置が望ましい。

④『ゆめ』運営組織の整備

- ・専任教員が不在のままでは、これまでのような学生への支援が展開できないことが分かってきた。専任教員にこだわるわけではないが『ゆめ』として、学生活動を支援し地域との関係調整を行うコーディネータースタッフが必要である。学生への教育的支援及び学内の組織及び教員との連携を図ることが求められる。

⑤広報啓発事業

- ・ホームページやブログ、掲示板での的確・迅速な情報発信を進める。また、実施していない講座の情報がトップページに掲載されているなど実情にそぐわない内容があるため更新が必要と考えている。ゆめ通信についても掲載する情報量を吟味し、分かりやすい紙面を工夫するなど、読み手に伝わるような工夫が求められる。

＜執筆担当／地域づくり考房『ゆめ』運営委員会 委員長 廣瀬 豊＞

B：学生支援部門

1. 学生委員会

(1) 全学学生委員会

平成 28 年度の全学学生委員会は、総合経営学部、人間健康学部、短期大学部より主任教員各 1 名および各学科より委員教員各 1 名、学生課は課長以下課員 4 名によって構成され、計 12 回の全学学生委員会を開催した。

1) 計画 <P>

全学学生委員会では学生生活および課外活動の円滑かつ適正な支援を活動の目的に以下を立案した。

- ①松本大学課外活動に関する規定の見直し
- ②部・クラブ・サークル指導者を対象とした意識調査
- ③国内危機管理マニュアル策定
- ④学友会（学祭局）支援強化（本年度の「梓乃森祭」は 50 回目の節目となる）
- ⑤学部学友会の一本化
- ⑥その他

2) 実績・現状 <D>

①松本大学課外活動に関する規定の見直し

『松本大学の課外活動に関する規定』として、

- ・平成 26 年 4 月 1 日制定「松本大学課外活動団体運営綱領」
- ・平成 23 年 12 月 12 日制定「クラブ・同好会に関わる大学所有バス等の使用内規」
- ・平成 14 年 4 月 1 日制定・平成 24 年 4 月 1 日最終改訂「松本大学クラブ活動における学外指導者規定（内規）」
- ・平成 22 年 4 月 1 日制定「松本大学強化選手支援内規」「強化部及び重点部の遠征に係わる旅費規程」

以上の 5 内規が制定されている。強化部および重点部を中心とした活動と予算および支出拡大、大学所有バスの利用増、学外指導者登録者数増加と支援の在り方の多様化に対応するために他大学の同様の内規も参考にしながら内規の見直しをおこなった。

②部・クラブ・サークル・同好会指導者を対象とした意識調査

大学が公認している 40 の部・クラブ・サークル、13 の同好会の指導者より、複数の掛け持ちや遠征帯同等による負担大などがかねてより指摘されていた。全学学生委員会で議論した結果、現在登録されている指導者を対象とした「クラブ・サークル等部長の実態調査」を平成 28 年 12 月にアンケート形式で実施した。

③国内危機管理マニュアル策定

地震豪雨等災害、事件事故等が発生した際の対応及びその手順を定めたマニュアル策定を関係省庁より求められていた。これに対応するための「国内危機管理マニュアル」の策定に着手した。

④学友会（学祭局）支援強化（本年度の「梓乃森祭」は 50 回目の節目となる）

平成 28 年度の『梓乃森祭』は創祭 50 回目の節目にあたる。節目として相応しい学園祭となるよう企画準備を進める学友会（学祭局）を支援した。

⑤学部学友会の一本化

既存の総合経営学部、人間健康学部、短期大学部にはそれぞれ学友会が組織されている。現在の組織形態が踏襲されれば平成29年度より新たに加わる教育学部を加えると学内に4つの学友会が併存することになる。新入生歓迎会、スポーツ大会、学園祭等の大学全体にかかわる行事の企画・運営の効率化、会計処理の効率化のため学部学友会の一本化（修業年限等の相違から短期大学部は除外）が喫緊の課題となっていた。臨時学生大会にてこれを諮ることとした。

⑥その他（学生生活支援）

- ・学生の修学支援としての日本学生支援機構奨学金の貸与面接、松本大学独自の経済情勢悪化に伴う就学困難な学生への支援制度における書類審査及び面接
- ・同窓会賞、学長賞、地域貢献大賞など各種の学生表彰対象学生及び団体の募集

3) 点検・評価の結果 <C>

①松本大学課外活動に関する規定の見直し

『松本大学の課外活動に関する規定』のうち、

- ・「松本大学課外活動団体運営綱領」
- ・「クラブ・同好会に関わる大学所有バス等の使用内規」
- ・「松本大学クラブ活動における学外指導者規定（内規）」
- ・「松本大学強化選手支援内規」
- ・「強化部及び重点部の遠征に係わる旅費規程」

以上の5内規の見直しを実施した。

さらに「強化部内規」を新たに制定、予算支出の適正化、大学所有バスの利用適正化、学外指導者の支援の在り方の明確化を図った。

②部・クラブ・サークル・同好会指導者を対象とした意識調査

部・クラブ・サークルおよび同好会の指導者より寄せられた回答を集計、11名より他者への指導者変更の希望があった。

③国内危機管理マニュアル策定

松本大学版「国内危機管理マニュアル」（案）を策定した。

④学友会（学祭局）支援強化

本年50回となる節目の学祭テーマを「50 over the limit ～限界を超えろ～」として、Aqua Timezのコンサート、佐藤健トークショー、東京大学名誉教授・姜尚三氏講演会、パラレルドリームのライブ&ビンゴ大会などの学友会（学祭局）の企画実現を支援した。

⑤学部学友会の一本化

臨時学生大会を開催（総合経営学部並びに短期大学部11月8日、人間健康学部11月11日）して審議、学部学友会の一本化が議決された。

⑥その他（学生生活支援）

- ・学生の修学支援としての日本学生支援機構奨学金の貸与面接、松本大学独自の経済情勢悪化に伴う就学困難な学生への支援制度における書類審査及び面接を実施した。
- ・同窓会賞、学長賞、地域貢献大賞など各種の学生表彰対象学生及び団体の募集及び審査選定をおこなった。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

①松本大学課外活動に関する規定の見直し

内規運用の適正化及びその見守りをおこなう。とりわけ旅費申請、バス利用申請は事前申請の遵守の徹底、肥大化する課外活動予算の緊縮化を研究する。

②部・クラブ・サークル・同好会指導者を対象とした意識調査

11名より寄せられた指導者変更について、平成29年度より発足する教育学部の教員へのクラブ・サークル等指導者意向調査の結果を踏まえたマッチングを図ってゆく。

③国内危機管理マニュアル策定

策定した松本大学版「国内危機管理マニュアル」(案)の内容について、教育学部より選出された委員を交えて再検討、策定を急ぐ。

④学友会支援

⑤学部学友会の一本化

④ならびに⑤について、臨時学生大会での議決に基づき預貯金通帳の変更、教育学部新入生への学友会の説明会の実施(4月)及び教育学部学友会の発足と役員の公募等を経て「松本大学定期学生大会」での発足承認と一本化の本格的運用開始を目指す。

⑥その他(学生生活支援)

- ・学生の修学支援としての日本学生支援機構奨学金の貸与面接、松本大学独自の経済情勢悪化に伴う就学困難な学生への支援制度における書類審査及び面接を必要に応じ適正に実施する。
- ・同窓会賞、学長賞、地域貢献大賞など各種の学生表彰対象学生及び団体の募集及び審査選定を必要に応じ適正に実施する。

<執筆担当/全学学生委員会 委員長 矢崎 久>

(2) 総合経営学部学生委員会

総合経営学部の学生委員会は、全学学生委員会の下部組織に位置付けられ、全学学生委員でもある主任1名と学部委員5名の計6名と学生課の職員によって構成されている。学部単独の会議は2回開催した。

1) 当初の計画 <P>

学部部会においては、平成27年度において以下のような計画を立てた。

- ①不正乗車の撲滅とその厳正な対処
- ②学部学友会の組織強化と事業の実施
- ③学内でのマナー徹底

2) 現状の説明 <D>

①不正乗車の撲滅とその厳正な対処

全学委員会と関連する議案として、本学部に関与する不正乗車は、今年度は1件発生した。対処過程を掌握した上で学部において共有した。その他盗難事件等は起きていない。

②学部学友会の組織強化と事業の実施

学部学友会が主催する行事は多くありその活動ぶりは充実している。両学科の学生が平均的に学友会の執行部に加わり盛り上げている。大学祭に発表する「地域貢献大賞」があるが、普段の学部

の活動を丁寧に精査しその賞へのエントリーを学部的に試みた。平成 27 年度卒業生向けに卒業文集が昨年度に引き続き作成され、式当日配布された。

③学内でのマナー徹底

全学的な取り組みに関連して、学部においてもより丁寧に共有し学内マナー向上に取り組んだ。特に男子学生が多いことから、喫煙マナーについては、本質的なアプローチを行った。

3) 点検・評価の結果 <C>

①不正乗車の撲滅とその厳正な対処

不正乗車が起きたことから、不正乗車が発生しそうな時期を想定して注意喚起を行ったことは一定の効果があったと思われる。

②学部学友会の組織強化と事業の実施

試みが「地域貢献大賞」へのエントリーへと実際に繋がった。また、事業への学生参加は確実に増え、一定の評価はできる。また新しい活動、例えば、選挙啓発活動など実施することができた。

4) 成果と今後の改善点 <A>

①不正乗車の撲滅とその厳正な対処

継続した学生への注意喚起を行う。また盗難事件等発生の場合は、社会的責任を果たすべく対処を厳正に行う。

②学部学友会の組織強化と事業の実施

活動が安定してくると活動が内向きになる傾向になるため、事業内容の見直しによってその充実を図っていく。3 学部共通のバランスを引き続き保っていく。

③学内でのマナー徹底

全学的な取り組みの中で、学部でできる教員の協力、意識の統一を図っていく。マナー向上とは日常性のもので、その都度対応できる体制、取り組みを心がける。

<執筆担当/学生委員会 総合経営学部主任 益山 代利子>

(3) 人間健康学部学生委員会

人間健康学部学生委員会は、選任された学部主任および委員の教員 4 名と学生課職員で構成される。各学科より一名の学生委員（学部主任と他学科の委員）が全学学生委員会に出席し、定期的に開催される全学学生委員会を主軸に、学部学生委員会運営を行った。

1) 計画 <P>

学部学生委員会は、昨年に引き続き、学友会活動やクラブ活動等の課外活動の活性化、およびより快適な学生生活への支援を目的とし、平成 28 年度当初の計画を以下のように立てた。

- ①学友会活動の支援
- ②その他（主に学生の生活支援）

2) 実績・現状 <D>

①学友会活動の支援

- ・人間健康学部学友会は、執行部、学祭局、体育局、渉外局、および報道局より構成されており、各局員がクラスより選出されている。

- ・人間健康学部学友会が独自に行った行事は、フレッシュマンフェスティバル、学生大会、体育大会および卒業文集の発刊であった。
- ・熊本地震（4月14日発生）義捐金活動：学友会との話し合いにより、学内で募金活動を実施した（実施期間：4/28～10/20、募金金額 300,723 円、日本赤十字社を通し、義捐金を送った）。
- ・新年度に向け、学友会一本化：a. 教育学部が開学されること等を受け、学友会より学部学友会を一本化したらどうかとの提案を受け、検討に入ることが全学学生委員会で認められた（4月）。
b. 11月の学部学友会の臨時総会において、学友会の一本化が承認された（11/11）。
- ・学友会東新大学公式訪問：新旧の学友会長、学祭局長が東新大学を訪問し、学生交流を実施（3/13～15）。なお、全学学生委員長が引率した。*同窓会学生支援金から補助

＜関連行事＞

- ・フレッシュマンフェスティバル（4/23）
- ・松本子どもまつり（5/3）
- ・松本ぼんぼん（8/6）
- ・花火大会（7/15）
- ・第50回梓乃森祭り（10/14～16）
- ・人間健康学部 秋季体育大会（11/16）
- ・クリスマスパーティ（12/16）

②その他（主に学生の生活支援）

学生の生活支援として、以下の項目について実施を行った。

奨学金支援

- ・学生委員による、日本学生支援機構奨学金の面接の実施（5/13～19）
- ・第15回経済状況悪化等に伴う修学困難な学生への支援（8月）
- ・災害被災学生支援の継続を審議し、継続を認めた（9月、3月）
- ・第16回経済状況悪化等に伴う修学困難な学生への支援（2月）

講習・セミナーの開催

- ・年金セミナー（松本年金事務所主催）の実施（6/23）
- ・薬物防止・防犯講習会の実施（健康栄養学科 9/26、スポーツ健康学科：10/26）

その他

- ・キャンパスルールブックの作成（12月）
- ・スポーツ特待生資格の継続審議（9月・3月）

また、会議等で、事件・事故等の報告を行った。

- ・総合経営学部の学生ではあるが交通事故が二件発生（内一件は死亡事故）したことを学部教授会等で報告（4月）。
- ・短期大学の学生が定期券改ざんしたことが発覚したことを学部教授会で報告（6月）。
- ・総合経営学部の学生が不正乗車が発覚したことを学部教授会で報告（9月）。
- ・学生による交通事故が多発していること（スポーツ健康学科1年、健康栄養学科2年）を学部教授会で報告（6月）
- ・交通事故（スポーツ健康学科2年）を報告（7月）

- ・交通事故が二件発生したことを教授会で報告（9月）
- ・交通事故2件、架空請求メール（健康栄養学科4年）が届く学生の報告があったことを教授会で報告（11月）
- ・大学祭前に633教室で缶ビールが置いてあるのが発見されたことを報告（11月）
- ・総合経営学部の3年生による自損事故を報告（12月）

3) 点検・評価の結果 <C>

①学友会活動の支援

学部の枠を越えた活動が活発に展開され、その支援を行った。また、各学部で計画した行事にも、他学部の学友会執行部が積極的に運営に協力できた。

②その他（主に学生の生活支援）

学生が関与した事件・事故を教員の会議等でその都度報告することは、様々な場面で注意喚起が行われ、事故防止に一定の効果があったと思われる。

4) 次年度へ向けた改善・改革に向けた方策 <A>

①学友会活動の支援

昨年に引き続き、学友会活動が学生の自主的で且つ主体的な活動となっており、より積極的な支援を行って参りたい。

②その他（主に学生の生活支援）

- ・学部としても不正乗車の撲滅に向けた取組を行っていく。
- ・薬物防止・防犯講習会の実施は、夏休み前の実施が望ましい。

<執筆担当/学生委員会 人間健康学部主任 高木 勝広>

(4) 松商短期大学部学生委員会

1) 年度当初の予定 <P>

松本大学松商短期大学部学生委員会の平成28年当初の計画は以下の通りであった。

- ①学生の自主活動の支援
- ②学生生活における健康・安全
- ③ルール・マナーの教育

2) 現状の説明 <D>

①学生の自主活動の支援

i) 学友会活動の支援

松本大学松商短期大学部の学友会はおよそ40名で構成される常任委員会がリーダーとなって以下のようなイベントを行った。

a) 松商短期大学部学友会単独で行ったイベント

- ・新入生歓迎会（4月7日）……短大生に対する新入生歓迎イベント
- ・夏季体育大会（7月3日）……第一体育館を主にして、初めての日曜日開催
- ・湘北短大リーダーズキャンプ参加（8月23日、24日）
……湘北短大内：短大生16名（うち1年生4名）、教職員2名が参加
- ・秋期体育大会（11月8日）……信州スカイパーク体育館において開催

- ・学友会常任委員改選（11月）……選挙および互選により決定
- ・次期学友会リーダーズキャンプ（12月21日）
 - ……授業終了後、学友会役員と次期役員が集まり、次年度活動の構想などを相談
- ・「学友」の発行（3月）……教職員や学生が寄稿
- b) 松本大学総合経営学部および人間健康学部学友会と共同で行ったイベント
 - ・3学部合同ウェルカムパーティー（4月6日）……おもにクラブ・サークルの紹介
 - ・「熊本地震」義捐金活動（4月27日～10月20日まで）……約30万円が集まり、日本赤十字社を通して寄附した。
 - ・松本子どもまつり（5月3日）……地域の子どもに対する記念手形づくり
 - ・花火大会（7月15日）……学内での花火大会
 - ・松本ぼんぼん（8月5日）……松本大学連として参加
 - ・大学祭（10月15日、16日）
 - ……テーマは「50 OVER THE LIMIT ～限界を超えろ！！～」として開催された。期間中には湘北短大生が来訪し、ダンスのステージ発表をするなどして、学友会メンバーと親交を深めた。
 - ・ハロウィンパーティー（10月28日）……地域の子どもを招待して実施
 - ・イルミネーション点灯（12月2日～25日）……大学南ゲート付近に設置
 - ・クリスマスパーティー（12月16日）……コモンルームにて実施
 - ・スノーボード教室（2月10日）……爺ヶ岳スキー場にて開催し、約40名が参加
 - ・学友会3学部合同リーダーズキャンプ（2月13日）
 - ……3学部学友会役員が来年度活動について議論
 - ・学友会新聞「Page. 1」の作成（8月、12月）
 - ……主に学友会イベントやクラブ・サークル活動についての記事を掲載
 - ・学友会ブログの運営（通年）……主に学友会イベントについて19の記事を掲載

ii) サークル活動の支援

平成28年度の短大部のサークルは以下の通りであった。

- ・バスケットボール
- ・バレーボール
- ・フットサル
- ・ファッション

なお、大学部クラブ協議会に属する団体に短期大学生が所属する場合は、その団体に対してサークル連合の予算から分担金を拠出した。

本学および後援会の支援を受けて参加した大会は以下の通りである。

- ・全国私立短期大学体育大会（8月8～11日）
- ・長野県私立短期大学体育大会（9月9日）

前者にはバスケットボール、バレーボール、バドミントン、および、卓球のサークル員、計約30名が参加し、女子バドミントンではシングルスで第三位という好成績を収めた。後者にはバス

ケットボール、バレーボール、および、バドミントンのサークル員、計約 30 人が参加し、女子バドミントンが優勝、女子バレーボールが準優勝という好成績を収めた。

iii) 他者理解、自己研鑽のきっかけ及び場の提供

学生が他者との関わりを通して、能動的で責任感や自覚のある活動をすることができるよう指導するため、以下のような研修会やイベントを行った。

- ・リーダー研修会（9月15日、16日）……ゼミ長と副ゼミ長に対して、1日目をうみてらす名立（新潟県上越市）、2日目をラボランド黒姫（長野県信濃町）で実施した。ここで学んだことを、それぞれがゼミに持ち帰り、ゼミでフィードバックを行った。
- ・ウェルカムフェアでの学生スタッフ起用（3月11日）……約40名のボランティア学生が参加し、新入生の履修相談などにあたった。

② 学生生活における健康・安全

学生の健康は健康安全センターが担当し、心理面では嘱託非常勤のカウンセラーもおり、さらに24時間電話対応の外部業者による健康相談も利用した。また、1年生に対しては本学保健師作成による資料を使って、各ゼミで禁煙講習も行った。

交通安全および防犯についての講習は入学直後のオリエンテーションの中で松本警察署から講師を派遣していただき実施した。年度末のオリエンテーションでは消費者生活センターの協力のもとネット詐欺など悪徳な商法について講習を行った。

③ ルール・マナーの教育

ルールやマナーは入学直後の1年生オリエンテーション内で「松本大学キャンパスルールブック」を用いて伝えた。また、不正乗車などについては後期オリエンテーションや進級オリエンテーションの中で厳重に注意を与えた。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 学生の自主活動の支援

学友会は常任委員長を中心に各局との連絡を密にして、全体的に活発であった。以前から懸念されてきたゼミへの情報伝達については、前年からゼミ長などと連携を取りながら行われるようになり、おおむねうまくいったようである。一方、各局の活動として、報道局や渉外局では各ゼミの局員への活動の広がりが少ないようであった。もう少し多くの学生が学友会活動に参加できる仕組みが必要かもしれない。

サークル加入者は、卒業生アンケートに見る2年生のデータでは、前年度36%の加入率であったのが今年度は42%であり、在学生アンケートに見る1年生のデータでは「たいへん満足している」および「満足している」と答えた学生が、前年度25%であったのが今年度は37%であった。つまり、おそらくサークル加入者は増加傾向にある。専門ゼミナールのプレゼンテーションの時間を少しいただいて、一部サークルのアピールをしたことも影響したのかもしれない。

自己けんさん研鑽の場としてのリーダー研修会では、ゼミへのフィードバックなどで自己の活動を振り返る仕組みができています。ウェルカムフェアのスタッフにもアンケートを取っているため、それをもとに何らかの振り返りをするようゼミ担当教員に協力をしてもらいたい。

② 学生生活における健康・安全

学生の健康や安全については一定の対策ができていると思われる。今後、必要と思われるものは

積極的に取り入れていきたい。

③ルール・マナーの教育

今年度も不正乗車が6月初旬に1件発生した。定期券の偽造という悪質なものであり、ルール・マナー教育以前の問題かもしれない。引き続き、気を引き締めて指導していく必要がある。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

次年度に向けては次の項目について改善・改革を検討していく。

①学生の自主活動の支援

多くの学生が学友会やサークルで活動するよう促進する。また、自己研鑽による自己の成長を認識させる。

②学生生活における健康・安全の促進

③ルール・マナーの教育

<執筆担当/学生委員会 短期大学部主任 川島 均>

2. 就職委員会

(1) 全学就職委員会

全学就職委員会は、平成24年度より新設された委員会であり、平成28年度で5年目の活動となる。3学部の就職委員会の主任及び大学院研究科の委員、及び事務局としてキャリアセンター職員が参加して構成された組織である。本委員会の目的は、各学部及び大学院研究科の就職活動支援と調整にある。

1) 年度当初の計画 <P>

全学就職委員会としては学部によって特色があるため、就職活動に関する具体的な計画は各学部に一任する。但し、各学部共通のスタンスとして、内定率の維持、就職環境の好転を受けた量と質の充実、多様化する学生への就職支援の充実を目指すこととした。

共同で行う就職支援としては、保護者説明会から今年度より名称を変更した保護者就職説明会を5月28日に開催、学内合同企業説明会を、6月18日、3月3日、3月23日の3回開催、また、平成25年度から開始した全学合同の企業研究会を、平成28年度も昨年度より回数を増加させて継続することとした。

2) 現状の説明 <D>

- ・キャリアセンターの利用状況であるが、今年度から履歴書添削についても原則として事前予約制としたが、利用学生数の減少は見られなかった。
- ・今年度初めて、SPI対策講座を11月30日、1月23日の2回実施した。
- ・保護者就職説明会を5月28日に実施し、計121名(総経：総経38、観光26、人間：栄養24、スポーツ33)の参加があった。参加率が概ね3割前後であること、個別面談希望者は参加者数の2割以下であることから開催時期や内容等含めた検討も必要であろう。
- ・「企業・業界研究勉強会」の機会を増加した(2015年度：17企業4特別講座 合計13日程で実施。2016：24企業5特別講座合計18日程で実施)。
- ・東京での合同企業説明会バスツアーへ計69名(総経：総経13、観光7、人間：栄養10、スポーツ16、

短大：商 14、経情 9)の学生が参加した。これまで、長野会場での合同企業説明会バスツアーは全学部対象としてきたが、東京バスツアーに関して短大は参加としていなかった。しかし、短大生の希望者も一定数いることから今後も全学部対象とすべきであろう。

3) 点検・評価の結果 <C>

- ・SPI 対策講座を今年度より初めて導入し、リクルートキャリアの開発担当者から、企業が採用試験でどのように利用しているのかを含めて解説して頂いた。参加合計人数は計 58 名であった。
- ・保護者説明会については、来年度は例年同様の日程とするが、将来的には学部毎に日程を検討していく可能性がある。
- ・就職活動を控えている学部 3 年生および短大 1 年生を対象とした「企業・業界研究勉強会」への参加者数が昨年と比較して減少しており、申込状況も活発さに欠けていた。
- ・学内合同企業説明会を今年度は計 3 回実施し、参加合計人数は計 1033 名(6 月：176 名、3 月 1 回目：472 名、3 月 2 回目：385 名)であり、昨年度の 940 名と比較し 90 名を超える参加者増となった。これは、昨年度 9 月に開催した回を企業の採用スケジュールを鑑みて 6 月に前倒し実施したことが要因であると考えられる。

4) 次年度に向けた対応 <A>

- ・学生が就職活動状況をメソフィアに入力することにより、学生・教員・職員の三者が応募状況を共有できるシステムを、4 月を目処に新たに導入する予定であるため、円滑な稼働を目指す。
- ・求人情報の提供方法の Web 利用や、履歴書の作成等についても、可能であれば電子化の検討を行う。
- ・学内合同企業説明会は毎年 3 回/年実施されているが、会場となる第一体育館は準備日を含めて二日間貸し切りにするため、平日開催に加え、土曜開催日を設けたが、授業との関係で会場確保が厳しい状況には変わりがない。次年度も会場及び日程の検討を行った上で適切に開催する。
- ・「企業・業界研究勉強会」への参加者数が昨年と比較して減少しており、申込状況も活発さに欠けていたが、昨今の就活スケジュールでは、このような場が非常に重要だと認識するため、引き続き、参加者を増やす工夫を行う。
- ・企業情報の収集及び就職先の開拓については、引き続き積極的に行う。
- ・早期内定と内定辞退の危惧等にかかわる学生指導の徹底をするため、今後は内定獲得後に就職活動を継続したい学生のみではなく、ガイダンスや個別指導の中で学生全員に徹底させていく。

<執筆担当/全学就職委員会 委員長 根本 賢一>

(2) 総合経営学部就職委員会

総合経営学部就職委員会は本学部の教員 7 名(総合経営学科 4 名、観光ホスピタリティ学科 3 名)とキャリアセンターの 9 名の事務職員で構成され、全学就職委員会のメンバーとしては、成(総合経営学科)と八木(観光ホスピタリティ学科)が参加している。本委員会活動の主な目的は、本学部の就活生へのきめ細かな就職活動支援である。

1) 年度当初の計画 <P>

平成 28 年度総合経営学部就職委員会の重点課題は、「きめ細かな就職支援体制を構築することで、就職率の大幅な向上と維持等」であった。それを実現するための具体的な業務改善計画は、次の通りであった。

まず〔計画1〕引き続き、2・3年生向けの就職活動関連の諸行事について徹底的な見直しを行い、より効率の高い就職支援体制を構築していく。特に「キャリア面談」（従来のキャリアカウンセリング）、夏期就職合宿、冬期就職活動支援講座、就職活動直前セミナー、保護者就職説明会等について再検討を行っていく。

〔計画2〕本学部就職委員会では、学部の特徴をふまえ、公務員（警察・消防・役所など）への就職試験対策を強化していく。委員会内に専門の担当教員を配置し、より具体的な就職支援体制を構築していく。引き続き次年度も、大変厳しいとは思いつつ、10名以上の公務員の輩出を目指していきたい。

〔計画3〕クラス担当教員との密接なコミュニケーションによって4年生の状況と動向等をより細かく把握する。クラス担当教員には月末毎に「就職活動進捗状況確認シート」の提出を依頼しているが、受け持っている就活生に何らかの進捗が見られた場合には、教職員と学生の間で速やかに連絡が取れる体制を構築していく。とくに、このキャリア形成のクラス制は就職支援を目的に新たに作られた体制で、従来の専門ゼミとは異なり、より就活生へのきめ細かな支援が可能になると思う。この体制はできる限り長く続けるように関係する委員会に協力をお願いしていきたい。

〔計画4〕引き続き、上記のキャリア形成クラス担当のみではなく、学部全体の就職支援体制の構築、とりわけ学部・学科内の全教員による就職支援体制を構築していく。たとえば、就職活動関連の諸行事に、就職委員のみならず、他の教員も積極的に参加するよう依頼・誘導をしていく。

2) 現状の説明 <D>

上記の当初の計画に対する主な改善の実施状況は、次のとおりである。

〔計画1〕に対しては、3年生に集中している就職関連諸行事の開催について、根本的な見直しが見せまれている時期にきていると認識している。とくに、キャリアセンターの事務職員においては、3年生対象の就職関連諸行事に多くの時間と労力が捕らわれ、実際に就職活動を行っていて、マンパワー的にもよりきめ細かなケアが必要な4年生に対する支援が疎かになるおそれもある。そして、各々の行事に対し、従来開催してきたから開催するという認識ではなく、より効率的に就職率を向上させるという重点課題に照らし合わせ、精査していくべきであろう。しかしながら、ほとんどの行事はその開催の必要性和成果面から本年度も開催されることになった。このような行事の開催の有無に対する議論は本学部就職委員会だけでは限界があり、引き続き、全学就職委員会にて議論・検討を重ねていくべきである。

〔計画2〕に対しては、委員会内に専門の担当教員をおき、公務員志望の就活生への積極的な支援を行っている。たとえば、担当教員が公務員試験対策の講座を週1回開設し、試験対策のきめ細かな支援を重ねてきている。しかしながら、公務員試験には一般企業への就職活動とはその性格が少し異なり、とくに科目筆記試験に重点があり、本学部におけるこれまでの対策だけでは高いハードルになっているのも現状である。結果として、7名の就活生が公務員職（長野県警と松本市役所（嘱託）各2名、山形村役場、海上自衛隊、陸上自衛隊各1名）に就いたものの、今後、10名という目標を達成するために一層、工夫を重ねて行きたい。

〔計画3〕に対しては、ゼミ担当教員から月に1回、定期的に就活生の状況を把握し、就職活動進捗状況確認シートを送付していただいている。このシートに基づき、委員会として就活生一人ひとりに対するきめ細かな就職支援の基礎資料として大いに活用している。また、日頃よりゼミ生の

状況変動に対する情報を逐次共有している。

〔計画4〕に対しては、全学就職委員会を中心に、大学全体としてのサポート体制のひとつである「キャリア面談」のあり方について見直しが進められた。また、キャリア面談員に対しても県外の比率を減らし、新たに県内から面談員を採用することになり、県内の比率を高めた。そして、他の委員会と連携については、今後も継続的な取り組みが必要不可欠である。

3) 点検・評価の結果 <C>

平成28年度には、当初の計画に沿う形で、「きめ細かな就職支援体制を構築することで就職率の大幅な向上と維持等」を強力に進めてきた。たとえば、前述したとおり、キャリア関連科目、就職合宿、そして4年生のための各種就職講座（直前セミナー、学内就職活動対策講座）など多様なチャンネルをつうじて、「きめ細かな就職支援体制を構築することで就職率の大幅な向上と維持等」に努めてきた。こうした取り組みの成果が着実に目に見える形で現れたと思っている。その成果は後述する本年度の就職内定率に現れている。しかしながら、就職活動というのはあくまでも学生の自主活動であることなどから、学生自身が大学卒業後のキャリアを真摯に考えることこそ、就職実績の向上への近道と考え、今後もさまざまな創意工夫を重ねて最大限良い成果と結びつくように支援していきたいと思っている。各種就職関連行事について、学生への積極的な告知などにより、前年度と比べて参加状況も改善しつつある。

なお、今年度は全学就職委員会において「キャリア面談」のあり方について見直しについて議論を進めているが、今後は他の委員会とも連携を深めながら、「大学全体としてのサポート体制の検討」を進めていくことが重要になってくるものと思われる。しかしながら、次年度以降も対処すべき課題は少なくない。

そして、学部委員会だけではなく、全学委員会のレベルでの取り組みが必要なこととしてメンタルに問題がある就活生に対する特別な支援をどうするかという課題である。この点についても全学就職委員会で積極的に議論し、対策を練っていきたい。

なお、平成28年度の総合経営学部4年次生（3月卒業生）の就職状況（下記の表を参照）については、就職内定率が98.8%となった。これを学科別に見ると、総合経営学科（就職希望者87名、就職内定者86名）が98.9%、観光ホスピタリティ学科（就職希望者73名、就職内定者72名）が98.6%であった。すなわち、これは就職希望者160名の中で2人だけが就職できなかったことを意味する。これは下記の表でもわかるように平成22年度から見ると、きわめて高い就職率を達成していることになる。今後、地域経済の動向を見極め、地域企業のさまざまなニーズに積極的に応えられるような体制と活動を行っていき、このレベルの就職率を維持していくことが重要であると思っている。

総合経営学部4年次生（卒業生）の就職率の推移

年 度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
就職率 (%)	90.0	92.9	94.5	93.2	96.5	99.4	98.8

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

次年度においては、大学全体の委員会構成の中で、キャリア教育（キャリア教育センター運営部会）と就職支援（就職委員会）の2つの役割分担を明確することとなっている。しかしながら、実際の委員会の活動の中では、上記の役割分担が明確には実施されていないのも現状である。その故、

就職委員会は就職支援に特化する移行期である点を踏まえ、キャリア教育の側面を教務委員会等に段階的にシフトさせながら、実際に就職活動を行っている学生一人ひとりに集中し、「きめ細かな就職支援体制を構築することで、就職率の大幅な向上と維持等」を目指していきたい。そのために、以下のような改善・改革に向けた方策を引き続き取っていくこととする。

〔方策1〕2・3年生向けの就職活動関連の諸行事について徹底的な見直しを行い、より効率の高い就職支援体制を構築していく。特に「キャリア面談」（従来のキャリアカウンセリング）、夏期就職合宿、冬期就職活動支援講座、就職活動直前セミナー、保護者就職説明会等について再検討を行っていく。そして、本学部の就職活動支援にもっとも特化する形で成果を出していきたい。これは全学就職委員会との緊密な連携がきわめて重要な事項であることを認識し、働きかけをしていきたい。

〔方策2〕本学部就職委員会では、学部の特色をふまえ、公務員（警察・消防・役所など）への就職試験対策を強化していく。引き続き次年度も、大変厳しいとは思いつつ、10名以上の公務員の輩出を目指していきたい。やっでできないことではない。とくに、公務員対策講座などとの連携を図り、強い意欲を持つ学生について積極的に支援体制を構築し、掲げた目標を達成していく。

〔方策3〕クラス担当教員との密接なコミュニケーションによって4年生の状況と動向等をより細かく把握する。クラス担当教員には月末毎に「就職活動進捗状況確認シート」の提出を依頼しているが、受け持っている就活生に何らかの進捗が見られた場合には、教職員と学生の間で速やかに連絡が取れる体制を構築していく。とくに、このキャリア形成のクラス制は就職支援を目的に新たに作られた体制で、従来の専門ゼミとは異なり、より就活生へのきめ細かな支援が可能になると思う。この体制はできる限り長く続けていきたい。また、就活生には学生ポータルを活用してもらい、このツールを用いることで、就活生の状況把握に役立てていきたい。

〔方策4〕大学教育における出口の重要性を学部の全教員が共通認識を持ち、引き続き、上記のキャリア形成クラス担当教員のみではなく、学部全体の就職支援体制の構築、とりわけ学部・学科内の全教員による就職支援体制を構築していく。たとえば、就職活動関連の諸行事に、就職委員のみならず、他の教員も積極的に参加するよう依頼・誘導をしていく。

<執筆担当/就職委員会 総合経営学部主任 成 耆政>

(3) 人間健康学部就職委員会

1) 年度当初の計画 <P>

平成28年度、人間健康学部就職委員会では延べ11回の部会を開催し、昨年度までの積み上げをもとに、就職活動に対する学生の意識を高めていくための授業や各種希望制の講座等を計画した。

また、これまで同様、「就職内定時期の早期化」に対応するため早い段階からの就職活動を促す一方（特にスポーツ健康学科においては、3年生対象の夏季就職合宿、就職対策講座、もしくは就職活動直前対策講座への参加をゼミ教員と連携して強く促すようにした）、学生たちの希望とのマッチングを重視した支援を目指した。具体的には、ゼミ教員との連携やキャリア面談等を通して多様化する学生のニーズや状況等を把握することに務める、及び内定後における企業選択・決定の相談にも必要に応じて対応する、等である。それは、学生たちに対して「就職内定時期の早期化」や「高い就職率」のみを目指した“安易な”進路決定を強いることなく、彼らが自らの進路や将来についてじっくり

りと考え、悩み、その上で“納得した”進路決定をするための支援を目指したいと考えたからである。

しかし、納得した進路決定のためには、やはり早い段階からの就職活動が欠かせない要因となる。それは、より多くの求人がある時期に活動を開始することにより、選択の幅は広がるであろうし、上述のような時間を確保することが可能となると考えられるからである。

このような目的意識のもとに、就職活動の支援を活性化することを目指した。

2) 実績・現状 <D>

平成 28 年度、人間健康学部就職委員会が行った主な就職支援に関わる活動（学年別に列挙）は以下のとおりである。

①4 年生に対する就職支援

- ・ゼミ担当による就職活動状況調査の徹底、キャリアセンターとの連携強化、キャリアセンター職員によるゼミ訪問
- ・合同企業説明会、及び単独企業説明会への参加促進
- ・未決定者対象のキャリア面談の義務化（8 月～9 月）

②3 年生に対する就職支援

- ・前期必修講義「キャリアデザインⅠ」、後期「就職支援ガイダンス」
- ・キャリア面談（2 月）
- ・各種希望制講座の実施（主に夏季就職合宿（1 回目 9/1(木)～2(金)、2 回目 9/8(木)～9(金)）、1 月就職対策講座（1 回目 1/7(土)、2 回目 1/8(日)）、2 月就職活動直前対策講座（1 回目 2/27(月)、2 回目 2/28(火)））
- ・保護者就職説明会の実施（5/28(土)）

③2 年生に対する就職支援

- ・後期必修講義「キャリアデザインⅠ」
- ・キャリア面談（5 月～8 月）

3) 点検・評価の結果 <C>

①就職支援

2 年生後期より必修講義「キャリアデザインⅠ」、3 年生前期の必修講義「キャリアデザインⅠ」、及び後期の「就職支援ガイダンス」といった講義を通して、常日頃から自己のキャリアを考えるための機会を提供した。いずれも例年並みの高い出席率であった。

また、今年度はゼミ担当教員とキャリアセンターが連携をこれまで以上に強化し、ゼミ担当による就職活動状況調査の徹底やキャリアセンター職員によるゼミ訪問を継続して行った。また連携強化の一環として、夏季就職合宿、1 月就職対策講座、及び 2 月就職活動直前対策講座といった各種希望制講座への学生の参加を、ゼミ担当より強く促してもらうようにした。その結果もあり、例年以上の参加者数を得た（特に、スポーツ健康学科の参加学生数の増加は著しい）。具体的な参加者数は以下のとおりである。

- ・夏季就職合宿への参加者：健康栄養学科 31 名、スポーツ健康学科 20 名
- ・1 月就職対策講座への参加者：健康栄養学科 31 名、スポーツ健康学科 44 名
- ・2 月就職活動直前対策講座への参加者：健康栄養学科 4 名、スポーツ健康学科 31 名

なお、これらの講座は参加者（3 年生）にとって、就職活動を終えた 4 年生の先輩学生から体

験談を聞き、就職活動に向けたアドバイスをもらえる貴重な機会となっている。また、スタッフとして参加した4年生にとっても、自らの就職活動を振り返り、内定先の企業を深く知り、内定先に対する愛着や誇りを感じることでできる貴重な機会となっているようである（アンケート結果より）。

②就職状況

人間健康学部卒業生の就職内定率は99.4%（健康栄養学科100%、スポーツ健康学科98.8%）、と継続して高い数字を維持している（過去3年間、平成27年度98.8%、平成26年度98.2%、平成25年度97.4%）。今年度については景気回復も背景にあると考えられるが、加えて上述のとおり、ゼミ担当教員とキャリアセンターの連携を強化したことにも起因すると考えられる。

なお近年は、健康栄養学科では、従来の専門職種（医療現場やサービス業における栄養士・管理栄養士）に加えて、ドラッグストア等における栄養指導や健康指導に関わるニーズが高まっており、卸売・小売業への内定者が増加している。また、スポーツ健康学科では、専門職種（運動指導・医療福祉分野、及び教員等）に加えて、金融業界や公務員等の実績も徐々に増えており、ともに多様な進路が獲得できるようになってきていると言える。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

①就職先の開拓

両学科共に、各学科の専門に関する分野でのさらなる就職先の開拓に力を入れていく必要がある。特に健康栄養学科においては、30年度に開学となる長野県立大学の管理栄養士養成課程も視野に入れながら、キャリアセンター職員と連携し、各専門領域の教員や就職委員による企業訪問等を積極的に行っていく必要もあるかもしれない。

②「就職内定時期の早期化」と「納得した進路決定」の両立

平成28年度当初の計画にもある通り、「就職内定時期の早期化」と「納得した進路決定」の両立を引き続き目指していく。そのためにも、より多くの求人がある時期の活動開始を、ゼミ担当教員とキャリアセンターがより連携を強化し促していく。

なお、近年になって内定後の決定を急がせる企業が散見される。よって、学生たちが「納得した進路決定」を行うために、内定後における企業選択・決定の相談等にも必要に応じて対応していく。

③教職センターとの連携

引き続き、教職センターとの連携を強化し、教職希望学生への支援を行っていく。

④管理栄養士国家試験と就職活動の兼ね合い

健康栄養学科においては、早期に内定を獲得する学生は国家試験にも合格し、内定までに時間がかかった学生は国家試験も不合格となる傾向がある。学生たちが希望する進路決定と資格取得を共に実現できるよう、人間健康学部就職委員会としても可能な限り支援していきたい。

<執筆担当/就職委員会 人間健康学部主任 齊藤 茂>

(4) 松商短期大学部就職委員会

就職委員会は、キャリアセンターをはじめとする各事務局と教員の連携を図り、進路支援カリキュラムの作成・実施を行う組織として設置され、平成28年度においては、委員長1名、主任1名、委

員3名、事務局3名の計8名で構成され、17回会議を設けて、進路支援に当たった。

1) 年度当初の計画 <P>

経済情勢の回復傾向が継続した平成27年度においては、松商短期大学部学生の就職状況も引き続き好調に推移し、内定率は99.5%と平成26年度をさらに上回る高い数値となった。平成28年度においても引き続き経済情勢の好転が見込まれるものの、就職選考会解禁が6月に前倒しされることに伴い、学生の負担増加が懸念されるなど予断を許さない状況であった。

このような情勢を踏まえ、2年生の就職活動支援については、平成27年度に引き続き、就職相談・面接練習機会の増加、就職委員会からのゼミ担当教員に対する積極的な情報提供、キャリアセンター職員による企業開拓、情報整理等、様々な支援を展開することとした。また、「キャリアクリエイトⅢ・Ⅳ」を引き続き必修科目として実施し、「キャリアクリエイトⅢ」においては、業界・業種研究、マナー研修をはじめとする実践的な就職活動支援を、「キャリアクリエイトⅣ」においては、早期離職防止を目的とする社会人としての必須知識の習得を狙った講義を展開することとした。そして、2年生後期において内定を得ていない学生に対するヒアリングおよび個別相談を昨年度同様、2回行った。なお、平成24年度より原則として全学生の保護者に対し、就職委員会から就職活動状況を伝える書面を6月に発送することとしている。さらに、8月、11月には不活発な学生の保護者のみに書面を送付し、保護者と学生に就職問題に真剣に取り組むことを促す取り組みを継続して行うことにした。

1年生に対しては、フリーター等で満足してしまうような学生数をより減少させるため、本学のキャリア教育の中心科目である「キャリアクリエイトⅠ・Ⅱ」を引き続き必修科目とし、「キャリアクリエイトⅠ」で「現代社会の理解」「働くことの意味」「高等教育機関で勉強することの意味」「学ぶことの意味」「本学で学ぶことの意味」などについて考えさせる取り組みを継続して実施し、目的意識の明確化と就業意識の形成を促すことにした。また、12月から1月にかけてキャリアセンター主催で行われる「業界研究勉強会」への参加を促すこととし、2月には、従来どおり集団面接講座を実施することとした。

2) 現状の説明 <D>

短期大学部における進路支援は多岐に渡っており、これは大きく分けて、①キャリア系講義、②インターンシップ、③面接練習および就職相談、④キャリア面談、⑤資格取得、⑥ゼミ担当教員による個別指導という6つから構成されている。これらの進路支援のうち、特に、①キャリア系講義のシラバス作成から始まる講義運営や②インターンシップの実施、③④の面接練習・相談・キャリア面談については、「就職委員会」および「キャリアセンター」がその中心的役割を担っている。本学キャリアセンターが収集した情報は、キャリア系講義内で、学生に周知徹底される。これは、紙ベースのみならず、学生全員が所有するIT端末へも配信される。なお、キャリアセンター内では、さらに細かい情報や、卒業生の就職活動報告書を整備し、学生はこれらの豊富な情報をいつでも閲覧可能である。最新の情報は、就職委員会で逐次把握するとともに、学生の応募状況や就職内定状況等の情報をすべての教員・事務局と共有することで、状況に即応できる体制を構築している。

2年生の就職活動支援については、平成27年度に引き続き、就職相談・面接練習機会の増加、就職委員会からのゼミ担当教員に対する積極的な情報提供、キャリアセンター職員による企業開拓、情報整理等、様々な支援を展開した。なお、2年次の必修科目として、本学のキャリア教育の中心科目である「キャリアクリエイト」のうち、Ⅲ・Ⅳを実施した。「キャリアクリエイトⅢ」では、業界・

業種研究、マナー研修、講演など就職活動にあたり必要な知識の習得を目指すとともに、具体的企業情報の提供を行った。

「キャリアクリエイトⅣ」においては、就職内定者教育を強化することとしつつ、就職活動が遅い未内定学生に対しても当初計画通り、ヒアリングおよび個別相談を2回実施するなど、卒業間際まで就職支援を行えるようにした。

1年生の就職活動支援については、本学のキャリア教育の中心科目である「キャリアクリエイト」のうち、Ⅰ・Ⅱを実施し、「キャリアクリエイトⅠ」で現代社会の理解、働くことの意味、学ぶことの意味などについて考えさせる取り組みを継続して実施し、目的意識の明確化と職業意識の形成を促した。これら「キャリアクリエイトⅠ」の必修化は、本学学生の「就業力」と「学士力」の向上に資するものであり、目的意識を持って積極的に就職活動に取り組む態度を育成するものである。

「キャリアクリエイトⅡ」においては、1年次3月にスタートする就職活動に向けた実践的知識の習得を目指した内容の講義を実施した。これにより、就職活動期にスムーズに移行することが可能となる。さらに、1年次2月には、全学生を対象として、本学教職員を面接官とする集団面接講座を実施した。

「キャリアスタンダードⅠ・Ⅱ」においては、就職活動のうち、筆記試験対策に特化した内容の講義を実施することとし、進路支援に万全を期している。

正規科目以外には、昨年度から引き続いて実施された、キャリアセンターが主催する「業界研究勉強会」への参加を短大1年生に促したが、これは多様化する進路先に対しての理解をより一層深め、ミスマッチの解消を狙うことが目的である。さらに、本年度から松本市が主催する「企業見学会」への参加を学生に促した。これは、本年度中に2回実施され、それぞれ5名前後の学生が参加した。

保護者に対しては、就職委員会から就職活動状況を伝える書面を6月に発送した。そして、8月、11月には不活発な学生の保護者のみに書面を送付し、保護者と学生に就職問題に真剣に取り組むことを促した。

3) 点検・評価の結果 <C>

2年生に対する支援については、まず、キャリアセンターを利用する学生の数が昨年度に比べて急増した。これは、就職活動時期の変更という要因もさることながら、キャリアセンターの取り組みの成果でもある。

内定率については、学生の就職希望先企業・業種の多様化に対応するよう積極的に学生に働きかけた結果、平成26年度の97.1%、平成27年度の99.5%を上回る「100%」を達成することができた。この結果は、経済の回復傾向を背景とした地域企業の旺盛な採用意欲に後押しされたところが大きい。1年次から引き続きキャリア面談や業界研究、マナー研修をはじめとするキャリア支援プログラムとともに、ゼミナール教員による手厚い個別指導により、不安解消とサポートを充実させた成果であると考えている。

また、基礎学力の高い学生から低い学生まで多様な学生の入学に対応するため、入学前教育を活用して『社会教養』等のテキストを配布し、また、数学にはEラーニングも実施して入学前から基礎学力向上に力を入れ、1年次の早い段階から一般常識・基礎学力の模擬試験を行い、効果測定を実施している。これらの取り組みが本年度の結果に好影響を与えたとも考えられよう。

一方で、平成28年度のインターンシップ参加者は6名と減少の一途をたどっており、改革が求め

られる点である。この点に関しては、前節でも触れたように松本市主催の「企業見学会」へ参加を促すなど新たな試みも行われたが、より一層の議論が必要である。

また、最重要課題は学生の就職活動の活発化にある。学生を「求職カードを提出した形式的な就活生」とするのではなく、「就職活動を積極的に行う実質的な就活生」とすることが求められる。平成28年度においては、内定率こそ100%とこれ以上ない結果となったものの、進路未決定者のうち就職意思のないものが若干名いることも事実である。これらの進路未決定者の減少が今後の課題である。

4) 次年度に向けた対応 <A>

次年度は、日本経済の回復傾向が継続し、それに合わせて雇用環境の改善も継続すると予想される。しかしながら、平成29年度においても、就職選考会解禁は6月となる。事実上の就職活動開始時期は平成29年3月と変更がないものの、様々な混乱等が生じる恐れもありうることから予断を許さない。

これらの状況を見据えながら、インターンシップ参加者の減少という問題に対して、具体的改革に着手する予定である。インターンシップについては、これまでも様々な議論を重ねてきところであるが、これまでの大学主催のインターンシップのみならず学外主催のインターンシップへの参加を促すなど多くの学生が参加できるような環境を整え、単位化を含めた具体的な改革案の構築を目指す予定である。

最も重要な課題として挙げた学生の就職活動の活発化については、就職活動が遅い未内定学生に対して卒業間際まで就職支援が行えるようにし、特に未内定者への個別のヒアリングの実施回数を増やし、個々の事情に合わせた就職支援を行ってきたが、この成果も着実に表れているため、平成29年度も継続していく予定である。

なお、本学学生の中には集団面接、集団討論で埋没してしまう者が多いと思われ、その対策として従来同様に集団面接の面接練習を行うこととした。これによって就職活動の不安を軽減することを目指している。

また、平成29年度より、就職委員会の組織を残しつつ、従来、就職委員会が行ってきた業務（科目運営等）をキャリア教育センターに移管することにした。これは、キャリア教育と就職支援が現状の就職委員会の活動内に混在し、教員と職員の役割分担が不明確になることで、様々な問題が顕在化してきていることに対する対応である。すなわち、単位認定科目でありながら職員が中心となる科目、事実上就職活動支援の内容でキャリア教育科目として単位認定されている科目等があり、授業内容の見直しと教職員の職務内容の棲み分けが必要になってきた。そこで、本学のキャリア教育と就職関連科目について見直す観点から、就職委員会が行ってきた科目等をキャリア教育センターに移管し、キャリア教育の面から、キャリア教育センターが行うキャリア教育と就職委員会が行う就職活動支援の棲み分けを行うことにしたのである。そこで、次年度は、教職員の業務の棲み分け、科目内容の再検討を行い、平成30年度からは徐々に授業内容の見直しを行うとともに、就職委員会の本来業務と考えられる就職活動支援の充実を図っていく。

<執筆担当/就職委員会 藤波 大三郎>

II. 研究推進及び管理部門

1. 研究推進委員会

1) 役割 <P>

研究推進委員会の目的は、本学教員の研究活動の支援であり、そのための研究資金の配分と実際の研究活動実施の支援を委員会は司っている。残念ながら、本学では研究資金として大学が支援できる金額には限界があり、教員各人が外部資金を獲得して研究を実施することが望まれる。大学教員の研究活動のための主要な外部資金は科学研究費補助金であり、教員それぞれが科研費を取って研究を行うことが理想ではある。しかしながら科研費は採択率が3割弱程度の競争的資金であり、基本的に過去の実績を重視する審査である。したがって、科研費に応募するための準備研究に関しては、個人研究費や大学の学術研究費で積極的に支援していきたい。

一方、学内研究助成に関しては、申請が特定の教員に偏る傾向がみられる。底辺の広がりなくして、研究の質の向上はありえず、科研費申請者の増加なくして採択者の増加はありえない。委員会としては、できるだけ多くの教員が研究を遂行できるよう、支援制度の改変を行っていく必要がある。

2) 活動目標の実施状況 <D>

- ①私学事業団経常費補助金特別補助「大学間連携等による共同研究」を積極的に利用するように、学内に積極的に広報を行った。従来“大学間”という文言を狭く解釈して応募を選択してきたが、今年度は“大学間連携等”を広く考え、長野県商業教育研究会との連携で行っている「マーケティング塾」をこの枠組みでの研究計画として支援していくことにした。
- ②過去の実績を問わず次年度や次々年度での科研費申請の準備になるような研究を支援するための「萌芽研究」の枠組みを昨年度から学内の学術研究助成にも作ったが、今年度もこの枠組みでの募集を行った。

3) 点検・評価 <C・A>

- ①現在科研費の審査体制が大きく変更されている最中であり、今年度新規申請の採択結果がいまだ確定していない状態ではあるが、現在のところ、本学の採択数は非常に少ない。本学においては科研費の採択数が減少しており、それにもまして、近年科研費への応募数が減少しており、今年度も改善することはできなかった。学内学術助成申請教員の常連化も見られる。研究活動の活発化のためには、申請書の書き方のような技術的な問題だけではなく、教員の研究環境と意識の改善に向けた方策が望まれる。
- ②前項の科研費申請の申請者を増やす方策として始めた萌芽研究に関しては、本年度も応募があり、予算査定の後採択された。研究成果が科研費申請につながることを期待したい。
- ③科研費以外の外部資金に関しては、専門分野ごとに状況が大きく違うので、部局ごとに適切な情報収集に努め、応募を促していく必要がある。
- ④私学事業団特別補助「大学間連携等による共同研究」を活用し長野県商業教育研究会との共同研究活動である「マーケティング塾」への支援を行った。この活動は地元の高校教員との共同研究であり地域の高校生の教育改善の試みである。本学らしい研究内容とスタイルだと評価で

きる。松本大学らしい活動として、このような研究をより一層支援していくことが重要である。

⑤COC や COC+の活動予算との関係で、研究推進委員会の管轄下での「地域活動」や「教育活動」が少なくなっている。これらの範疇に入る研究活動についても、松本大学らしい研究活動として、委員会の枠を超えて支援やプロモートを行い、成果をまとめていくことをめざしたい。

＜執筆担当／研究推進委員会 委員長 室谷 心＞

(1) 研究誌編集部会

研究誌編集部会は大学院研究科長、総合経営学部学部長・両学科長、人間健康学部学部長・両学科長、松商短期大学部学部長・両学科長を委員として運営した。事務には管理課・総務課があたった。

1) 年度当初の目標 <P>

「松本大学研究紀要」と「地域総合研究」の両誌を研究誌編集部会が管轄する。研究誌規定の有効性を確認しながら運用していく。

2) 目標の実施状況 <D>

- ①「松本大学研究紀要」と「地域総合研究」の両誌原稿募集、編集出版を行った。「地域総合研究」には、原著論文3編、研究ノート3編、調査・事例報告2編の合計8編掲載した。「松本大学研究紀要」には原著論文4編、研究ノート6編、調査・事例報告1編、教育実践報告3編の合計14編掲載した。
- ②著者からの意見や質問を取り入れ、執筆規定の若干の修正と運用の安定化を図った。
- ③教育学部の開設に伴い、研究誌を「松本大学地域総合研究」「松本大学教育総合研究」「松本大学研究紀要」の3誌体制とし、出版スケジュールや掲載論文規定を改定した。

3) 点検・評価の結果（目標の達成状況）<C>

- ①論文執筆に関しては、規定の修正と執筆側の習熟によって苦情の数は減少した。今後も改善して生きたい。
- ②形式査読に関しては、“形式査読”の概念自体が不明瞭で編集委員会内で安定しておらず、査読者によって作業内容にばらつきがあった。また、査読の労力が大きく、効果に見合うのかどうかも疑問である。しかし第三者が読みチェックすることによって、論文の最低限の質保障には確実に寄与しているといえる。

4) 次年度に向けて <A>

- ①本学の研究誌編集委員会の目指すものは、本学所属教員の活発な研究成果発表である。教員が論文発表を円滑に続けていけるように、今後もプロセスや規定などを改正していきたい
- ②CINII から J-stage への移行に伴い、の必要となる事務作業の変更を確認し、本学教員の成果発表の場を確保していくことは重要である。

＜執筆担当／研究誌編集部会長 室谷 心＞

(2) 松本大学出版会運営部会

1) 年度当初の計画・本年度の活動状況 <P・D>

- ①松本大学出版会規程の改正を行った。(平成28年8月1日より施行)
- ②出版申し込み書の整備を行った。
- ③昨年度出版した「地域づくり再考～地方創生の可能性を探る～」について、広報・販売活動を行った。
- ④既存の書籍についての販売、在庫管理等を行った。

2) 点検評価・来年度の事業計画<C・A>

- ①松本大学出版会規定の見直しを行い、規定と出版申込書の改定を行ったが、出版募集は行わず出版も行わなかった。
- ②活動事業報告の出版と出版希望募集による出版の2系統の出版が混在しており、限られた予算で安定して定期的出版を続けていくために、今後計画を整理していく必要がある。また、出版物の質を担保するためには、出版希望についての選考や出版にあたって編集を行う業務分担を確立する必要がある。
- ③在庫の確認のみ行い、整理には手を付けなかった。出版後一定期間を過ぎた書籍は著者に贈与するなどして在庫の整理をしていく。その際、PDFなどの形で原本を保管する手段を確立する。

<執筆担当/松本大学出版会運営部会長 室谷 心>

(3) 地域総合研究センター運営部会

地域総合センター運営委員会は研究を司る部門の一つとして、研究推進委員会のもとにおかれ学長、学部長、研究科長、学科長により構成され活動した。センターの研究員は従来通り本学の全専任教員であり、外部研究員として中野和朗、建石繁明の2名、さらに昨年度からの継続の5名に加えて、今年度も新たに特別調査研究員2名を加え活動した。

1) 年度当初の計画 <P>

平成27年度の活動計画は次の通りであった。

- ①地域総合研究第17号の発行。Part I, IIの2部形式を踏襲し、Part II部アニュアル・レポートとする。ただし、地域総合研究センターは出版を受け持つものであり、Part Iの編集作業は研究推進委員会研究誌編集部会が行い、Part IIは自己点検・評価委員会がデータの収集整理を行う。
- ②外部団体等から大学宛に持ち込まれる、新規・継続を含めた受託事業(研究、共同事業、調査など)の受付窓口となる。運営部会において適任者を決めてお願いし、その活動のサポートを行う。また、教員個人の受託事業についても当センターがその受入窓口となり、受託費管理等の実務を担当し、報告書作成などの支援も行う。
- ③松本市と連携して実施する事業
 - (ア) [地域づくりに係わる松本大学との連携協力に関する協定]に基づく事業
 - a) 人材育成(地区コーディネーター、職員等育成・研修事業他)
 - b) 地域づくり・市民活動に関する研究集会事業

- c) 各地域への指導・助言
- d) 上記を実施するために必要とみなされた、調査研究
- (イ) 観光ホスピタリティ・カレッジにおいて、企画立案を含めてその運営に主体的に取り組む。
- (ウ) 講演会、シンポジウム、フォーラム等のバックアップ
(特にチラシ作成、報告集の作成など)。
- (エ) 石巻市より、松本大学東日本大震災災害支援プロジェクトの業務依頼（運営管理と会計処理）をうけ受託遂行した。

2) 活動状況 <D>

本年度の活動計画に沿って下記のような活動を実施した。

- ① 『地域総合研究第 17 号』 発刊
- ② 受託事業窓口業務

平成 28（2016）年度 受託事業一覧

	受託先機関	業務内容	期間	担当者
1	松川村	平成 28 年度「松川村観光振興支援業務」	H28.4.1～ H29.3.31	山根 宏文
2	池田町観光振興支援業務	平成 28 年度「池田町観光振興支援業務」	H28.4.1～ H29.3.31	山根 宏文
3	筑北村	平成 28 年度キラリ☆アクア健康教室	H28.5.11～ H29.2.28	根本 賢一
4	生坂村	こたろう大学	H28.4.1～ H29.3.31	犬飼 己紀子
5		筋力向上プログラム	H27.4.1～ H28.3.31	田邊 愛子
6		通学合宿	H28.4.1～ H29.3.31	廣田 直子
7	テスコム電機株式会社	テスコム電機の開発製品である「真空ミキサー」の有する性能が、健康(特に、肌・消化器)に対して作用にする効果に関する小規模実証実験	H28.6.1～ H28.8.31	廣田 直子
8	安曇野市	安曇野市子ども学習支援事業	H28.8.1～ H28.11.30	尻無浜 博幸
9	安曇野市商工会	安曇野市の特産品を使用した新たな商品の開発	H28.4.1～ H29.3.31	矢内 和博
10		焙煎そば粉 EX を使用したそばまんじゅうの新商品開発	H28.8.1～ H29.3.31	矢内 和博
11		わさびを使用した新商品開発	H28.8.1～ H29.3.31	矢内 和博
12	有限会社あづみの食品(株式会社まるたか)	6次産業推進にかかわる研究開発業務	H28.4.1～ H29.3.31	矢内 和博
13	齋藤農園	6次産業	H28.4.1～ H29.3.31 (H33.3.31)	矢内 和博

14	有限会社ヘルシーフーズ	安曇野市地域資源活用型連携推進事業に伴う、農産物加工品製造の開発業務	H27.12.25～ H30.03.31	矢内 和博
15	株式会社日健総本社	新規健康食品の開発	H28.4.1～ H29.3.31	矢内 和博
16	株式会社ユアーズ静岡	安曇野市「しゃくなげの湯」において販売及び提供する商品並びにサービスの商品開発。 イベント等を通して安曇野市「しゃくなげの湯」の活性化。	H28.4.1～ H29.3.31	矢内 和博
17	石巻市	緊急スクールカウンセラー等活用事業	H28.4.1～H29.3.3	木村 晴壽
18	松本商工会議所・松本市勤労者共済会・全国健康保険協会長野支部・松本市	企業の健康経営促進に関する連携協定	H28.7.4～H31.7.3	等々力 賢治

③地域との連携事業

松本市との地域づくりインターンシップ戦略事業 他

④松本大学大学祭「梓乃森祭」50回記念『姜尚中氏講演会』企画・運営

3) 点検・評価 <C・A>

- ①受託事業については、今年度着手した受託研究取扱規程の見直し、および受託研究実施フロー、受託研究受入申込書、受託研究完了報告書の整備を早急に行い、これにのっとりスムーズで明確な活動を行う。
- ②松本市と新たに締結した「地域づくりインターンシップ戦略事業業務委託」によって、今年度も新たなインターン生を本センター特別調査研究員として受け入れた。次年度もこれまでの特別調査研究員の継続に加えて、さらに若干名を新たに受け入れる予定である。COC 戦略会議等と連携し、インターン生の業務目的達成にむけて活動を支援する。また、その他事業についても必要なサポートを続けて行く。
- ③講演会、シンポジウム、フォーラム等に関しては、COC 戦略会議が主体となって行っており、連携しながら今後も必要なサポートを行う。
- ④松本大学東日本大震災災害支援プロジェクトに関しては、今年度を一応の区切りとする計画であり、活動のまとめと成果の出版という業務を遂行する。

<執筆担当/地域総合研究センター運営部会長 室谷 心>

2. 研究倫理委員会

1) 年度当初の目標 <P>

今年度も「松本大学研究倫理委員会規程」に則り、研究の倫理および不正行為に係わる基本的事項に関する事、研究者から申請のあった研究の実施計画の審査に関する事、研究に係わる個人情報保護に関する事、その他研究の倫理に関する事を審議することを目標とする。

2) 目標に対するの実施状況 <D>

本年度、研究倫理委員会の委員構成を以下に記した。事務局からは総務課長を含めて3名が参加

した。

学長が指名する大学院及び各学部から選出された教員

山田 一哉、室谷 心、尻無浜 博幸、矢崎 久、河野 史倫、木下 貴博

研究に関する倫理的及び法的事項を総合的に判断するにふさわしい識見を有する者

増尾 均、福島 智子

一般の立場を代表する学外者

瀬川 格淳（専称寺住職）

a) 研究計画審査

2016年度に当委員会へ研究倫理審査申請のあった案件は以下のとおり5件であった。

<第16-01号>

研究者名：健康科学研究科 福島 智子准教授

研究計画名：イタリアにおける看取りに関する聞き取り調査

研究の意義・目的：本研究では、世俗化・医療化がすすむ欧州社会において、死にゆく人々を支える医療やケアが、どのような思想的基盤によって支えられているかを明らかにし、（思想的基盤があいまいな）米国からの輸入によって展開されている日本におけるホスピス緩和ケアの混乱（問題点）を解消するに資する示唆を得ることを目的としている。イタリアにおいて聞き取り調査を実施し、現代イタリアにおける看取りの現状を明らかにする。

研究対象者：イタリアの看取りの活動に従事する医療者・宗教者・ボランティア・家族
15～20名

研究期間：平成28年8月1日より平成30年3月31日まで

<第16-02号>

研究者名：健康科学研究科 根本 賢一教授

研究計画名：異なる形式のジャンプと競技特性の関連性

研究の意義・目的：スポーツを行っている大学生を対象とし、身体組成、異なる形式でのジャンプ（カウタームーブメントジャンプ、リバウンドジャンプ、スクワットジャンプ、ドロップジャンプ）を測定し、競技特性を検討することを目的とする。

研究対象者：100名

研究期間：平成28年7月6日から平成30年3月31日まで

<第16-03号>

研究者名：人間健康学部 矢内 和博専任講師

研究計画名：視機能に対するドナリエラ・バーダウィルカプセル摂取の影響

研究の意義・目的：近年パソコンやスマートホンなどの液晶画面を長時間見ることが増え、視力の低下や目の疲れなどを感じる事が多いと言われている。特にブルーライトなどは、眼の酸化ストレスとなることから視機能の低下が考えられている。微細藻類ドナリエラに含まれるβ-カロテンは、抗酸化食品として知

られ、健常者にドナリエラ・バーダウィルカプセルまたはプラセボカプセル（カラメル色素（I）：セルロースを1:1）を経口摂取させ、視機能に対する影響を調査する。

研究対象者：60名

研究期間：平成29年4月1日から平成29年8月31日まで

<第16-04号>

研究者名：健康科学研究科 福島 智子准教授

研究計画名：キックボクシングにおける急速減量の実態とその背景

研究の意義・目的：本研究では、多くのキックボクシングの選手が試合前に選択する急速減量という行為が、その危険性、運動パフォーマンスの低下の指摘を多数受けているにもかかわらず、なぜとられ続けているのかを検討する。キックボクシングという競技社会を概観し、その構成要素であるジム、そして選手個人の価値世界を読み取ることで、この競技と不可分の関係にある減量の現状と、とりわけ急速減量という行為が選手たちにとって何を意味するのかを明らかにすることを目的としている。

研究対象者：10名～15名

研究期間：承認日から平成31年3月31日まで

<第16-05号>

研究者名：健康科学研究科 福島 智子准教授

研究計画名：送球イップスに関する高校球児の実態調査とイップス体験についての聞き取り調査

研究の意義・目的：本研究では、高校野球の選手において表面化しにくい運動失調の一つである送球イップスを対象として実態調査を実施し、どのような背景の選手が、どの位の割合で、どのような状態でイップスを経験しているのか、また、高校野球の選手の間では、イップスはどのように捉えられて定義づけられているのか、そして、イップスを解決するために、どのような社会資源（医療機関や整骨院等の機関やトレーナーや理学療法士等の選手をサポートする個人）を利用し、どのように対処しているのかを明らかにする。そして、イップス経験者に対する聞き取り調査から、選手個人が、自分の症状をどう捉え、自分の競技生活や生活史の中でそのことをどう意味づけているのか、それは高校野球の選手間でのイップスについての言説とどのように関わっているのか、具体的対処法とその結果を明らかにする。研究結果は、イップスの苦しみを本人や周囲が理解し、より有効な対処法を見いだす一助となることが期待される。

研究対象者：1.実態調査800名、2.聞き取り調査10～20名

研究期間：承認日から平成31年3月31日まで

b) 研究倫理教育について

- ・研究倫理教育の一環として下記講習会を開催した。

8月2日(火) 16:50-18:20

研究倫理委員会主催 講習会「研究に「倫理」が必要なのはなぜか～哲学研究から医学研究まで～」

講師：東京大学大学院医学系研究科医療倫理学分野 中澤 栄輔 助教

c) 大学院生向けの研究倫理教育について

引き続き、大学院生の必修科目である「健康科学特論」の第1回目に研究倫理に関する内容を導入した。また、日本学術振興会編集のe-learning システムを受講させた。

d) その他

本学大学院生の研究テーマの主たる研究者が、信州大学から城西大学に移籍したことに伴い、城西大学からの申し出により、①学長名で城西大学の倫理審査の決定に従う旨を記載した文書と、②他の倫理機関の審査を通過したもの（特に上位機関）について、本倫理委員会においても追認することを承認した「松本大学研究倫理委員会 平成22年度 第2回会議事録」を提出した。

3) 点検・評価の結果（目標の達成状況）＜C＞

a) 研究計画審査について

審議の際、すべての研究計画について規程・ガイドラインに照らした問題点の指摘とその解決策の例示を行った。委員長から、各申請者にそれらの点について修正を要求した。修正の確認に関しては委員会で委員長に一任した。委員長は、関係委員と申請書の適切な修正がなされたことを確認したあと、承認したというメールを全委員に配信した。また、修正審査の結果を申請者と最終責任者である学長に文書で伝達した。

b) 教員・大学院生に対する研究倫理教育

研究倫理に関する最低限の教育・講演会を導入することができた。今年度から教職員に加えて大学院生・学生も含めて34名が参加した。また、大学院生は全員に、e-learning の修了証を提出させた。

4) 次年度に向けて ＜A＞

次年度も研究倫理の厳格なる審査と研究倫理教育を推進していく。研究倫理教育に関しては、日本学術振興会の「科学の健全な発展のために -誠実な科学者の心得-」のe-learning 教育を広めていくことも検討課題である。

＜執筆担当／研究倫理委員会 委員長 山田 一哉＞

(1) 動物実験部会

1) 年度当初の目標 ＜P＞

今年度の目標は、従来通り動物実験の審査を適切に行うことと、公私立大学実験動物施設協議会による外部評価を受審することとした。

2) 目標の実施状況 ＜D＞

本年度、動物実験部会の委員構成を以下に記した。事務局からは総務課長を含めて3名が参加した。

動物実験等に関して優れた識見を有する者 山田 一哉、河野 史倫、川島 均
倫理等の学識経験を有する者 福島 智子
実験動物に関して優れた識見を有する者 実験動物管理者（羽石 歩美、塚田 晃子）

a) 動物実験審査について

本年度は下記の4件の申請を審査した。

<第16-01号（継続変更あり）>

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 高木 勝広教授

研究課題：インスリン様活性を有する食品成分のスクリーニングと作用機構の解析

研究目的：食物摂取後の哺乳動物の生体内での遺伝子発現の変動機構を解析する。

動物実験実施者名：健康科学研究科 田中 みすず

健康栄養学科 太田 綾子、小松 彩香、佐藤 颯、洪澤 舞香
他に学部生10名

実験実施期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日

使用動物：ラット（雄）50匹 マウス（雄）40匹

<第16-02号（継続変更あり）>

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 河野 史倫准教授

研究課題：骨格筋機能を決定する生理的要因とそのメカニズム解明

研究目的：活動歴や障害歴など骨格筋が経た前歴が骨格筋の適応性にどのような影響を与えるのか追求する。

動物実験実施者名：健康科学研究科 渡邊 敦也、柴田 和宏、増澤 諒

スポーツ健康学科 竹田 弘紀、中村 圭介 他に学部生8名

実験実施期間：承認後～平成29年3月

使用動物：ラット（雄）90匹

マウス（雄・雌）計30匹

<受付番号 第16-03号（継続変更あり）>

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 山田 一哉教授

研究課題：生化学実験（健康栄養学科2年生後期）

研究目的：絶食時および高炭水化物食摂取後の血糖および血中脂質濃度の測定と代謝酵素遺伝子の発現変動を解析する。

動物実験実施者名：健康栄養学科 浅野 公介助手、羽石 歩美助手、塚田 晃子助手

実験実施期間：平成28年9月～平成29年1月

使用動物：ラット（雄）15匹

<第16-04号（継続変更あり）>

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 山田 一哉教授

研究課題：ホルモンと栄養素による遺伝子の転写制御機構の解析

研究目的：食物摂取後の哺乳動物の生体内での遺伝子発現の変動機構を解析する。

動物実験実施者名：健康栄養学科 浅野 公介助手、羽石 歩美助手、塚田 晃 子助手、
他に院生 5 名、学部生 13 名

実験実施期間：平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

使用動物：ラット（雄）50 匹 マウス（雄）40 匹

b) 公私立大学実験動物施設協議会総会・研修会への参加

平成 28 年 6 月 30 日に開催された公私立大学実験動物施設協議会総会に委員長山田と実験動物管理者塚田助手が参加した。協議会として第 2 期目に入った外部評価基準等に関する重要な情報を得た。また、塚田助手は平成 28 年 7 月 1 日に開催された平成 28 年度第 1 回研修会「実験動物管理者の教育訓練」を受講し、修了証を受領した。

c) 公私立大学実験動物施設協議会による外部評価

平成 28 年 9 月 23 日に、公私立大学実験動物施設協議会から派遣された審査員 1 名による外部評価を受審した。

d) 動物実験に関する情報開示等

最新の規程・自己点検評価・実験動物の飼育数・教育訓練参加者数・動物実験部会委員構成、承認された計画数、公私立大学実験動物施設協議会による外部評価の結果をホームページ上で公開した。

e) 教育訓練

下記の日程で教育訓練を実施した。

平成 28 年 9 月 9 日 教育訓練（教職員・院生向け） 参加者 14 名

平成 28 年 10 月 4 日 教育訓練（学生向け） 参加者 90 名

f) その他

例年学内で行われている動物慰霊祭を、平成 28 年 5 月 18 日に挙行了した。塚田晃子助手が、実験動物に対する慰霊の言葉をのべた。

3) 点検・評価の結果（目標の達成状況）＜C＞

a) 動物実験計画について

すべての実験計画について審議の結果、規程・ガイドラインに沿った内容であったため、異議なく承認した。審査の結果を申請者と最終責任者である学長に文書で伝達した。

また、本年度の実験に用いた動物数は、ラット 141 匹、マウス 16 匹であった。

b) 公私立大学実験動物施設協議会による外部評価

外部評価を受審した平成 29 年 3 月 27 日付け検証結果報告書と検証実施証明書を HP 上に公開した。公私立大学実験動物施設協議会による外部評価を受審したことで、今年度で本学で動物実験を行うにあたって最低限必要な体制を全国基準で整備することができた。

4) 次年度に向けて ＜A＞

次年度は、公私立大学実験動物施設協議会の外部評価審査の指摘事項に対応しながら、動物実験をより適正に実施できる体制を維持していくことが重要である。

＜執筆担当／動物実験部会長 山田 一哉＞

(2) 遺伝子組換え実験安全部会

1) 年度当初の目標 <P>

目標は、遺伝子組み換え実験が安全に行われるように、遺伝子組み換え実験計画および実験施設の審査を厳格に行うこと、および規程等の改訂を行うことである。

2) 目標の実施状況 <D>

本年度、遺伝子組み換え実験安全部会の委員構成を以下に記した。事務局からは総務課長を含めて3名が参加した。

遺伝子組み換え実験等に関して識見を有する者 山田 一哉、河野 史倫、川島 均

倫理等の学識経験を有する者 福島 智子

学長から任命された安全主任者 浅野 公介

a) 遺伝子組み換え実験計画の審査について

本年度は、下記の機関承認実験計画6件と教育目的実験計画1件を審査した。

<第16-01号(機関承認実験)>

実験管理者：人間健康学部 浅野 公介助手

実験課題名：時計遺伝子と長寿遺伝子の発現相関は、糖代謝調節に関わるか？

場所名称：分析機器実験室、微生物実験室

実験種類：微生物使用実験、動物使用実験

実験期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日

実験目的：①Sirtuin1(SIRT1)とSHARPファミリー(SHARP-1およびSHARP-2)遺伝子に関わる発現調節機構の解析を行い、肝臓での糖代謝調節における両遺伝子群の発現相関を明らかにする。

②①に挙げた各種遺伝子を過剰発現させるために、その全長cDNAを含むアデノウィルスを作製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

<第16-02号(機関承認実験)>

実験管理者：健康科学研究科 山田 一哉教授

実験課題名：高炭水化物食による遺伝子発現調節機構の解析

場所名称：分析機器実験室、微生物実験室

実験種類：微生物使用実験、動物使用実験

実験期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日

実験目的：①高炭水化物食による糖質・脂質代謝系酵素遺伝子群の転写調節機構を明らかにする。

②各種遺伝子を過剰発現させるために、その全長cDNAを含むアデノウィルスを作製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

<第16-03号(機関承認実験)>

実験管理者：健康科学研究科 山田 一哉教授

実験課題名：新規転写因子ファミリーZHXの生物学的役割の解析

場所名称：分析機器実験室、微生物実験室

実験種類: 微生物使用実験、動物使用実験

実験期間: 平成28年4月1日～平成29年3月31日

実験目的: ①新規転写因子ファミリーZHXの機能解析と標的遺伝子の検索

②ZHXファミリー、グルコキナーゼ(GCK)、Brdファミリー、LacZおよびEGFP遺伝子を過剰発現させるために、その全長cDNAを含むアデノウイルスを作製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

<16-04号(機関承認実験)>

実験管理者: 健康科学研究科 河野 史倫准教授

実験課題名: 筋特性の発生・維持・変化に関わる分子メカニズムの追求

場所名称: 動物飼養保管室、動物実験室、微生物実験室

実験種類: 微生物使用実験、動物使用実験

実験期間: 平成28年4月1日～平成29年3月31日

実験目的: 骨格筋への代謝的刺激、メカニカルストレス、神経活動が、どのようなメカニズムで筋肥大や代謝特性の変化を引き起こすのかを追求する。

<第16-05号(機関承認実験)>

実験管理者: 健康科学研究科 高木 勝広教授

実験課題名: インスリン様活性を有する食品成分のスクリーニングと作用機構の解析

場所名称: 分析機器実験室、微生物実験室

実験種類: 微生物使用実験、動物使用実験

実験期間: 平成28年4月1日～平成29年3月31日

実験目的: ①インスリン様活性を有する食品成分のスクリーニングし、その作用機構を解析する。

②各種遺伝子を過剰発現させるために、その全長cDNAを含むアデノウイルスを作製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

<第15-06号(教育目的実験)>

実験管理者: 健康科学研究科 高木 勝広教授

実験課題名: 酵母の形質転換

場所名称: 共同実験室、微生物実験室

実験種類: 微生物使用実験

実験期間: 平成28年7月11日～平成28年7月25日

実験目的: お酒の発酵等に用いられる麹菌(*Aspergillus oryzae*)由来のアミラーゼ遺伝子を、酵母菌(*Saccharomyces cerevisiae*)に導入する。アミラーゼ遺伝子が導入された酵母はアミラーゼを分泌するようになることを確認する。

3)点検・評価の結果(目標の達成状況)<C>

a) 遺伝子組み換え実験計画の審査について

すべての実験計画について審議の結果、規程に沿った実験計画であり、問題を含んでいないため、異議なく承認した。それぞれ審査の結果を申請者と最終責任者である学長に文書で伝達した。

4) 次年度に向けて <A>

本学では遺伝子組み換え実験を行っている研究者が少ないため、詳細にわたって実験計画を審査することができる。次年度も、このような体制で進め、安全に実験が行われるよう努めていきたい。

<執筆担当/遺伝子組換え実験安全部会長 山田 一哉>

Ⅲ. 入試広報部門

1. 入試委員会

(1) 全学入試委員会

本委員会は、大学院、総合経営学部・人間健康学部・2017年度に開設される教育学部に異動予定の委員、松商短期大学の代表計名および入試広報室の職員により構成されている。2016年度は大学院代表が委員長を務めた。

全学入試委員会の役割は、①学生募集に関すること（オープンキャンパス、進学説明会、高校訪問など）、②入学試験に関すること（入試問題の作成と確認、入試の運営など）、および③①②で全学的調整が必要な場合、各学部学科、または全学運営会議・全学協議会との連絡を行うことである。

1) 年度当初の計画 <P>

2016年度（2017年度学生募集）は、下記の項目の達成を目標とした。

①大学案内とホームページ作成の業者選定について

次年度の大学案内及びホームページなどの制作業者選定にあたり、透明性を担保すること。

②オープンキャンパスの課題抽出と解決法の検討

昨年度のオープンキャンパス開催の実績を踏まえ、教育学部も開設されるにあたり参加者が増加することも見込まれるため、今後のオープンキャンパス開催についての課題を抽出し、その解決策について検討する。

③特待生について

強化部・重点部にかかる特待生の選出のスケジュールと各部署との情報の共有を徹底する。
また、入学金免除に相当する特待3種の枠数や適用基準を明確化する。

④入試改革

外部英語検定の成績を入試判定に用いるかどうか、およびA0入試・推薦入試における学力の担保の方法について検討する。

⑤松商学園高等学校との連携強化

同一法人の松商学園高等学校からの進学者を一定数確保するために、どのような制度が最も適切であるか検討する。

⑥その他

一般入試問題の出題ミスを防ぐ。入試の運営の事故を防ぐ。

2) 現状の説明 <D>

①大学案内とホームページ作成の業者選定について

費用や負担の軽減、経験や知識・データの蓄積などの観点から、業者から見積書等の提出を受けた。

②オープンキャンパスの課題抽出と解決法の模索

今年度も夏休みのオープンキャンパス時には食堂のキャパシティを超える高校生が訪れた。

③特待生について

各学部学科で第1種から第3種までの特待生の人数の割り振りを明確にした。また、強化部・

重点部の特待生について、所定の手続きおよび事前の入試指導を十分に行うこと、部長・監督・入試広報室・関連事務局間で情報共有を行った。

④入試改革

教育学部の推薦入試において、教科名を付した問題が課された。また、4年間平均で入学者を定員の1.15倍以内に抑制しないと、大学として学部・学科増設等の新しい施策を文部科学省に申請できないことが全学協議会から報告された。今年度からそれに対応するために、総合経営学部でも補欠合格者制度を利用することになった。

⑤松商学園高等学校との連携強化

事前に松商学園高等学校との間で、指定校推薦基準等の確認と受験生のA0入試・推薦入試への割り振りが行われた。

⑥その他

昨年度入試問題について、出題ミスの指摘があった。作題者への確認を行ったところ、不適切問題あったとの確認がなされた。不適切問題の結果は合否へは影響がないことを確認した上で、文部科学省に連絡した。

3) 点検・評価の結果 <C>

①大学案内とホームページ作成の業者選定について

複数の中から、透明性を担保した上で、契約することができた。

②オープンキャンパスの課題抽出と解決法の模索

教育学部が開設される次年度は、オープンキャンパスに訪れる高校生の人数の増加が見込まれるため、抜本的な改革が必要である。

③特待生について

人数の割り振りや情報伝達などである程度の改善が見られた。しかし、強化部等の特待生において、受験への指導が徹底出来ていないケースがあった。

④入試改革

1.15倍を守るために、①一般入試、センター入試等で厳密な合格者数の調整を行ったが、合格者の手続き締め切り日が次の入試の合格発表後であったため、手続き人数の予測が非常に困難であった。また、②次年度から総合経営学科の定員を90名に、スポーツ健康学科の定員を100名に変更すること、また、健康栄養学科の定員を70名に変更することが全学協議会から報告された。

⑤松商学園高等学校との連携強化

大部分はうまくいったが、一部で課題を残したため、次年度に制度設計を検討することとした。

⑥その他

出題ミスについては、2年連続の指摘であり、重く受け止め、作題者にも注意喚起を行うとともに、試験問題のチェックをより詳細にしていくことを確認した。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

①ミスのない入試問題を作成する

- ②全学協議会から推薦前期入試、一般入試 A 日程、センター入試時の学生のロックアウトを行うことが示されたため、これに対応する。
- ③オープンキャンパスの内容およびタイムスケジュールについて再検討を行い、参加者の分散化を図る施策を検討する。具体的には、午前のみ、または午後のみ開催やイベントの進行の見直しなどで対応する等、内容を早期に計画する。
- ④入学者定員数の変更と 1.15 倍への対応のため、各学部学科で入試戦略を練り直し、それぞれの入試の定員の改訂と指定校等の見直しなどを行った上で、できるだけ早期に高校に提示する。また、強化部からの入学者人数についても詳細に検討する。
- ⑤後に続く入試の可否の判定に役立てられるように一般入試・センター入試の入学手続きの締め切り日を早める。
- ⑥教育学部で導入された科目名を付した推薦入試問題を、他学部他学科でも利用するかどうかを検討する。
- ⑦同法人である松商学園高等学校からの受験生の割り振り等について学部学科で早期に明確にし、提示する。

＜執筆担当／全学入試委員会 委員長 山田 一哉＞

（2）総合経営学部入試委員会

総合経営学部の入試委員会は、教員 7 名と入試広報室の職員によって構成されているが、今年度は担当教員も改選され新任される教員が増えた。総合経営学部の入試委員会としては①学生募集関連業務と②入学試験関連業務の 2 つになる。

1) 年度当初の計画 <P>

昨年度作成された、次年度への改善・改革に向けた 3 つの方策を、年度当初の計画とした。

①系列校からの進学者の増加

系列校である松商学園からの進学者の増加は、募集定員を満たすために非常に効果的である。さらに系列校ゆえに松商学園高校との教員との情報交換などが密接にでき他の高校入試におけるマーケティングにも参考になる。

②オープンキャンパスの充実

学生募集においてオープンキャンパスは高校生が進路決定において非常に重要である。参加したくなる模擬授業、それぞれの学科のわかり易い説明、個別面談による高校生の動向を把握し、それを活かすことである。

③ミスのない入試運営

入学試験におけるミスを皆無にする。

2) 現状の説明 <D>

①系列校からの進学者の増加

系列校である松商学園高校からの進学者の増加に関しては、松商学園が実施する大学説明会や教員や生徒への説明会を実施した。さらに、高校生が受講する大学プログラムの充実をはかったと同時に、高校生が受講し易いように松商学園高校で実施した。

②オープンキャンパスの充実

オープンキャンパス時におこなわれる模擬授業の内容・タイトルに関しては、問題もなく従来どおりで変更はなく開催した。

③ミスのない入試運営

ミスのない入試運営を実施することが出来た。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 系列校からの進学者の増加

2017年度学生募集において、松商学園高校からの進学者数は総合経営学科20名であり内訳は指定校16名、推薦後期2名、A01期2名であった。観光ホスピタリティ学科は、9名であり内訳は指定校4名、自己推薦1名、A01期4名である。2016年度が総合経営学科18名、観光ホスピタリティ学科が8名であったので学部全体で3名の増であった。

②オープンキャンパスの充実

キャンパス見学会の総参加人員は総合経営学部全体で455名であった。2015年度が491名であり、2014年度は374名であり、2015年と比較して92.7%であった。しかし、2014年と比較すると121.7%である。

③ミスのない入試運営

ミスのない入試運営を実施することが出来た。

④系列校以外から過去最高の進学者

今年度は、過去最高の志願者があった。総合経営学科の志願者は255名であり、2016年と比較して51名の増の125%であった。最も少なかった2012年と比較して174.7%の109名の増である。

観光ホスピタリティ学科の志願者は、198名であり、2016年と比較して152.3%の68名の増であった。最も志願者の少なかった2012年と比較して200%の99名の増であった。

総合経営学科においては指定校推薦、観光ホスピタリティ学科においては一般入試、センター入試の志願者が増えた。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

①入学者の定員確保と学習意欲の有る学生の確保

昨年度の志願者は学科開設以来、両学科とも最も多かった。特にセンター試験・一般入試の志願者が多くそれに対応するため今年度は総合経営学科定員を10名増とした。

指定校については見直しを行い、県外校の指定校の廃止、県内校についても選別し指定校の廃止、指定校枠定員減の措置を行なった。

さらに、AO入試、推薦前期・後期に筆記試験を課すことにした。

これらは、志願者増に対する方策と学習意欲の有る学生を確保するための措置である。

②オープンキャンパスの充実

各学科の違いを明確にするために、総合経営学部のキャンパス見学会参加者を一同に集めて両学科の説明をすることにした。各学科の詳しい説明はリピーター対応の説明で行なう。参加者に学科のミスマッチなく、それぞれの学科を志望する参加者に的確に説明することが出来ることによりオープンキャンパスの充実を図りたい。

③ミスのない入試運営

引き続きミスのない入試運営を実施することが出来るように、注意して対応していきたい。

＜執筆担当／入試委員会 総合経営学部主任 山根 宏文＞

(3) 人間健康学部入試委員会

平成 28 年 4 月、健康栄養学科には 84 名（定員 80 名）、スポーツ健康学科には 103 名（定員 80 名）が入学した。また、健康栄養学科では 6 期生（平成 27 年度卒業生）の管理栄養士国家試験の合格率が 69.7%（合格者：53 名／76 名、全国管理栄養士養成課程平均合格率 85.1%）、スポーツ健康学科では平成 27 年度卒業生の健康運動指導士の合格率は 81.8%であった（合格者：18 名／22 名、全国平均合格率：54.8%）。

平成 29 年度は健康栄養学科にコース制を導入し、これまで行ってきた専門性を受験生により理解しやすくするとともに、さらに取得可能な資格を増やすこととしている。

大学を取り巻く社会環境について、まず県内では平成 27 年に開校した大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校松本校・大原スポーツ公務員専門学校松本校で平成 29 年 3 月に 1 期生が卒業するためその卒業生の動向を注視する必要がある。また、平成 30 年度には長野県立大学が開校予定となっている。特に管理栄養士養成を含む食健康学科は本学健康栄養学科と重複するため、入試での影響は避けられない。直近では長野大学が平成 29 年 4 月に公立大学法人化を決定しており、県内外の受験生の動向が読み難い状況にある。諏訪東京理科大学も平成 30 年を目指して公立化に向けて動いている。

平成 28 年度は、上記の状況を見極めながら第一義的には定員確保を目指し、さらに質の高い学生を獲得するために活動した。

1) 年度当初の目標 <P>

- ①入試区分及び高等学校の評定値と入学後の成績・異動状況等を分析し、指定校枠の選別と評定値の設定を行う。
- ②年度当初から本年度入試に対する基本的考え方を各学科で共有しておく。
- ③オープンキャンパスの学科説明時や高等学校の先生に、新コース制度およびアドミッションポリシー「求める学生像」及び必要履修科目を説明する。
- ④編入学受験者の増加を目指す。
- ⑤キャンパス見学会や出前授業を効果的に運営する。
- ⑥アドミッションポリシー「求める学生像」に基づいた入試問題の作成

2) 目標の実施状況 <D>

- ①入試区分及び高等学校の評定値と入学後の成績・異動状況等を分析し、指定校枠の選別と評定値の設定を行う。

例年通り健康栄養学科では、過去の管理栄養士国家試験合格結果を基に、合格者の本学入試区分・出身高等学校での評定値・本学の管理栄養士必修科目での GPA、就職決定時期、全国模擬試験での偏差値等に関する詳細な分析を行った。その分析結果に基づいて、推薦入試の指定校枠・指定校評定値の見直しおよび公募推薦での基準となる評定値を変更した。また、高校再

編に伴い高校の統合が進んでいることから、統合した高校について、詳細な分析を行い、評定値を決定した。

スポーツ健康学科においても、これまでの全入学者の GPA 値や異動（退学者・休学者）に関する分析を同様に行った。その分析結果に基づいて、推薦入試の指定校枠・指定校評定値の見直しおよび公募推薦での評定値を変更した。

また指定校枠・評定値については、各学科会議での確認と相前後して、入試広報室との議論を通して作成した最終案を教授会に上程し、承認・決定された。

②年度当初から本年度入試に対する基本的考え方を各学科で共有しておく。

両学科会議において、本年度入試の方針について議論した。

健康栄養学科では平成 29 年度よりコース制が始まることを踏まえて、受験生に説明することが確認された。また、本学科の志願者数を増やし、学力を担保した学生の獲得を目指す取り組みの一つとして、一昨年より行っている松商学園高等学校への特別模擬講義を 3 回（試験含む）実施することになった。

また、スポーツ健康学科では、学科定員に配慮しつつ、良い成績が期待される学生を積極的に取っていくこと、また志願者の動向に応じて審議していく方向性が確認された。松商学園高等学校への特別模擬講義、確認テストおよび面談（全 3 回）を実施することとなった。

③オープンキャンパスの学科説明時や高等学校の先生に、学部・学科としてアドミッションポリシー「求める学生像」及び必要履修科目を説明する。

高等学校で化学や生物を履修していないため、良い資質を持ちながらも入学後の勉学についていけなくなるケースが見受けられる。そこで、高等学校入学時、あるいは入学後の可能な限り早い時期に健康栄養学科では、化学や生物を履修しておくことを生徒に説明した。平成 29 年度からコース制が導入されることから、取得可能な資格を含め、新制度の内容について学生への周知説明をした。学部・学科としてアドミッションポリシー「求める学生像」及び必要履修科目を説明した。

④編入学受験者の増加を目指す。

編入学受験者増加のため、大学公式ホームページやオープンキャンパス等において、編入学を検討している学生に対して、学科における学びの特徴や取得可能な資格等を分かりやすく提示または説明することに努めた。

健康栄養学科の編入学受験者は 3 名で、またスポーツ健康学科では 0 名であった。

⑤キャンパス見学会や出前授業を効果的に運営する。

キャンパス見学会、出前講義及び模擬授業の回数は表の通りである。

◆キャンパス見学会

回数（全 5 回）	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回
日程	5 月 22 日	6 月 26 日	7 月 31 日	8 月 20 日	9 月 25 日

◆出前講義及び模擬授業等の回数 平成 28 年度（人間健康学部）

模擬講義・出前講義	学校見学会に於ける講義	オープンキャンパスミニ講義	オープンキャンパス体験講座	高大連携の模擬講義（岡谷東高校）	松商学園高校特別模擬講義
23 講座	6 講座	13 講座	10 講座	11 講座	6 講座

◆高校生のための公開授業

回数（全2回）	第一回	第二回
日程	7月18日	10月10日

⑥アドミッションポリシー「求める学生像」に基づいた入試問題の作成

アドミッション・ポリシーに基づいて、多様な能力を持った学生の確保を目的として、学部・学科ごとに入試を実施しているが、入試問題の作成においては、以下の流れにしたがって行った。

推薦入試における「文章理解」問題及び一般入試試験問題については入試委員会の専門部会である入試問題検討部会において、アドミッションポリシーに沿った出題方針を科目ごとに検討している。5月に外部作題者を交えた入試問題検討部会を開催し、本学のポリシーや出題範囲、難易度等の意見交換を十分に行い、両者の意見に齟齬が無いことを確認後、後日、正式に外部作題者に依頼を行った。外部作題者は、部会での内容に基づき問題を作成し、その後、学内担当者・外部作題者間で校正と訂正を繰り返し行い、最終的に学内の入試委員会において校正を行い試験問題として採用した。

3) 点検・評価の結果（目標の達成状況）＜C＞

①年度当初から本年度入試に対する基本的考え方を各学科で共有しておく。

両学科とも、年度当初の学科会議で、大枠を了承してもらったおかげで、円滑に入試業務を進行することが出来た。

②入試区分及び成績と入学後の成績動向等を分析し、よりよい選抜につなげる。

本年度は、質の高い学生を定員数確保することを念頭に入試をスタートさせ、最終的に76名の入学生を獲得した。

本年度におけるキャンパス見学会および公開授業の参加者数（累計）は、健康栄養学科では昨年より十数名増加したが、スポーツ健康学科は30名近く減少した。リピーター数は、健康栄養学科では昨年度より十数名増加したが、スポーツ健康学科は20名近く減少した。スポーツ健康学科は昨年とその前の年より参加者が60名も増加したことがあったため、いずれの学科も例年よりは参加者は多めであった。

次に健康栄養学科の志願者、合格者および手続き者（歩留まり）について述べる。

指定校の志願者数は昨年より若干多くなったが、公募制推薦は若干減少した。またA0入試の志願者は過去最高の24名であった。年内入試では志願者数が順調に増加したことを受け、昨年と同数53名の入学者（内訳；指定校推薦：17名、公募推薦：22名、A0入試：14名）を出すことができた。また、年明け入試における志願者数は、センター入試において昨年と同数の60名の志願者であったが、一般入試は昨年より多い76名であった。定員超過とのバランスを考慮しつつ試験結果から合格ラインを決定した。その結果、一般入試における入学者は15名、センター入試は6名で、辞退者が出た後、健康栄養学科として合計75名（定員80）となった。

スポーツ健康学科では、指定校の志願者数は昨年より十数名減少、公募制推薦も数名減少した。しかし、A0入試の志願者は昨年より10名増加した。その結果、年内入試では71名の入学者（内訳；指定校推薦：25名、公募推薦：24名、A0入試：22名）を獲得することができた。一方、年明け入試（一般入試およびセンター入試）における志願者数は、昨年とは異なり50

名以上増加した。定員超過とのバランスを勘案しつつ試験結果から合格ラインを決定した。

その結果、一般入試における入学者は24名、センター入試は5名とした。スポーツ健康学科として合計100名の入学者を獲得することができ、定員を大幅に上回った。

- ③オープンキャンパスの学科説明時や高等学校の先生に、学部・学科としてアドミッションポリシー「求める学生像」及び必要履修科目を説明する。

松商学園高等学校および県内の学生に対する説明会を行った。説明会で、両学科が求めている学生像は十分に伝わったと思われる。

- ④編入学受験者の増加を目指す。

引き続き、編入学受験者の増加のための編入希望者への対応を行っていく。

- ⑤キャンパス見学会や出前授業を効果的に運営する。

表に示したように、2017年度のキャンパス見学会参加者（全学年および3年生）は、前年度と比較して健康栄養学科は十数名の増加が、スポーツ健康学科は30名程の減少であった。このうち、リピーター数は健康栄養学科で増加、スポーツ健康学科は20名近く減少したが、2年前よりは増加しており、広報活動は効果的に機能していると思われる。

表. オープンキャンパス参加者数（春のオープンキャンパスを除く）

	2016年度				2015年度			
	全学年		3年生のみ		全学年		3年生のみ	
	素数	リピーター	素数	リピーター	素数	リピーター	素数	リピーター
栄養	192	56	124	49	176	42	109	39
スポーツ	192	32	145	32	220	51	164	50
合計	384	88	269	81	396	93	273	89

- ⑥アドミッションポリシー「求める学生像」に基づいた入試問題の作成

先に示したスケジュールにしたがって、無事に行われた。

4) 次年度に向けて <A>

入学定員確保を第一義とし、かつ恒常的に定員を維持していくことは最重要課題であると捉えている。しかしながら、定員超過は今後の大学改革においてマイナスの影響がある。次年度は、健康栄養学科の定員数を80名から10名減の70名へ、スポーツ健康学科を80名から20名増の100名へと変更することが予定されている。この変更点を踏まえて、合格者に対する手続き者数割合、すなわち歩留まりを確実に予測することが非常に重要である。

次年度も精力的に本学・学部・学科のアドミッション・ポリシー及びそれに基づく多様な情報を、オープン・キャンパスはもちろん、高等学校等進路室訪問、高等学校及び相談会場等において受験関係者に直接伝える機会を増やしていくことに努める。また、大学案内、募集要項、大学ホームページへなどに加え、SNSなど様々な媒体をとおして、広く内外に周知し、受験生や保護者、高等学校の教員が必要とする情報を詳しく精査したうえで、正しく理解されるよう工夫を凝らし、積極的な広報活動を通して認知度を一層高め、最終的に志願者増に結びつけるべく取り組んでいくべきである。

[健康栄養学科]

今年度、健康栄養学科では76名の入学生を獲得したが、定員を4名割った形となった。

定員数超過を勘案した場合、歩留まりの予測が困難であることを踏まえて、事前に志願者の分析を詳細に行うことが重要であると考えられる。特に定員数が80名から70名に減少すること、県立大学の入試が開始することを踏まえて分析することが大切である。

健康栄養学科は、次年度もまた定員確保を第一に掲げ、取り組んでいくべきであるとする。しかし、定員確保をめざすあまり基礎学力が足りない学生を入学させるのは、4年後の国家試験の合格率に大きく影響するため、決して良い選択とはいえない。したがって、次年度入試では、上述の内容を総合的に判断し、受験動向などを見極めながらバランスよく合否を判断していきたいと考えている。

[スポーツ健康学科]

スポーツ健康学科として100名の入学者を獲得することができ、定員を大幅に上回った。順調に進んだことになるが、特に気になるのは、年明け入試の大幅な志願者増加であった。昨年度より他県にスポーツ関連の大学が2つ新設されたが、その影響は大きくはなかった。しかし今回一般入試で不合格者を多数出したことが、次年度の志望者の動向に与える影響には注意が必要である。次年度は募集定員が大幅に増加することも併せて総合的に募集活動を行っていきたい。

5) 委員会業務内容等について

予備合否判定会議

- ・入学試験の合否について、学部長・学科長を交えて事前に「予備合否判定会議」で検討し、原案を作成することにより、教授会判定会議における審議に役立てた。

主な学務内容

- ・学部・学科教育理念・教育目標の入試要項への記入及び説明による、進路指導教員や受験生への本学の教育理念等の明確な提示と工夫
- ・アドミッションポリシーの高校教員及び受験生等への徹底
- ・入試関係書類の誤記載防止への協力体制
- ・入学生選抜のための分析
- ・指定校及び指定校評定値の見直しについて
- ・編転入試験に伴う作問委員会への作問依頼
- ・編転入学試験受験者の査定と伝達
- ・編入における指定校の検討及び実施
- ・入試実施ごとの教員担当業務についての割り振り依頼
- ・入試問題作成・校正・採点についての依頼
- ・入試当日の責任業務
- ・入学試験の実施・評価・合否判定会議までの進行
- ・次年度入試関連業務の検討事項の抽出
- ・キャンパス見学会・公開授業・出前講義・進路説明会の担当教員についての割り振り依頼
- ・キャンパス見学会での学科説明会の内容検討

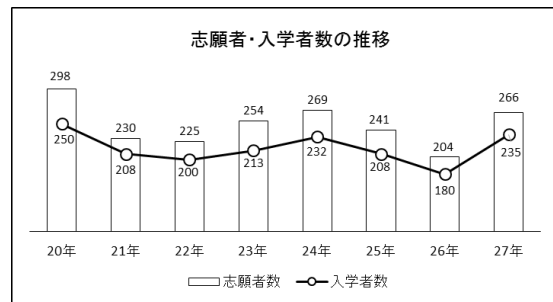
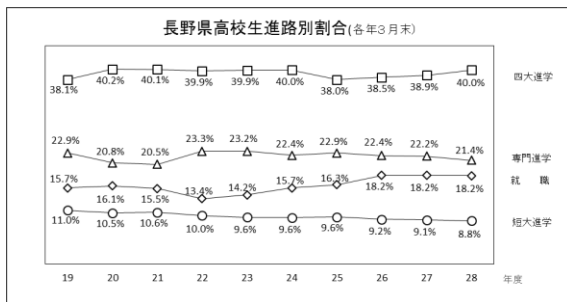
<執筆担当/入試委員会 人間健康学部主任 石原 三妃>

(4) 松商短期大学部入試委員会

1) 平成 28 年度当初の計画 <P>

文部科学省学校基本調査によれば、平成 19 年度から平成 28 年度までの 10 年間の長野県高校卒業者の進路別人数は、以下の通りである(各年 3 月末)。県内高校卒業者数は平成 20 年度以降、2 万人を割り込み、平成 25 年度にやや増加したものの、ここ 3 年間は 1 万 8 千人台で推移している。昨年度 3 月と比較した今年度の特徴は、卒業生数が 20 人微増の状況において、四年制大学進学者が 213 人の増加、就職者が 1 人の増加、短期大学進学者が 40 人の減少、専門学校進学者が 158 人の減少となっている。今年度の県内高校生の進路状況の特徴は、四年制大学への進学志向が高まったということに尽きると言える。

卒業生に対する進路先の割合で見ると、以下の通りとなる。過去 5 年間で見ると、四年制大学進学率は 4 年ぶりに 40%に回復、専門学校進学率は 21%台へ、短大進学率は 8%台へと減少している。特に、短期大学への進学割合は初めて 9%を切り、減少に歯止めのかからない状況が続いている。それに対して就職者の割合は、この 3 年間まったくの同率となり、ここ最近の就職環境の良さが窺える結果となった。進路割合で見るとここ 3 年間は、四年制大学への進学割合が徐々に増加する一方で、専門学校と短大への進学割合が徐々に減少していることがわかる。



本学の志願者数は以下のとおり 26 年度 204 人にまで減少し、その結果、入学者 180 人と 11 年ぶりの定員割れとなった。この年、四年制大学、専門学校、短大のすべてが進学者数を減らした一方で、就職者のみが大幅な増加となり、景気回復による雇用増加が就職環境の好転をもたらす一方で、依然として回復しない家庭の経済状況が高校生の進路選択において進学よりも就職という形となって現れたということである。昨年度は引き続き好調な就職環境の中、家庭の経済状況がいくらか持ち直したことにより、進学への志向も持ち直し、本学への志願者、入学者も V 字回復を遂げる結果となった。

しかしながら、県内高校生の進学状況を見る限り依然として、高校生の四年制大学進学志向の上昇が、本学に厳しい状況をもたらしていると言わざるを得ない。したがって、四年制大学志向による志願者減少分を、専門学校や就職を志向する層から如何に本学志願に結びつけていくのかが重要となる。つまり、今年度の学生募集活動は、高校就職希望者および専門学校志願者に対する働きかけが、例年以上に重要となるということである。今年度は、専門学校、高校に対して本学の教育実績および就職実績における優位性を強くアピールして入学志願者 250 人・入学定員 200 人の達成を目指す。これを以て短期大学部入試委員会の平成 28 年度の目標とする。

2) 平成 28 年度(平成 29 年度入試)の実績～現状の説明～ <D>

① 松商短大部入学志願状況

今年度を含む過去3年の入試区分別志願者数は次表の通りである。

入 試 区 分		特待生	推 薦	一 般	センター・留学	AO	計
28年度 (29年3月末)	商&経営情報	経済支援 5	指定 133	A 17	センター 32	I 期 22	
		学業学力 4	一般 30	B 8	留学 1	II 期 6	
	計	9	164	27	33	28	261 (入学221)
27年度 (28年3月末)	商&経営情報	経済支援 7	指定 137	A 17	センター 21	I 期 15	
		学業学力 7	一般 36	B 5	留学 0	II 期 12	
	計	14	180	24	21	27	266 (入学235)
26年度 (27年3月末)	商&経営情報	経済支援 6	指定 110	A 12	センター 11	I 期 15	
		学業学力 9	一般 25	B 1	留学 2	II 期 11	
	計	15	136	14	13	26	204 (入学180)

今年度の志願者数は昨年度から5人減の261人となり、年度当初の目標250人を2年連続で達成することができた。入試区分ごとの増減は表の通りであるが、特待生入試、推薦入試での21人の減少を一般入試とセンター入試での増加(15人)で補うという結果となった。志願者数では昨年度とほぼ同じ水準を維持できたと言えるが、推薦入試と比べた一般入試、センター利用入試の歩留まりの低さから入学者数14名の減少はやむを得ないところであったと思われる。

② 本年度入学試験区分別状況

入試区分毎の志願者・合格者・入学者数を過去3年で比較してみると以下のとおりである。

28年度 試験日	入 試 区 分	志 願 者 数			合 格 者 数			入 学 者 数		
		28年	27年	26年	28年	27年	26年	28年	27年	26年
11月1日	特待生(経済支援) (学業学力)	5 4	7 7	6 9	3 0	2 1	2 2	2 0	2 1	2 2
11月8日	推薦前期(指定) (一般)	133 25	137 31	110 22	132 24	136 31	110 22	131 23	136 31	110 22
12月14日	推薦後期(一般) (自己)	5 1	5 7	3 1	5 1	5 7	3 1	4 1	5 7	3 1
12月14日	留学生(前期)	0	0	1	0	0	1	0	0	1
9月19日	AO I 期 社会人AO I 期	22 0	15 0	15 0	22 0	15 0	15 -	22 0	15 0	14 -
11月1日	AO II 期 社会人AO II 期	6 0	12 0	11 0	6 0	12 0	11 -	6 0	12 0	11 -
年 内 計		201	221	178	193	209	167	189	209	166
1月31日	一 般 A	17	17	12	17	16	12	7	10	9
3月6日	一 般 B	8	5	1	5	5	1	5	5	1
3月19日	一 般 C	2	2	1	1	2	1	1	2	1
2月	センター I 期	14	15	5	15	15	5	10	8	1
3月	センター II 期	15	3	5	8	3	5	7	0	1
3月	センター III 期	3	3	1	2	2	1	1	1	0
2月20日	留学生(後期)	1	0	1	1	0		1	0	1
年 明 け 計		60	45	26	49	43	25	32	26	14
総 計		261	266	204	242	252	192	221	235	180

昨年度と比べた年内実施の試験における志願者数は20人の減少となり、これを年明け実施の試験における15人の増加が補い、今年度全体の志願者数は昨年度から5人の減にとどまることとなった。年内入試においては、特待生入試で5人、推薦前期の指定校推薦入試で4人、一般推薦入試で6人、推薦後期の自己推薦入試で6人のいずれも減少となった。AO入試についてはI期とII期をあわせればほぼ同数(1人増)の志願者数であった。年内入試における入学者数は昨年比20

人減の189人となり、残された年明けの入試の過去の実績を考慮すれば、入学定員の確保に向けて予断を許さない厳しい年越しとなった。

年明けの入試に関しては、一般Aとセンター利用Ⅰ期においてほぼ昨年度並みの志願者数であったものの、この2つの入試において漸く定員確保の目途が立った。さらに一般Bとセンター利用Ⅱ期において例年になく志願者数が伸びたことにより、この増加の15人が最終的な入学者数の上積みとなった。

③ 特待生の状況

過去3年間の特待生の採用状況は以下の通りである。

	2017年度			2016年度			2015年度		
	推薦	一般/センタ	計	推薦	一般/センタ	計	推薦	一般/センタ	計
経済支援Ⅰ種	1		1	2		2	0		0
経済支援Ⅱ種	0		0	0		0	2		2
学業学力Ⅰ種	0		0	0		0	0		0
学業学力Ⅱ種	1		1	1		1	2		2
松商Ⅰ種	1		1	1		1	1		1
学力Ⅰ種	0	0	0	0	1	1			
学力Ⅱ種	2	1	3	5	0	5		3	3
学力Ⅲ種								1	1
沖縄Ⅱ種				1	0	1			
留学生	1	0	1						
計	6	1	7	10	1	11	5	4	9

Ⅰ種	2	730,000	1,460,000	4	730,000	2,920,000	1	730,000	730,000
Ⅱ種	4	365,000	1,460,000	7	365,000	2,555,000	7	365,000	2,555,000
Ⅲ種							1	250,000	250,000
免除額計			2,920,000			5,475,000			3,535,000

④ 志願者・入学者の出身地区別状況

過去3年間の志願者・入学者の出身高校地区別一覧は次のとおりである。

地区	28年			27年			26年		
	学校数	志願者	入学者	学校数	志願者	入学者	学校数	志願者	入学者
中信	21	135	120	20	147	134	18	113	105
南信	20	62	58	21	60	50	13	45	37
北信	18	43	29	17	38	34	13	24	20
東信	6	10	8	7	12	9	5	8	8
計	65	250	215	65	257	227	49	190	170
県外	8	10	5	8	9	8	6	12	8
計	73	260	220	73	266	235	55	202	178
留学	1	1	1	0	0	0	2	2	2
計	74	261	221	73	266	235	57	204	180

県内外を合わせて志願実績のあった高等学校数は昨年度と同数の73校(留学生は除く)であった。内訳を見るとは県内各地区で1校ずつの増減となった。志願者数では、中信地区で12人、東信で2人の減、南信で2人、北信で5人、県外で1人の増となった。入学者は、中信地区で14人、北信で5人、東信で1人、県外で3人の減の一方、南信で8人増、留学1名増となり、全体で14人の減少となった。今年度は志願者、入学者ともに中信地区の落ち込みが目立つ結果

となった。

⑤ 入学者の出身高校別状況

過去3年で本学への入学実績が4人以上であった高校は次表の通りである。入学実績5人以上で比較してみると、今年度が12校125人、昨年度が11校126名であり、入学者数の上位3校の合計でも今年度66人、昨年度64人とほぼ同様の状況が見てとれる。

上位校の顔ぶれは、1位が3年連続で松商高校、2位にはこの3年間で着実に入学者数を伸ばしてきた松本美須ヶヶ丘高校が入り、3位には常連校である田川高校が入った。ベスト10には、塩尻志学館高校、都市大塩尻高校、豊科高校、梓川高校といった常連校が揃う中、赤穂高校が躍進、諏訪実業が振り返りを果たした。今年度最もインパクトが大きかったのは、大口常連校であった穂高商業高校が昨年より16名減となり、長らく維持してきたベスト10から陥落したということである。

29年度入学(28年)		
①	松商	29
②	松本美須ヶヶ丘	19
③	田川	18
④	塩尻志学館	10
⑤	赤穂	8
⑥	東京都市大学塩尻	7
⑦	豊科	6
	梓川	6
	下諏訪向陽	6
	諏訪実業	6
⑪	穂高商業	5
	岡谷南	5
計		125
⑬	松本筑摩	4
	松本第一	4
	岡谷東	4
	松代	4
	長野商業	4
	須坂商業	4
	計	

28年度入学(27年)		
①	松商	30
②	穂高商業	21
③	松本美須ヶヶ丘	13
④	田川	10
	東京都市大学塩尻	10
⑥	塩尻志学館	9
	梓川	9
⑧	岡谷東	8
⑨	豊科	6
⑩	大町北	5
	下諏訪向陽	5
計		126
⑫	岡谷南	4
	長野南	4
	明科高校	4
	赤穂	4
	上伊那農業	4
	東海大学付属第三	4
計		150

27年度入学(26年)		
①	松商	28
②	豊科	13
③	塩尻志学館	12
④	穂高商業	10
⑤	松本美須ヶヶ丘	8
⑥	諏訪実業	7
⑦	梓川	5
	伊那西	5
	大町北	5
	辰野	5
計		98
⑪	岡谷南	4
	松本筑摩	4
	田川	4
	東京都市大学塩尻	4
計		114

3) 点検・評価の結果 <C>

今年度は志願者261人、入学者221人といずれも年度当初の目標を達成することができた。志願者数を入試別に昨年度と比べてみると、特待生入試で5人、指定校推薦4人、前期一般推薦で6人、自己推薦で6人の減となったが、例年特待生入試の不合格者は前期一般推薦の志願者に回り合格となる傾向が極めて強いことを考慮するならば、昨年度の不合格者11人、今年度6人であり、ここで一般推薦に回ったであろう志願者数は5人の減となり、前期一般推薦の志願者の減は実質1人と見ることもできる。また、自己推薦についても、その出願資格の内容の類似から、AO入試に志願を変えた可能性もあり、自己推薦とAO I期・II期をあわせた志願者数で見ると、昨年度は34人、今年度は29人となり、実質5人の減となる。かくして昨年度に比べ、年内入試の入学者ベースで20人の減の189人となり、入学定員確保に向けて全く予断を許さない厳しい状況となった。年が明けて一般A入試とセンター利用I期についてほぼ昨年度並みの志願者となり、両入試で入学者17人を確保し、ここで漸く入学定員が満たされることとなった。その後、一般B入試とセンター利用II期では予想外に志願者が増え、両入試で12名の入学者の上積みを見た。いずれにしても

今年度は年明けの 2 月半ばで漸く入学定員が確保されるという精神的にもきつい 1 年であったと言わねばならない。

年明けの入試全体での合格者に対する入学者の割合いわゆる歩留率は 65%となり、昨年度 60% (一昨年度 56%)を上回り過去最高を記録した。一般入試の歩留率は 56%であり、昨年度の 74%(一昨年度 78.6%)から大きく低下、特に一般A入試における 63%から 41%への低下が著しかった。センター利用入試の歩留は 72%となり、昨年度の 45%、一昨年度 27%、25 年度の 69%を超えて高い値となり、特にセンター利用Ⅱ期で合格者 8 人中 7 人が入学し、歩留まりは 88%となった。歩留率に関しては一般入試での低下をセンター入試での上昇が補って余りある結果となったと言える。

平成 23(2011)年度から始めた高校時代の専門資格の取得状況に応じた入学金割引制度、本学への兄弟姉妹入学者についての入学金割引制度の利用状況は、推薦入試段階で専門資格取得割引の対象者が 6 人(昨年度 10 人)、兄弟姉妹免除が 15 人(昨年 16 人)、一般入試段階(センター試験利用含む)で資格割引が 2 人(昨年 1 人)、兄弟姉妹割引が昨年同様の 1 人であった。また、平成 27(2015)年度から、松商学園高校出身者に対しては入学金の全額免除を実施し、今年度は推薦入試段階で 28 人、一般入試段階で 1 人が該当した。資格割引の 4 月入学時申請が 7 人(昨年 12 人)あり、今年度の資格割引の対象者は計 15 人(昨年 23 人)となった。その内訳は、漢字検定 2 級 9 人(昨年 12 人)、英語検定 2 級 3 人(同 2 人)、日商簿記 2 級 2 人(同 6 人)、IT パスポート 1 人(同 3 人)であった。日商簿記検定 2 級については今年度から大幅な試験範囲の見直しが始まり、高校生にとってはやや難易度が上がっていることも対象者減少の一因と思われる。

入学者の出身地区をみると、今年度は中信地区と北信地区での入学者減が大きく、特に中信地区は 14 人の減となった。この減少分に対しては南信地区の 8 人の増が多少の救いとなった。

地区別の志願者に対する入学者の割合は、中信で 88%(昨年 93%、一昨年 93%)、南信で 94%(83%、82%)、北信で 67%(89%、83%)、東信で 80%(75%、100%)であり、県内計では 86%(89%、88%)、県外および留学生を加えた全体で 85%(88%、88%)となった。

入学者の出身高校を見ると、今年度は穂高商業からの入学者の 16 人減のインパクトが大きかったが、結果としては、この減少分を松本美須ヶ丘高校の 6 人増と田川高校の 8 人増でほぼ埋めることができたと言える。この点が入学定員確保の上でも非常に大きかったと言わねばならない。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

一昨年度の定員割れから V 字回復した昨年度には及ばなかったものの志願者 261 人、入学者 221 人は今年度の年内入試手続終了時点では信じ難い好結果となったと言える。しかしながら、本報告の冒頭でも述べた通り、県内高校生の進学志向は、四年制大学進学者が 4 年ぶりに 40%台となり、その反面、短大進学者はついに 9%を割り込んだ。この状況下において本学が目指すべき学生募集の方向はどこに求められるのであろうか。

その手掛かりは、県内高校生の短大進学者数を実数でまとめた以下の表に求められる。短大進学者数は 21 年度の 2 千人台から今年度はついに 1,700 人を切るところまで減少してきている。本学は、この県内高校生の短大進学者の中から入学定員の 200 人を確保することにまずは努力すべきであろう。表とグラフを共に参照することによって明らかなごとく、県内高校生の本学入学割合が 10%を切ると、本学が定員割れとなる可能性が高く、12%台を確保すると定員を確保できているのである。もちろん、長野県の高校生の進路としてそれぞれ約 20%を占める専門学校進学者およ

び就職者を本学に取り込む努力も当然必要となるが、同時に本学以外の短大に進学を考えている高校生に対する働きかけも重要となるということである。来年度は、長野県短期大学が四年制大学化によって短大としての募集を停止する。これによってこれまで県短を志望していた高校生の一定層が県内の他の短大を志望すると予想される。ここでのポイントは、短大における教育内容と学費である。これまで県短を志望していた層を本学に取り込むために、教育面では新たな海外留学プログラムを設計し、そのための「海外留学支援制度」を立ち上げ、さらにそのための入試である「留学支援型AO入試」を実施する。また、学費の面では、本学の持つ特待生制度を強くアピールして、公立短大よりも安い学費で学べることを高校生に積極的にPRしていく。

また、四学期制カリキュラムの構築、ICTを活用した最新の教育手法、外国語を基礎とした異文化コミュニケーション能力育成教育、そしてそれらに基づくコアコンピテンス育成の教育(AP事業)によって他の短大、あるいはビジネス系の専門学校と本学の教育内容の違いを鮮明に打ち出し、本学独自の「学びの多様性・専門性」を具現する教育システム「フィールド・ユニット制」とそれに基づく質の高い就職の実績をこれまで以上に強力にPRし、志願者増に結びつけていく。

長野県内の事務系・金融系の就職であるならば松商短大、という点を強力にアピールしながら来年度も入学志願者 250 名・入学定員 200 名の確保を目指す。

＜執筆担当／入試委員会 松商短期大学部 山添 昌彦＞

(5) 入試問題検討部会

本委員会は、大学院、総合経営学部・人間健康学部・2017 年度に開設される教育学部に異動予定の委員、松商短期大学部の代表計名および入試広報室の職員により構成されている。2016 年度は大学院代表が委員長を務めた。

1) 年度当初の計画 <P>

大学または各学部学科のアドミッションポリシーに則った

- ①入試問題の出題方針の決定
 - ②方針通りに入試問題が作成されたことの確認
- を行うことを目的とした。

2) 現状の説明 <D>

6月に部会を開催し、それぞれの科目担当教員と作題担当者に分かれて、アドミッションポリシー、出題範囲、難易度、構成などについて詳細な打ち合わせを行った。

3) 点検・評価の結果 <C>

原案をもとに、事務局および科目担当教員と作題担当者間で、内容が適切であるかどうか、誤りがないか等詳細にチェックを行った。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

今年度と同様に、部会を開催し、詳細にわたる打ち合わせのあと、入試問題の完成までの過程で、教員と作題者の間で綿密にコミュニケーションをとりながら、目的にあった誤りのない問題の作成を行う。

＜執筆担当／入試問題検討部会長 山田 一哉＞

2. 広報委員会

本委員会の目的は、受験生・在学生・保護者・地域住民等に対して、本学で行われている教育・研究・社会貢献活動等についての情報を発信し、広報していくことである。

1) 年度当初の計画 <P>

日常的に大学ホームページの更新・充実を行うとともに、年4回、学報「蒼穹」を編集・発行する。

2) 実施した活動の概要 <D>

蒼穹の記事の内容を、おもにメール会議で審議し、第123号～第126号を編集・発行した。特集として、「松本大学の改革と今後の展望について」（2016年6月号）、「教育学部学校教育学科2017年4月開設」（2016年9月号）、「多彩な情報を発信する松本大学図書館」（2016年12月号）、「松本大学と新村地区連携活動 若い力と発想で地域を元気に」（2017年3月号）とした。また、アウトキャンパス・スタディの記事を2学科から1学科にし、高校や外部へのPR目的のために教員の研究分野を紹介する「研究室紹介」を掲載することとした。

本年度から完全WEB出願化した入試を実施するにあたり、学生募集要項もWEB化、高校生の利便性を考えスマートフォン対応に改修するなどユーザビリティの向上に務めた。さらに国際交流事業の活発化に伴い英語版ポータルサイトを構築し、海外への積極的な情報発信体制を整えた。

3) 点検・評価の結果 <C>

人間健康学部10周年、教育学部開設に合わせて、特に人間健康学部における過去10年の歩みをパネル展示した。

大学ホームページは随時更新を行っており、ほぼリアルタイムで大学の動きを伝えられた。「蒼穹」も、広報誌として大学の動きをタイムリーに伝えられた。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

引き続き、大学ホームページでは、大学の諸活動や成果を可能な限り早くかつ正確に、「蒼穹」では厳選した活動情報をまとまった形で発信していく。

<執筆担当/全学広報委員会 委員長 山田 一哉>

3. 高大連携推進委員会

1) 平成28年度当初の計画 <P>

高等学校との協定に基づく本学の高大連携事業は、穂高商業高校との平成18年2月の連携協定調印を嚆矢として平成18年度以来11年を経過し、この間、松商学園高校、飯田OIDE長姫高校、丸子修学館高校、エクセラン高校、岡谷東高校と協定を結び、昨年度は南安曇農業高校と、更には長野県内の全商業高校が加盟する長野県商業教育研究会とも協定を締結するに至った。また協定校以外でも、白馬高校、田川高校、梓川高校、辰野高校、諏訪実業高校等とは事業ベースで連携を深めてきている。

学部別の平成28年度当初の計画は以下の通りである。

(1) 総合経営学部

高大連携に対する総合経営学部としての基本方針は、(i)当該事業は具体的なテーマや課題

を切り口にして実践的な取組から始める、(ii) 高校生と大学生に加えてそれを支える地域の人々にも参画してもらい、(iii) 協定などの形にとらわれずに実践を積み重ねる中で相手校との信頼関係を築きながらより教育的な効果のある取組を行う、であり、この方針に基づき、例年通り以下の連携事業を継続実施する。

- ①長野県商業教育研究会との連携による「デパートサミット」事業
- ②飯田 OIDE 長姫高校及び飯田市との協定による「地域人教育」事業
- ③梓川高校・田川高校との「地域連携教育」支援事業

(2) 人間健康学部

例年通り以下の事業を継続実施する。

- ①9 年目となる岡谷東高校との連携事業
- ②松商学園高校におけるスポーツ健康と健康栄養の両学科により出前講義

岡谷東高校との事業は、これまでと同様に (i) スポーツ及び健康科学における同様の専門を有することより、それぞれの立場からお互いの利点を活用することによって、双方の教育力、専門性の向上を図ること、(ii) 教職関係授業における実習の場としての活用及び専門的内容を高校生にも分かりやすく伝達する教育スキルの向上、(iii) スポーツ健康学科の特色等を実際に理解してもらうことにより、よりよい入学者の確保を目的として、取り組む。

松商学園高校との事業は、平成 26 年度から始まったもので、本学の教育内容やカリキュラム等への理解を深め、本学に進学を希望する学生の参考となるようにプログラムを設定している。

(3) 松商短期大学部

例年通り、高校生に対するキャリア教育を目的として、穂高商業高校、松商学園高校商業科との連携事業を中心に取り組む。具体的には、両校の生徒が大学の授業に挑戦する「チャレンジ型連携事業」、本学教員が週 1 回穂高商業高校に出向いて高いレベルの簿記・会計の講義を行う「グレードアップ型連携事業」の 2 つである。なお、チャレンジ型連携には、例年通り諏訪実業高校生の参加も予定している。

2) 平成 28 年度の実績～現状の説明～ <D>

(1) 総合経営学部の取組

①デパートサミット (マーケティング塾・デパートゆにっと)

デパートサミット事業は、長野県商業教育研究会が主催し、松本大学が共催して平成 25 年度より実施している県内外の商業高校を中心とした高校生の人材育成事業であり、毎月 1 回松本大学において開催される「マーケティング塾」とその成果を検証する合同販売会の「デパートゆにっと」によって構成されている。

<第 4 期 平成 27 年 12 月～平成 28 年 10 月>

第 4 期として 9 回に亘りマーケティング塾を開催し、その成果の発表として、平成 28 年 8 月にながの東急にて、「デパートゆにっと」として 3 日間実施し、高校生が県内の 12 校から 71 名、教員 27 名が参加した。また県外より 3 校の高校も参加した。

<第 5 期 平成 28 年 12 月～平成 29 年 (継続中)>

第 5 期のマーケティング塾として 3 回 (平成 29 年 3 月まで) 実施し、高校生が 11 校から 65 名、教員 23 名が参加した。第 5 期より第 4 期にはオブザーバー参加だった南安曇農業高校が正式

に参加して商業高校の高校生と共に学び、連携して商品開発に取り組んでいる。

〈バレンタインスイーツ販売 平成29年2月11・12日〉

2日間にわたり、諏訪実業高校、穂高商業高校、丸子修学館高校、辰野商業高校、松商学園高校、長野商業高校、南安曇農業高校、飯田OIDE長姫高校と観光ホスピタリティ学科向井ゼミ、短期大学部金子ゼミ、健康栄養学科矢内ゼミ、「ゆにまる」など約80名が参加して商品開発を行なったスイーツの販売をアイシティ21（井上百貨店）にて行なった。事前の準備として商品発表会等を行った。

②地域人教育

「地域人教育」は、平成24年度から飯田長姫高校が開始した地域社会に貢献できる「人財」を育成することを目指し、高校生が地域理解を深め、地域での生き方を考え、郷土愛を育む教育プログラムである。平成24年度に飯田長姫高校（当時）、飯田市、松本大学による「地域人教育の推進に向けての3者の連携協定」を締結し実施している。

「地域人教育」は、1年次は大学教員や地域の専門家による飯田の歴史や地域資源に関する講義と街中を歩いて地域の魅力や課題を把握する「フィールドスタディ」を通じた「地域を知る」、2年次は地域のイベントへの参加や商品開発、情報発信を行なう「地域で活動する」、3年次はグループごとに地域課題について地域と連携して解決に取り組む「地域の課題解決に向けて行動する」という3年間で7単位、245時間の正課のカリキュラムによって構成されている。

本年度は、総合経営学部より述べ3名の教員が高校にて講義や実習指導を行なったほか、松本市内におけるフィールドワーク実習や高校生の活動を大学生が評価する交流事業などを実施した。また、地域人教育の円滑な推進のために、高校教員や飯田市職員との協議や学習会、研修などを行い、信頼関係を構築するとともに、事業の目的などの共通理解を図った。

③信州クラーク塾

県内農業高校の進学志望の生徒の支援を行う学習会「信州クラーク塾第2回」（主催長野県高等学校長会農業部会）の受け入れを行った。概要は以下の通りである。

日時：2016年8月18日（木）午前10時～午後8時30分

場所：松本大学

内容：10:00 開講式

10:20 講義「大学とは～高等教育機関で学ぶ意義・学びの本質を目差して」

講師 白戸洋

13:15 意見交換会「農業高校出身の先輩と語る」

（観光ホスピタリティ学科在学生3名）

14:30 講義「大学とは」中村文重入試広報室長

体験学習「ゼミ体験」観光ホスピタリティ学科 白戸ゼミ

施設見学 マツナビ

16:20 閉講式

④梓川高校・田川高校と地域の連携教育への支援

梓川高校には、観光ホスピタリティ学科から7年前より福祉の科目について教員を講師として派遣している他、学校評議員会にも委員を派遣している。その結果、地元地域と高校との間で連

携協力関係が構築されている。また、田川高校については、平成25年度から、高校の地元村井駅前の商店街より高校との連携を発展させたいとの要望が本学に寄せられたことをきっかけとして、7月に開催される「村井商工祭」において、高校生と大学生のコラボレーションによる子ども向けのイベントを実施した。

⑤本年度の新たな連携事業

本年度新たに開始された広大連携活動としては、本年度県内の高校としては唯一のコミュニティ・スクールとして「国際観光学科」を新設した白馬高校の学校運営委員会・会長を派遣した他、諏訪実業高校に対しては、「スーパープロフェッショナル・ハイスクール」事業の「文化ビジネスエキスパート育成事業」に対し、講義の実施や研究推進委員会・運営指導委員会への委員の派遣を行った。

(2) 人間健康学部 of 取組

①岡谷東高校との連携事業

実施概要（期日・場所・内容）については以下の通りである。なお、本事業実施に向けての打合せは、メール、電話を利用して行った。

○高校生の大学授業・キャンパスライフ体験 ※場所はすべて松本大学。

No.	月日	期日	教室	担当	場所	対象	
1	7月4日 月曜日	9:00	岡谷東高校出発		松本大学	岡谷東 高校 1年生	
		9:30	松本大学着				
		9:40～9:55	オリエンテーション	643			中島
		10:00～11:00	1時限	643			斉藤
		11:10～12:10	2時限	643			中島(節)
		12:10～13:00	昼食	カフェテリア			中島
		13:00～14:00	3時限	643			岩間
		14:10	松本大学発				中島
14:40	岡谷東高校着						
2	7月5日 火曜日	9:00	岡谷東高校出発		松本大学	岡谷東 高校 2年生	
		9:30	松本大学着				
		9:40～9:55	オリエンテーション	643			中島
		10:00～11:00	1時限	643			中島
		11:10～12:10	2時限	643			田邊
		12:10～13:00	昼食	カフェテリア			中島
		13:00～14:00	3時限	513			犬飼
		14:10	松本大学発				中島
14:40	岡谷東高校着						
3	9月12日 月曜日	9:00	岡谷東高校出発		松本大学	岡谷東 高校 2年生 (27名)	
		9:30	松本大学着				
		9:40～9:55	オリエンテーション				中島
		10:00～11:00	1時限	643			河野
		11:10～12:10	2時限	643			岸田
		12:10～13:00	昼食	カフェテリア			中島
		13:00～14:00	3時限	643			新井
		14:10	松本大学発				中島
14:40	岡谷東高校着						
4	9月13日 火曜日	9:00	岡谷東高校出発		松本大学	岡谷東 高校 1年生 (39名)	
		9:30	松本大学着				
		9:40～9:55	オリエンテーション	643			中島
		10:00～11:00	1時限	643			等々力
		11:10～12:10	2時限	643			江原
		12:10～13:00	昼食	カフェテリア			中島
		13:00～14:00	3時限	トレ室/643			根本
		14:10	松本大学発				中島
14:40	岡谷東高校着						

②松商学園高校における出前講義

5月、6月、7月と月一回のペースで、健康栄養学科とスポーツ健康学科の教員が松商高校に出向き、以下の通り講義を行った。

2016年度松商学園特別模擬講義(人間健康学部)

開催日	対象	対応者	講義タイトル	受講人数
5月23日	3学年	石原	健康栄養学科説明	21
		根本	スポーツ健康学科説明	32
6月21日	3学年	石原	食物アレルギーについて	15
		等々力	スポーツとビジネス	28
7月4日	3学年	高木	化学の基礎	14
		岩間	教育とスポーツ指導	10

③エクセラン高校における連携事業

年度当初の計画には無かったが、4月20日の本学健康栄養学科の杉山教授からの申し出に対する本委員会の了承のもとに、連携協定校であるエクセラン高校の環境科学コースと本学健康栄養学科杉山研究室、信州大の学生団体「team めとば」が共同で、「福島原発事故以降の放射性物質の影響」を研究テーマとした活動を行った。具体的には、杉山教授とともに杉山ゼミナールの学生が高校生に対する講義、指導、試料測定、解析の分担、共同調査に参画、データ共有を図り、6月19日(日)「第3回エコスクール」(10:00~12:20)として、エクセラン高校理科室において、総勢60名参加のもと、成果発表を行った。杉山研究室の報告テーマは「身近な食品に含まれる放射性物質の存在量と安全性の検討」であった。

(3) 松商短期大学部の取組

①大学授業チャレンジ型連携

高校の夏休み、春休みを利用して、本学教員の教育資源を活用した大学の経済・ビジネス系等の専門科目の受講および学食利用、教室移動等の具体的なキャンパスライフの疑似体験を通して、高校生の勉学意欲および進学意欲の高揚を図ることを狙いとした連携である。

松商学園高校商業科チャレンジ講座2016

	3時限 14:00~15:00	4時限 15:10~16:10
7月20日(水)	医療事務 231教室(浜崎) 1年生 12名 2年生 31名 3年生 5名 計 48名	マーケティング 231教室(金子) 1年生 9名 2年生 29名 3年生 7名 計 45名
7月21日(木)	心理学入門 231教室(中山) 1年生 25名 2年生 42名 3年生 5名 計 72名	ブライダル入門 231教室(小澤) 1年生 5名 2年生 28名 3年生 2名 計 35名
7月22日(金)	国際コミュニケーション 231教室(糸井) 1年生 8名 2年生 20名 3年生 0名 計 28名	UD入門 231教室(広瀬) 1年生 8名 2年生 8名 3年生 0名 計 16名

大学授業チャレンジ型連携(2016年夏) 講義時間割

穂高商業高校 3日間とも 94名
諏訪実業高校 25日 49名 27日 112名

	1時限 9:40~10:40	2時限 10:50~11:50	3時限 13:00~14:00	4時限 14:10~15:10
7月25日(月)	マーケティング①(金子) 232教室 穂商94名 諏訪実49名	経営学の基礎①(飯塚) 121教室 穂商94名 諏訪実49名	会計学入門①(香取) 524教室 穂商94名 諏訪実49名	経営分析①(山添) 524教室(15:00まで) 穂商94名 諏訪実49名
7月26日(火)	マーケティング②(金子) 232教室 穂商94名	経済学入門①(糸井) 232教室 穂商94名	パソコン演習①(浜崎) 332教室(穂商47名)	Excel経営分析①(山添)
			Excel経営分析①(山添) 322教室(穂商47名)	パソコン演習①(浜崎)
7月27日(水)	心理学入門(中山) 121教室 穂商94名 諏訪実111名	UD入門(広瀬) 121教室 穂商94名 諏訪実111名	キャリアクエイト①(糸井) アンケート記入 121教室(15:00まで) 穂商94名 諏訪実111名	

7月25日(月)9時20~40分 開講式 232教室

大学授業チャレンジ型連携(2017春) 講義時間割

穂高商業高校2年生94名参加

	1時限 9:40~10:40	2時限 10:50~11:50	3時限 13:00~14:00	4時限 14:10~15:10
3月21日(火)	マーケティング③(金子) 232教室	ブライダル入門(小澤) 121教室	心理学入門(中山) 232教室	銀行論入門(藤波) 121教室
3月22日(水)				
3月23日(木)	パソコン演習②(浜崎) 332教室	会計学入門②(香取) 121教室	キャリアクエイト②(糸井) 121教室	松商短大の学び(金子) 121教室
	会計学入門②(香取) 121教室	パソコン演習②(浜崎) 332教室		閉講式(糸井) 121教室

②高校授業グレードアップ型連携

穂高商業高校においてすでに日商2級レベルに達している3年生徒を対象として、本学教員が同校に週1回出向いて日商1級レベルの「会計学」「原価計算」の講義を行う取組であり、高いレベルの学習への意欲促進を狙った連携である。毎週月曜日の10:20~12:10に今年度も全24回実施した。参加生徒数は昨年同様の40名であった。

高校授業グレードアップ型連携 2016 講義日程(穂高商業高校)

回	日程	科目	テーマ*	担当
1	4月18日 月	商業簿記・会計学①	簿記と財務諸表の相違(1) 売上高と売上原価の表示①	香取
2	4月25日 月	商業簿記・会計学②	簿記と財務諸表の相違(2) 売上高と売上原価の表示②	
3	5月9日 月	工業簿記・原価計算Ⅰ	意思決定会計総論～デズニールランドへ行く～	山添
4	5月23日 月	商業簿記・会計学③	簿記と財務諸表の相違(3) 現金預金と銀行勘定調整表	香取
5	5月30日 月	商業簿記・会計学④	簿記と財務諸表の相違(4) 債権と債務	
6	6月13日 月	工業簿記・原価計算Ⅱ	意思決定のための利益計算～焼きそば屋台の利益計算～	山添
7	6月20日 月	工業簿記・原価計算Ⅲ	業務執行的意思決定会計(1)～特別注文がきたらどうする?～	
8	6月27日 月	商業簿記・会計学⑤	簿記と財務諸表の相違(5) 有価証券①	香取
9	7月4日 月	商業簿記・会計学⑥	簿記と財務諸表の相違(6) 有価証券②	
10	8月22日 月	工業簿記・原価計算Ⅳ	業務執行的意思決定会計(2)～部品を作るか、買うか?～	山添
11	8月29日 月	工業簿記・原価計算Ⅴ	業務執行的意思決定会計(3)～最適セールスマックス～	
12	9月5日 月	工業簿記・原価計算Ⅵ	業務執行的意思決定会計(4)～リニア・プログラミング～	香取
13	9月12日 月	商業簿記・会計学⑦	簿記と財務諸表の相違(7) 有価証券③	
14	9月26日 月	商業簿記・会計学⑧	簿記と財務諸表の相違(8) 有価証券④ 有形固定資産①	山添
15	10月3日 月	商業簿記・会計学⑨	簿記と財務諸表の相違(9) 有形固定資産②	
16	10月24日 月	工業簿記・原価計算Ⅶ	構造的意決定会計(1)～正味現在価値の計算～	香取
17	10月31日 月	工業簿記・原価計算Ⅷ	構造的意決定会計(2)～設備投資の意決定モデル～	
18	11月7日 月	工業簿記・原価計算Ⅸ	構造的意決定会計(3)～法人税の支払いを考慮する～	山添
19	11月14日 月	商業簿記・会計学⑩	簿記と財務諸表の相違(10) 外貨建取引	
20	11月21日 月	商業簿記・会計学⑪	簿記と財務諸表の相違(11) 引当金①	香取
21	11月28日 月	商業簿記・会計学⑫	簿記と財務諸表の相違(12) 引当金②	
22	12月12日 月	工業簿記・原価計算Ⅹ	構造的意決定会計(4)～設備の自動化～	山添
23	1月16日 月	工業簿記・原価計算ⅩⅠ	構造的意決定会計(5)～取替投資～	
24	1月23日 月	工業簿記・原価計算ⅩⅡ	構造的意決定会計(6)～リースか、購入か?～	

(10:20～12:10)

3) 点検・評価の結果 <C>

(1) 総合経営学部の取組について

デパートサミット事業の目的は、当初、実践的な教育手法による高校の商業教育の質の向上及び個々の生徒の成長や学びが中心であったが、これまでの取り組みの中で、商業教育のレベルアップにとどまらず、高校生を地域の担い手として育てること、そのために必要な地域に根ざしたマーケティングや商品開発を実践的に学ぶことが主要な狙いとして位置づけられてきている。このような変遷の中で、今年度、松本大学は事業の支援にとどまらず、主体的に事業に参画し、教員や学生の関与も高校生のサポートだけでなく、大学の教育活動としての位置づけとした。特に本学の学生組織「ゆにまる」所属の学生が高校生と一緒に学び、具体的な活動に取り組んでいる。「ゆにまる」は、高校時代にデパートサミット事業に参画し、卒業後に本学に進学した学生を中心にデパートサミット事業を支援することを目的とした学生組織であるが、昨年度まではマーケティング塾に於ける運営アシスタントを担うことが主目的であったが、今年度は、「ゆにまる」として商品開発等を行なうなど、主体的にデパートサミット事業に参加している。この事業を通じた教育における高大接続の一つの現れと言える。

また、今年度より、デパートサミット事業が地域の人材育成にどのような役割を果たし、具体的にどのような成果を産み出しているかについて検証し、さらに高大連携型の人材育成モデルの構築を図ることを目的して、「高大連携による地域人材の育成に関する実証的研究～デパートサミット事業の成果と可能性～」が観光ホスピタリティ学科の教員によって取り組まれている。この研究は、3ケ年に亘り行なう予定で、1年目は特にデパートサミット事業が個々の生徒の成長や学びに関し

てどのような影響を与えたか、その成果の検証を行ない、2年目は高校あるいは大学における地域の人材育成に関する教育の質の向上について成果を検証し、3年目は地域の人材を育成する観点から成果を検証するとともに、高大連携型の人材育成モデルの構築を図ることとしている。

(2) 人間健康学部取組について

スポーツ健康学科の岡谷東高校との高大連携事業

本事業により、高校生にも良い影響を与えているようである。その成果として、本事業を活用した形で、高校生の学びを深める取り組みが高大連携成果発表会という形で高校側が実施している。主な評価ポイントは次のとおりである。①これまでの積み重ねにより、高校生の受講態度が真剣なものとなり、各教員から高い評価を頂いている。②高校側における高大連携成果発表会の開催が文化祭時ならびに別途日時を設定して継続的に他大学を含めて行われるなど、本学との取り組みが学内外に対するアピール材料として活用されている。

③進学者対象の各大学の出前講義に指名される。当該専門方面進学希望者への強いアピールができると共に学習意欲の高い生徒の存在確認ができた。当該高校より、意欲有る生徒の入学が認められている。

今年度の取組から次年度に向けて、事業内容においてはこれまでのものを堅持し、実施してゆく。また、特定専門科目授業担当者との連携を深め、事業内容を更に深めたい希望を有している部分もあるので、更に検討を深めてゆきたい。また、本学からは教職課程履修学生が、実際の教育現場に行き、1週間程度の教育実習的な授業補助体験などをさせて頂くことによって直接的に学ぶ場としての協力をお願いして来ているが、なかなか実現しない。大学側から高校側に対し、繰り返し打診し、その結果を得ながら課題を一つ一つクリアしてゆくことが求められる。

(3) 松商短期大学部取組について

穂高商業高校との連携事業は本年度で11年目となり、今年度、いくつかの問題点が認識された。チャレンジ型連携については、高校2年生を対象とする事業であるが、夏3日間、春2日間を通して、本学の教育内容および教育手法について、もう少し高校生にPRする機会を設けて、ビジネスに対する学びの「おもしろさ」をこれまで以上に実感させることが必要だと思われる。また、グレードアップ型連携については、高校側の都合により、受講に際して実力よりも希望を優先した結果、昨年今年と2年連続で40名の大人数となったが、途中から約半数の生徒が講義についてこられず、学習意欲の明らかな低下が見られた。同校の担当教員とも協議し、来年度は受講生徒のレベルを限定し、学習意欲の高い少数精鋭の生徒を対象とすることとした。同時に、講義内容の見直しにも着手する。松商学園高校については、これまで、高校の三者懇談会実施期間に合わせてスケジュールを調整してきたが、この期間は夏休み直前でもあり、生徒の学習意欲が必ずしも高いとは言えない期間である。したがって、本学での講義においても「やらされている」感が強く、あまり良い学習環境とはいえない状況が散見された。この点に関わり同校担当教員から申し出があり、次年度に向けて実施時期の再検討を行うこととなっている。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

高大連携事業は、政府の最優先課題の一つでもある「地方創生」の具体的取組として若者を地元に着させるための有効な方策とも言える。また、この事業は、高校生に対するキャリア教育という観点から大学の社会貢献の一つとも捉えられ、長期的に継続すべき取組である。したがって、長

期継続が可能な実施体制の整備が大きな課題と言える。ここ数年の実施状況を見てみると、一部教員の負担が年々増大する傾向にあり、また、特定教員に対する担当硬直化により、各事業の長期的継続性に問題が生じる可能性も垣間見える。高大連携委員会の構成や事務局体制など現状の実施体制を踏まえてさらに強化を図ることが求められる。

各学部個々の事業については、それぞれに生じた課題に対して、担当者間で協議し改善策を検討することになるが、いずれにしても目先の結果にとらわれずに長い目で見て、参加する高校生、大学生にとって教育効果のより上がるような改善策が求められる。また、新設の教育学部については、今後の連携に向けて焦らず歩を進めていくことが望まれる。

＜執筆担当／高大連携推進委員会 委員長 山添昌彦＞

4. センター入試委員会

1) 年度当初の計画 <P>

センター入試委員会の平成 28 年度当初の計画は以下のとおりである。

① 監督者への事前研修のスムーズな実施

事前研修の円滑な実施のため、開催時期、回数、説明内容などについて、委員会にて検討を行う。

② 試験に向けた的確な準備と業務の実施

平成 27 年度は、例年の 7 教室から 1 室増え受験者数は 520 人と過去最高となり、監督者の割り当て作業が難航した。平成 28 年度は万全を期した対策を検討する。

③ 試験本部と各試験室との連絡体制の強化

B 票の回収やリスニング試験での再開テスト有無等の連絡を確実かつ迅速に行う。

2) 計画の実施・現状の説明 <D>

① 監督者への事前研修のスムーズな実施

全学の関係者に対し、12 月 7 日と 1 月 13 日の 2 回に分けて監督者会議を実施した。全ての試験科目に共通する監督業務の流れや各種様式の取扱い方、事故対応などを中心に解説を行った。これに加え、英語リスニング試験を担当する監督者向けに 12 月 14 日と 12 月 22 日に予行演習を実施した。1 回目は基本的な監督業務について、2 回目は事故対応について解説と演習を行った。これらの研修をやむを得ず欠席者した監督者へのフォローアップは各学部のセンター入試委員が行った。

② 試験に向けた的確な準備と業務の実施

今年度も信州大学松本試験会場と同一試験場としてグループ化による受験者の割り振りを行うこととなった。グループ化による受験者の割り振り方法とは、比較的近距離にある複数の試験場を、1 つの試験場とみなして受験者の割り振りを受験科目パターンによって行うものである。

入試関連業務の詳細については、8 月 22 日と 12 月 5 日に都内にて開催された大学入試センター主催の連絡協議会に参加し、前年度からの変更点を中心に確認を行った。会議で使用された資料はデジタル化したものをセンター入試委員および関係者に配付し情報共有を行った。

監督者の割り当てに関しては、今回初めて昼食時間帯を挟む1日目の地歴公民(1科目試験)と国語の担当を同一グループ(主監督者を除く)にお願いした。

③試験本部と各試験室との連絡体制の強化

各試験室の連絡員の人数設定と割り当てをおこなった。理科②の2科目受験室の中間時間帯における助監督の常務内容を周知した。リスニング試験時間帯にリスニング業務に精通したセンター入試委員を本部に待機させ、再開テストへの備えとした。

3) 点検・評価の結果 <C>

①監督者への事前研修のスムーズな実施

前年度より新課程科目のみの試験となり、監督者会議の回数を例年の2回に戻し問題がなかったため、今年度も2回の実施とし問題なく実施できた。リスニング予行演習も円滑に実施することができた。

監督者会議で説明する担当者には今年度初めての委員もいた。そこで、説明内容をまとめたレジメを渡しておくことで事前準備を円滑に進めてもらう対応を取ったが、当日は問題なく会議を進めることができた。リスニング予行演習に関しても、前年度からの変更点は殆どなかったこともあり、円滑に実施することができた。

②試験に向けた確な準備と業務の実施

グループ化を行った本学と信州大学松本キャンパスとは滞りなく連携することができ、大学入試センター主催の連絡協議会などで得た情報のセンター委員間での共有も例年通り問題なく行えた。

監督者の割り当てに関しては、今回初めて昼食時間帯を挟む1日目の地歴公民(1科目試験)と国語の担当を同一グループ(主監督者を除く)にお願いした。このような割り当て方は監督者に大きな負担をかける懸念があったが、特にクレーム等はなかった。今後、監督者割当を行う際の参考としたい。

③試験本部と各試験室との連絡体制の強化

今年度は、初めてリスニングの再開テストを行った。試験終了後、申し出のあった機器を確認したところ、不具合ではなく受験生の操作ミスである可能性の高いことが分かったが、事故対応マニュアルに従って問題なく処理することができた。

また、今年度はインフルエンザ流行期と重なったため、追試験申込者や別室試験者が出て対応に追われた。結果的に問題なく対応できた。別室受験対応については、本来なら追試験に回すべきとも判断できる受験生について別室対応にすべきか判断に迷う場面があった。大学入試センターに問い合わせたところ、なるべく受験生の希望に添う対応をした方がよいとの回答であったため、今回は別室で対応することとした。しかし、受験生の間では追試験は問題の難度が上がるため無理してでも本試験を受けるべきという噂が流れている様で、インフルエンザ罹患者が他の受験生に影響を与えるリスクを考えると、今回のケースは再考の余地があると思われる。なお、別室試験を担当した監督者から、インフルエンザの疑いのある受験生に対してツールを用いた検査をして追試験に回すべきという意見も出されており、今後に向け参考にしたい。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

①受け入れ受験者数と試験室数の調整

今年度は試験室が例年の7教室ではあったが、受験者数は520人と過去最高の昨年度並みであった。しかし、試験監督者は例年並みの人数であり、今年度も割り当て作業は容易ではなかった。待機人員に関しても、前年度よりはよかったが少ない状況は改善できていない。一方で、信州大学からは受け入れ受験者数増員の検討依頼があり、次年度に向けた大きな課題となりそうである。

②体調不良受験生への適切な対応

追試験を望まない体調不良受験生の対応を適切に行うための判断基準の明確化と別室試験室での安全な監督業務方法を検討する。

③適切な人員配置と効率的な運営

限られた人員を適切に配置し効率的に業務が遂行できる工夫を検討する。特に、警備担当者より受験生以外の来校者（特に本学在校生）への対応に苦慮したとの報告があり、ハードの整備などを含めた対策を考えていきたい。

<執筆担当/センター入試委員会 委員長 矢野口 聡>

IV. 管理部門

A : 大学運営管理

1. 全学協議会

学長、副学長、各学部長・学科長並びに事務局長及び総務課長を構成員、学生センター長を書記とする全学協議会は、最高決定権者である学長の下に設置された、学部横断的課題・事項に関する審議・決定を司る機関である。この間、短期大学部も含めた学部横断的課題・事項について審議・結論を得るとともに、各種報告事項についても適宜取り扱い情報の全学的共有化に努めてきている。

1) 年度当初の計画 <P>

平成 28(2016)年度も、当該月に開催された全学運営会議で事前に確認、整理された審議事項について慎重に審議し決定すること並びに、多岐にわたる報告事項について適切かつ適確に周知を図るべく努める。とりわけ、来年(2017年)4月の教育学部・学校教育学科開設に関連する人事並びに教育課程整備など関連する諸業務の円滑な推進及び、この間進めてきた諸規程の整備等に主導的役割を果たすべく取り組む。また、年度当初には予想していない事態や案件の生起、発生についても、適切な情報収集・分析と迅速な対応、解決に努める。

2) 計画の実施と現状の説明 <D>

年度当初の計画に基づいて、今年度もまた、8月をのぞく毎月一回、定期で計11回開催された。審議事項は、事前に全学運会議における議論を経たものを中心に、全学委員会から各「担当」を経て上程されたものを含め、審議し結論を得て実施に移してきた。また、報告事項についても、事前に全学運営会議において扱われたものに加え、全学委員会等からのものも適宜取り上げ、情報の全学的周知・共有化が図られた。

まず、今年度、本協議会で取り上げられ審議、承認された主たる規程等は以下のとおりである。

- ①「松本大学発明規程」(第4回、7月27日)
- ②「緊急時の一斉休校基準の運用細則」(第4回、7月27日)
- ③「松本大学産学官連携ポリシー」(第4回、7月27日)
- ④「松本大学地域総合研究センター規程(改正)」(第6回、7月27日)
- ⑤「松本大学非常勤教員規程」(第6回、10月26日)
- ⑥「教育学部スカラシップ生規程」(第8回、12月26日)
- ⑦「就業規則第3条に基づく別則(改正)」(第9回、1月25日)
- ⑧「パートタイム職員就業規則(改正)」と旧規定の廃止(第9回、1月25日)

以上が、本協議会が独自に扱ったものであるが、それ以外に、全学委員会で承認、上程され、本協議会において最終確定したものとして、以下のものがある。

- ①「松本大学教育学部進級に関する規程」
- ②「松本大学スチューデント・アシスタントに関する内規(改正)」
- ③「松本大学修業年限を超えた留学生の学費に関する内規(改正)」
- ④「松本大学オフィスアワーに関する内規(改正)」
- ⑤「松本大学授業のクラスサイズに関する内規(改正)」

以上、①～⑤は全学教務委員会より上程され、第7回（11月30日）の本協議会において審議、承認された。

- ⑥「松本大学履修規程」
- ⑦「松本大学大学院履修規程」
- ⑧「松本大学松商短期大学部履修規程」
- ⑨「松本大学総合経営学部進級に関する規程（改正）」
- ⑩「本大学人間健康学部進級に関する規程（改正）」

以上、⑥～⑩は全学教務委員会より上程され、第8回（12月26日）の本協議会において審議、承認された。

- ⑪「松本大学研究誌規程（改正）」
- ⑫「松本大学研究誌執筆要項（修正）」

以上、⑪⑫は、来年度より刊行することとなった研究誌「教育総合研究」に関わって研究誌編集部会より上程され、第11回（3月23日）の本協議会において審議、承認された。

- ⑬「松本大学強化部内規」
- ⑭「松本大学強化部及び重点部の遠征に係る旅費内規（改正）」
- ⑮「松本大学強化選手支援内規（改正）」
- ⑯「松本大学クラブ・サークルの活動における学外指導者内規（改正）」
- ⑰「松本大学クラブ・サークル等の活動に係る大学所有バス等の使用内規（改正）」

以上、⑬は、サッカー部の強化部化（第6回、10月26日）に伴って制定され、⑭～⑰は、それに伴って見直されたものである。

こうした規程整備のほかに、本協議会が扱った主要な事項として、課外活動に関して(1)クラブ活動コーチ等の採用時の手続き及びルールについて」（第3回、6月22日）、(2)「強化部・重点部等の「戦力補充予定候補者一覧」の扱いについて」（第5回、9月28日）などの形で、指導者確保と選手確保について一定のルールを確定し明示したことを挙げておきたい。従来、その都度問題の指摘等があったにもかかわらず、十分な見直しがなされてこなかったからである。

また、報告事項は、学長の情報共有重視の姿勢もあって実に多岐にわたったが、その中でも県内他大学の動向、各種補助金申請、高大連携事業、学生募集状況などについて適宜情報が収集・提供され、それを基に今後の対策を練る下地づくりともなった。

3)点検・評価の結果 <C>

全学協議会は、審議・決定機関であって通常の業務遂行の任を負うものではないことから、必ずしも日常的な評価・点検には馴染まないと思われる。とはいえ、前述したように、諸規程の整備等通常あるいは日常的な担当事項については適宜、適切に対応してきたと判断している。くわえて、年度当初の新たな教免課程（理科、英語）の設置に関連して、理科の健康栄養学科への設置断念という不測の事態に対する入学定員の10名削減（現行80名から70名へ）という次善の策の採用と、英語の観光ホスピタリティ学科から教育学部への変更など、当初計画の見直しなどにも迅速かつ適切に対応してきた。また、文部科学省による入学者数の定員倍率の変更（1.3倍から1.15倍へ）に伴う各学部・学科の入試合格者数管理についても、多くの困難を伴ったものの、現時点でなし得る

最善の解決策を提示し主導的に打開することができた。こうした例に顕著なように、全学的で緊迫した課題に対して、全体状況を把握、検討した上で、適切な解決策や方向性を提示し取組を促進することができたと判断する。

4) 次年度に向けた課題 <A>

「平成 29 年度 松本大学・松本大学松商短期大学部事業計画」の冒頭でも述べられているように、長野大学の公立化（平成 29 年 4 月）、長野県立大学の発足（平成 30 年 4 月）、諏訪東京理科大学の公立化（平成 30 年 4 月）にくわえ、注視を要する複数の看護学部（長野医療技術大学、清泉女学院大学）や「専門職業大学」の設立の動きなどの適確な把握に努め、それへの適切な対応を主導していくことが求められるが、本協議会がその主要な位置にあることは多言を要さない。したがって、そうした動向を遅滞なくチェックし、有効な対応策を迅速に講じていかねばならない。そのためにも、各方面に情報を求め把握に努め、それを踏まえた上で適切な方策を練り決定していくなど、積極的に議論を展開し学部横断的課題・事項に関する審議・決定機関として主導性を発揮していく。

また、昨年度の入試状況について分析を深め、各種入学試験の定員管理の厳格化及び適切化を図ること並びに、今年度予定される教職免許課程に対する再課程認定についても、全学的な視点に立って調整し促進すべく努めねばならない。そのほか、昨年度に引き続き諸規程の整備をいっそう進め、この間の懸案に決着をつけるべく取り組む。

報告事項については、不要不急のものは資料配付によって周知を図るなど省時間化を図り、その分議論時間を拡充すべく努める。

<執筆担当/副学長・人間健康学部長 等々力 賢治>

2. 衛生委員会

1) 年度当初の計画 <P>

今年度は、教職員個々の健康問題に迅速に対応していく他、

- ①教職員健康診断の実施（定期健康診断および人間ドック）
- ③教職員ストレスチェック体制の整備

を掲げ、取り組んできた。

2) 今年度の活動実績 <D>

①教職員の健康管理

- ・外傷や体調不良、心身の健康問題などに、まず保健師が対応し、必要があればセンター長である医師に連絡・相談し、応急処置、相談に対するアドバイス、医療機関へのコンサルトなどを実施した。
- ・教職員定期健康診断・教職員胃検診を実施し、精密検査・治療の必要な教職員に対する事後指導、生活改善が必要と認められる教職員に対する保健指導を、個別のリーフレットを作成して実施した。

人間ドック受診者は、受診医療機関での保健指導を受けているが、個別に希望する教職員に対して、保健指導を実施した。

- ・教職員の健康状況に応じて、医療機関を訪問し、職務内容等に関するカンファレンスを

実施した。

- ・学校感染症（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の抗体検査を実施し、抗体価の確認と、ワクチン接種について保健指導を実施した。

②感染症発生への対応

- ・学校医と連携し、希望する教職員に対し、インフルエンザ予防接種を実施した。
- ・厚生労働省、長野県健康福祉部の指示のもと、出勤停止期間を決定し、教職員への周知を図った。

③外部相談機関との連携

（株）ティーパック社と提携し、教職員の心身の健康問題に関する電話相談サービスを実施した。

④ストレスチェックの実施

教職員のメンタルヘルス向上を目的として、産業医・保健師を実施者とし、ストレスチェックを実施した。結果を元に、教職員それぞれのストレスリスク分析および部署ごと・学科ごとなどの集団分析を実施した。

高ストレス者に対しては、産業医面談の勧奨を行い、医師面談は不要とした教職員に対しては、保健師よりメンタルヘルス向上のためのシステムを紹介したり、面談を実施した。

3) 点検・評価の結果 <C>

①教職員の健康管理

教職員健康診断の受診(人間ドックを含む)の受診率は100%には至っていない。また、健康診断で必要と診断された精密検査や治療に関しても、未受診のままとなっているケースもある。現状としては、健康管理が個々の意識に任されている部分もある。健康診断の受診が教職員の義務であり、健康管理は組織として重要であることをさらに周知していかなければならない。

健康管理上、就労時間を適正に保つことは必須である。しかし現在専任職員の就労時間管理が本人からの超過勤務申請によるもののみとなっている。労働安全の観点からも、タイムカード制を含め、正しく把握できる方策を検討していく必要がある。

②ストレスチェックの実施

今年度は実施初年度であったが、大きな問題なく実施することができた。高ストレスと判定された教職員には、産業医の面談が推奨されているが、実施率は低かった。これは、面談の実施に当たっては、事業主への申し出が必要であるというシステムそのものの問題もあるが、日頃から産業医との連携が密に取れていないことも影響していると考えられる。また教職員専用のカウンセリングも設けたが利用希望者の申し出はなかった。受検率自体は高かったので、来年度に向けては受検後のフォロー体制について検討を重ねていく必要がある。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

①教職員の健康管理体制の充実

教職員健康診断の受診率の引き上げ、教職員の就労時間管理を適正に実施していく方策を検討していく。

教職員健康診断未受診者については、衛生委員会で対応を検討していけるようデータ整備を図る。

②ストレスチェックの実施

今年度に引き続き、ストレスチェックを実施する。ストレスチェック実施後のフォロー体制に

ついて、産業医や協力医療機関も含め、より利用しやすい方法を検討していく。

＜執筆担当／衛生委員会 江原 孝史＞

3. 自己点検・評価委員会

この委員会の下には、IR推進、コンプライアンス推進、認証評価準備という3つの部会がある。各部会の担当者が分担して、この点検・評価を行っている。

1) 年度当初の事業計画 <P>

昨年度は第三者評価において「適格」認定を受けた後だったため、今年度は通常の委員会業務に戻るようになっていた。つまり、本委員会独自には、①アニュアル・レポート（発行予定は6月下旬）、②学生版アニュアル・レポート（10月下旬予定）、③自己点検・評価報告書（7月下旬予定）の3つの報告書を発行している。発行に向けて、各担当者間での打ち合わせ等のプロセスを経る中で、大学全体の管理・運営が現在どのように展開出来ているか、どこに課題があるかを詳細に掌握することができると考えている。

その他に、3つの部会が円滑に機能しているかどうかについて、常に配慮することも本委員会の責務である。

2) 平成27年度事業計画の実施状況 <D>

発行予定日に間に合わせる点では課題が残ったが、3つの報告書を発行するという点では予定通り発行することができた。ただし発行日については、アニュアル・レポートが2016年10月31日（予定より4ヶ月遅れ）、学生版アニュアル・レポートが2017年2月10日（予定から3ヶ月半遅れ）、自己点検・評価報告書は2016年10月28日（予定から3ヶ月遅れ）であった。自己点検・評価報告書については、全学的課題や各学部・学科に関する部分は理事会の承認を得るため毎年5月には完成している。委員会、センター、部会及び職員に関連する部分が遅れている。

3つの部会の活動状況の把握については、十分とは言えなかったがそれぞれの部会長との連携はとれていた。

3) 平成27年度事業計画の実施状況を受けての点検・評価 <C>

(a) アニュアル・レポート

アニュアル・レポートを予定期日通りに発行できる条件は、編集担当者が3月終盤からルーチン的な業務に関するデータを取り揃えており、かつ各教員が年間の活動が終了したとほぼ同時期の4月中旬には、全てのデータを担当者まで提出した場合に限られると言っても過言ではない。この4ヶ月の遅れは偏に教員の提出が遅れているためであり、しかもほぼ毎年特定の教員に絞られている。以前から指摘されているように、各教員が常日頃から自分の活動をメモっておくという習慣を確立しない限りこの悪弊からは抜け出せない。

年度末から年度当初にかけては、どの教員も担当授業科目の成績を付ける、新学期の準備を行う、休み期間中なので論文を執筆するなど多忙を極める時期である。管理職や委員長職についている教員は、このような個人としての業務に加え、担当部署での前年度の総括と次年度の方針を踏まえた予算編成もあるため、殊に多忙となる。しかしこのことは事前に分かっている事であるため、それなりの心構えで対応している筈になっている。

(b) 学生版アニュアル・レポート

学生版アニュアル・レポートについては、その発行には多くの困難が伴う。教員自身のデータでさえ報告が遅れるのに、さらにゼミ担当やクラブ担当等しか知ることのできない情報の提供を求めるのであるから、編集担当者からの催促が常態化している。さらに問題なのは、早期に発行できれば、次年度の少なくとも後期に向けて必要な対応を採ることができるのであるが、これほど遅れてしまっただけでは実態を1年遅れで認識することが精一杯である。

(c) 自己点検・評価報告書

第三者評価を受審するときには、本学独自の形式とは違うとはいえ、6月末には完成している。このため取り組む構えの問題と言えるかも知れないが、もう一つはこの報告書に関して、教職員それぞれが持つ意識の問題があるだろう。この文書は、大学や短期大学の管理・運営に関する全分野に渡っての活動状況が点検・評価されている訳であるから、少なくとも共通の「必読文献」というものがあるとすればこれしかない。そのように位置付けられていれば、その発行を今か今かと待たれている筈であり、そうであれば期日を守って発行することに困ることはないであろう。逆に言えば、こうした文書がどれほど読まれているか、換言すれば自分が勤める大学が短期大学がどのようになっているのかに関して関心が薄いということになる。

4) 次年度に向けて<A>

各教員が少なくとも自分の活動報告は、求められれば直ちに提出できるように、日常的にメモしておく習慣をつけること。メモは個人的にカスタマイズされたものであってもよいし、大学側が用意したフォーマット上でも良い。これさえ出来ていれば、過去の活動内容を書類をひっくり返しながらかき出すという面倒な作業は無くなる。

こうして当初計画通りの発行を心掛け、発行された報告書を活用できるようにしたい。また学生版アニュアル・レポートについては、IR推進部会とも連携し、年度末の成績が出た時点でルーチン的に作成できるデータがあるので、正式の発行を待たずその分だけでも、FD・SD研修などで示すことも考えられる。

教育学部に見えた新しい先生方に、アニュアル・レポートの最新版を配布し、今年度末には早期に提出できるよう準備をしてもらえるように対応する。

<執筆担当/自己点検・評価委員長 住吉 廣行>

(1) IR推進部会

本学のIRは、①課題を設定し(主に教員)、②その問題意識に沿ったデータを収集(主に職員)、③議論を重ねデータを加工する、このようなプロセスを経て設定した課題の妥当性をチェックするといった方向で進められてきている。従って、課題設定がされないようであれば、本学でのIRは進まなくなるという特徴を持っている。またこの課題意識というのは、おおよそ本学の教育や学生支援をどのようにすれば改善できるのかという問題意識の延長線上に設定されるが、そうした問題意識を持たなければ、IR活動に参画することも難しい。この意味で本学におけるIRはまさにResearchという名にふさわしい内容になっている。またIRを推進する上で、日常的にデータを管理している職員と、教育現場の最前線にいる教員との教職協働に依るところが大きい。

1) 平成28年度事業計画 <P>

I R推進部会を開き、I Rのテーマ申請があれば、教員と職員のマッチングを行いその研究を支援しようとしていた。

2) 平成 28 年度事業計画の実施状況 <D>

今年度は大学にあつては、教育学部の設置、定員管理が厳しくなる中での入学試験など教員・職員共に多忙を極め、I Rに割く時間的余裕が無かったのかも知れない。短大部では文部科学省の競争的資金であるAPに採択されたこともあり、その着実な遂行に時間を割いていた。

I R推進部会は、教員は全学運営部会のメンバーであるため適宜話し合いを持つことができたが、職員を含めた正規の部会を開催することができなかった。部分的なインフォーマルな会議は持てたが、全構成員が集まったフォーマルな会合が持てなかった。

3) 平成 28 年度事業計画の実施状況を受けての点検・評価 <C>

I R推進部会を開けず、I Rのテーマを公募することも出来なかった。他の課題で教職員共に時間が占拠されてしまっていたことがその主な原因であろう。しかし、教育や学生支援の改善を求められる内容には待ったなしのものもあるに違いない。きちんとした対応をしなければならない。

4) 次年度に向けて <A>

I R推進部会を開催し、I Rのテーマを募集する。そのためにも、自己点検・評価委員会やFD・SD推進部会と連携し、学生版アニュアル・レポートの内容を先取りして教職員に提示し、問題意識を醸成するのに役立てて貰うことを考える。例えばそこから派生する課題に取り組もうとする機運が高まれば、いくつかのリサーチが始まる可能性がある。このような動きに対しては、教員と職員の研究グループを組んで、積極的に探求してもらえようような手立てを講じる。できれば”研究費”を付けることも考えたい。

<執筆担当/I R推進部会長 住吉 廣行>

(2) コンプライアンス推進部会

1) 取組の概要 <P>

学校法人松商学園コンプライアンス推進規程に基づき、大学内にコンプライアンス推進部会を設置している。部会長は学長であり、委員として研究科長、学部長、事務局長、総務課長、管理課長が配置されている。年度初めの合同教授会、定例教授会、職員会議等を通じて全学的にコンプライアンス精神の醸成と啓発に努めていく。

また、研究倫理委員会の主導により、「研究活動における不正行為への対応に関する規程」、「公的研究費の管理・監査のガイドライン」の遵守の徹底について継続的に取り組む。

2) 取組みの実施 <D>

4月1日開催の合同教授会において、議題として「コンプライアンスについて」を挙げ、全員に「学校法人コンプライアンス推進規程」と「学校法人松商学園コンプライアンス規範」を再配付し学長から説明がなされ、全学的にコンプライアンスについての依頼をした。

また、管理棟(4号館)の教職員の通路に「学校法人松商学園コンプライアンス行動規範」を掲示している。

研究倫理に関しては、「研究活動における不正行為への対応に関する規程」、「公的研究費

の管理・監査のガイドライン」も配付し、全教員から署名入りの確認書を提出してもらった。更に、平成 28 年 8 月 2 日に研究倫理委員会が主管する研究倫理講習会を開催した。講師は東京大学大学院医学系研究科保健管理学教室助教の中澤栄輔氏に依頼した。本学教職員と大学院生合わせて 33 名の参加者があった。

3) 点検・評価 <C>

これまでの継続的な取組により、コンプライアンスに対する意識は全学的に高まっており、コンプライアンスに関するトラブルは発生していない。また、事務局の出納業務や研究費の使途等については、日常的に内部監査室のチェックを経ており、適正な処理がなされている。

また、平成 28 年 8 月 2 日に開催した研究倫理講習会のテーマは「研究に「倫理」が必要なのはなぜか ― 哲学研究から医学研究まで―」であり、具体的な事例に基づいた有意義なものであった。

4) 次年度に向けて <A>

コンプライアンス意識の啓発に対する取組を継続的に進め、常に個々の意識レベルの向上とその維持に努めることが大切である。これまでの取組を継続しつつ、観点を変えた外部講師による講習会、研修会等についても積極的に検討していく。

<執筆担当/コンプライアンス推進部会長 柴田 幸一>

(3) 認証評価準備部会

各学部各学部選出委員及び事務局長と総務課長を構成員とする認証評価準備部会は、自己点検・評価委員会の下におかれ、本学における認証評価受審に関する準備並びに、当部会委員による他大学の認証評価の実施などが主要な任務である。

1) 年度当初の計画 <P>

本運営部会の主要な課題は、次回外部評価授審（平成 33 年）に向けて、本学の「自己点検・評価報告書」の作成のための諸エビデンスの整備に関する助言を必要に応じて各担当者に行うことである。また、前回（平成 27 年度）の受審で指摘されたシラバスの記載方法など教務関連事項について対応策を検討、決定し全学的周知を図ること及び、認証評価に関する情報を捉えて次回受審に向け諸々の準備、整備に努めることも求められる。くわえて、当部会委員による評価員としての他大学の認証評価の実施についても、日本高等教育評価機構からの要請に従って積極的に取り組まねばならない。

2) 現状の説明 <D>

今年度、本運営部会は、本学の認証評価受審に関する準備として、本学の「自己点検・評価報告書」の作成のための諸エビデンスの整備に関する助言を必要に応じて各担当者に行った。また、全学教務委員会と協力・共同して、前回（平成 27 年度）の受審で指摘されたシラバスの記載方法など教務関連事項について対応策を検討、決定し全学的周知に努めるとともに、各種講習会や下記のような形で認証評価に関する情報を捉え、全学教務委員会と協力・共同して、教務関連事項について次回受審に向けて諸々の準備、整備に積極的に取り組んだ。さらに、今年度も、当部会委員が日本高等教育評価機構の評価員として他大学の認証評価を担当し、それを通じて最新の評価基準などについて理解する機会に恵まれ、結果として、本学の受審に関しても重要かつ有益な情報が得られる

こととなった。

3) 点検・評価の結果 <C>

本運営部会として特段会議を設けることはしなかったが、担当者が全学教務委員会の責任者を務めていることから、上述のように、教務関連事項を中心に前回受審で指摘された課題への対応と次回受審に向けた準備に効果的に取り組むことができたと評価できる。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

次年度もまた、冒頭に述べた本運営部会の設置趣旨である、本学における認証評価受審に関する準備並びに当部会委員による他大学の認証評価の実施の円滑な実施に努め、次回受審への準備を主導する。また、他大学の認証評価に関わる人材の養成にも計画的に取り組まねばならない。

<執筆担当/認証評価準備部会長 等々力 賢治>

5. 人権委員会

人権委員会は、ハラスメント防止部会と個人情報保護部会の2部会で運営されている。委員会のメンバーは、教員が各学部学科から8人、職員は学生課・教務課・管理課・情報センター・キャリアセンターなどの各部署から10人の合計18人で構成されている。教員は、ハラスメント防止部会と個人情報保護部会の2部会を共に担当しているが、職員の方は両部会に分かれて担当することとなっている。

1) 年度当初の計画 <P>

- ①全学教職員を対象に研修会を実施し、人権教育についてさらに意識を高める。
- ②研修会への積極的な参加を呼びかける。
- ③各学部から選出された2名ずつの委員に相談員を担当してもらい、人権問題についての相談業務を行う。

2) 現状の説明 <D>

- ①人権委員会およびハラスメント防止部会・個人情報保護部会は必要に応じて不定期の開催となった。
- ②相談業務を3件行った。適切かつ速やかに問題解決することができた。

3) 点検評価の結果 <C>

- ①全学教職員を対象に研修会を実施する予定であったが、残念ながら講師候補者の予定が合わず実施を見送らざるを得なかった。
- ②相談業務は3件である。その内1件は申立人不明により事実確認ができないため却下となったものの、残り2件は速やかに相談に応じ適切な対応をとることによって解決することができた。人権意識の向上および問題意識の共有がなされているためスムーズな対応ができた。

4) 次年度への改善改革に向けた方策 <A>

- ①今年度は研修会を行えなかったため、来年度はこれを実施し、全教職員に積極的な参加を働きかける。特に教職員のニーズに応じた研修会を企画する必要がある。

②人権問題に対する地道な活動から、相談し易い窓口、速やかな委員会への連絡体制がとられ、かつ適切な相談員の派遣と対応が見られた。今後もこれらが維持できるよう人権問題についての理解を深め、そして健全な教育・研究・学習・労働環境のもとで学生ならびに教職員の学ぶ権利と働く権利の確保を図らねばならない。

＜執筆担当/人権委員会 委員長 増尾 均＞

6. 健康安全センター運営委員会

センター長を中心に学生・教職員の健康問題や、健康の維持・促進に組織的に取り組んできた。

1) 年度当初の計画 <P>

今年度は、昨年度から継続して学生・教職員個々の健康問題に迅速に対応していく他、

①心肺蘇生法の普及

②健康教育の充実

を掲げ、取り組んできた。

2) 今年度の活動実績 <D>

①学生の健康管理

- ・外傷や体調不良、心身の健康相談などに、まず保健師が対応し、必要があればセンター長である医師に連絡・相談して、応急処置、相談に対するアドバイス、医療機関へのコンサルトなどを実施した。
- ・教職員と連携し、心身の健康状況に問題を抱える学生に関する相談に対応し、ケアカンファレンス、保護者面談への同席などを実施した。また必要に応じ、継続的に医療機関を受診している学生に関しては、主治医との面談も実施した。
- ・週2回、カウンセリングルームを開室し、臨床心理士がカウンセリングを実施した。
- ・学生定期健康診断を実施した。受診率は学生全体で約98%と高い水準を維持している。再検査の指導、精密検査の指導、心身の健康問題に関する保健指導、また地域健康支援ステーションの協力も得て、希望する学生に対して栄養指導を実施した。
- ・学校感染症（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の抗体検査を実施し、抗体価の確認と、感染予防のためのワクチン接種について保健指導を実施した。
- ・体育大会、オープンキャンパス、入学試験などに伴い、それぞれの管轄部署からの依頼を受け、救護対応を実施した。
- ・学生センター連絡会に参加し、学生に関する情報共有と、対応についての検討を実施した。

②学生への健康教育

総合経営学部、人間健康学部健康栄養学科、短期大学部、また地域づくり考房ゆめ、女子ソフトボール部からの依頼に基づき、「禁煙について」「新しい創傷ケアについて」「実習・実験中に起こるケガへの応急手当について」「学校感染症について」「熱中症の対応について」「アナフィラキシーショックの対応について」に関する健康教育および資料の提供を実施した。

③心肺蘇生法の普及

- ・総合経営学部両学科、人間健康学部健康栄養学科、地域づくり考房ゆめからの依頼に基づき、AEDの使用法を含む心肺蘇生講習会を実施した。

④感染症発生への対応

- ・学校医と連携し、強化部（硬式野球部・ソフトボール部）・重点部（陸上部）の学生に対し、インフルエンザ予防接種を実施した。
- ・厚生労働省、長野県健康福祉部の指示のもと、出席停止期間を決定し、学生への周知を図った。
- ・インフルエンザ発症の連絡を受けた場合、ゼミ担当や部・サークル活動の責任者への報告、濃厚接触者に対し感染予防のための保健指導を実施した。

⑤外部相談機関との連携

（株）ティーパック社と提携し、学生・教職員の心身の健康問題に関する電話相談サービスを実施した。

3)点検・評価の結果 <C>

①学生の健康管理

学生定期健康診断時に、受診学生全員に保健師（外部委託保健師を含む）の事後指導を実施している。集合健診であるため、個別の対応を要するものについては、後日健康安全センターへの来室を促し、フォローアップに努めている。また精神面に関しては、カウンセリングルームを開室し、臨床心理士のカウンセリングを実施している。健康安全センター保健師がカウンセリング受付を実施し、面談時の情報を連絡したり、カウンセラーのフォロー状況を適宜検討しケアに当たっている。

カウンセリング申し込みの動機は、精神的不調に伴う不定愁訴が主で、次いで進路の悩みや学業意欲の不振、異性関係の悩みであった。精神的不調にて専門機関を受診しているもの、受診勧奨者を併せ、申し込んだ半数以上の学生に精神的不調がベースにあった。学生自ら希望して来室するケースが少しずつ増加している状況である。

②学生への健康教育

禁煙・創傷ケア・感染症などについて健康教育を実施している。講習後の感想では「これまで誤った方法でやっていたことがわかった」など正しい知識の普及には一定の効果が認められるが、知識の定着や生活の中での活用にはまだ課題も多い。継続的に教育していけるシステムが必要である。

③心肺蘇生法の普及

総合経営学部（総合経営学科・観光ホスピタリティ学科）1年生全員、人間健康学部（健康栄養学科）3年生全員を対象に心肺蘇生法講習会を実施した。

受講人数が50名を超えると、座席によっては集中力を欠いてしまう場合もあり、講習の実施方法などについては今後検討が必要である。

④感染症発生への対応

インフルエンザについては、学生から150名余りの感染報告があった。硬式野球部の寮生にも集団発生があり、予防接種だけでは感染拡大を防ぎきれなかった。集団生活を送っていない部活動、ゼミなどでは集団感染は認められなかったが、今後は予防接種だけでなく、日常的な感染防止の教育が必要である。

⑤外部相談機関との連携

（株）ティーパックと連携している電話相談サービスの利用者は、月平均5~6名にとどまっている。個人情報保護の観点から、具体的な相談内容や、相談の対象者は不明であるため、利

用者のうち、本学の学生が自分自身のことについて相談している件数はさらに少ないことが考えられる。サービスの周知方法について、また匿名による電話相談サービスの必要性について、再検討が必要である。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

今年度と同様、学生それぞれの健康問題に対して迅速に、また的確に対応していくために、さらに組織的な運営を目指していく。

①心肺蘇生法の普及

引き続き学生への講習を実施していく。ゼミや部・サークルなど特性に応じた講習ができるよう、さらに工夫していく。

②健康教育の充実

多人数に対しての講習形式だけではなく、現在の学生の行動形態からも学生同士の連絡、いわゆる口コミの情報が大きな力を持っている。体調不良や外傷で来室した学生に対し、状況の許す限り処置の根拠を説明し、自分で対応していけるような働きかけをしていく。

<執筆担当/健康安全センター運営委員会 委員長 江原 孝史>

B：施設管理

1. 施設管理センター運営委員会

1) 取組の概要 <P>

平成 28 年度において、次の施設整備に取り組む。

- ①教育学部専用棟（8 号館）の建設工事（第 2 体育館を含む）
- ②第 2 部室棟の改築工事
- ③短期大学のアクティブラーニング推進のための什器・情報機器の整備
- ④1・2 号館の ICT 教育環境の整備のための音響映像機器の入れ替え
- ⑤1 号館消火配管の更新工事
- ⑥学生駐車場用地の確保

2) 計画の実施 <D>

①教育学部専用棟（8 号館）の建設工事（第 2 体育館を含む）

平成 27 年 12 月 17 日に着工し、平成 29 年 1 月 27 日に竣工した。その後、機器備品を搬入し、3 月中旬には教員と学生の受入れ体制を整えることができた。工事期間中、本学と工事業者との定例会議（月 1 回）を設定し、工事の進捗状況の管理に努め、トラブルなく順調に工事を進めることができた。

②第 2 部室棟の改築工事

8 号館建設工事と同時に第 2 部室棟の改築工事を進め、14 室を有する部室棟が平成 29 年 1 月 27 日に完成した。野外トイレ、倉庫等も併設した。

③短期大学のアクティブラーニング推進のために什器・情報機器の整備

文部科学省「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」タイプ 1「教育の質転換」の枠を活用し補助金を申請した。

④1・2 号館の ICT 教育環境整備のための音響映像機器の入れ替え

老朽化により不具合を生じ始めていた 1・2 号館教室の音響映像機器を入れ替えることで、短期大学部が積極的に取り組んでいる ICT を活用した双方授業のための環境整備を行った。文部科学省「私立大学等改革総合支援事業 ICT 活用推進事業」補助金を申請した。

⑤1 号館消火配管の更新工事

8 号館の消火設備の敷設に当たり、1 号館の既存の消火配管と連結させ、消防法に定める水圧を確保するために配管の更新工事を行った。

⑥学生駐車場用地の確保

教育学部学校教育学科（入学定員 80 人）の開設に伴い、学生駐車場の不足が生じることに対処するため、新たな駐車場用地の確保に向けて、大学近隣の土地に関する情報収集を進め、候補地を確保することが出来た。

3) 点検・評価 <C>

①教育学部専用棟（8 号館）の建設工事（第 2 体育館を含む）

当初の設置経費の通りに 8 号館の建設工事を終えることができた。文部科学省に認可申請に提出した設置経費は、1,693,000 千円であった。また、工期については、当初計画よりも早めに進み、

約1ヵ月の余裕をもって順調に進めることが出来た。

②第2部室棟の改築工事

クラブ・サークル活動が盛んな本学にとって、今回の部室棟の改築は学生活動の支援と安全管理の確保の面において意義あるものとなった。松本大学後援会からの寄附金3,000千円を機器備品整備の資金に充てた。

③短期大学のアクティブラーニング推進のために什器・情報機器の整備

文科省補助金「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」に採択された。事業経費の総額は14,691千円、補助額は10,503千円で補助率71.5%であった。本来は100%の捕縄率を前提としている補助制度であるが、全国の大学からの申請件数、申請額が多かったためのである。

④1・2号館のICT教育環境整備のための音響映像機器の入れ替え

文科省補助金「私立大学等改革総合支援事業 ICT活用推進事業」に採択された。総事業経費は19,980千円、補助額は9,990千円であった。本補助金制度の補助率50%固定である。

⑤1号館消火配管の更新工事

今回の消火配管の更新工事により、8号館の消防設備について消防署の認可を得ることができた。

⑥学生駐車場用地の確保

大学近隣の新村地域に2504.66㎡(757.66坪)の学生駐車場用地を確保することができた。購入価格は57,000千円であり、購入資金は長野県及び松本市からの教育学部運営に係る補助金300,000千円から支出した。

4) 今後の課題 <A>

平成28年度に確保した学生駐車場用地の造成工事を進める。アクセス道路が狭隘のため、近隣住民への丁寧な説明と運用上の配慮が必要である。また、教育学部の学年進行に伴う学生数の増加に対応する学生食堂の増築も欠くことはできない。同時に生協に委託している学生食堂の運営の在り方についても並行して検討していく。

老朽化が進む1・2号館(特に設備関連)の修繕を効率的に進める工夫が大切である。また、3号館屋上の防水補修工事は早急に対応しなければならない。更にフォレストホール、第一体育館、機械棟の屋上の防水補修工事もここ2年くらいのうちに必要になろう。

今後、新たに策定する中期目標・計画において、大学全体の施設設備の充実の視点から計画的に取り組んでいく。

<執筆担当/施設管理センター運営委員会 委員長 柴田 幸一>

2. 危機管理委員会

(1) 環境保全部会

1) 年度当初の計画 <P>

学内におけるエネルギー利用の合理化や資源利用の適正化を進めること、もしくは、その活動を支援することを通じて、(a)学内の環境活動を進め、(b)高等教育機関として環境配慮の人材育成に努めることを部会の目的とした。

2) 今年度の活動実績 <D>

(a) 学内の環境活動について

- ①古紙・段ボール等の資源回収は障がい者就労支援事業所の第2コムハウスと契約して発生量に合わせて回収している。また、エコ・キャップは常時学内で回収する専用の箱を設置している。
- ②学内の行事の際、資源回収、環境保護の観点に留意するように働きかけている。
- ③太陽光発電を導入して2年が経過し、契約電力量を上回る状態は回避できた。併せて大学全体の1年間の電気使用量は概ね現状維持であり経費削減までには至らなかった。

(b) 高等教育機関として環境配慮の人材育成について

- ①障がい者就労支援事業所回収前作業として、主に学内のコピー用紙、新聞紙等を中心に、学生による整理作業の協力を呼びかけ実施している。
- ②部会を構成する教員が中心となって省エネ及び環境配慮にかかる情報を全学生へ向けて提供した。

3) 点検・評価の結果<C>

- ①部会の活動が全学教職員間で十分に共有できないままであった。
- ②学生活動の支援や体制づくりは、教職員一体となって相互に連携をとりながら進めている。さらなる学友会との連携強化を図る。
- ③今年度ニュースレターの発行に至らなかった。

4) 改善・改革に向けた方策 <A>

今年度、部会構成メンバーの改選により積極的に環境保全に努めることができなかった。これまで取組まれた活動は継続することはできた。環境学に詳しい教員が部会に携わり指導を仰ぎながら本部会における取組みが展開される方が効果的であるように考える。

<執筆担当/環境保全部会長 尻無浜 博幸>

(2) 防災防犯対策部会

1) 活動方針 <P>

本部会は、自然災害を想定した体制整備、防災訓練の計画と実施、また学校内の防犯体制整備を目的としている。自然災害を想定した体制整備は本学だけに留まるものではなく地域社会との関係性の中での取り組み、構築を主眼におきながら計画するものである。

2) 活動内容 <D>

①防災訓練の実施(6月と11月) 6月においては新村地区との合同訓練

実際発生に近い設定による防災訓練を試みる観点から、新村地区における第一次避難場所(町会公民館)と指定避難場所(松本大学グラウンド)との避難経路の確認と本学学生の役割の検証を行った。11月は講座を中心とした地区合同の防災勉強会を兼ねた演習を行った。

②防災士養成講座(日本防災士機構)開講

10月8日(土)9日(日) 受講者55名(一般33名・学生22名)

③防災対策先進地視察 広島市安佐南区土石流発生地域

11月10日(木)~12日(土) 広島市危機管理室危機管理課訪問

主に土砂災害防災についての学びと被災後のケアボランティアの受け入れ

④「防犯カメラ運用に関するガイドライン」運用状況精査

3) 結果と評価 <C>

①防災訓練の実施（6月と11月） 6月においては新村地区との合同訓練

訓練によって地区の期待と学生の対応との違いが明確になった。役割が具体的になるため学生の姿勢に変化が見られるようになった。

②防災士養成講座（日本防災士機構）開講

認定試験には全員合格したものの受講者は減少傾向にある。しかし、ある自治体は自治体独自の取組みとして養成講座に人材を派遣するなど団体、会社などへの普及が図れつつある。

③防災対策先進地視察 広島市安佐南区土石流発生地域

松本地域の災害を考えたときに土砂災害防災の可能性は高いため、そのためにメカニズム、対策などの学びは大変参考になった。

④「防犯カメラ運用に関するガイドライン」運用状況精査

防犯の際、実際に活用する中でその運用を検証している。学生課との協力で進められている。

4) 改善・改革に向けた方策<A>

防災士の養成は、今後は正課内授業でも取組みを検討中で防災に関わる本学の取組みが地域社会の牽引役になっていくことを目指す。さらなる学生を巻き込んだ災害時の資源となり得る取組みを構築するものである。

<執筆担当/防災防犯対策部会長 尻無浜 博幸>

第3部 事務部門の点検・評価

I. 全学的事務部門

1) 事務部門の課題 <P>

(1) 教育学部設置認可申請及び校舎建設工事

平成28年3月、本学の教育研究領域の拡大のために、教育学部学校教育学科の設置と小学校教諭一種及び特別支援学校教諭一種免許に係る課程認定を文部科学省に申請した。設置認可については、文部科学省からの審査意見伝達（5月）、補正申請（6月）に的確に対応し、認可（8月）を確実なものにする。また、課程認定についても審査意見伝達（8月）、補正申請（9月）のスケジュールに沿って指摘事項に対処し、答申（11月）、認定（12月）まで円滑に進める。

教育学部専用棟（8号館）の建設工事は平成27年12月に着工し、平成29年2月末の竣工を想定し進める。本学と建築業者による毎月の定例会議を通じて、近隣住民に配慮した安全な工事に心がける。

(2) 既存学部の入学生数の見直し

平成27年10月1日に施行された「設置等に係る認可の基準の一部改正」を受け、総合経営学部及び人間健康学部の各学科の入学生数の適正規模を検証し、厳格な定員管理を行うために見直しを進める。

(3) 「COC事業」と「未来経営戦略経費」の中間評価への対応

平成25年の選定された文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC事業）と日本私立学校振興・共済事業団特別補助金「未来経営戦略経費」の取組が3年を経過し、平成28年度は中間評価の年にあたる。これまでの取組とその成果に係るエビデンスを整理し、滞りなく所定の審査を受ける。

(4) 他大学とのSD協定の締結

平成29年4月1日から大学設置基準の改正が施行され、SDが義務化された。これまで本学においては、SDに対して積極的に取り組み、様々な研修機会を確保してきた実績がある。今後は他大学とSD協定を締結することにより、さらに幅を広げると同時にその質を高めていく。

(5) 事務局体制の強化

大学職員の業務は管理部門、教学部門、学生支援部門まで非常に多岐に亘っている。現在の職員の年齢構成を考慮し、将来に向けて事務組織を段階的に強化していくために、既卒者で中堅にあたる専任職員の採用について具体的に取り組む。

(6) 学生募集と財務

本学を取り巻く学生募集の環境が激しく変化する中であって、平成28年度入学生の学生募集においては、大学院、各学科とも入学生数を上回る好結果を得ることができた。

平成28年度予算の執行に際しては、メリハリを大事にしながら、可能な限り無駄を省く努力を継続する。また、今後の消費税率アップの動きを捉え学費を見直し、平成28年度入学生から健康科学研究科及び各学部の施設費を一律3万円の値上げをすることで、平成28年度入学生から教育活動収入の強化を図っていく。

2) 具体的な取組 <D>

(1) 教育学部設置認可申請及び校舎建設工事

教育学部学校教育学科の設置認可については、5月の審査意見伝達に速やかに対応し、6月の補正申請を行った。8月31日で寄附行為変更と教育学部学校教育学科（入学定員80名）の平成29年4月の設置が認可された。9月以降、本格的な学生募集活動を進めた。

教育学部専用棟（8号館）の建築工事は順調に進み、予定よりも1ヵ月早い平成29年1月27日に竣工し、同29日に竣工式を執り行った。2月、3月に機器備品の搬入を順調に進め、3月中旬には教員と学生の受入れ体制を整備することができた。

(2) 既存学部の入学定員の見直し

学内での検討を経て、平成28年11月29日及び平成29年1月17日開催の理事会に総合経営学部総合経営学科、人間健康学部健康栄養学科、同スポーツ健康学科の収容定員の変更について上程し、審議の結果、異議なく承認された。各学科の入学定員を次の通りに変更することとした。

- ・総合経営学科 変更前80人 変更後90人（10人増）
- ・健康栄養学科 変更前80人 変更後70人（10人減）
- ・スポーツ健康学科 変更前80人 変更後100人（20人増）

この変更により松本大学の入学定員は20人増の420人、収容定員は80人増の1,720人となる。文部科学省との事前相談を経て、平成29年3月29日、収容定員関係学則変更認可申請書を提出した。

(3) 「COC事業」と「未来経営戦略経費」の中間評価への対応

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC事業）の中間評価は、認可時に付された留意事項への対応も含め、平成28年7月に所定の進捗状況報告書を提出し、書面評価を経て同8月に面接評価を受けた。面接評価の方法は本学からの説明10分、質疑応答20分、まとめ5分の計35分間であった。

(4) 他大学とのSD協定の締結

平成28年12月2日に、十文字学園女子大学と「十文字学園女子大学と松本大学及び松本大学松商短期大学部との事務職員の連携・協力に関する協定」を締結した。また、平成29年2月22日に、共愛学園前橋国際大学と教職員の交流と研修に関する条項を設けた「松本大学と共愛学園前橋国際大学との大学間連携協定」を締結した。

(5) 事務局体制の強化

平成28年4月に国際交流センターの充実のために、1名の専門員を配置した。また、同7月に総務課に1名、同8月に「地域づくり考房『ゆめ』」に1名の職員を補充し、事務体制の強化を図った。

(6) 学生募集と財務

平成28年度の学生募集は、新たに教育学部を加えた4学部（短期大学部を含む）と大学院で展開することになった。教育学部学校教育学科については、認可後の9月からの学生募集活動となり、前半の広報の出遅れの影響はやむ終えない面もあった。AO入試、一般入試、センター試験利用入試等で一定の受験者を得て、定員を上回る合格者を出したが、教育学部志願者は国公立大学、他の私立大学との併願者が多いため、歩留まり率が低く定員を割る結果となった。総合経営学部の2学科、人間健康学部の2学科については、健康栄養学科が定員に満たなかった。詳細は入試

委員会の項の記述による。

平成 28 年度決算の結果、平成 28 年単年度において、大学は 371,646 千円の収入超過（前年比 56,491 千円増）、短期大学部は 55,886 千円の収入超過（前年比 8,859 千円増）となり、バランスのとれた健全な財務状況を確保することができた。

3) 取組に対する評価<C>

(1) 教育学部設置認可申請及び校舎建設工事

教育学部学校教育学科の設置認可を受け、本学部の設置の趣旨に鑑み、中学・高等学校英語教諭免許課程の認定に向けて取り組むこととした。英語関連科目の新たな授業科目の配置を伴うため、完成年度前の学則変更の審査を受けなければならない。また、並行して AC (After Care) 教員審査に対応していくことが必要である。

教育学部棟（8号館）の建設工事は予定通りに竣工し、設置計画に沿った教育機器備品も整備できた。平成 29 年度入学生の学年進行に合わせて、教育課程とシラバスに沿った適正な授業環境の確保に継続的に取り組むこととする。

(2) 既存学部の入学定員の見直し

2) (2) に記した収容定員の変更認可申請により、大学の収容定員は 80 人増の 1,720 人となる見込みである。入学定員は総合経営学科 90 人、観光ホスピタリティ学科 80 人、健康栄養学科 70 人、スポーツ健康学科 100 人、学校教育学科 80 人で計 420 人となる。過去 5 年の志願者・入学者の状況及び長野県内の学生募集環境の変化（私立大学の公立化、長野県立大学の設置）に対応したものであるが、今後、これらに対応した学生募集戦略が必要である。

(3) 「COC 事業」と「未来経営戦略経費」の中間評価への対応

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC 事業）の中間評価は「B」判定であった。事業の三本柱の一つである「健康づくり」についての定量的な指標・評価軸を導入しそれに沿って進捗状況を管理をすることと、新たな「地域志向科目」の必修化が求められた。

「未来経営戦略経費」の中間評価は「A」判定で、「計画が予定通り実行され、その成果も十分現れている」のコメントであった。

(4) 他大学との SD 協定の締結

平成 28 年度に連携協定を締結した十文字学園女子大学と共愛学園前橋国際大学との具体的な交流を開始した。平成 28 年 12 月 12 日に十文字学園女子大学を訪問し、職員の労務管理に関する情報交換を行った。また、平成 29 年 2 月 22 日に共愛学園前橋国際大学において、キャリア教育に関する合同 FD・SD を開催した。これらは今後の SD の発展的な展開に繋がる有意義なものであった。

(5) 事務局体制の強化

事務局全体の人事配置のバランスを考慮し、職員の職能向上と適材適所の配置の両面から点検していく。

(6) 学生募集と財務

2) (6) に記した通り、松本大学、松商短期大学部ともバランスのとれた決算となった。学校法人全体においても 2,291,751 千円の資金を保有することができた。

4) 次年度の展開に向けて <A>

(1) 教育学部のAC対応と英語免許に係る課程認定

教育学部学校教育学科において、平成30年4月から中学・高校英語免許課程を置くことを計画している。そのために、現行の学校教育学科の教育課程を変更する必要がある。具体的には、認可された教育課程に英語教育に関する科目を加えることになる。課程認定の申請の進捗状況を見極め、文部科学省との事前相談を経て、学則変更及びAC教員審査に対応していく。

(2) 既存学部の入学定員の見直し

3) (2) で記した入学定員を確実に充足し、継続的に収容定員を適正に管理していくことが肝要である。平成28年度から本学を取り巻く学生募集の環境はこれまでと大きく変化してきている。私立2大学の公立化による長野県外の高校生の長野県への流入、長野県の高校生の県内残留率の低下、長野県立大学の開設予定等が大きな影響を及ぼしている。平成29年度の学生募集状況（平成30年度入学生）は今後の本学の長野県における評価を左右するほどの重みがあると言えよう。

(3) 「COC事業」と「未来経営戦略経費」の中間評価への対応

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC事業）の中間評価に対して、平成29年度に確実に対応する必要がある。「健康づくり」の取組に対する成果の評価基軸の設定し、実際の評価結果をまとめる。また、平成30年度のカリキュラム改正において、新たな「地域志向科目」を必修科目として配置する。

「未来経営戦略経費」については、当初の計画に基づき個々の取組を進める。大きな課題は本学の実情にあった目標管理制度と人事考課制度の確立である。

(4) 他大学とのSD

十文字学園女子大学と共愛学園前橋国際大学のみならず、長野県内の私立大学との合同SDに取り組む。現在の協定校である清泉女学院大学、諏訪東京理科大学（平成30年公立化）以外の私立大学（私立短期大学を含む）を加えた協定の再編も検討していく。

(5) 事務局体制の強化

中期的な事務局体制の再構築を想定した新たな採用人事の必要性がある。現在の職員組織を点検しながら、Uターン、Iターン、転職等を希望する有為な職業経験者を確保することにより、中堅職員の質と層を厚くし、人事異動をし易い体制を段階的に整備していくことに取り組む。

(6) 学生募集と財務

平成29年度学生募集の喫緊の課題は、教育学部学校教育学科の入学定員80人の充足である。学生募集の基本方針に沿って、指定校推薦入試で目標とする人員を確保し、その上で一般入試に臨むことができるように、教育学部を挙げて入試広報室と連携しながら高校訪問を展開する。

平成28年度において長野県と松本市から交付を受けた補助金3億円を教育学部の運営に資する特定資産として取扱い、特色ある教育の推進のために有効に活用する。

平成28年度決算を踏まえ、今後、教育学部の設置資金の回収について中長期的なシミュレーションが適正にできる財務的体力を保持していくことが大切である。また、学生数の増加に伴い、新たな学生駐車場の整備、学生食堂の増築等、施設設備の拡充に対して計画的に取り組んでいかなければならない。その意味で、平成30年度入学生の学生募集において入学定員を確保することは、今後の事業を展開する上で必須条件である。

＜執筆担当／大学事務局長 柴田 幸一＞

II. 総務課・管理課

[はじめに]

総務課・管理課の業務は多岐に亘る。日常業務を適正に遂行していくためには、幅広い大学運営に関する知識が必要である。ともすると、専門性が高いが故に個人が分担する業務のみの知識に偏重し、視野が狭くなりがちである。総務課、管理課の業務においては、直接的に学生との接点を持たないものが多いが、単に機械的に事務処理をするのではなく、その背景に学生がいることを常に念頭に置き、幅広い視点をもって個々の業務に対して意義付けをすることが大切である。

学生を直接的に教育する立場にある教員との日常的な事務連絡、会計処理、教育環境の整備、労務管理等、すべての面において、その立場を慮る姿勢が根底にあり、その上で様々な基準や規則に基づき、的確に判断することが事務職員に求められる。学生を中心ににおいて、教員と職員が協働するという背景には、有り体に言えば「教員にとって痒いところに手が届く職員」であることがベースラインである。誤解があってはならないが、職員は教員の命により労働するわけではないからこそ、このような心持と協力的な行為が組織人として必要なのである。こうした考え方を基本として総務課・管理課に分掌された業務の意味や、その役割を常に考えることこそが地に足の着いた新たな提案や改善に繋がる。

総務課・管理課の事務処理の基本事項を再点検し、大学の全体的な動き、各委員会・各会議の動き、教員の教育研究活動等について正確に理解したうえで、個々の立場で考え工夫することを常とし、一人ひとりが配慮の行き届いた実務の遂行に心がけることが肝要である。

また、加速度的に進む我が国の高等教育政策、刻々と変化する本学を取り巻く環境の変化に深い関心と危機感を持ち、現代の大学運営に求められる生きた知識の獲得に努力し、新たな発想により本学の存在をより確かなものとするように前進していかなければならない。

1. 総務課（総務・会計）

1) 基本計画 <P>

(1) 電子データ及び紙ベースの保存書類の整理・整頓（仕事の効率を上げるために）

- ①サーバー上のデータの整理および共通化をさらに進めると共に、不必要なデータの削除を進める。
- ②書庫・書棚の整理・整頓及び倉庫の利用者について再配分を進める。また、8号館の増設に伴い、新たに鍵が増えることが予想されるため、鍵類の分かりやすい管理にいつそう努める。

(2) 定例会議・各種委員会への対応

- ①各教授会開催に向けた事前配付資料の準備の定型化をさらに進め、正確な資料準備に努める。
- ②ペーパーレス会議は、該当者全員が同じノートPC又はタブレットを必要とするため、初期投資を必要とする。予算的な課題はあるが、維持費は安価であり、メリットが大きいと考えられるため、今年度短期大学部教授会で始めたが、他学部へも導入を進めたい。
- ③各委員長に対し、担当事務職員からきめ細かな連絡、相談を行うことで円滑な委員会運営に努める。

(3) 適正な会計処理の遂行と予算管理および節約

- ①コスト意識をもって予算の執行にあたる。
- ②消耗品の節約に今後も継続して努める。

③修繕工事ではできる限り相見積りを取って交渉材料とし、経費節減にいつそう取り組む。

④環境保全部会と連携しながら、更なる光熱水費の節約に努める。

(4) 規程の整備

①未整備の規程について継続的に整備を進めるとともに、各規程間の整合性の再点検を進める。

②規程、内規、規則・基準等の取扱い及び管理方法について明確化する。

③「松商学園規程管理システム」が適切に運用されているか検証を進める。

(5) 特別補助金および競争的補助金の獲得

①補助金に関する広範で正確な情報収集に努める。

②学内分掌を念頭に置き、教員と職員の連携を拡大し、新たな補助金申請を模索する。

③補助金申請の根拠資料の整備について再点検する。

④「私立大学等改革総合支援事業」に係る調査票の内容を精査し、得点アップに向けて本学の実情を踏まえつつ積極的に取り組む。

(6) 教育研究施設設備および環境の整備

①教育学部の開設に向け、遺漏のない様確実に整備計画を進める。

②老朽化が進む短期大学部棟の改修工事を計画的かつ効率的に進める。

③補助金制度は今後も積極的に獲得を目指しつつ、必要性和補助率減少に伴う自己負担の増加とを慎重に検討して進める。

(7) 情報公表

①公式ホームページの情報公表におけるデータの見せ方をさらに工夫する。

②各部署から情報発信しやすいよう、入試広報室と連携しつつ、システム整備を進める。

③各部署等から発行される広報物・印刷物について、電子ライブラリー化してより広く大学情報の公表ができるよう検討を進める。

(8) 各種調査・アンケートへの対応

①社会に対する影響力の強いものについては、組織的に対応し情報を共有していく。

②全学的にデータの一元化・共有化を進め、各調査間で整合性の取れた回答ができるようにする。

(9) 後援会

①後援会の予算規模に照らし、学生活動の有効な支援方策について検討を進める。

②資格取得支援センター運営部会の検討も踏まえ、奨励金の予算を減額させたことを点検・評価していく。

③平成28年度は「梓乃森祭」が記念となる第50回を迎えるため、例年以上に学生の支援に取り組む。

(10) 認証評価への対応

①機関別認証評価の第三サイクルを視野に入れ、情報収集に努める。

総務課の業務はここに掲げた項目以外のものも多々あり、その内容も多岐に亘るため、総務課は効率性を重視し適正に業務を遂行し得る組織でなければならない。特に平成28年度においては、新学部の立ち上げ業務に対応すべく、新たな事務体制を構築していく。

2) 実際の取組み <D>

(1) サーバー上のデータ及び紙ベースの保存書類の整理・整頓

- ①情報センターによる事務サーバーのクラウド化に伴い、フォルダの整理・統合を行い、不要文書の削除に務めた。
- ②書庫の保管スペースの確保を目的として、保存書類を「外注によるデータ化」することを検討した。鍵の管理については既存建物等の整理を行った。

(2) 定例会議・各種委員会への対応

- ①教授会資料の定型化が十分に浸透し、準備業務の効率化につながった。
- ②次年度から、全学部の教授会及び総務委員会でペーパーレス会議を導入するため、全学的に理解を求め、承認を得た。これに伴い、システムの選定と教職員に配付するタブレットの予算化を行った。
- ③全学共通の議事録様式を統一化をすすめ、内容を分かりやすく標記するとともに効率よく管理できるように取り組んだ。

(3) 適正な会計処理の遂行と予算管理および節約

- ①日常会計の証憑書類について、特に物品購入の会計書類として、見積書・納品書・請求書の三点セットを整えることを全員で推進し、取引業務の公正性を担保するために、総務課員による検品の徹底を進めた。
- ②使用数の多いものについてはまとめて発注を行うなど、単価を下げる工夫に取り組んだ。
- ③予算の執行に際しては、金額の多寡に拘わらず、可能な限り相見積もりを取り、経費節減につながるよう、業者との交渉を行った。
- ④老朽化により破損した照明設備を順次 LED 器具に交換するよう心がけた。また、全館 LED 化を視野に入れ、情報収集に着手した。

(4) 規程の整備

- ①認証評価第三サイクルの受審に向けて、現行規程の改正、新規規程の制定を進めた。
- ②規程等の検討は全学運営会議で行い、全学協議会で審議・承認を得る手続きを明確化した。
- ③「松商学園規程管理システム」を全教職員に周知し、活用してもらえるよう推進した。

(5) 特別補助金および競争的補助金の獲得

- ①文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団（私学事業団）の各種補助金に係る情報を収集し学内に周知した。文科省「大学教育再生加速プログラム（AP）」、私学事業団「私立大学等改革総合支援事業」（①私立大学経常費補助金 ②私立大学等教育研究活性化設備整備事業 ③私立大学等教育研究設備整備費補助）等である。

- ②上記の競争的補助金の獲得に向けて、教員と職員の協力体制により申請業務を進め、最終的に次の補助金を獲得することができた。

・「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC）」（4年目）	23,400千円
・「 〃 （COC+）」（2年目）	11,662千円
・私立大学等教育研究活性化設備整備事業	10,503千円（短大タイプ1）
・ICT活用推進事業	9,990千円（短大タイプ1）
・未来経営戦略推進経費（4年目）	5,328千円（SD大学職員力向上）
・「大学教育再生加速プログラム（AP）」	23,950千円
合計：84,833千円	

・「私立大学研究ブランディング事業」 学部で申請したが不採択

③補助金の申請に当たっては、申請要件並びに根拠資料を複数の担当者で確認し、正確な補助金申請をこれまで以上に心がけた。

④全学運営会議において調査票の評価ポイントを点検し、得点アップにつながるよう取り組んだ。

(6) 教育研究施設設備および環境の整備

①8号館の設備・備品について納入業者との連絡を密に行いながら、計画を履行した。

②8号館建設に伴う、消火配管設備の再敷設、1号館、3号館での雨漏り等への対応を行った。

③費用対効果を念頭に置きつつ、短期大学で教育研究活性化設備整備費補助金ならびに ICT 活用推進事業に申請を行った。

(7) 情報公表

①学校教育法施行規則に基づく、大学の教育情報の公表義務のある9項目に加え、私学事業団が努力義務としているすべての項目を公表した。これは経常費補助金の増額に反映されるものである。

②広報委員会及び大学広報担当者と連携し、公表している情報の見せ方の工夫に着手した。

③書庫・書棚の整理と合わせ、保管印刷物の電子化に着手した。

(8) 各種調査・アンケートへの対応

①文科省、私学事業団の公的調査に不整合を生じることなく適確に回答できるよう、基本データの一元管理に努めた。

②公的調査および意義ある民間機関の調査・アンケート等に対応した。

(9) 後援会

①役員会及び総会の円滑な運営に努めた。また、8号館と併せて整備された第二体育館及び第二部室棟の備品等の整備として200万円の補助を行った。

②検定・資格取得に対する奨励金は減額しつつ、他の学生生活動の支援を積極的に行った。

③「梓乃森祭」には、第50回目の記念として、例年より多くの支援を行った。

(10) 認証評価への対応

①第三サイクル受審に向けた意見交換会等に参加し、情報収集を行った。

3) 取組みに対する点検 <C>

(1) サーバー上のデータ及び紙ベースの保存書類の整理・整頓

①総務課・管理課のフォルダを分割することで、役割が明確になるとともに、アクセスしたいフォルダを探しやすくなった。

②印刷物のデータ化に着手し、書庫の整理を進めることができた。鍵の管理については、既存建物分の整理はほぼ終えたものの、8号館分に着手することはできなかった。

(2) 定例会議・各種委員会への対応

①ペーパーレス会議の円滑な導入に向け、試験的に準備業務を開始し、より効率的な流れを作ることができた。

②次年度から全学的にペーパーレス会議を導入するに当たり、費用対効果を念頭に置きつつなるべく多くの人にとって使いやすいシステムの選定を心がけた。試験的に導入していたシス

テムよりもユーザー、管理者側双方にとって使いやすいものを選定することができた。

③各委員会の委員長と担当事務局が連絡を密にするよう心がけ、各委員会が概ね円滑に運営された。

(3) 適正な会計処理の遂行と予算管理および節約

①見積書・納品書・請求書等の証憑書類の不備が減少し、監査指摘を大幅に減らすことができた。

②施設の経年劣化による消耗部品の交換が増加傾向であり、計画的な発注などによる経費節減がいっそう必要である。

③相見積もりを取れない場合でも、業者からの提案を鵜呑みにすることなく、価格交渉を必ず行うよう心がけた。

④全館 LED 化に向け、未整備箇所すべてについて校舎単位で複数社から提案、見積もりを取り、将来構想の検討材料として情報提供した。電気料については太陽光発電により前年比 200 万円を超える節減ができたが、灯油代については値上がりに加え、冬季の気温が前年より低かったことにより、100 万円程度上昇した。

(4) 規程の整備

①規程集のシステム化により、書式の統一化には一定の目途をつけることができた。

②新たに整備する規程等については、規程、内規、規則・基準などの扱いにするかを全学運営会議で検討して進めることとした。既存の規程等については、①のとおり、再点検が必要である。

③「松商学園規程管理システム」の運用は一定の軌道に乗ったと考えられる。一方、運用が進む中で規程の未整備や不整合が明らかになったところもあり、①のとおり、再点検が必要である。

(5) 特別補助金および競争的補助金の獲得

①文科省と私学事業団がジョイントした「私立大学等改革総合支援事業」における補助金交付基準は、個々の大学の大学改革に対する取組状況に応じて傾斜配分する特別補助金の割合がますます高くなる傾向にあり、実質的には競争的補助金に近い形に変化してきている。平成 28 年度においても、大学、短大とも「タイプ 1 および 2」の調査票において基準値を超えた。

②前年度不採択であった AP（アクセラレーション・プログラム）は、昨年の反省を踏まえて入念に申請準備を行ったことにより、今年度の採択にいたった。

③各種補助金の申請に際しては、適正な根拠資料に基づき判断し、その根拠資料を確実に保存することが大切である。後追いとなることがないように、事前準備を丁寧に行う。

④これまで採択されている「タイプ 1 及び 2」に加え、四大側で「タイプ 3」の獲得を目指したが、基準値にわずかに及ばず不採択であった。

(6) 教育研究施設設備および環境の整備

①計画通りに整備を進め、8 号館竣工、教育学部開設を迎えることができた。

②1 号館ロビーに暖房設備を整備するなど、学生の学修環境改善を適切に実施できた。

③短期大学部では教育研究活性化設備整備費補助金並びに ICT 活用推進事業の獲得により、ゼミ室をアクティブラーニングに対応できる設備への入れ替え、大教室の AV 設備の入れ替え

を行った。

(7) 情報公表

- ①Web の特性を最大限活用し、時宜を得た幅広い情報発信を行った。
- ②平成 26 年度からスタートした「大学ポータル」の掲載内容について、実情に合わせて適宜変更して行く。
- ③電子化した印刷物の公表方法については、公表の可否を含めて各部署と連携しながら検討が必要である。

(8) 各種調査・アンケートへの対応

- ①多岐に亘る公的調査および民間機関の調査・アンケートに対して効率よく対応できるよう、さらに情報共有が必要である。
- ②自己点検・評価報告書の「エビデンス集」でほとんどのものをカバーできる。各種調査・アンケートは当該年度の 5 月 1 日を基準日としているため、学校基本調査、学校基礎調査等と並行して進める。

(9) 後援会

- ①国際大会・全国大会への支援は例年より少なかったが、その分フォレストホールや学生のコモンスペースの設備整備など環境整備を行った。
- ②活発化する学生の課外活動の支援及び長期化・多様化する就職活動支援をさらに拡大していく。
- ③50 回を記念して 50 の企画を実施するなど、「梓乃森祭」が盛会となる直接的な支援に取り組むことができた。

(10) 認証評価への対応

- ①第三サイクルの評価内容について、まだ具体的な項目等が公表される段階ではないが、適切に情報収集を行った。

4) 今後の取組みに向けて <A>

(1) 電子データ及び紙ベースの保存書類の整理・整頓

- ①サーバー上のデータの整理および共通化をさらに進めると共に、不必要なデータの削除を進める。
- ②印刷物のデータ化をさらに進め、書庫の整理・整頓にいつそう務める。また、データ化した資料の活用方法について検討を行う。
- ③8 号館の鍵の整理が未着手であり、鍵の管理体制の見直しを進める。

(2) 定例会議・各種委員会への対応

- ①各教授会開催に向けた事前配布資料の準備の効率化をさらに進めるとともに、これまで総務課長のみが行っていた業務を他の職員も対応できるよう汎用化する。
- ②全専任教職員にタブレットを配付しており、導入が決まっている全学協議会、教授会及び総務委員会、課長会議並びに職員会議以外の委員会にも活用を促し、実質的な経費節減効果を検証する。
- ③各委員長に対し、担当事務職員からきめ細かな連絡、相談を行うことでさらに円滑な委員会運営に努める。

(3) 適正な会計処理の遂行と予算管理および節約

- ①引き続きコスト意識をもって予算の執行にあたる。
- ②文具等の消耗品について、再利用できるものはなるべく再利用するなどの呼びかけを行い、無駄を減らす工夫を行っていく。
- ③修繕工事は今後も増加が見込まれ、計画的に実施することで経費節減にいつそう取り組む。
- ④8号館増加により高熱水費の増加が見込まれる。太陽光発電の増設効果の検証と合わせ、電気等の使用状況を分析し、状況によっては新電力の検討も始める。

(4) 規程の整備

- ①未整備の規程について継続的に整備を進めるとともに、各規程間の整合性の再点検を進める。

(5) 特別補助金および競争的補助金の獲得

- ①補助金に関する広範で正確な情報収集に努める。
- ②学内分掌を念頭に置き、教員と職員の連携を拡大し、新たな補助金申請を模索する。
- ③補助金申請の根拠資料の整備について再点検する。
- ④「私立大学等改革総合支援事業」に係る調査票の内容を精査し、得点アップに向けて体制の見直しを積極的に行う。

(6) 教育研究施設設備および環境の整備

- ①短期大学部棟の改修工事を、優先順位をつけつつ、適切な修繕を引き続き行っていく。
- ②補助金制度の変更等の情報収集に努めるとともに、それらへ適切に対応できる体制整備を行う。

(7) 情報公表

- ①公式ホームページの情報公表におけるデータの見せ方をさらに工夫する。
- ②各部署から情報発信しやすいよう、入試広報室と連携しつつ、システム整備を進める。
- ③電子化した印刷物について、何をどのように公表するか検討を進める。

(8) 各種調査・アンケートへの対応

- ①社会に対する影響力の強いものについては、組織的に対応し情報を共有していく。
- ②全学的にデータの一元化・共有化を進め、各調査間で整合性の取れた回答ができるようにする。

(9) 後援会

- ①教育学部生の増加に伴う収入の増加と活動の増加を見込みつつ、学生活動により有効な支援方策について検討を進める。
- ②新たに公務員講座への支援を行うこととし、その効果について点検・評価を行う。

(10) 認証評価への対応

- ①引き続き、第三サイクルに向けた情報収集に努める。

総務課の業務はここに掲げた項目以外のものも多々あり、その内容も多岐に亘るため、総務課は効率性を重視し適正に業務を遂行し得る組織でなければならない。

＜執筆担当／総務課長 赤羽 研太＞

2. 管理課

地域の地（知）の拠点として松本大学における研究や教育、地域連携活動の特色や成果を学内外に知らせて継続させる事が大学のブランド形成につながっている。

研究や教育に携わる教員や学生、院生にとって有益となる外部資金情報を迅速かつ効果的に紹介し、研究資金を獲得するだけでなく、成果の知的財産化につなげる役割が委員会事務局には求められる。

また、専任・嘱託・派遣という雇用形態の特性を踏まえつつ、事務局員の力量を向上させるためのSD活動の強化、労務管理や作業、職場環境の改善、メンタルヘルスへの配慮など外部専門機関と連携を図ることも重要になっている。

1) 課題 <P>

(1) 外部資金の獲得に向けて

- ①私学事業団、文部科学省をはじめとして他省庁や各種財団の公募情報を Ridoc で系統的に案内を継続する。
- ②教員の研究成果についても、学会発表や受賞などを HP 等で発信し、更なる資金や委託業務の獲得につなげる。
- ③大学への間接経費の効果的な執行について事務局内でたたき台を検討する。

(2) 産学連携、知的財産権の保護

- ①教員の研究成果による特許や製品化にあたっての商標登録、ライセンス化について研究推進委員会の意思を反映させて、関係機関や企業との折衝を進める。

(3) 教職協働につながるFD・SDの発展

- ①学生の学修成果・研究成果に直に接し理解することで、学生の成長ぶりを教学面から教員と共有するため、卒論発表会、修論発表会に職員も参加する。
- ②社会が求めるニーズや学生の就業環境の変化を職員が敏感に捉えるため、教員と協力してキャリア教育を進める体制の確立を図る。

(4) 働きやすい職場づくり

- ①有休休暇消化の推進、労災や交通災害などの防止活動、メンタルヘルス向上につながる学内での連携など職場や現場に即したシフトや業務の把握に基づいた外注化の検討などを行う。

2) 平成 28 年度の実践とまとめ <D・C>

(1) 外部資金の獲得

- ①平成 26 年度より Ridoc 共有ファイルにて各種機関などからの公募情報を適宜掲載しており、平成 28 年度も継続的に実施した。

過年度においては科研費等の外部資金の獲得増加に向け、獲得の顕著な実績を持つ教員による、事務職員対象の説明会を実施したが、継続性がない状況にある。今後、外部講師を招いての研修を実施していく必要がある。

- ②第 5 回目となる「教育研究発表会」は 3 月 1 日、2 日に実施され 20 件（自然科学系 10 件、人文・社会科学系 10 件）の研究発表が行われた。事務局では、抄録集の編集と発表時間管理などの運営を担当した。

- ③研究資金の採択にかかわる間接経費は、日本学術振興会の科研費への外付けのみが認められ

ており、他の省庁、企業、財団の補助金には間接経費が認められていない。研究費の経費執行に伴う、領収書などの証憑書類や出張記録、アルバイト名簿などはコンプライアンスの視点で精度を上げる必要があり、今後も事務部門で的確かつ系統的な処理と管理が求められる。こうしたマンパワーを伴う業務遂行には間接経費が必要である旨を今後とも提起する必要がある。

(2) 産学連携、知的財産権の保護

①松本大学を主会場に『2016 まつもと広域ものづくりフェア』を開催した（2010年以降7回目）。

フェア期間中は天候にも恵まれ、延べ約13,500名の来場者は、企業、団体等による展示・デモンストレーション・多様なものづくり体験教室コーナーを楽しみました。

目玉となるものづくり体験教室コーナーには、46種類のメニューが用意され、その数と内容の充実さに参加者の満足度は高い。

参加者へのアンケート調査によると、来場者の大多数が松本大学での継続開催を望んでいる。

②本学が地域連携や高大連携を通じて人材育成や地域資源を生かした産業創出につなげている実績に対して農林水産省から表彰を受けた。

これは、松本大学と安曇野市商工会が共同で運営する中信地区6次産業協議会において大学と商店、メーカー、観光面などに成果が拡大していることを評価してのことである。

③知的財産権取得の取組

大学への委託業務として行われた研究者個人の研究成果に基づく知的財産権をどこまで帰属させるかについて、発明取扱規程を制定し明文化を行った。

(3) 事務局職員の能力開発を推進して、教職協働の実行、事務局内の連携を強化する

①FD・SD活動

専任職員・嘱託職員・派遣職員については、FD・SD運営部会主催学内研修、外部機関主催のFD・SD研修会への参加を呼びかけた結果、延べ92名が受講した。

またこの他、専任職員には、朝礼時の3分間スピーチ、月例の職員会議冒頭部分では旬のテーマによる研修を行っている。

②資格取得など自己研鑽の取組

資格取得状況は、厚生労働省認定資格であるキャリア・コンサルタントが2名、国家資格であるFPが1名、EQアセッサーが1名である。この他、学内における防災意識高揚に向け、防災管理者資格を3名が取得した。

また、大学行政管理学会に3名が入会し、学会発表に向けて、各自のテーマに取り組んでいき、さらに多くの職員の研修の場として位置づけていく。

(4) コンプライアンス重視の労務管理と職場環境改善

専任職員については時間外労働の削減、休日出勤に伴う振替休日取得を年度初めに呼びかけた。ストレスや長時間のパソコン作業などから慢性疲労やストレス性の疾病を誘発するリスクがあるためその対策が求められる。平成28年度においては、労災や通勤途中の事故に関して届出と発生はなかったものの、一層の事故防止のための注意喚起が求められる。

(5) その他の取組

- ①「防災士養成研修講座」を行った。3回目となる本年では50名（本学学生20名、社会人30名）が受講し、資格取得検定試験には49名が合格した。松本市（講師派遣）、松本商工会議所（後援）の協力が得られたとともに、本学学生と社会人がグループワークやワークショップを行い、事務局は運営補助を担った。今後、保護者や卒業生への浸透、後援会や同窓会との連携を図っていく。

3) 平成29年度への改善・改革に向けた方策 <A>

(1) 外部資金の獲得に向けた取組

- ①大学の組織あげての公的補助である文部科学省、私学事業団補助項目に関しては、実施主体となる部門との情報や記録の共有と結果のフィードバックを行う。
- ②科研費獲得に向けた分野を超えた学内における先進事例の共有や、各種財団、文部科学省以外の研究志向の補助金についても適宜情報提供を継続する。

(2) 委託業務、産学連携のワンストップ化、知的財産権申請の支援

- ①委託業務の内容掌握については、特に経費の取扱いについては、学内ルールに基づき適正な事務処理に努める必要がある。ややもすると、研究者が自ら獲得し、自らに帰属する研究資金であるといった意識のため、出張の事後報告や経費の個人判断に基づく執行などによる大学ルールからの逸脱が監査で指摘されており、十分な意思一致をはかる必要がある。
- ②産学連携のクライアント側のニーズは多岐にわたっており、松本大学における窓口となる地域総合研究センター、地域健康支援ステーション、地域づくり考房『ゆめ』の相互の役割と強みを発揮するための事務局同士の緊密な連携も図る必要がある。
- ③知的財産権の適正な保護及び活用を図るため、規程整備が必要となる。

<執筆担当/管理課長 赤羽 雄次>

Ⅲ. 学生センター

2011（平成 23）年度から、大学内の各部署で様々な業務を経験し、総合職（ゼネラルマネージャー）としての人材の育成を目的とした若手・中堅職員・課長の定期的、計画的な人事異動を行っている。2016（平成 28）年度は大きな人事異動はなく、業務を習熟する時期と捉えている。部署ごとの業務内容はそれぞれ特色があり、一年をひとつのサイクルとして業務内容が変化するため、移動のなかった嘱託職員のキャリアに頼るところも大きい。継続的に業務を遂行し、途切れないようにするため、中・長期的な人事計画が喫緊の課題となっている。

また、本学では、開学以来、教職協働による大学運営を重視している。教員とともに大学の発展に寄与する人材となるべく、大学職員としての専門性と幅広い教養を身に着けるため、各種研修会への参加を積極的に促している。

1) 学生連絡会・相談員の役割の再点検 <P・D>

①学生連絡会

2010（平成 22）年 12 月に立ち上げられた学生センター連絡会（学生課・教務課・キャリアセンター・国際交流センター・情報センター・健康安全センター・基礎教育センター・図書館の職員で構成）は、2013（平成 25）年度より若手職員の自由闊達な意見交換や情報共有の場として、「学生連絡会」に名称変更した。主な目的は従来と変わらず退学者の抑制、休学している学生の複学促進を主な目的としている。学生の抱える様々な問題や悩みに対し、事前に問題を把握し、深刻な事態になる前に学内における学生情報を共有し、関係部局およびゼミナール教員と連携しながら解決方法を見出すことで、一定の効果を上げてきている。また、休学が継続し退学へとつながるケースも多いことから、長期にわたる学生のケアにいかに関わっていくか、特に下記の 3 点について注意深く対応をとっている。

- a) 授業の出席状況と欠席理由の把握
- b) 悩みを持つ学生の気軽な相談窓口の設置
- c) 生活習慣が過度に乱れている学生の把握と改善に向けたアドバイス

また、部局横断的に意見交換や情報共有をしているため、学内行事や企画についても、どのように遂行したら効果的であるか適宜検討を行っている。その結果、2017（平成 29）年入学生向けの「入学前セミナー」について、従来は、キャリアセンター主管による 2 月開催の「集合セミナー」と教務課主管による 3 月開催の「プレオリエンテーション」を、4 月の入学式直前に開催することとし、重複内容の見直しや新入生の来学回数を減らし、新入生の負担感を減らすこととした。また、「保護者説明会」も、3 月に実施していた会を入学式当日に実施することとし、保護者の負担感を減らすこととした。

②学生相談員、ファイナンシャル・プランナー

2012（平成 24）年 6 月より、上記学生情報への対応策として学生がいつでも相談できる学生相談員の配置を行っている。学業や友人関係、クラブ・サークルのことなど悩みや相談がある場合、気軽に相談できるよう、カウンセラーの有資格者を中心にカウンター業務と並行して行っている。

また、経済的に修学が困難な学生に対して経済的な相談を行うため、ファイナンシャル・プランナーの有資格者の相談員を配置している。

<学生相談員>

キャリアセンター：白澤聖樹、片庭美咲、松澤久由

情報センター：伊藤健

(相談員のサポート役：丸山正樹、田中雅俊)

<ファイナンシャル・プランナー>

教務課：上條直哉

③授業料免除制度

休学・退学する学生の中には、経済的な理由によるものが少なくない、学内の制度として2009（平成21）年度より「経済状況悪化に伴う修学困難な学生への支援制度」を設け、家計を支えている方の失職、破産、事故、病気、もしくは死亡の等により、入学後、修学が困難となった学生に対し、授業料の半額を免除している。2016（平成28）年度に採用された学生は、前期後期合せ4名であった。

また、全学生の42.4%にあたる学生が奨学金を受給し、学費や生活費に充てている。ここ数年この割合は横ばいで推移しているが、就職してからの返済について、学生支援機構の方針が強化されており、次の受給者のためにも在学中からの学生指導の徹底が必要となっている。

2) 学生連絡会・相談員の役割の再点検 <C・A>

①学生連絡会

学生連絡会は、原則月に1度の開催で、毎回10名程度の職員が参加している。各部署から持ち寄られた学生の情報を共有しながら、休学者・退学者が少しでも減少するよう、対策について議論を重ねている。また、それぞれの部署を超えて若手・中堅職員が問題意識を持つことの習慣化にもつながっており、連絡会の意義（原点）を忘れずに今後も継続して行きたい。

②学生相談員

学生相談員は、学生の日常的な悩みを幅広く受けつけることを目的として設置されたが、2016（平成28）年度、相談員を目当てに窓口に来た学生はいなかった。学生の悩みは、日常会話の中に見え隠れしており、相談員は窓口での対応で、その会話の中に感じた悩みに対しアドバイスを行うケースがほとんどである。今後、FD研修の一環として取り組んでいるキャリアカウンセリング等資格の取得や産業カウンセラーの資格取得の推進によって効果が上がることを期待している。

<執筆担当/学生センター長 丸山 勝弘>

1. 教務課

2016（平成28）年度の教務課は、総合経営学部、人間健康学部、教育学部（2017（平成29）年度開学）及び大学院、松商短期大学部、教職及び資格取得の各担当を専任職員、嘱託職員及び派遣職員の計14名の体制で教学業務に従事した。

1) 2016年度の基本計画 <P>

2016（平成28）年度の自己点検・評価を踏まえ、2016（平成28）年度の取り組みを以下に掲げた。

(1) 教務に関する諸規程・諸規則の整備

全学教務委員会と連携し、他大学の事例等を情報収集し、次期認証評価（2021（平成33）年）

を念頭に置き、諸規程・諸規則等を整備する。

(2) 教務関連事項の運用方法や手続き書類等の見直し

共通教養科目の開講や教育学部の開学を踏まえ、教務関連事項について運用方法や手続き等の見直しについて検討を進める。

(3) 教育学部開学に向けた準備

文部科学省より設置の認可がされれば、2017（平成29）年度に教育学部が開学となる。スムーズに一期生を迎えられるよう、開学に向けた教務事務を進めていく。

(4) 大学教育再生加速プログラム（AP）採択に向けた取組

文部科学省の2015（平成27）年度のAP（テーマIV「長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）」）は、残念なことに採択には至らなかった。そのため、2016（平成28）年度のAP（テーマV「卒業時における質保証の取組の強化」）の採択に向け、関係者と連携し取り組んでいく。

(5) 全学共通教養科目の検討

共通教養センター運営部会、全学教務委員会と連携し、教養教育についての理念・目的を明確にして、教養科目の共通化を目指す。

(6) 教学改革の推進

次期認証評価（平成33年度）への対応や文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」への対応等のため、全学教務委員会と連携し教学改革を進めていく。

2) 課題に対する取組 <D>

(1) 教務に関する諸規程・諸規則の整備

全学教務委員会と連携し、下記の規程等の整備を行った。

（新設）

- ①「松本大学履修規程」
- ②「松本大学松商短期大学部履修規程」
- ③「松本大学大学院履修規程」
- ④「松本大学教育学部進級に関する規程」
- ⑤「松本大学一斉休校及び臨時休業に関する基準運用細則」

（改訂）

- ①「松本大学総合経営学部進級に関する規程」
- ②「松本大学人間健康学部進級に関する規程」
- ③「松本大学オフィスアワーに関する内規」

(2) 教務関連事項の運用方法や手続き書類等の見直し

全学教務委員会及び関係部署と連携し、下記の見直しを行った。

- ①入学式前々日に開催する「入学前セミナー」（キャリアセンターと協働）
- ②入学式後に開催する新入生「保護者説明会」
- ③履修登録期間の変更（開講前登録）
- ④補講申請方法の変更
- ⑤進級に関する異議申し立て書の作成（新規）
- ⑥「特別学修週間」の設定（短期大学部）

(3) 教育学部開学に向けた準備

2017（平成29）年4月に新入生を迎えられるよう、教育学部運営準備会議と連携し、講義内容の確認と検討、シラバスの準備、時間割の作成、カリキュラムマップや履修系統図（カリキュラムツリー）の作成、履修細則や履修モデルの作成、フレッシュマンキャンプの企画など、様々な事項に取り組んだ。

(4) 大学教育再生加速プログラム（A P）採択に向けた取組

糸井短期大学部長が中心となり、関係者と連携し申請したところ、2016（平成28）年8月、念願であったA Pに採択されることとなった（申請件数116、選定件数19）。2019（平成31）年度までの事業期間に、計画どおり事業を進めていくよう取り組んでいく。今年度は、本補助事業の実施体制の整備が中心となった。

(5) 全学共通教養科目の検討

ここ数年に亘る議論を重ね、昨年度大まかに合意を得て、今年度、課題などのテーマで科目を大括りして学生に分かり易く示すモジュール方式による教養科目の共通化と、それを踏まえた理念・目的、概念図の策定を図ることができた。

(6) 教学改革の推進

今年度は、主に下記の教学改革に取り組んだ。

- ①シラバスの充実（準備学修の目安時間の明示、成績評価の基準の明示、授業種別の細分化）
- ②履修系統図（カリキュラムツリー）の作成
- ③学生指導におけるG P Aの活用（学生指導基準の策定）
- ④年度別退学分析と学生指導の強化
- ⑤入学年度別卒業率・退学率・留年率の分析
- ⑥プレイスメントテストの結果分析
- ⑦履修モデルの作成

3) 課題に対する点検 <C>

(1) 教務に関する諸規程・諸規則の整備

履修規程については、教育学部の開学に合わせ、大学院、大学及び短期大学部の規程整備を行った。進級に関する規程については、教育学部の同規程新規作成にあたり、既存学部同規程の一部文言修正を行った。「松本大学一斉休校及び臨時休業に関する基準運用細則」については、危機管理委員会の承認を経て成案となった。「松本大学オフィスアワーに関する内規」については、非常勤講師も含む文言を加筆し、変更することとなった。

(2) 教務関連事項の運用方法や手続き書類等の見直し

「入学前セミナー」について、従来は、キャリアセンター主管による2月開催の「集合セミナー」と教務課主管による3月開催の「プレオリエンテーション」を、4月の入学式直前に開催することとし、重複内容の見直しや新入生の来学回数を減らし、新入生の負担感を減らすこととした。また、「保護者説明会」も、3月に実施していた会を入学式当日に実施することとし、保護者の負担感を減らすこととした。履修登録期間の変更は、初回講義までに一次登録を行うことにより、テキスト数確定までの期間を短縮することを考えた。補講申請方法の変更は、学部増や全学共通教養科目開始により補講の調整が難しくなることを想定し、補講日の2週間前

を補講申請の締め切り日とし、円滑な補講調整を図ることを考えた。進級に関する異議申し立て書の作成は、進級規程が今年度より適用されることに伴い整備を図った。平成 29 年度より短期大学の 4 学期制が本格的にスタートすることに伴い、1 学期と 2 学期の間、3 学期と 4 学期の間に 1 週間の「特別学修週間」を設定し、通常の授業期間では実施の難しいアウトキャンパス・スタディや集中講義など、特別な週として設定された。

(3) 教育学部開学に向けた準備

新しい学部を立ち上げるにあたっては、様々な事項に取り組まなければならない。そのため、既存学部の教務事務経験者を新学部担当に配置換えをし、開学に向けた準備に取り組むことにより、円滑な教務事務を進めることが出来た。

(4) 大学教育再生加速プログラム（A P）採択に向けた取組

調査に記載した実施計画に基づき事業を推進した。「A P 実施委員会」、「指標作成委員会」、「外部評価委員会」の設置や活動など、体制の整備を確立することができた。「ディプロマ・サプリメント」の素案作成及び確定に至らず、次年度の検討課題となった。

(5) 全学共通教養科目の検討

平成 29 年度より全学共通教養科目がスタートすることになる。クラスサイズの適正化、休講・補講の対応など講義運営にあたり検証をしていく必要がある。

(6) 教学改革の推進

年度当初に検討を予定していた取組について、ほぼ成案を得ることができたが、ルーブリックの活用や学修ポートフォリオについては、さらに検討を進めていく必要がある。

4) 課題に対する改善 <A>

(1) 教務に関する諸規程・諸規則の整備

全学教務委員会と連携し、各種規程等を整備した。実情を鑑み、不十分な点が生じた場合、各種規程等の整備を検討して行く。

(2) 教務関連事項の運用方法や手続き書類等の見直し

運用方法や手続きの見直しは、定着するまでに課題等が生じてくることがある。2017（平成 29）年度の実施により検証を行い、必要に応じて修正していく。

(3) 教育学部開学に向けた準備

既存学部の教務事務経験者を配置換えし新学部の担当にしたことによりスムーズな業務を行うことが出来た。次年度以降、学年進行によりさらに業務量が増えることとなるが、業務を想定し進めていく。

(4) 大学教育再生加速プログラム（A P）採択に向けた取組

本年度は、コンピテンスやルーブリックの確定など「ディプロマ・サプリメント」に記載する内容の準備が中心となり、「ディプロマ・サプリメント」の素案策定が進まなかったため、次年度さらに検討を進めていくこととした。

(5) 全学共通教養科目の検討

平成 29 年度の開講により課題や問題が浮かび上がった場合、共通教養センター運営部会と連携し、検討を重ね、2018（平成 30）年度の開講科目に反映していく。

(6) 教学改革の推進

次期認証評価に向けた具体的な道筋の作成や準備開始を進め、取組を推進していく。

＜執筆担当／教務課長 丸山 勝弘＞

2. 学生課

＜現状＞

本学は「教育・研究を通じた地域社会への貢献を目標としている」ことを掲げ、社会で行われる実際の事業に学生を関わせることで、地域の人たちとの繋がりを持てるよう学生への支援を常に心がけている。また学部別の担当を配置しながら、奨学金事務、共通の企画、全学行事の事務を遂行した。

1) 年間計画 <P>

学生指導に関する事項

(1) 学生の指導に関する事項

- ・学内での生活全般
- ・危機管理対応（事故・事件の対応）
- ・病気、怪我、体調不良等の相談、対応（健康安全センターとの連絡）
- ・日常生活マナー指導（喫煙、駐車違反、不正乗車、アルバイト情報の提供、掲示物等）
- ・松本警察署生活安全課及び交通課との連携
- ・長野県中信消費生活センターとの連携

(2) 学生証、通学証明書、JR学割証の発行に関する事項

- ・上高地線通学定期不正使用禁止の徹底指導

(3) 学生の課外活動に関する事項

- ・学友会、クラブ協議会、サークル連合への支援
- ・強化部、重点部、強化指定選手への大会手続及び支援
- ・寮生活の指導・健康状況、会計状況、生活状況相談
- ・松本子どもまつり、松本ぼんぼん参加申請、企画、引率等
- ・全国私立短期大学体育大会への参加申込、宿泊手配、引率
- ・長野県私立短期大学体育大会への参加申込、引率
- ・学部及び短期大学部の体育大会等への協力、支援
- ・各種リーダー研修会への助言、支援
- ・新村音楽祭・新村地区運動会への支援と学生派遣協力
- ・新村地区あたらしの郷協議会への協力
- ・各種発刊物への企画アドバイス
- ・湘北短期大学との交流会（リーダー研修会・大学祭交流）

(4) 大学学友会の一本化および会則の見直し等

次年度、教育学部が設置されることを見越し、学部の学友会を一本化するため、臨時学生大会等を開催、同時に会則を新たに作成した。

(5) 大学祭をよりアカデミックさを強調しながら成功させる

50回目の節目にあたり、記念になるような新しいプログラムを実施した。資金的にも後援会や同窓会から補助金を提供していただくことができた。

(6) 修学支援に関する事項

- ①「経済状況悪化等に伴う修学困難な学生への支援制度」
- ②「日本学生支援機構の奨学金」
- ③「松本大学同窓会奨学金」
- ④「地方公共団体・民間育英団体」
- ⑤ その他

(7) 障がいをもつ学生への支援

新たに教育学部が設置され、8号館が建設されることから、バリアフリー等の課題も合わせ、障がい者への配慮等を検討していくこととした。

2) 活動内容 <D・C>

基調 教職共同へのアプローチ

(1) 学生生活の広がりに対応した支援業務

① 修学支援（奨学金、緊急支援制度他）

全学生の4割強にあたる802名（院生含む）が日本学生支援機構奨学金の貸与を受けており、親元の経済事情を反映した相談が日常的に増加している。返還誓約書の早期提出など事務が煩雑となる一方で、奨学金の月額変更や緊急、応急貸与の個別相談にきめ細かく対応すべく課員の業務水準をあげるための研鑽につとめた。（下記別表参照）

	学生数（3/31 現在）			奨学金受給学生数・比率		
	2014年	2015年	2016年	2014年	2015年	2016年
総合経営	733人	724人	751人	278人 37.9%	283人 39.1%	304人 40.5%
人間健康	738人	734人	725人	351人 47.6%	338人 46.0%	348人 48.0%
大学院	12人	10人	15人	3人 25.0%	4人 40.0%	4人 26.6%
短期大学	438人	382人	405人	149人 34.0%	144人 37.8%	146人 36.0%
合計	1,921人	1,850人	1,896人	781人 40.7%	769人 41.6%	802人 42.3%

「経済状況悪化等に伴う修学困難な学生への支援制度」として、学費半額免除の制度を継続して行っている（前期・後期）。以前よりも経済状況が好転しているためか申請者は減少している。採用者は前期2名、後期2名となっている。

学部のみ、スポーツ特待生制度の継続審査を前期および後期に実施している。今年度、学力基準（GPA目標値：2.0 GPA基準値：1.0以上）を下回った学生はいない。

② 生活支援（マナー、社会人基礎力）

新入生には交通安全、薬物・防犯について松本警察署の協力で講話を実施し、一定の抑止効果を見せている。今年度は、近隣から車の違法駐車に対する近隣からの苦情はほとんどなかったが、ごみの分別について町会から厳しい指摘をされた。中にあった名前から本学の学

生と判明した。また、進学オリエンテーションの時間を利用し、全学部2年生を対象とした消費者トラブル防止講習会を開催し、ネットトラブル等の危険を呼び掛けている。

③ コミュニティ形成としての居場所づくり

社会の実践から学ぶことができる課外活動への期待が高まっている。コミュニケーション能力や社会性を身に付けるため、学友会やサークルを通じた人づくりを重視している。

総合グラウンドは学校法人松商学園との共有グラウンドのため、高校と大学から運営委員を選出し、授業優先の原則のもと本学サークルと高校部活動のすみわけを図った。7号館1階のコモンルームは多目的空間として勉学、語らい、発表、食事サークル活動など平日はほぼ満席となりニーズの高さを示している。

④ 危機管理

学生たちが安心、安全に学生生活をおくるために事故防止や事故に対し健康安全センターとの連携で対応した。

(2) 強化部・重点部の支援

公式戦等遠征におけるバスの手配、宿泊費、旅費出張費等の会計事務を担った。

また、寮費の徴収、支払いや食事の管理等についてもサポートを行った。

(3) 強化部等の内規変更

「強化部内規」施行に伴い、「松本大学強化部及び重点部の遠征に係る旅費内規」「松本大学強化選手支援内規」「松本大学クラブ・サークルの活動における学外指導者内規」「松本大学クラブ・サークル等の活動に係る大学所有バス等の使用内規」の改正を行った。

(4) 学友会のサポート

体育大会、大学祭といった学友会主催のイベントで、担当する学生たちがいかに主体性をもって運営に携わることができるかを常に意識しながらアドバイスをを行った。その結果、学生たちが達成感を得て、自信を所有することにつながった。

松本大学学友会の設立に向けて、常任委員会や臨時学生大会、選挙活動のサポート全般を行った。また、会則の作成に当たっての支援を行った。

(5) クラブ協議会・サークル連合リーダーズキャンプ

クラブ協議会・サークル連合のリーダーズキャンプ(総会)は6月、8月、2月の3回に亘って開催し、各クラブの予算編成や決算報告を行った。また、クラブ活動の活性化のために、松本山雅FC 神田文之社長による講演会(8月23日開催)、同好会設置相談会(7月27日開催)を企画した。また、第二体育館が工事中のため、体育館の調整会議を頻繁に行い、各クラブが活動できるよう努めた。

学生課はこれらの円滑な運営のサポートを行った。

(6) 大学祭「梓乃森祭」

今年の梓乃森祭は50回目の節目にあたり、テーマを「50 OVER THE LIMIT 限界を超えろ!!」とし、学祭局を中心とした学友会役員と学生委員による実行委員会を組織し運営にあたった。記念の年でもあり、“わんこそば50杯チャレンジ” “和カフェ” “Orange 複製パネル展” “パラルドリームライブ&ビンゴ大会” “佐藤健トークショー” “まぐろ解体&まぐろ寿司” “お笑いライブ in ウッドデッキ”等の新しいプログラムを取り入れた。短期大学部が毎年交流している湘

北短期大学の学生 27 名が訪れ、学友会のメンバーとの親交を深めた。湘北短大のサークルによるステージ発表もあり大学祭に花を添えてくれた。恒例になっているファッションショーでは、毎年コラボレーションしている松本理容美容専門学校の学生に加え、新たに松本衣デザイン専門学校の学生たちが協力してくれた。担当した学生はその調整にだいぶ苦労したが、その分、ショーを創り上げた達成感は大きなものになった。また、後援会および同窓会から資金援助していただき、“オルゴナイト教室”“キャンドルナイト”という新しい企画を催すことができた。さらに、図書館、地域総合研究センターと共同で“姜 尚中氏講演会”を開催し、幅広い年代層の多くの方に来場していただけた。しかし、来場者が予想より大幅に上回ったため、シャトルバスに乗り切れない人がみられたことが反省点として上げられる。来場者が増加した分、模擬店はどこも盛況で、活気のある大学祭らしい雰囲気にも包まれた。健康栄養学科の学生の協力により、食中毒防止に向けた取組みが本格化し衛生管理が徹底されるようになったことも成果といえよう。ゼミ展示等も例年以上に数が増え、課題になっているアカデミック面の強化に一役買った。

今年は、公式ガイドブックに広告を掲載し、学生たちがスポンサーを見つけて回った。少しでも大きなイベントにするため、自らが資金を集めようとする姿勢に学生のやる気が窺えた。また、様々な場面で協力パートナー企業の人たちと対等に打合せ等をする姿に頼もしさを覚え、課外活動を通しての成長ぶりを確認することができた。

(7) 平成 28 年度熊本地震義捐金

4 月 14 日以降、起こった熊本地震。遠方のため災害ボランティアへの参加が困難であったため、学友会が主体となって募金活動をするようになった。寄附金募集行為に係る書類を整え松本市に提出し、4 月から学内での募金活動を始めた。昼休みに学友会役員が交代で学生に募り、10 月の大学祭でも一般来場者に協力を要請した。その結果、300,723 円の義捐金が集まり日本赤十字社を通じて現地に送ることができた。

(8) 東新大学公式訪問団

学生を海外へ派遣する同窓会の資金提供を受け、学友会役員 9 名が 3 月 13 日～15 日、本学の海外交流協定校である韓国東新大学へ公式訪問した。同校では、大学祭に携わる学生たちとの意見交換を行い、日本語を学ぶ学生たちと会食するなど交流を深めた。見聞を広め、国の文化や習慣の違いなどを理解することで、今後の学友会活動に役立てるための新事業となった。また、協定校との本格的な「学生交流」によって、学生生活に国際的な視点を取り入れた意識が高まることを期待したい。

(9) 障がいをもつ学生への取組

車椅子で生活する学生に対して、駐車場を校舎の近くにするなどの配慮を行った。

3) 次年度への課題 <A>

更なる現場事業の強化へ

- (1) 松本大学学友会が誕生したことで、学部間に温度差が生まれることも予想される。「短大部学友会との共同事業」「学部全体で取り組む事業」「学部独自の事業」と、すべてがバランス良く活動できるように配慮した支援が必要となる。
- (2) 学部・クラブ協議会と短期大学部・サークル連合会の組織を融合し、スムーズな運営体制を確立する。またクラブ活動がより活発化するために支援する。

- (3) 休日や学外で実施する体育大会において、昨年度から外部看護師の派遣を要請しているが、長野県看護協会に依頼する手間が掛かるため、新たな策を講じたいと考えている。
- (4) 高等教育コンソーシアム信州の加盟大学とのネットワークを広げ、各大学祭の情報交換の場を設け、学生の交流が活発化するよう支援する。
- (5) 学生生活の基盤を支える
- ① 学生のほぼ4割にあたる奨学金貸与学生へのスムーズな手続きとともに、親身になった相談活動を行う。また、日本学生支援機構以外の奨学金にも注目し、広く学生に紹介できるような情報収集に努める。
 - ② 悩みを抱えている学生は、自ら学生課に来ないため相談にのれる場面が少ない。そうした学生たちの悩みを聞く機会を捉えるべく情報収集等に努める。
 - ③ 障害者差別解消法の施行に伴い、合理的配慮をどのように進めていくか、さらに調査研究に努める。
 - ④ 強化部、重点部、個人強化選手の支援を通じて、選手が活躍できる環境づくりに努める。
 - ⑤ 寮費・食費をはじめとした課外活動費の適正化を部の指導者とともに推進する。
- (6) 学生課職員のレベルアップ
- ① 学生課の仕事の範囲は広く学生と直接携わる場面が多いため、例え知識が浅くても、あるいは見聞が狭くても、学生の問いにすぐに答えなければならない場面が生じる。課内での情報交換を活発化し、お互いが日々の業務の中で研鑽し合い、課員全員で質の向上に努めたい。
 - ② 学生にとって最も身近な「社会人」として、ときには社会の厳しさを指導することも私たち職員の責務と考え、学生対応に心掛けたい。また、どの学生に対しても公平なサービスを提供できるように努めたい。
 - ③ 引き続き、職員の標準化を推進し、異動があっても大丈夫なようにマニュアル等を作成し、円滑に事務を引き継げるようにする。

＜執筆担当／学生課長 田中 雅俊＞

3. キャリアセンター

2016(平成 28)年度のキャリアセンターは、就職活動や就職活動準備をはじめとする学生のキャリア支援を目的とし、課長1名のほか専任職員3名、嘱託専任職員1名、派遣職員1名、嘱託職員3名の計9名により業務に従事した。キャリアセンターの業務は主に、①大学4年生と短大2年生対象の就職活動支援、②大学3年生と短大1年生対象のキャリア形成および就職活動準備支援、③企業との情報交換・情報収集、④保護者への情報提供、⑤就職委員会の運営、⑥キャリア面談の運営、⑦入学前教育プログラムの企画・運営の大きく7つに区分される。各業務を全員が協力して遂行した。

1) 当初の計画 <P>

(1) 大学4年生と短大2年生対象の就職活動支援

- ① 各種相談対応（面接練習、履歴書・ES添削、窓口相談、ヒアリング）
- ② 学内企業説明会の企画・運営（合同企業説明会、単独企業説明会）
- ③ 求人情報の収集と提供（求人票の受理、ハローワークの求人情報収集、求人情報の提供）

- ④学生への情報提供（求人情報、合同企業説明会、公務員試験、編入・進学、採用試験状況等）
- ⑤教職員間の情報共有・情報提供等（求人情報、就職活動進捗状況、委員会運営、行事開催）
- ⑥就職支援ガイダンス（大学4年生、短大2年生）
- ⑦進路未決定者対象ガイダンス（ハローワーク共催）

(2) 大学3年生と短大1年生対象のキャリア形成および就職活動準備支援

①ガイダンスの運営

キャリア形成Ⅱ（総経3年・前期）、キャリアデザインⅡ（人間3年・前期）

就職支援ガイダンス（総経3年/人間3年・後期）

キャリア・クリエイトⅡ（短大1年・後期）

②各種講座等の企画・運営

夏季就職合宿（大学）9月、企業・業界研究勉強会（大学・短大）11～12月

SPI&適性検査対策[リクナビ]（大学・短大）、就職活動用証明写真撮影会（大学・短大）1月

就職対策講座（大学）1月、就活直前セミナー（大学）2月、メイクアップ講座（大学）、

自己分析&ES対策講座[マイナビ]（大学）、金融業界の就職活動（大学）、

キャリア・クリエイトⅡ（自己分析講座、メイクアップ講座、集団面接対策講座）、

学外合同企業説明会バスツアー（大学・短大）3月

③インターンシップ

大学、短大、長野県産学官インターンシップ事業（大学・短大）

(3) 企業との情報交換・情報収集（求人依頼、企業訪問等）・ガイダンス等の協力依頼

①2016年度求人受理

②2017年度に向けた求人依頼

③企業訪問

④学内合同企業説明会・単独企業説明会の企画・運営

⑤ガイダンス等への協力依頼（授業での講演等依頼、夏季就職合宿、企業業界研究勉強会等）

⑥県内外における企業との情報交換会参加

(4) 保護者への情報提供

①保護者説明会の企画・開催

「保護者就職説明会」の開催…大学3年生保護者対象:5月、短大1年生保護者対象:11月

②郵送による就職関連情報の提供と、進路決定に向けての協力依頼

(5) 就職委員会の運営と議事録作成

総合経営学部、人間健康学部、松商短期大学部、全学就職委員会

(6) キャリア面談の企画・運営

①入学前:2～3月、②大学2年生:5月、③就職活動前の大学3年生・短大1年生:2月、

④就職活動中の大学4年生・短大2年生:8～9月

(7) 入学前教育プログラムの運営（大学、短大）

2) 現状の説明 <D>

(1) 大学4年生と短大2年生対象の就職活動支援

①各種相談対応（2016/4/1～2017/3/31）

	総経	観光	栄養	スポ	商	経情	院	計
面接練習	56	38	141	58	47	81	3	424
履歴書・ES 添削	164	80	247	147	50	76	8	772
窓口相談	150	111	201	184	169	210	4	1029
ヒアリング	59	57	4	15	19	25	0	179
計	429	286	593	404	285	392	15	2404

②学内企業説明会の企画・運営

■合同企業説明会

【第1回】3/4(金)…参加事業所数:72、参加学生数:445名、参加率81.2%、内定数:92

【第2回】3/24(木)…参加事業所数:68、参加学生数:402名、参加率73.4%、内定数:118

【第3回】6/18(土)…参加事業所数:53、参加学生数:176名、参加率30.8%、内定数:54

【長野県中小企業団体中央会主催】8/9(火)…参加事業所数:23、参加学生数:19名、内定数:1

■単独企業説明会

期間:4/8(金)~11/15(火)、実施回数:37回、総参加者数:339名、総内定数:64

③求人情報の収集と提供

・求人票の受付・整理・公開。→大学:1365件、短大:965件

・ハローワークの求人情報収集・公開→長野県内を北信・東信・中信・南信に分けて公開

・求人票およびハローワークの求人情報をまとめた「今週の求人情報」を毎週発行→28回発行

④学生への情報提供

求人情報設置・配布:28回、合同企業説明会案内:307件、個別企業説明会案内44件、公務員試験日程の案内:145件、過去5年間の就職状況、SPIテストセンター開催日程案内、編入学・大学院進学試験案内、大学院進学情報、採用試験状況報告書の公開→大学:290件、短大:404件、新聞5紙・雑誌・書籍等の設置、

⑤教職員間の情報共有・情報提供等

求人情報等を教員へ報告、就職活動進捗状況の教職員間共有、就職委員会の運営、各種行事開催(夏季就職合宿、就職対策講座、集団面接対策講座)

⑥就職支援ガイダンス

■キャリア形成Ⅲ(総経4年・通年)全体会(1回/月)における求人情報や説明会開催情報等の提供、ヒアリング(就職活動状況の調査)

■キャリア・クリエイトⅢ(短大2年・前期)集団面接講座、マナー講座、エントリーシート対策講座、OB・OG講演、筆記試験対策講座、求人等企業情報の提供など

■キャリア・クリエイトⅣ(短大2年・後期15回)社会保険講座(労務管理、雇用・保険、年金制度等)、就職活動リスタート講座、組織のマナー講座、講演会、ヒアリング

⑦進路未決定者対象ガイダンス(ハローワークと共催)

開催日:11/10(木)、2/9(木)、3/6(月)、のべ参加者数:23名、内定者数:16名

(2) 大学3年生と短大1年生対象のキャリア形成および就職活動準備支援

①ガイダンスの運営

■キャリア形成Ⅱ(総経3年・前期15回) ■キャリアデザインⅡ(人間3年・前期15回)

就職活動の概要、採用試験の概要、SPI 受験対策、適性検査の受検、就職活動サイトの活用、講演会、自己分析、企業研究、履歴書の作成、インターンシップなど

■就職支援ガイダンス（総経3年/人間3年・後期各15回）

就職活動の具体的な流れ、自己分析、SPI 模試受験、先輩体験報告会、就職活動サイト活用、ビジネスマナー、企業研究会、エントリーシート作成法、面接対策講座、就職活動の進め方など

■キャリア・クリエイトⅡ（短大1年・後期15回）

就職活動スタート講座、就職活動サイトの登録、先輩学生の体験談報告会、SPI 対策試験、適性検査の受検、一般教養対策試験受験、卒業生体験報告会、自己分析講座、業種・職種研究会、自己分析講座、企業研究・会社訪問心構え、集団面接対策講座など

②各種講座等の企画・運営

■夏季就職合宿（大学）

池の平ホテル(立科町) 9/1(木)～2(金)52名、9/8(木)～9(金)49名参加

マナー講座・演習、自己紹介・自己PR演習、面接対策講座、グループディスカッション体験、先輩学生相談、グループワーク

■企業・業界研究勉強会（大学・短大）全18回、合計1,138名参加

多様な業種に渡る事業所の人事担当者をお招きし、事業内容と併せて業界の社会的な役割をご説明いただくことにより、学生の企業研究や職業観の醸成に繋げる。

【テーマ・日程】職種研究会 11/10(木)、小売業 11/11(金)、管理栄養士の仕事 11/14(月)、情報通信業 11/17(木)、医療・福祉 11/21(月)、建設業 11/22(火)、サービス業 11/24(木)、製造業 11/28(月)、金融業 11/29(火)、卸売業/複合サービス事業 12/1(木)、製造業 12/5(月)、卸売業 12/7(水)、小売業 12/12(月)、複合サービス事業/サービス業 12/13(火)、運輸業 12/15(木)、職種研究会 1/20(金)、合同企業説明会参加方法 1/19(木)・25(水)《のべ24事業所の協力》

■SPI&適性検査対策[リクナビ]（大学・短大）松本大学内 11/30(水)・1/23(月) 59名参加

■就職活動用証明写真撮影会（大学・短大）松本大学内 1/16(月)・17(火)・18(水)・24(火) 15時～19時、費用2,000円(写真6枚+CD)、申込者数369名(男105、女264)

■就職対策講座（大学）松本大学内

1/7(土)76名参加(1DAY終日38名、 HALF DAY 半日38名)、1/8(日) 51名参加(1DAY終日38名、 HALF DAY 半日13名)

■就活直前セミナー（大学）松本大学内

2/27(月)30名参加、2/28(火)20名参加

■メイクアップ講座（大学）松本大学内

12/14(水)5限、12/19(月)5限、1/24(火)4限、1/26(木)4限 合計112名参加

■自己分析&ES対策講座[マイナビ]（大学）：2/8(水)・10(水) 57名参加

■金融業界の就職活動について（大学）26名参加

■短大では授業(キャリア・クリエイトⅡ)を通じて、自己分析講座:12/8(木)・22(木)・1/5(木)、メイクアップ講座:1/12(木)、集団面接対策講座:2/15(水)・16(木)

- 学外合同企業説明会バスツアー（大学・短大）3/11(土)東京ビックサイト（東京）：69名参加、3/16(木)ビッグハット（長野）：126名参加

③インターンシップ

- 大学：希望者対象ガイダンス6/22(水)、事前研修7/20(水)5限・8/8(月)、実施者7名
- 短大：事前説明会10/4(火)、申込者選考面接10/19(水)・24(月)8名（合格8名）、事前マナー研修11/9(水)5限、実施者：7名
- 長野県産学官インターンシップ事業（大学・短大）：事前説明会5/16(月)・18(水)・20(金)・23(月)・25(水)（115名参加）、実施者20名

(3) 企業との情報交換・情報収集（求人依頼、企業訪問等）・ガイダンス等の協力依頼

- ①2016年度求人受理件数…大学：1365件、短大：965件
- ②2017年度に向けた求人依頼数…約12000事業所
- ③企業訪問 2016/4/1～2017/3/31 訪問数:379事業所
- ④学内合同企業説明会・単独企業説明会への参加依頼
- ⑤ガイダンス等への協力依頼（授業での講演等依頼、夏季就職合宿、企業業界研究勉強会等）
- ⑥県内外における企業との情報交換会参加

(4) 保護者への情報提供

①保護者説明会の企画・開催

- 大学3年生保護者対象「保護者就職説明会」5/28(土)13時～、参加人数121名、個別相談17名、キャリアセンター見学72名
- 短大1年生保護者対象「保護者就職説明会」11/26(土)10時～、参加人数141名、個別相談60名

②郵送による就職関連情報の提供と、進路決定に向けての協力依頼

保護者説明会の案内（大学3年生・短大1年生保護者）、就職支援のお願い（大学4年生・短大2年生の進路未決定学生の保護者）…6月・12月に保護者へ協力依頼（短大）、10月・1月・2月に就職支援講座開催案内（大学・短大）

(5) 就職委員会の運営と議事録作成

【総合経営学部】

4/5(火)、5/11(水)、6/1(水)、7/6(水)、8/26(金)、10/6(木)、11/2(水)、12/2(金)、1/6(金)、1/31(火)

【人間健康学部】

4/6(水)、5/9(月)、6/6(月)、7/7(木)、8/31(水)、10/7(金)、11/1(火)、12/6(火)、1/6(金)、2/3(金)、3/1(水)

【松商短期大学部】

4/12(火)、4/26(火)、5/10(火)、5/24(火)、6/7(火)、6/21(火)、7/5(火)、7/19(火)、9/28(水)、10/12(水)、10/26(水)、11/9(水)、11/22(火)、12/7(水)、12/21(水)、1/11(水)、1/25(水)

【全学就職委員会】8/2(火)、11/29(火)

(6) キャリア面談の企画・運営

①学年毎のキャリア面談の目的

【入学前】大学生活に向けての期待や前向きな目標意識の醸成、大学進学における疑問・不安の解消

【大学2年生】大学生活1年間を振り返り、学びへの動機付けと学生生活充実のための計画

【就職活動前の大学3年生・短大1年生】就職活動に向けて進路または就職活動に対する不安・疑問の解消と相談、就職活動の具体的な計画立案補助と意欲の向上

【就職活動中の大学4年生・短大2年生】学生個々の課題明確化と解決策の検討・相談、就職活動への積極的な取り組みとキャリアセンターの有効利用、不安解消と意欲の向上

②面談状況（面談総数：1703名）

【入学前】2/26～3/30（10日間）592名

【大学2年生】5/4～8/10（8日間）369名

【大学3年生】2/6～2/21（9日間）327名

【短大1年生】2/6～2/26（10日間）214名

【大学4年生】8/8～9/21（5日間）136名

【短大2年生】8/8～9/21（4日間）65名

③キャリア面談員の体制 面談員総数：26名（県内21名、県外5名）、法人契約：3事業所20名

(7) 入学前教育プログラムの運営

【大学】入学前自己ワーク郵送1/中旬、入学前キャリア面談2/25(土)～3/30(木)、
入学前セミナー4/3(月)

【短大】入学前集合セミナー2/11(土)・3/11(土)、入学前キャリア面談2/25(土)～3/30(木)、
ウェルカムフェア3/11(土)

3) 点検・評価の結果 <C>

(1) 大学4年生と短大2年生対象の就職活動支援

①就職状況（2017年3月卒業生）

学部	学科	卒業者	就職希望	就職者	就職率
総合経営	総経	96	87	86	98.9%
	観光	84	73	72	98.6%
総合経営 計		180	160	158	98.8%
人間健康	栄養	91	88	88	100.0%
	スポ	89	86	85	98.8%
人間健康 計		180	174	173	99.4%
学部 計		360	334	331	99.1%
松商短大	商	76	69	69	100.0%
	経情	93	87	87	100.0%
短大計		169	156	156	100.0%
学部・短大 計		529	490	487	99.3%

②就職内定者数の月別推移（学部は進学者含）

学部/月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
総合経営	0	8	23	26	25	20	15	10	9	9	3	3	10
人間健康	0	4	23	52	22	11	13	8	10	13	2	9	10

松商短大	0	3	21	34	27	12	12	8	6	8	8	7	10
計	0	15	67	112	74	43	40	26	25	30	13	19	30

③キャリアセンター対応の月別推移

対応/月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
面接練習	7	98	157	70	23	14	11	8	11	13	1	4	11	424
添削指導	117	297	138	57	30	24	12	24	28	14	11	7	120	772
相談対応	117	189	147	185	84	52	53	52	55	46	51	41	75	1030
計	241	584	442	312	137	90	76	84	94	73	66	62	206	2226

④産業分類別就職者数（2017年3月卒業生）

産業分類/学科	総経	観光	栄養	スポ	商	経情	計	順位
農業	0	1	0	0	0	0	1	16
建設業	5	6	0	3	0	5	19	8
製造業	14	3	14	9	15	14	69	2
電気・ガス・水道業	1	1	0	1	0	3	6	14
情報通信業	6	0	0	2	0	3	11	10
運輸業	1	4	2	3	2	1	13	9
卸売・小売業	21	24	30	13	17	29	134	1
金融・保険業	5	2	1	4	12	8	32	5
不動産・物品賃貸業	2	0	0	0	6	2	10	11
学術、専門技術サービス業	3	1	0	1	2	0	7	13
宿泊・飲食サービス業	3	5	11	2	2	4	27	6
生活関連サービス業	6	5	19	7	2	1	40	3
教育、学習支援業	0	1	2	16	1	2	22	7
医療、福祉	5	6	8	12	3	3	37	4
複合サービス事業	9	6	1	10	3	8	37	4
サービス業（その他）	2	0	0	0	4	3	9	12
公務	3	4	0	2	0	1	10	11
上記以外	0	3	0	0	0	0	3	15
就職者計	86	72	88	85	69	87	487	—

⑤進学者・編入学者数

進学・編入先/学科	総経	観光	栄養	スポ	商	経情
自大学院進学、大学編入	0	0	2	0	2	1
他大学院進学、大学編入	1	0	0	1	1	1
他専門学校・短大入学	0	2	0	1	0	0
進学者計	1	2	2	2	3	2

(2) 大学3年生と短大1年生対象のキャリア形成および就職活動準備支援

①ガイダンス出席率の経年比較

学科	総経		観光		栄養		スポ		短大
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	後期
2014年度	86%	86%	84%	86%	96%	87%	94%	80%	92%

2015年度	93%	91%	90%	87%	96%	93%	92%	84%	90%
2016年度	93%	75%	88%	82%	95%	94%	92%	86%	90%

②企業業界研究勉強会参加者数の経年比較

	開催回数	参加者素
2014年度	11	1005
2015年度	15	943
2016年度	18	1138

(3) 企業との情報交換・情報収集（求人依頼、企業訪問等）

①本社所在地を長野県内外別に分類した求人受理数（大学：1366件の内訳）

長野県本社の事業所求人：501件（37%）、長野県外本社の事業所求人：865件（63%）

②長野県内に本社を置く事業所の求人受理数内訳

地域	求人数	県内比率	備考
北信	134	27%	長野 110、千曲 7、須坂 6、その他 11
東信	82	16%	上田 38、佐久 11、小諸 10、坂城 10、その他 13
中信	174	35%	松本 106、塩尻 24、安曇野 17、その他 27
南信	111	22%	諏訪/下諏訪/岡谷 41、茅野 8、伊那 15、飯田 21、駒ヶ根 8、その他 18

③長野県外に本社を置く事業所の求人受理数

東京都	神奈川県	埼玉県	千葉県	群馬県	山梨県	新潟県	富山県
375	52	38	29	20	45	96	12
石川県	愛知県	岐阜県	静岡県	大阪府	京都府	その他	
7	46	8	18	43	14	62	

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

(1) 就職活動支援に関して

①各種相談対応とそれに伴う業務の改善について

点検・評価の結果の通り内定のピークを6月に迎えるにあたり、4～5月の対応件数は1,000件を超えた。さらに短大部学生に対し、就職活動中の授業欠席考慮を受理する対面対応が300件以上に及ぶ。添削指導を事前予約制とし、嘱託専任職員を1名増員したことにより前年と比較して改善されたものの、非常に過酷な状況に変わりはない。この時期は就職関連の統計調査依頼に基づく資料作成、年間受理件数の6～7割を占める求人処理等の事務作業が集中する時期でもあり、それらは時間外勤務で処理する以外方法がない状況であった。こうした一つひとつの業務をある程度計画的に処理するためには、外部への業務委託あるいは業務そのもの見直しを検討する必要があると考える。

②適切な職業紹介事業への取り組み

厚生労働省より労働関係法令違反があった事業所を新卒者へ紹介しないよう通達を受けたことに伴い、学生へのより安定的な就職と企業における長期的な育成等を踏まえた職業紹介に努めていきたい。具体的には求人受理の際にできるだけ自己申告所の提出を企業へ求めるほか、学生へ企業紹介する際に、長野県内主要企業あるいは卒業生の就職実績企業等のほか、厚生労

働省が示す若者応援宣言企業やユースエール認定企業、くるみんマーク取得企業などの紹介を加えていきたい。

③各種障がいやメンタル面で支援の必要な学生への対応

障がい者の方の雇用促進が社会に定着してきたことに伴い、肢体不自由の障がいを持つ学生の就職支援はある程度可能性が広がってきた。一方で精神面の障がいまたはメンタル面で支援が必要な学生の就職支援はそれぞれ個別に事情が異なることから、対応が非常に難しい。そのためキャリアセンターだけで問題を抱えるのではなく、ゼミやクラス担当教員と情報共有を行うと共に、関係各署と連携しながら全学的な取り組みが必要と考える。そうした上でキャリアセンターとしての目標は就職としつつも、ハローワークや障害者職業センターをはじめとする公的機関と連携し、大学卒業後、あるいは就職後においても継続して学生が支援を受けることができる礎作りの支援ができればと考える。

(2) 就職活動準備支援に関して

①キャリア教育センター運営部会との連携

キャリアセンターは就職活動中の学生に対する支援のほか、就職活動準備支援として大学3年生・短大1年生のガイダンス運営も担当している。両方が一体化し就職指導に一定の効果をあげている一方で、キャリア教育センター運営部会との関わりは少ないのが実情である。大学あるいは学部として掲げるキャリア教育の位置付けや目的等に照らして、ガイダンスの内容等を教職員が組織的に精査し向上させるための体制について研究していきたい。

②インターンシップ

2016年度から長野県産学官インターンシップ事業が開始されたことにより、インターンシップ実習生を多く送り出すことができた。これを活かすと共にプロセスやノウハウを吸収し、本学内のインターンシップ充実を併せて図りたい。具体的には企業と学生の日程調整が一番大変な作業であるため、次年度は学生が直接企業側と日程調整をおこなうプロセスを検討してみたい。また、就職活動サイトを通じたインターンシップが採用活動の一環に含まれつつある状況を踏まえ、1 DAY インターンシップ等についても積極的な参加を促す必要性が、今後ますます高まる可能性があると考ええる。

(3) 運営・管理面について

①就職活動支援の評価について

就職状況ならびにキャリアセンターの就職支援の評価は、現状では内定率以外ほとんど基準がない、いわば短期的な視点に偏っていると感じている。今後は複数の客観的データに基づき、経年変化を確認することによって、中長期的な評価に繋げていきたいと考える。具体的には上場企業や主要企業への就職率、従業員規模別の就職率、県内就職率、学生の就職満足度、キャリアセンターの利用率等の集計に取り組んでいきたい。

②求人情報源の分析

2017年度から学生が提出する就職内定報告書に求人情報源を加えた。これを年度末に集計し、実際に学生が利用した求人情報源とそれぞれの割合を分析し、効果的な情報提供に繋げたい。

③履歴書等の電子ファイル化

本学では手書きの履歴書を原則としているが、ワード等を利用した電子データによる履歴書の導入を検討したい。まずは学内合同企業説明会の訪問カード電子化から検討を始めたい。

④個人情報保護

キャリアセンターにおいても様々な個人情報を扱っているだけでなく、それに基づいた資料を頻繁に会議資料として提出している。そうした通常業務が個人情報の取扱上問題がないのか、改めて検証し必要に応じて改善を図っていききたい。

⑤会議のあり方と情報共有について

2016年度は各学部の就職委員会が合計40回開催された。教育学部開設に伴い今後さらに増加することが予想され、会議のあり方について検討する必要性を感じている。審議事項は会議が必要なことは言うまでもないが、報告事項をはじめとする情報共有に関して言えば、ペーパーレス会議システムの利用により時間や場所に制約を受けず効率的に実施できる可能性がある。効率化することによって会議の回数を減らすことができるのか、関係者や関係各署と相談し検討していききたい。

＜執筆担当／キャリアセンター 課長 中村 高士＞

4. 情報センター

1) 年度当初の予定 <P>

○情報センターの主な業務は、下記のとおりとなっている。

(1) 教育・研究の支援

パソコン教室7室の整備、コンピュータ関連科目の講義補助、学生向けオリエンテーションの実施。

(2) 情報機器の維持管理

ネットワークおよびサーバー類の維持管理、パソコン教室の整備、教職員パソコンの管理、貸し出しノートパソコンの管理、

(3) 資格取得支援管理

各種検定試験の実施に関する学生支援および公務員試験対策総合講座の運営。

(4) その他

外部講習会の実施（シニア大学PC講座他）

○平成28年度当初に計画された情報センターの新規事業は下記のとおりである

(1) 学術・研究の支援

①パソコン教室の整備 322PC 教室の機器入替、ソフトのバージョンアップ、ネットワーク配線の全面入替およびシンクライアント方式へのシステム変更

②情報機器の拡充（貸し出しノートパソコンの新規購入）

③Web メール環境の構築

④Wi-fi 環境の構築（1号館・2号館のアクセスポイント増設）

(2) 情報機器の維持管理

①サーバー機器のデータセンターへの移行（2016年度より継続事業）

②Webメールの変更（office365）

③学務システムソフト (Mathfia) のカスタマイズ

(3) 資格取得支援管理

- ①情報系科目と連動した検定試験 (Word・Excel 他) の運営
- ②教務課と協同で公務員試験対策講座の実施
- ③奨励金制度の運営

2) 計画の実施・現状説明 <D>

継続する事業および新規事業は、ほぼ計画どおり実施された。当初の計画、予算執行において計画の変更のあったものについて以下に記述しておく。

- ①PC 教室の機材入替は、入札を実施した結果大幅に予算の削減ができた。
- ②Web メール環境の構築により、学生すべてが office365 を利用できるようになった。
- ③Wi-fi 環境の構築は、昨年度は講義に支障をきたす場面も多く当初の計画通りには進まなかったが、原因が特定できたため、計画通りに進むよう改善した。

3) 点検・評価の結果 <C>

(1) 学術・研究の支援

学術・研究の支援対策として、情報機器の拡充を目的に、PC 機器をフロアに設置し学生の利便性を図ってきたが、設置する台数および場所に限界があり、今後は、個人で持つノート PC の普及に向けた方策が必要と考えている。この問題には課題があり、講義で頻繁に使用すること、レポート等の課題が定期的に出され、個人でノート PC を持つ必要性を学生自身が感じる必要があるとなっている。

(2) 情報機器の維持管理

平成 27 年度に引き続き、平成 28 年度もサーバー機器等のデータセンターへの移行を行った。現在、情報センター内にあるサーバーの 9 割以上をデータセンターへ移設し、該当機器については移行が終了し、災害・セキュリティー等に対する脆弱性を改善することができた。ただ、当初予定していた委託経費をやや超過する金額となっており、ホスティング、ハウジングとも無駄なスペースをなくし、効率のよい運用となるよう改善が必要となっている。

(3) 資格取得支援

年々資格取得試験の受験者が増加している。特に、学部の学生の受験者数が増加しており、教員が講義の中で推奨していることが起因となっている。社会に出てからの基本的な読み書きそろばん力 (PC 技能) を高めることの重要性をさらに理解できる方策を計画したい。

新規に始める検定試験等については、推進する教員と教務課からの要望で始まるケースがほとんどで、資格支援センターの役割は常に後追いの状況となっている。資格取得支援センターとして、全学を見渡し事業を牽引していく場所作りと組織作りを行いたい。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

平成 28 年度は、下記の事業を予定しており、予算申請を行っている。最優先課題として、中継機器の管理・整備について、不調をきたす前に入替を行うため、順次入れ替えた場合の予算計画を中・長期的に構築した。

(1) 学術研究・教育の支援

- ① 332PC 教室の整備 (パソコン本体はそのまま使用し、シンクライアントシステムの導入と LAN

配線全てを入れ替える予定である。

- ② 学生個人所有 PC の利用推進のための環境構築
- ③ 短期大学部 ICT ソフトの入替 (Glexa)
- ④ 短期大学生全員に個人所有のノート PC を持つよう推奨
- ⑤ 教職員用パソコンの定期購入、研究室プリンターの入替

(2) 情報機器の維持・管理

- ⑥ データセンターへ移行したサーバー機器等の委託経費の削減
- ⑦ ネットワーク整備 (特に中継機器と配線の入替)
- ⑧ 学務システムのカスタマイズ (Mathfia)
- ⑨ IO ゲートプリンターシステムの改修 (個人ノート PC からの出力)

(3) 資格取得支援

- ① 各種検定試験・資格取得試験の支援・奨励金制度の運営

＜執筆担当／情報センター 課長 松尾 淳彦＞

IV. 入試・広報室

[組織と委員会]

入試広報室は入試委員会と広報委員会の事務部門を担当した。前者は学生募集活動及び入試業務、後者は大学広報業務を行っている。

人員構成は入試広報室長他、専任職員3名、派遣職員1名、パート職員1名の6名体制で活動した。

[職員組織と職務分担]

入試業務及び学生募集、募集広報において①専任職員は学生募集活動全般にわたり高校訪問、説明会・相談会、オープンキャンパスの企画・運営及び授業公開、高校生の大学見学受け入れ、学生組織マツナビの管理・指導に主体となって活動した。②派遣職員は各種募集活動に係わる営業補助業務（オープンキャンパス、高校訪問、説明会等における各種ツール等の準備や来場者管理、アンケート集計管理）、出前授業等の教員手配、高校生個人情報データ整理、入試事務処理等の学内業務を主として行った。③パート職員はパンフレット（大学総合案内、松商短期大学部ナビゲーション等）や大学定期広報誌「蒼穹」のディレクション及び取材、編集業務を主にした。

1. 学生募集活動

1) 平成28年度学生募集活動を受けての課題 <P>

少子化や県立短期大学の4年制化、私立大学の公立化、首都圏大学の学部新設や募集定員増、近隣県私立大学の同系統学部学科新設等本学を取り巻く環境は相変わらず厳しい状況であることから、下記に重点をおいて展開する。

- ①長野県及び隣接県（新潟県、山梨県）を中心とした広報・学生募集活動を積極的に行う。
- ②教育学部学校教育学科新設に伴いPR活動と学生募集活動を設置認可申請中から積極的に実施する。
- ③特に教育学部は一般入試、大学センター入試利用による募集をメインし、所謂進学校を中心とした学生募集活動を行う。
- ④公立大学が増えることによる本学への影響を模索し、その対策を講じながら学生募集を行う。
- ⑤松商短期大学部においては4学期制の導入を視野に入れて学生募集を行う。
- ⑥高校生の就職環境が好調なため、就職希望者が増えていることから、短大と専門学校の差別化をはかりながら展開する。
- ⑦短期大学部の4学期制導入が学生募集にどう影響するか模索しながら展開する。

2) 重点を置いた活動とその結果 <D・C>

今年度は大学開設から15年、人間健康学部は10年の節目の年である。来年度の教育学部学校教育学科新設を目前に控え、長野県内では数少ない総合大学として新たな展開をはかった。

(1) オープンキャンパス・高校生対象の公開授業の実施

オープンキャンパスは学生募集活動において極めて重要であり有効な手段と位置付けて実施した。

・オープンキャンパス

4月から9月まで計6回と3月末の春のオープンキャンパスの合計7回実施。

ただし、4月は短期大学のみとした。また7月、9月のオープンキャンパスでは短期大学部の

一日体験授業を実施した。

- ・高校生対象公開授

7月、10月の2回実施

- ・その他

来春の教育学部新設に伴い、教育学部学校教育学科の説明会を実施した。

<オープンキャンパス、授業公開を含めた高校生の参加者数>

- ・総累計は2,139名（昨年度1,973名）、前年比8%増
- ・総合経営学科 累計269名（昨年度300名）、前年比10%減
- ・観光ホスピタリティ学科 累計140名（昨年度169名）、前年比17%減
- ・健康栄養学科 累計353名（前年308名）、前年比15%増
- ・スポーツ健康学科 累計311名（前年355名）、前年比12%減
- ・学校教育学科 累計56名（※来春新設のため過去の実績なし）
- ・松商短期大学部 累計478名（前年592名）、前年比19%減
- ・その他（進路未定者） 累計532名（前年249名）

以上の通り、全体では教育学部部分を除いて6%の微増であったが、健康栄養学科を除いては減少した。特に総合経営学部両学科の減少は大きかった。教育学部については認知度が低いためか、教育学部系を志望する高校生は進学校（偏差値が高い高校）が多いためかオープンキャンパスに参加する高校生は少なかった。

(2) 進学説明会・相談会

一般会場（ホテル等）での業者主催の説明会は長野県内を中心に山梨県、新潟県、静岡県、石川県、富山県、群馬県、沖縄県等全61回（前年88回）参加し、719名（前年790名）の高校生と面談した。全体的に費用対効果を考え昨年より参加会場を絞り込んだため相談者数も減少した。

6月に長野会場（ビックハット）で行われた進学情報業者企画のイベントでは教育学部の説明会を特別コーナーで実施したが聴講者は11人と少なく、そもそもこうしたイベントへの進学校の参加者が少ないことが要因と考えられる。

(3) 高校での説明会・模擬面接、志望理由書の書き方講座

進学情報業者主催、高等学校主催の併せて152回の説明会（系統別、個別相談、模擬面接、進路講話等）に参加し、延べ2,786名の高校生と面談した。高校での進路講話等は他大学の実施が少ない事もあり、効率的であり、効果的である。ただし、模擬面接講座の場合は他大学を希望する生徒も対象となる場合もあるため確認したうえで参加した。

(4) 高校での出前授業、模擬講義（高等学校主催、業者主催）

長野県内を中心とした高校での出前授業、模擬授業は年間64回、高大連携による模擬講義は年間40回実施した。また、系列校である松商学園高等学校との連携授業も総合経営学部4回（延べ参加人数113名）、人間健康学部8回（延べ参加人数96人）、教育学部3回（延べ参加人数52名）実施した。出前授業については、高校から依頼を直接受けられるよう本学ホームページ上で案内をしている。

その他にオープンキャンパスでのミニ講義、体験講座を計60回実施した。

(5) 高校生の大学見学受け入れ（高校主催、業者主催）、一般の大学見学

高校生を中心に中学生や一般の見学を積極的に受け入れ、高校生対象は年間 35 件（延べ 1,455 人の高校生と引率教員）を受け入れた。毎回、大学・短期大学の概要、本学の教育の特長や進路講話（大学進学の意味・目的、将来の仕事等）を実施した。学内施設見学は M@tsu.navi（マツナビ）が中心となり行った。

また、中学校からの依頼による、進路選択やキャリア教育の講話も積極的に受け入れた。

(6) 高等学校教員対象の学生募集説明会

6月に長野会場（TOIGO）、松本会場（本学）で実施した。教育学部開設もあり各会場への積極的な動員を図ったが、長野会場は8校8名、松本会場は24校27名と、昨年とほぼ同数の参加であった。松本会場では進学校からの参加もあった。

もっと参加者が増えるように、開催時期の変更等も検討しなければならない。

(7) 入試相談会

一般入試、大学入試センター試験利用についての相談を主に受けた入試相談会は3回実施し、10月15日：71件、11月23日：20件、1月19日：6件の相談があった。教育学部開設に伴う教育学部希望者の相談は13件であった。昨年より参加者は増えたものの教育学部希望者の参加が予想より少なかった。

(8) 高校訪問

高校訪問は長野県内高等学校を中心に、下記のとおり積極的に行った。

- ・4月中旬から5月に上旬……教育学部（設置認可申請中）開設案内、2016年度入試結果についての報告
- ・6月後半……教育学部への志願が見込まれる高校へ、教育学部学部長予定、学科長予定教員と同行し、「教育学部学校教育学科」の教育内容、入試制度の説明。ただし、県内の進学校全てには訪問することができなかった。
- ・6月から7月……指定校推薦の依頼。長野県内、新潟県、山梨県を中心に訪問。
- ・9月……指定校を含む推薦入試出願状況把握。

(9) 学生募集用ツールの制作

①パンフレット・チラシ等

- ・2017年度版大学案内パンフレット・2017年度短期大学ナビゲーション
- ・オープンキャンパス告知チラシ・ポスター
- ・オープンキャンパス告知・入試相談会告知DMはがき
- ・公開クリニック2016年版チラシ
- ・松商短大16フィールド体験ツアーチラシ
- ・春のオープンキャンパス2017告知チラシ
- ・教育学部学校教育学科案内パンフレット（設置認可申請中、設置認可）

②過去問題集

- ・2017年度受験者用 松本大学・松本大学松商短期大学部過去問題集

(10) 媒体等による募集広報活動

業者企画の進学情報誌やWeb媒体は前年同様極力減らし最低限に抑えたが、今年度は特別に教育学部新設のPRのため、進学情報会社1社に依頼し全国統一模試受験者で長野県を中心に隣接県

で教育学部系進学希望者対象に教育学部開設のパンフレットをDM 発送した。

①進学情報誌・その他雑誌

情報誌 23 件、Web 媒体 3 件を実施した。

②電波媒体 (TVCM)

- ・松本大学・松商短期大学部イメージCM
(レギュラー：ABN 長野朝日放送「アメトーク」(年間契約)、「グット！モーニング」)
- ・オープンキャンパス告知スポットCM (6月～9月県内民放2局、新潟県、山梨県各1局)
- ・教育学部開設告知CM (11月～1月県内民放4局、新潟県、山梨県各1局)
- ・入試案内CM (12月～2月長野県内2局、新潟県、山梨県各1局)
- ・あづみ野FM ラジオCM (年間)

後述の新聞広告との相乗効果か、新潟県・山梨県からの一般入試・大学入試センター試験利用の受験者は増加した。

③新聞・雑誌を利用した広告

- ・オープンキャンパス告知 (長野県、新潟県、山梨県)
- ・教育学部開設PR 広告 (長野県、新潟県、山梨県)
- ・入試案内広告 (長野県、新潟県、山梨県)
- ・松本大学、松商短期大学部イメージ広告……2017年1月5日付 信濃毎日新聞朝刊30段 (見開き2ページ) ※非常にインパクトがあり、信濃毎日新聞社の話題広告賞を受賞。

④Web 媒体

本学ホームページでの情報公開に力を入れた。各教員や各部署からの情報がスムーズに入試広報室に集まるよう全学広報委員会で徹底し、タイムリーな情報発信に力を入れた。また、見やすい画面デザインや仕組み作りに心がけた。

また、Web 出願のため募集要項も全てホームページで確認するよう都度高校生にも案内を行った。

さらに、高校生の多くがスマートフォンでの情報検索が主体であるため、本学ホームページもスマートフォン対応にした。

本学入試広報室独自の「LINE」(ライン)を活用したイベント、入試情報の発信は登録者が3,000人強となり前年比2倍となった。

(12) マツナビ (M@tsu.navi) の育成

学生募集の支援部隊としての学生自主運営組織(ボランティア)マツナビは今年度も多くの新入生が加わりオープンキャンパス、高校生の大学見学、高校教員対象の学生募集説明会や新入生の入学前教育などの際に大いに活躍した。このために自主的に受付マナー、学部・学科内容の説明、施設の説明などセクション毎にセミナーや研修会を行い、マナーと質の向上に努めた。学生は大学・短大、学部・学科問わずに参加しており、お互いに他学部の勉強会をするなど積極的に取り組んでおり内外から高い評価を得ている。また、高校生の憧れの的にもなっており、大学・短大の志望理由にもなるほどである。

3) 次年度への課題 <A>

今年度の広報活動や学生募集活動は概ね目標通りではあったものの、教育学部開設に伴う広報

PR活動、主に進学校へのダイレクトな案内が時間的に厳しかった。また、教育学部系統を志望する高校生は比較的偏差値の高い高校の生徒が中心となるため、会場形式の相談会やオープンキャンパスへの参加が少ない。さらに、そういった高校での系統別説明会や相談会も皆無に等しく、対象となる高校生に直接接する機会がない。そういったことから、教育学部に関しては新たな広報、学生募集戦略を検討する必要がある。

長野県内の私立大学の公立化と長野県立大学の2018年4月開設もあってか、オープンキャンパスへの参加者全体は若干増えたものの、健康栄養学科を除いては参加数が減少傾向にある。

後述の入試結果を踏まえて、総合経営学部両学科は他力本願で外部環境の変化により結果的に志願者が増えたということであり、本学の人気が上がったということではないとみている。公立化と長野県立大学開設で長野県内高校生の進学動向が変化する中、いかに本学に目を向かせるかを考える必要がある。

2. 平成28年度入学試験

1) 実施計画と結果<P・D>

2018年度入試は全面的にWeb出願とし、Webでの募集要項公開から出願まで大きなトラブルもなく進行した。

今年度は新たに教育学部の新設に伴う募集が始まった。既存の学部学科の学生募集と共に教育学部の募集要項が下記のとおり決められた。

教育学部学校教育学科 2018年度募集要項

	入試区分	募集人員	試験日
推薦入試	推薦前期	14	11月20日
	推薦後期	3	12月10日
AO入試	AO入試	5	11月12日
一般入試	スカラシップ	7	2月4日、5日
	A日程	28	
	B日程	3	2月23日
	C日程	2	3月9日
センター利用入試	センタースカラシップ	3	-
	センターⅠ期	11	-
	センターⅡ期	2	-
	センターⅢ期	2	-
その他	社会人AO入試	若干名	11月12日
	留学生	若干名	12月10日
	帰国生徒	若干名	12月10日

教育学部2017年度入学試験には、一般入試及びセンター利用入試にスカラシップ入試を導入し、合格者は授業料を国立大学並みに免除した。また推薦入試は推薦基準評定値3.5とし、面接試験

にプラスして基礎学力を把握するための科目試験を導入した。A0入試は一次選考模擬授業＋確認テストを実施、二次試験には集団討論、面談、小論文を課すこととし総合的に判断した。

一般入試スカラシップは国語・数学・英語を必須、地歴・公民・理科から1教科選択。センター利用スカラシップは国語・外国語・数学を必須、地歴・公民・理科から2教科選択。一般入試については他学部と3学科併願も可能とした。

総合経営学部、人間健康学部の入試区分・入試回数は前年と同様とし、推薦入試及びA0入試合格者にも一般入試A日程を受験して学力特待生資格を目指せるようにした。例年通り一般入試A日程は本学以外にも地方会場（東京、甲府、新潟、名古屋、那覇）の5会場で行った。

2) 入学試験の結果と評価<C・A>

志願者・入学者は下表の通りである。

松本大学 2017 年度入試結果

■松本大学大学院

研究科	専攻	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	競争率	手続者数	入学者数	充足率
		A			B			C	
健康科学	健康科学	6	3	3	2	150.0%	2	2	33.3%
	合計	6	3	3	2	150.0%	2	2	33.3%

※留学生を除く

■松本大学

1 年次入学生

学部	学科	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	競争率	手続者数	入学者数	充足率
		A			B			C	
総合経営	総合経営	80	372	361	96	376.0%	82	82	102.5%
	観光ホスピタリティ	80	343	331	98	337.8%	82	82	102.5%
	小計	160	715	692	194	356.7%	164	164	102.5%
人間健康	健康栄養	80	208	203	109	186.2%	75	75	93.8%
	スポーツ健康	80	251	243	122	199.2%	100	100	125.0%
	小計	160	459	446	231	193.1%	175	175	109.4%
教育学部	学校教育学科	80	278	267	144	185.4%	65	65	81.3%
	小計	80	278	267	144	185.4%	65	65	81.3%
合計		400	1,452	1,405	569	246.9%	404	404	101.0%

※留学生を除く

■編・転入学生

学部	学科	入学定員 A	志願者 数	受験 者数 B	合格者 数 C	競争率 B/C	手続者 数	入学者 数 D	充足率 D/A
総合経営	総合経営	5	5	5	4	125.0%	4	4	80.0%
	観光ホスピタリティ	5	2	2					
	小計	10	7	7	4	175.0%	4	4	40.0%
人間健康	健康栄養	5	3	3	1	300.0%	1	1	20.0%
	スポーツ健康	5							
	小計	10	3	3	1	300.0%	1	1	10.0%
合計		20	10	10	5	200.0%	5	5	25.0%

※留学生を除く

■松本大学松商短期大学部

学部	学科	入学定員 A	志願者 数	受験 者数 B	合格者 数 C	競争率 B/C	手続者 数	入学者 数 D	充足率 D/A
短期大学部	商	100	140	139	112	124.1%	106	106	106.0%
	経営情報	100	149	146	130	112.3%	115	115	115.0%
	合計	200	289	285	242	117.8%	221	221	110.5%

※留学生を除く

総合経営学科の合格者に対する志願者は3.76倍、観光ホスピタリティ学科は3.38倍となり過去最高の高倍率となった。これは①日本の景気好調により社会科学系の人気高騰、②長野県高校生の地元志向上昇、③教育学部開設による相乗効果、④長野大学の公立化により推薦入試枠が減り、県外からの志願者増で県内の高校生がはじき出される結果になったため、一番の地元進学先とされた。などの要因があるが、④が最も大きなものではないかと考えられる。

指定校推薦を含む推薦入試、A0入試での志願者が急増した上、文部科学省の定員超過率規制もあり合格者数が抑えられたことにより倍率が高まったもので、決して本学の人気が高まったことだけによると誤解してはいけない。これらの様々な要因により、一般入試の倍率も異常に高くなってしまい、いわば本学のお客さんである高校からの受験者を二桁で不合格にする結果となった。

また、健康栄養学科においては定員超過率の問題があり補欠合格者も一定以上は出せなかったこともあり、結果として歩留りが悪く定員割れとなった。

教育学部に関しては144人の合格者に対して手続者65名という結果で、国公立や教育系の歴史や実績のある大学との競争となり、年度末の3月28日まで入学辞退があった。全国的に教育系志

願者が減ったという大手予備校のデータもあるが、新設という事もありまだまだ認知されていない点や、実績がないというのが大きな要因である。広報的にはまだまだ営業活動の余地があり、対象となる進学校（偏差値の高い高校）に積極的にアプローチする必要がある。

松商短大においては289人の志願者に対して合格者221名、1.18倍という結果であった。志願者は昨年より増え、これは松商短大を第一志望にしている高校生が若干増えていることもあるが、総合経営学部の不合格者に対して松商短大への受験を促したことも多少は影響したと考えられる。

総合的にみて学部の入試は様々な要因で判断が難しい入試となった。

3) 入学試験の課題 <C・A>

2017年度入試は外部要因により難しい判断をせざるを得ず、過去にない難しい入試となった。一番は定員超過率規制の影響が大きかったが、長野大学の公立化による県内の高校生の動きが予想以上に影響を及ぼした。今後も諏訪東京理科大学の公立化、長野県立大学の開設等様々な動きがあり、長野県内高校の進路指導担当も困惑するほどで、高校生の動向も読みにくい状況になることは必至である。こうした環境下で安定した志願者の確保と、合格者の歩留まりをどう予想するかが課題である。

特に教育学部に関しては先ず受験者増を図る必要があり、受験者を350人から400人程度まで増やしたい。また一般入試、センター利用での入学者を定員の70%確保するのはかなり難しいと思われるため、推薦入試、A0入試において40%程度の入学者確保は必要ではないかと思う。そのためにも、県内中堅高校から進学校へのアプローチを更に強化し、推薦入試、A0入試で確実にベースとなる数字を抑えたい。

総合経営学部においては推薦入試、A0入試での厳しめの判断が必要になるが絞り込みすぎると一般入試、センター利用での歩留りが読みにくいいため厳しい入試になると予想されるため、計画的な対応を講じる。

人間健康学部についても同様に定員超過率規制の影響の中難しい判断が予想されるため、早い段階から綿密な分析の元、取り組む。

また、新たな視点からの取り組みも求められている。DP（ディプロマポリシー）を前面に出して、それを支えるCPや担当教員のプロフィールなども交えた広報を考案し各高校の特徴をとらえながら焦点を絞った学生募集にも挑戦する必要がある。

3. 大学広報

全学広報委員会の下、主たる業務は大学広報誌「蒼穹」の編集及び発行、大学公式ホームページの企画・運用・管理や報道各社への大学の様々な情報発信（プレスリリース）を行った。また、報道各社との懇談会の開催、新聞等の媒体に掲載された記事の収集と管理を行った。

1) 大学広報の活動 <P・D>

(1) 大学広報誌『蒼穹』の発行

学報「蒼穹」は今年度も年4回（6月、9月、12月、3月、Vol.123号から126号）発行した。特集ではタイムリーな本学の特色ある取り組み等について紹介した。Vol.124号では2017年4月

開設の教育学部を巻頭特集とした。その他にも主な出来事やCOC活動、アウトキャンパス・スタディ、地域づくり考房『ゆめ』、地域健康ステーションなど活動についての記事を掲載した。

大学関係者、学生の保護者、各自治体への配布はもちろん、高校訪問時には持参し進路指導室に配布した。

(2) 大学公式サイト（ホームページ）と運用

①大学公式サイト（ホームページ）と運用

運用中の約30に上るコンテンツとSNSについて継続更新と内容整理に努めた。さらに、各部署・機関・部活動などからの相談・要望に応え、新コンテンツ増築や修正などの対応を年間通じて実施した。また、可能な限り迅速な対応を心がけることにより、公開後3年を超える現行サイトにおいても必要かつ十分な鮮度を保つことができている。

②大学ホームページの運用について

Web環境の変化とともに、抜本的な構造の見直しが必要となっており、対応すべく準備を進めた。

2) 結果と評価・今後の課題 <C・A>

規模拡大とともに学内の様々な活動も増え、プレスリリース（情報発信）も年々増えつつあるが今後は戦略的に媒体を効率よく利用するとともに報道各社とのコンタクトも幅広くする必要があり。全国媒体へのプレスリリースも検討する。

- (1) 大学広報誌『蒼穹』今迄通りの配布先はもちろんであるが、地域の大学として認知され選ばれる大学となるためには地域住民の皆様や高校生の保護者にも配布していく必要を感じる。ホームページ上でも閲覧は可能であるが何らかの方法で配布先を広げたい。
- (2) 大学公式サイト（ホームページ）はコンテンツも年々充実させてきているが、グローバル時代に向けた英文サイトを早急に立ち上げる（平成29年度）。

Web環境の変化ともなう抜本的な構造の見直しについて、対応すべく引き続き準備を進める。とりわけ、モバイルデバイスへの最適化は必須であり、受験生、高校生を念頭に置いたモバイルファーストサイトへの改築を計画する。第一弾として公式サイト of 全面的なリニューアル、第二弾として松本大学周辺サイトの整備をし、関連する機関全てにおいてWeb活用が遅れを取ることのないよう管理する必要がある。

<執筆担当/入試広報室長 中村 文重>

第4部 資料

I. 平成28年度委員会構成

平成28(2016)年度委員会構成

委員会名称	番号	目的等	委員	責任者	研究科	総合経営	人間健康	短大学部	事務局長等	担当	事務局長等	
											事務局長等	事務局長等
理事会	0	常務理事会メンバー、各学校長	Z	片倉							柴田	
常務理事会	0	理事側から召集	Z	片倉							柴田	
理事・大学連絡協議会	1	諮問：将来計画(定期会議:1,12,3)	A	住吉	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
協議会	2	諮問：規程整備/教職員評価指針開発	A	住吉	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
学	3	全学最高決定機関	B	等々力		研究科長、学部長、学科長	江原	山添・赤井			柴田	
大	4	3報告書発行	D	住吉	進藤	矢野	江原	山添・赤井			柴田	
学	5	自己点検・評価委員会	A	住吉	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
運	6	コンプライアンス推進部会	A	住吉	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
営	7	認定評価準備部会	A	住吉	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
管	8	個人情報保護部会	B+	増尾	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
理	9	健康安全センター運営委員会	C	増尾	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
部	10	施設管理センター運営委員会	C	増尾	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
門	11	施設管理センター運営委員会	C	増尾	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
入	12	施設管理センター運営委員会	D	江原	進藤	矢野	江原	山添・赤井			柴田	
設	13	施設管理センター運営委員会	E	柴田	進藤	矢野	江原	山添・赤井			柴田	
管	14	施設管理センター運営委員会	E	尻無浜	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
理	15	施設管理センター運営委員会	E*	尻無浜	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
入	16	防犯防犯対策部会	F	山田	山田・進藤	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
設	17	防犯防犯対策部会	F	山田	山田・進藤	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
管	18	防犯防犯対策部会	F	山田	山田・進藤	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
理	19	防犯防犯対策部会	F	山田	山田・進藤	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
入	20	防犯防犯対策部会	F*	山田	山田・進藤	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
設	21	防犯防犯対策部会	F*	山田	山田・進藤	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
管	22	防犯防犯対策部会	X	矢野口	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
理	23	防犯防犯対策部会	G	室谷	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
入	24	防犯防犯対策部会	G	室谷	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
設	25	防犯防犯対策部会	G	室谷	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
管	26	防犯防犯対策部会	G*	室谷	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
理	27	防犯防犯対策部会	G*	室谷	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
入	28	防犯防犯対策部会	H	山田	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
設	29	防犯防犯対策部会	H	山田	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
管	30	防犯防犯対策部会	H	山田	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
理	31	防犯防犯対策部会	I	等々力	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
入	32	防犯防犯対策部会	I	等々力	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
設	33	防犯防犯対策部会	I	等々力	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
管	34	防犯防犯対策部会	I	等々力	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
理	35	防犯防犯対策部会	I	福島(智)	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
入	36	防犯防犯対策部会	J	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
設	37	防犯防犯対策部会	J	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
管	38	防犯防犯対策部会	J	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
理	39	防犯防犯対策部会	K	川島(均)	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
入	40	防犯防犯対策部会	K	岸田	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
設	41	防犯防犯対策部会	L	伊東	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
管	42	防犯防犯対策部会	M	浜崎	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
理	43	防犯防犯対策部会	N	赤井	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
入	44	防犯防犯対策部会	O*	藤田	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
設	45	防犯防犯対策部会	P*	廣瀬	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
管	46	防犯防犯対策部会	Q	矢野	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
理	47	防犯防犯対策部会	R	根本	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
入	48	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
設	49	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
管	50	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
理	51	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
入	52	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
設	53	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
管	54	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
理	55	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
入	56	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
設	57	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
管	58	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
理	59	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
入	60	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
設	61	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
管	62	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
理	63	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
入	64	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
設	65	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
管	66	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
理	67	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
入	68	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
設	69	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
管	70	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
理	71	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
入	72	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
設	73	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
管	74	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
理	75	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
入	76	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
設	77	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
管	78	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
理	79	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
入	80	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
設	81	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
管	82	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
理	83	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
入	84	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
設	85	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
管	86	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
理	87	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
入	88	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
設	89	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
管	90	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
理	91	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
入	92	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
設	93	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
管	94	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
理	95	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
入	96	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
設	97	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
管	98	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
理	99	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	
入	100	防犯防犯対策部会	S	山添	山田	窪谷・増尾	等々力	山添・赤井			柴田	

○各学部が必要に応じて独自に開催する委員会や部会は、前に○学部を付ける。 ex. 総合経営学部学生委員会など
 ○氏名の下線は各学部の主任を示す。
 ○全学委員会には、原則各学部から2名(各学科から1名)・担当者1名・担当事務職員
 ○各学部の事務が必要に応じて委員を補員することがある。
 ○*印の委員会等は機能的には教の部門もあるが、主に地域連携推進部会に属することになる。

Ⅱ. アンケート調査結果(平成28年度)

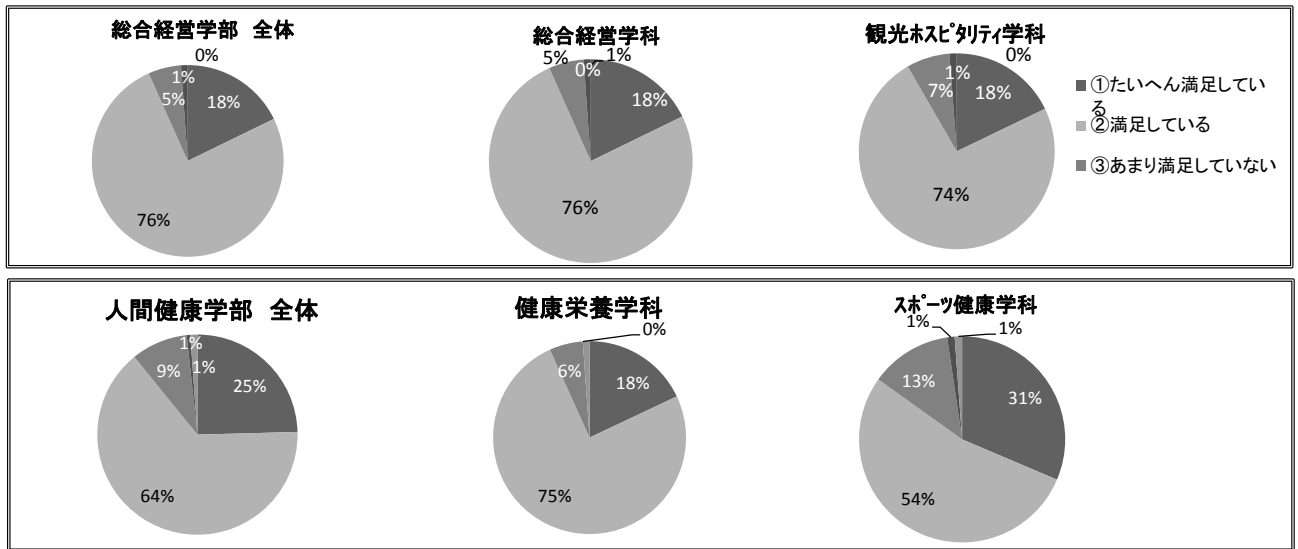
1. 松本大学卒業予定者アンケート

質問1. 所属について

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
卒業予定者数	68	28	96	54	30	84	180	8	83	91	59	30	91	182
回収数	63	27	90	54	30	84	174	8	81	89	58	28	86	175
回収率	93%	96%	94%	100%	100%	100%	97%	100%	98%	98%	98%	93%	95%	96%

質問2. あなたは所属学部の教育に満足していますか。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	14	2	16	8	7	15	31	4	12	16	16	11	27	43
②満足している	46	22	68	39	23	62	130	4	63	67	34	12	46	113
③あまり満足していない	2	3	5	6	0	6	11	0	5	5	6	5	11	16
④全く満足していない	1	0	1	1	0	1	2	0	0	0	1	0	1	1
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	2



【理由等】

総合経営学科

- ①の理由 社会で必要になる知識が身についた。
 あまり分からなかった。
 興味のある学問を学べたから。
 地域活動などをおこない、経済について学べた。
 経営・経済について専門的に学べ、就職後もその知識を活かしていけそう。組織内での自分のあり方というのを考えさせられた。
- ②の理由 地域の方と関ったり、幅広く学べてよかった。
 基礎から専門的なことまで詳しく学べたので良かった。
 色々な事を学べた。
 学びたいことが学べて良かったです。
 その学部にあった講義だったと思う。
 自由に学べる。
 取得したかったPC系の資格を取得でき、学生生活を送る上で、非常に役に立ったため。
 学びたいことを学べた為。
 ふつう。
 知らない授業内容などを多く学べた。
 総合経営学部全体だと特に観光ホスピタリティ学科の授業に役立つ授業が多かったと思います。
 経営に関する知識を、幅広く学ぶことができ、役立ちそうだったから。
 様々な分野を幅広く学べ、なお且つ専門分野も充実している為。
 講義内容が分かりやすい先生が多かった。
 自身があまり積極的ではなかったためマイナスにした。
 特に不満がないため。
 経済の他にもさまざまな科目があり、色々な視点から就職に取り組めるため。
 特になし。
 それなりに資格が取れたから。
 経営の知識だけでなく法や保険など大切な知識も学ぶことができた。
 分かりやすく教えてくれる先生が多かったため。
 教師からの教えようという熱意が十分伝わってきた。
 色々なことを学べて良いです。
 所属や他の学部・学科も勉強することができたので、沢山の知識を得ることができた。
 経済、金融、経営を幅広く学べる。地域社会に参加できる。
 経営について学べたため。
- ③の理由 大学らしい授業とは思わなかったため。
 楽勝すぎた。
 ほとんどの授業が担当教員の個人的な意見を聞いているようで、内容が入ってこなかった。
- ④の理由 あまり分からなかった。

観光ホスピタリティ学科

①の理由 自分の考える時間を与えてくれたから。

とても良いことを教えていただいた。個人的にはもっとしっかりやっておけば必ずためになったと思う勉強ばかりでした。
教員にめぐまれた。自分のやりたいことができた。希望の就職先が見つかった。
カリキュラム一つ一つに工夫がされており学ぶことができました。
楽しいから。
専門的なことを学べた。
観光と福祉について学ぶ事ができて良かった。
私は松本大学単願で入学しましたが、本当にこの大学でなくては通えないと思うほど良くしてもらいました。
学生と教員の距離が近く、すぐに話を共有できるところが良いと思います。
経営に関するだけでなく、広い分野を学べた。
グループワークが多く、沢山の人の人と関ることができた。

②の理由

全体を通して為になった。
生徒一人一人に丁寧に対応してくれる。
専門分野が多く学べるから。
地域の事や、法律について学ことができたため。
学びたい授業を取ることができ、充実したため。
環境がよかったから。
自分の興味のある分野を学ことができたから。
いい大学生活がおくれました。
観光分野について知ることが出来てよかった。
自分の学びたい分野を選べる。選択が多い。
自分の進路を決める上で、様々な選択肢をとることができた。
内容に充実感があつたから。
自分の学びたいことを学べたので満足している。
学びたいことがちゃんと学べた。
経営学など学べて良かった。
自分の学びたいことや入りたいゼミに入れて興味深い研究ができているから。
地域の方々と関ることができた。
地域に対する教育は充実していると思うが、教養が全く身につかない。
学部共通の講義では、他学科の科目に興味をもつきっかけがあつた。
幅広く学習することができ、この学部を選んでなかったら、この先学べないと思われる講義もあつたから。
外国語教育と、もっと専門的なツアーや観光事業に関する講義が増えると良い。
様々な分野の勉強を幅広く学ぶことができたから。
自分の学びたいものが学べたし、新しいことを多く知ることができた。
カリキュラムが充実していたから。面白い授業や自分で考える授業が割と難しくもあり、楽しかった。

③の理由

言うほど、経営してない。
あまり勉強ができなかった。

④の理由

健康栄養学科

①の理由 先生たちの手厚いサポート。

健康について様々なことを学べた。

たくさん、学べた。

この学部でしか学べないことが多くあったと思います。先生方も学部の特徴があって、施設も充実しており、大学へいくのは楽しかったです。

自分の興味がある分野を深く学ぶことができ、とても満足しています。

勉強だけでなく、地域の活動など学ぶ機会がたくさんあったため。

近い距離で先生方に対応して頂き、大変お世話になった。

学びたかったことが学べた。

先生方の支援が充実している。

興味を持った分野についての知識を深めることができた。

高校のときに学びたいと思っていたことが学べた。

②の理由

教員との距離が近いので質問しやすい。

栄養のことだけでなく、医学も学べたため。地域との交流もたくさんあったため。調理実習が少なく感じた。調理技術や基礎的なことももう少し学べたら良かった。

スポーツ学科の人と交わる講義があり、コミュニケーションをとることができた。

健康についてたくさん学ぶことができたが、しいて言えばもう少し学べるとよかった。

学外で学べる機会や施設、機械が充実しているため。

健康づくりについて学ぶことができたため。

栄養や医学についての勉強がいろいろできた。

学びたいことは学べた。

実践型の学びが多く(課外授業など)、より多くの経験ができた。

健康に関することが学べてよかった。

色々なことを知れた。

体験することで学ぶという機会が多かった。

スポ科の人と一緒に授業や活動が出来るため。

様々な分野を学べてよかった。

教員がよかった。

学びたいことは学べた。

学部ごとでのスポーツ大会等で、普段体を動かさない分動かすことが出来たのでよかったため。

広い視野で「健康」というものを学ぶことができたため。

先生たちと距離が近く相談しやすく、わからないのをすぐにきくことができる。

カリキュラムがしっかりとしている。

③の理由

設備不十分。

授業毎の連携がとれていないと感じる。

学部単位でのまとまりがあまり感じられなかったため。

その他

学部の教育とは、主に何ですか？

スポーツ健康学科

①の理由 スポーツについて幅広く学べたので充実した生活を送れた。

これから必要になってくるであろう、専門的な知識を身につけることができた。

実習やゼミが充実している。

様々なことを身につけることができた。

運動指導や、地域の人との関わり、ゼミ活動など、新たに自分のスキルを身につけることができた。

専門知識を学ぶことができた。

学びたかった知識が学べたから。

授業のカリキュラムや流れ、テスト等、とても行いやすく、充実した生活を送ることができた。

人間健康学部へ進学したことで、専門的な知識を身につけることができた。

少人数で密度の高い教育を受けたから。先生との距離も近く、相談できたから。

幅広い知識を学べるため。

多くの学べるフィールドがあった。

専門的な勉強が出来て、新たな知識を増やすことができた。

地域で活動できる場が多く、学内で学んだことが学外で生かせる場がもうけられていた。

たくさんのことを学べたから。

楽しかった。

いい学びができた。

大学でのレベルの高い専門的なことを学べた。

教職をうけていたが、実践に近く充実した授業だった。

専門的な分野を学ぶことができた。

②の理由

先生方のやさしさ。

地域に出での活動をすることができた。

教育を熱心にしてくれて、生徒一人一人としっかり話してくれるため。

高校からスポーツのことを学んで、専門知識等を深く学ぶことができた。

普段の生活の中で役に立つ知識が多い。

健康に関する知識を身につけられたので。

新しい分野に興味を持てた。

学びたかったスポーツについてやトレーニングについて勉強できてよかった。

人間健康学科なので仕方がないですが、トレーニング科学についてもっと学びたかった。

学びたいことはしっかりと学べたから。

様々な実習で、現場で経験できた。

自分のやりたい事が学べたため。

健康栄養学科の人たちと関わる講義を履修していた。もっとあってもいいと思った。

実技も座学も興味深いものばかりでした。先生方が個性的で楽しかった。

自分のやりたい勉強ができた。

健康などについて学ぶことができた。授業内でさらに現場に出て実習する機会があるといいと思う。

興味のあることが多すぎて、極めきれなかった。

楽しかった。

③の理由

同学部・他学部共に関わりがない。

スポーツ系の就職が県内にあまりない。

教職科目が卒業単位に含まれない。それであきらめる人が多い。

④の理由

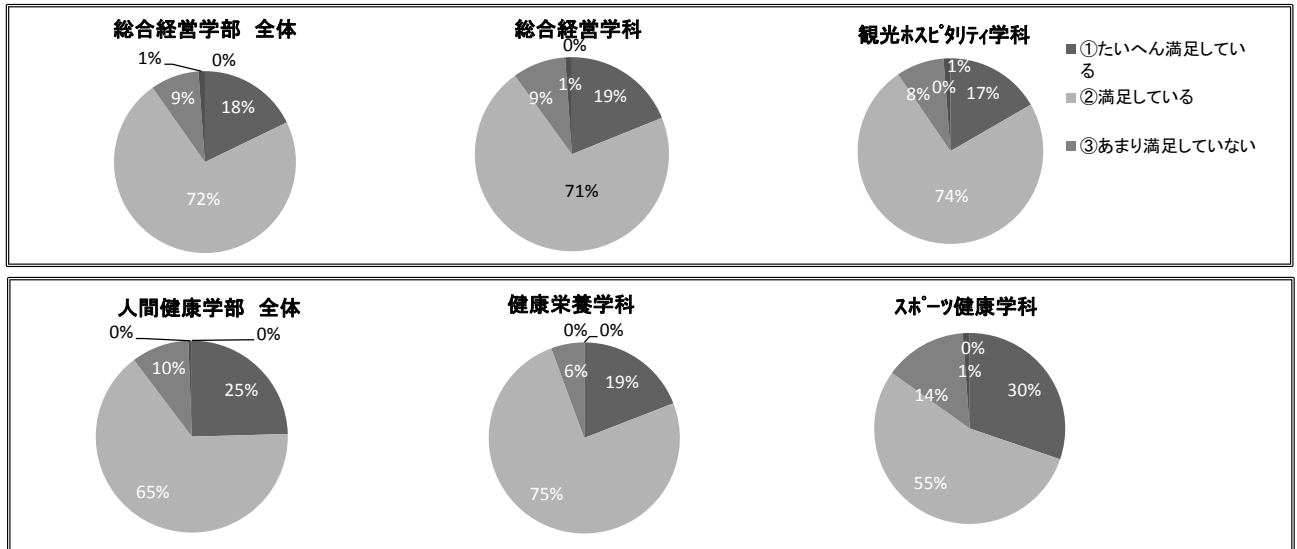
他学部との関わりが少ない。

無回答

講義の課目は幅広いと思えるものだったが、もう少し増やしてほしい。

質問3. あなたは自分が所属した学科の教育に満足していますか。

	総合経営学部						人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	15	2	17	8	6	14	4	13	17	16	10	26	43
②満足している	42	22	64	39	23	62	4	63	67	36	11	47	114
③あまり満足していない	5	3	8	6	1	7	0	5	5	6	6	12	17
④全く満足していない	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	1	1
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



【理由等】

総合経営学科

- ①の理由 社会で必要な知識が身についた。
経営の知識が深まった。
観光ホスピタリティも良いと思った。
経営・経済について専門的に学べ、就職後もその知識を活かしていけそう。組織内での自分のあり方というのを考えさせられた。
- ②の理由 学びたいことを学べたので良かった。
色々な事を学べた。
自分に合っていたと思います。
経営について理解することができた。
情報技術の資格に力を入れていたり、社会人になるためにあたり、知っておくべき法律を多く学ぶことができたりして、良い知識が身についたと思います。
「この講義きかなくてもいいよ」と第1回目で先生が発言し、15回目までだらだらした態度(先生も学生も)で講義が展開していったものが、何科目もあり、残念だった。
将来働く際に役立つ法律や知識などを多く学ぶこと、大学周辺地域のことについてたくさん知ることができたため。
学びたいことを学べた為。
ふつつ。
知識が増えた。
自分のためになる分野を学べたため。
経営に関する知識を、幅広く学ぶことができ、役立ちそうだったから。
必修が少々多すぎる気もしますが、特に不満もない為。
内定をいただいた企業で、学んできた事が役に立つから。
特に不満がないため。
より経済にたいして知識が深まった。
特になし。
経営の知識だけでなく法や保険など大切な知識も学ぶことができた。
自分に合っていました。
ほとんどの授業が担当教員の個人的な意見を聞いているようで、内容が入ってこなかった。
経済、金融、経営を幅広く学べる。
地域について学べたことが多かったため。
- ③の理由 大学らしい授業とは思わなかったため。
意外とグループワークをしたり数人で何かをやったりする授業が少ないと思います。また、一つの授業をもう少し関連づけてもらえるともよくなると思います。
周りに頭の良い人がいないため、退屈だった。
- ④の理由 あまり分からなかった。

観光ホスピタリティ学科

①の理由 自分の学びたい事、したかった事を学べたので良かった。

分かりやすい講義が多かったから。

とても良いことを教えていただいた。個人的にはもっとしっかりやっておけば必ずためになったと思う勉強ばかりでした。

教員にめぐまれた。自分のやりたいことができた。希望の就職先が見つかった。

福祉のみならず、地域、観光へと視野を広げることができました。

大変おもしろい授業を受けられた。

観光学科の方が、総経学科より、より「人」を大切にしてくれている印象を受けます。心配ごとなども親身になってきていただけて大変満足です。

観光マネジメントを学び、地域との関わりができて良かった。

②の理由 学びたい内容の多い科目があった。

悩み事でも何でも打ち解けられる関係ができ、授業に取り組みやすい環境。

地域貢献のために学べた。

地域のことを多く学べた。

地域に関することや環境に関することを改めて学ぶことができ、かつ現状についても少し知ることができたため。

地域の事や法律について学ぶことができたため。

学びたい授業を取ることができ、充実したため。

自分の学びたいことが学べた。

特に観光を好きで学べたから。

自分に合った授業を受けることができた。

社会に出て役立つ知識が身についた。

自分の学びたい分野を選べる。選択が多い。

観光、福祉、法律など色々な面から学ぶことができた。

講師と学生の距離が近かったから。

所属学科の科目により、自分の今後の進路をしっかり考えることができたと思える。

自分の学びたいことが学べたし、新しいことを多く知ることができた。自分が将来仕事としたいものをよく結びついて学習ができた。

満足しているが、もっと学生を巻き込んでほしいと思った。

地域やホスピタリティについて学べた。

資格取得に積極的であった。

サービス行・観光について学ぶことができた。

地域・ホスピタリティ・福祉などを学べ、自分の視野が広がった。

自分の興味がある分野に取り組めたから。

観光地の事、プライダルなど様々な事を学べた良かった。

より専門的に学べて満足している。

③の理由 あまり勉強をしかりできなかった。

言うほど、観光してない。

あまり勉強できなかった。

必要性を感じない授業もあるように思うから。

地域のことについて知ることができた。

健康栄養学科

①の理由 先生たちの手厚いサポート。

栄養についての専門的な知識を深めることができた。

たくさん学べた。

先生方の手厚いご指導や臨地実習に向けた指導など、手厳しかったが、とても自分の成長につながった。講義でも、学生にわかりやすい講義にするために、工夫があり、わかりやすかった。

先生方が真剣に向き合ってくれる。栄養面以外の幅広いことも教えてくれ、サポートして下さった。

先生が熱く指導して下さったから。

分かりやすい講義をありがとうございました。

今、資格に向けてがんばることができている。

様々なことを学べた。

色々なことを幅広く学べたから。

授業を分かりやすく教えようとしてくれる。先生方の支援が充実している。設備が整っている。

アウトキャンパスがあったり、講座があったりして、学びやすかったため。

勉強したいことを思う存分勉強できたと思う。どの先生の講義も分かりやすくて楽しかった。

②の理由 調理実習がもっと多くなれば、と思います。

授業内容もそうですが、先生方も様々な分野で働いてきた方がいらっしやるので、いろんな方面からの意見を聞くことができた。

食・栄養・医学のことを十分に学べた。

先生方に分かりやすく教えていただいた。

一生懸命学習に取り組めた4年間だったが、2～3年生のカリキュラムが毎日しんどくなった時もあった。

実習など多くの学ぶ場を設けてくれた。

たくさんの実習があり、実際に体験することで学べることが多かった。

実習関係の授業内容が充実している。

先生方が親身に接してくださいました。良い仲間に恵まれ、勉学に励むことができました。

栄養学に興味があって入学して、学びが充実していた。

専門的な知識を学ぶことができたため。

科目数が多かったけど、努力した日々をすごすことができた。

学びの面では満足だが、補講が多い。先生によっては説明が足りず、理解・納得できないこともあった。

大変なこともあったが、充実した学生生活が送れた。しかし、国試対策をもう少しやってくれてもよかった。

専門的なことをしっかり学べた。

自分が学びたいと思ったため、良くも悪くも知識がついた。

やる気次第で何でも参加できた。(地域健康ST等) 大学という機関でしか学べないことを学べた。(シカ肉解体等)

実習の際の先生たちの支援が手厚く、安心してのぞめた。1年のときに国試の問題にふれ、難しさやこれから学ぶ教科の重要性を感じたかった。

資格がとれる。

難しかったけど、ためになった。

学科内の一体感があったため。

教員がよかった。

実習が充実していた。国試対策がしっかりして勉強できる環境だった。助手の先生も含め、先生達との距離が近かった。

学びたいことは学べた。

3年生時が特に授業がハードではあったが、学ぶことの方が多かったため、充実していたと感じたから。

もう少し国家試験を意識した授業内容でもよいかと思った。

専門的なことを身につけられたため(知識・技術ともに)

先生や助手の先生方が親身に対応してくれる。ただもっと自主勉強ができる環境ととのえてほしい。

図書館をもっと広げる。自主室を設ける。くぎられた個々の机の配置など。

親身に指導いただいた。国試対策がもう少し早くからあると良かった。(どこが重要かなど)

実験や実習などが多く、実際に体験できていいと思う。

③の理由 もっと国試対策をしてほしい。4年になって週1は少ないと思う。大学側が合格率を上げたいなら。

授業毎の連携がとれていないと感じる。

スポーツ健康学科

①の理由 ゼミの活動を通して、高齢者とふれ合い、身につけた知識を提供できたことで楽しさを感じられた。

先生とも密接に関ることができ、幅広い教養を身につけることができた。

入りたかった先生のゼミに入れて良かった。

実習に行けたことが自分のためになった。

運動指導や、地域の人の関わり、ゼミ活動など、新たに自分のスキルを身につけることができた。

教職系、指導士系を両方取得できた。先生方も理解してくれた。

入学時から取り組みたかった内容をゼミナールに入って実施できた。

実習やゼミが充実している。

これから必要になってくるであろう、専門的な知識を身につけることができた。

スポーツについて幅広く学べたので良かった。

自分の取りたい資格以外にも学ぶことができた。

教職をうけていたが、実践に近く充実した授業だった。

スポーツ指導や教職についてしっかり学ぶことができた。

自分のやりたいことができた。

先生がとてもよくて、いろんなことを学べた。

スポーツだけでなく、健康に焦点をあてた学習を集中して行える環境であり、現場に近い状態の学習ができた。

アウトキャンパスで地域の方々に運動指導を実際に行なえることによって学ぶことも多くあった。

多くの学べるフィールドがあった。

専門的な知識を学べるため。

専門的な知識を得て、実践できる場があったから。

②の理由 身体に関してだけでなく、レクリエーションについても学べた。

新しい分野に興味を持てた。

やりたかった実技もしっかりできたので。

高校からスポーツのことを学んで、専門知識等を深く学ぶことができた。

求めている知識と経験を得る事ができた。ただ、前年の学生の影響で、スポ科の追試が無いことは全く意味が分からないと感じた。

教育を熱心にしてくれて、生徒一人一人としっかり話してくれるため。

実習を多く経験できるゼミだったので、色々勉強できたから。

先生方のやさしさ。

資格取得できたから。

運動を中心に学ぶことができた。

専門的なことが学べた。

実技も座学も興味深いものばかりでした。先生方が個性的で楽しかった。

専門的なことを学べてよかった。

③の理由 スポーツ系の就職が県内にあまりない。

一つ一つの講義のレベルを上げてほしい。

教職科目が卒業単位に含まれない。それであきらめる人が多い。

何を専門にやっていて語れるのかわからない…。全員でのみに行きたい気分です。

④の理由 人との関わりが閉鎖的すぎる。グループが多すぎて中学生に戻ったみたいだった。

基本的な知識が少なすぎてコミュニケーションがとれない。話が合わない。

質問4. あなたが松本大学に入学した動機は何ですか。(いくつでも)

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①『オーダーメイド教育』という理念に共感した	4	4	8	4	1	5	13	1	7	8	4	2	6	14
②『地域に貢献する人づくり』という教育目標に魅力を感じた	14	9	23	19	9	28	51	4	21	25	10	7	17	42
③オープンキャンパス・サポーターシステム等の新しい教育方法に惹かれた	6	3	9	5	7	12	21	0	14	14	6	4	10	24
④地域に関する科目が充実している	15	7	22	16	12	28	50	2	6	8	6	3	9	17
⑤コンピュータなど施設・設備が充実している	2	6	8	2	0	2	10	0	3	3	2	1	3	6
⑥良い先生がいる	3	2	5	10	3	13	18	0	5	5	7	4	11	16
⑦友達が入学する	4	1	5	1	0	1	6	0	1	1	0	1	1	2
⑧学生と教職員の距離が近い	3	6	9	5	9	14	23	2	17	19	11	6	17	36
⑨自宅から通学できる	31	13	44	20	17	37	81	3	30	33	14	11	25	58
⑩親、先生などから勧められた	15	9	24	14	12	26	50	2	21	23	7	8	15	38
⑪まだ社会に出たくない	10	7	17	4	4	8	25	1	5	6	5	2	7	13
⑫その他	7	0	7	9	5	14	21	2	29	31	14	8	22	53
無回答	0	1	1	0	0	0	1	0	1	1	2	0	2	3

【その他】

総合経営学科

資格。
 希望の進路に進めなかったため。
 就職のため。
 就職に強い。
 長野県での就職に強いイメージ。
 理想の職に就くにあたり、有用な学問を学べると判断したため。

観光ホスピタリティ学科

観光に関する学科があったから。
 先輩がいたから。
 部活がしたかった。
 部活のため。
 推薦で入れたから。
 野球をするため。
 部活。
 入りやすいから。
 観光・プライダルが学びたかった。
 自分の地元で福祉系が学べるから。
 教職課程がある。
 取得することのできる資格があったから。

健康栄養学科

栄養学科があること。
 管理栄養士の養成施設であったため。
 管理栄養士を取得したかったから。
 オープンキャンパスが良かったから。
 管理栄養士の資格がとれるから。
 県内で食について学びたいと考えていたため。
 栄養科があったから。
 入試に間に合いそうだった
 管理栄養士養成校だから
 資格が取得できる。
 管理栄養士をとれるのが県内でここだけだったから。
 資格
 栄養について学びたかったから。
 都会じゃない。
 長野県内で管理栄養士養成学科がある。
 管理栄養士養成課程があったから。
 ここしか受からなかったから。
 取得したい資格の教育が受けられる。県内の大学、という点。
 長野県内で栄養学を学べる大学だから。
 資格取得のため。
 県内で唯一管理栄養士の資格を取ることができるから。
 入りたい部活があったから。
 県内で、管理栄養士を目指せるから！
 地元だから。
 資格がとれるから。
 管理栄養士の受験資格が取れるから。

スポーツ健康学科

スポーツに興味があったから。
 近場だったから。
 県内就職しやすそう。
 資格のため。
 教員免許が取得できるから。
 長野県内であったから。
 指定校推薦に小論文が無かったから。
 興味があった。
 教員免許が取得できるから。
 トレーナーなどスポーツに関連した資格がとれるため。
 他にいくところがなかった。
 スポーツに興味があった。
 マツナビに入りたいと思ったことと、自分の興味ある分野があったから。
 資格。
 部活。
 資格取得のため。
 資格がとれる。

質問5. あなたが松本大学に入学した目的はなんですか。(いくつでも)

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①専門的学識を身につけたい	16	16	32	13	18	31	63	5	62	67	30	13	43	110
②教養を身につけたい	26	14	40	12	8	20	60	0	13	13	8	4	12	25
③地域について学びたい	20	8	28	23	17	40	68	0	7	7	1	7	8	15
④海外研修を経験したい	0	1	1	1	1	2	3	0	0	0	0	1	1	1
⑤資格を取りたい	13	14	27	9	14	23	50	8	60	68	27	19	46	114
⑥良い就職がしたい	26	9	35	13	4	17	52	1	12	13	10	4	14	27
⑦友人をつくりたい	9	3	12	2	6	8	20	0	7	7	2	2	4	11
⑧部活動を行いたい	8	3	11	16	4	20	31	2	5	7	10	8	18	25
⑨親元から離れて生活したい	3	0	3	1	1	2	5	0	11	11	2	4	6	17
⑩アルバイトをしてみたい	3	2	5	6	2	8	13	0	4	4	1	1	1	5
⑪自立できる社会人になりたい	8	6	14	3	6	9	23	1	14	15	6	1	7	22
⑫自分を見つけない(自分探し)	8	10	18	9	10	19	37	2	4	6	7	3	10	16
⑬その他	0	0	0	4	1	5	5	0	6	6	3	0	3	9
無回答	1	1	2	0	0	0	2	0	0	0	1	0	1	1

【その他】

観光ホスピタリティ学科

やりたいことがなかったから。
 様々な経験をしてみたいから。
 なんとなく。
 社会福祉士の取得とそのための勉強。

健康栄養学科

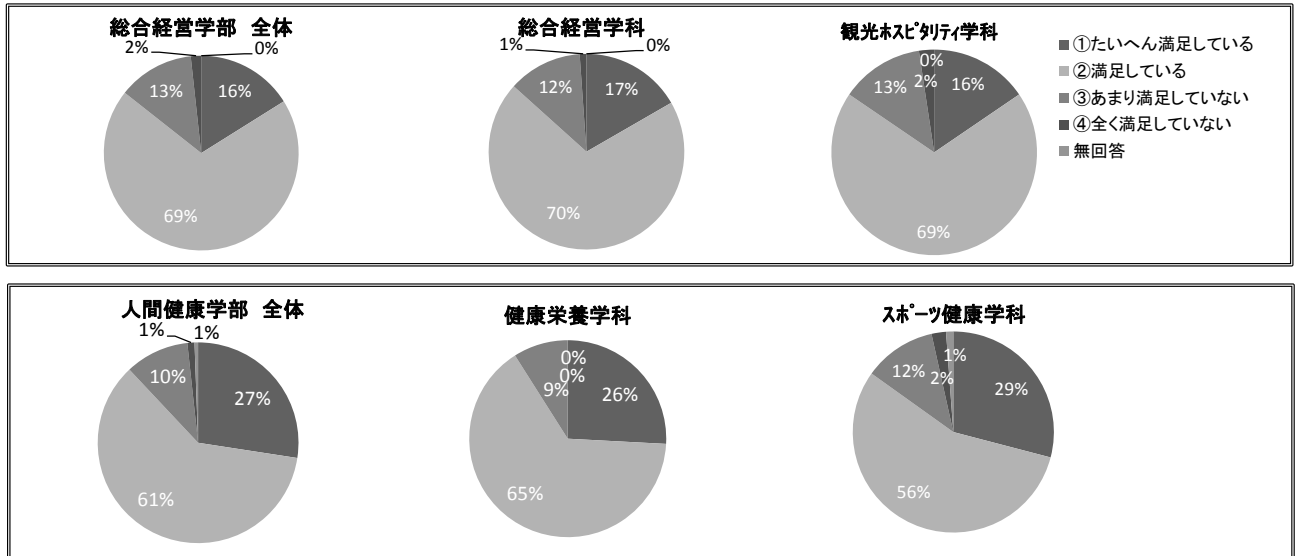
資格。
 スポーツ栄養について学びたかった。
 興味のある食の分野を県内で学べるため。
 社会人になるための色々な経験をつみたかった。
 色々な年齢・幅広い考えの方たちと交流したい。
 他大学の受験に失敗したから。

スポーツ健康学科

教員免許取得。
 近場だったから。

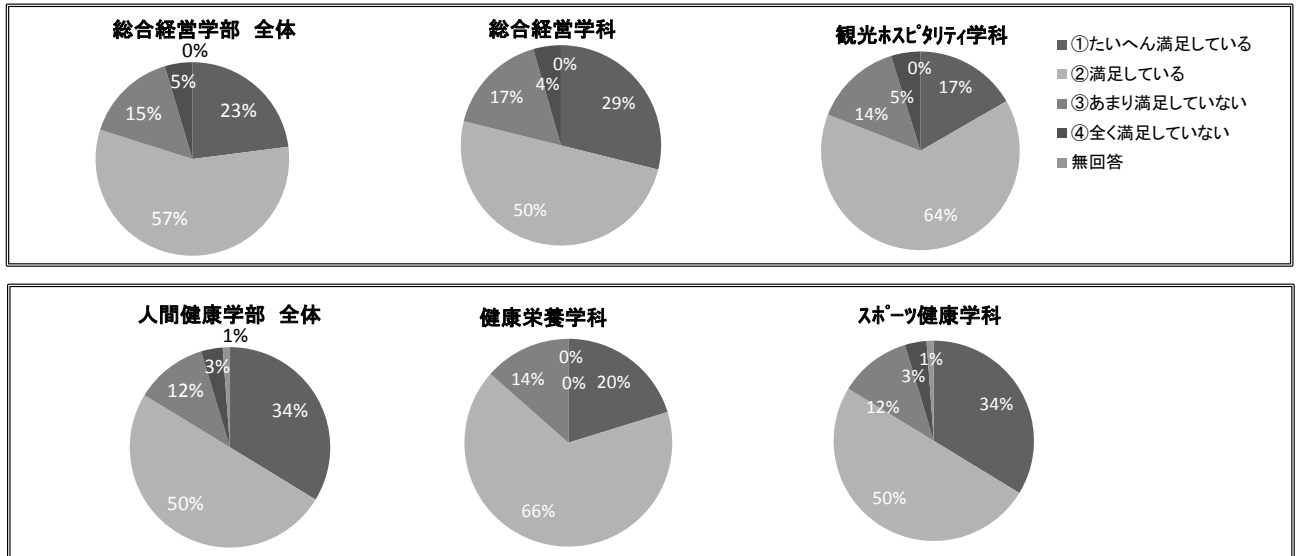
質問6. あなたは松本大学の4年間の勉学に満足していますか。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	13	2	15	7	6	13	28	3	20	23	16	9	25	48
②満足している	44	19	63	37	21	58	121	2	56	58	34	14	48	106
③あまり満足していない	5	6	11	8	3	11	22	3	5	8	6	4	10	18
④全く満足していない	1	0	1	2	0	2	3	0	0	0	1	1	2	2
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1



質問7. この4年間のあなた自身の生活に満足していますか。

	総合経営学部						人間健康学部						合計	
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康				
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
①たいへん満足している	20	6	26	8	6	14	40	3	15	18	18	11	29	47
②満足している	31	14	45	33	21	54	99	3	56	59	29	14	43	102
③あまり満足していない	8	7	15	9	3	12	27	2	10	12	8	2	10	22
④全く満足していない	4	0	4	4	0	4	8	0	0	0	2	1	3	3
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1



質問8. 授業全般を通して、良かったこと、悪かったことなど、感じたことを何でも自由に書いてください。

総合経営学科

良かったことは、やさしい先生と友人がいてよかった。
 職員の暖房・冷房が極端すぎる。
 地域との交流があっても良かったです。
 時が経つのがはやい、もっといろんなことが出来たはず。
 違う講義で、同じ内容のことを学ぶことが何度かあったので、おの時間が少しもったいなかった。
 資格取得に向けた勉強の中で、同じ学部や先輩・後輩との関わりもあって、刺激になった。
 「この講義きかなくてもいいよ」と第1回目で先生が発言し、15回目までだらだらした態度(先生も学生も)で講義が展開していったものが、何科目もあり、残念だった。
 お会いした教授はどなたも人格的に優れた方ばかりで、人間関係に一切不安なく、勉学に励むことができました。
 学生のマナーがとても悪い。
 講義は楽しいものが多かったが、教室がうるさくて不快でした。
 講義室の中は圏外にしたほうがいい。聞かないでスマホをやっている人が多すぎる。
 パワーポイントを使った講義が多かったので、後ろの席でも字が見やすかった。
 いろんな知識を身につけられて良かったです。
 思っていたよりも講義がカンタンだった。
 各先生方の講義は大変理解しやすく、こちらに理解してもらいたいというのが伝わる授業であったのが良かったと感じる。
 生徒の事をよく考えていると思いました。
 地域について学べた。
 フィールドワークをもっと取り入れてもいいと思った。
 すごく良かったです。
 教員によって、とても熱意を持って教えてくれる教員、一方でとても冷めて教えるという姿勢より、講義を行う事が最優先と考える教員がいて残念。
 とてもわかりやすい授業をしてくれる教職員が何人かいて良かった。
 先生の用事で何回か補講を追加されたのはイライラした。
 休講のおしらせや日程変更の連絡がおそいと感じる事が何回かあった。(一度だけ15分前くらいに届いたことも・・・)
 様々な分野を幅広く学べたことは良かった。ただ、必修科目に不必要なものがあつた。
 社会人経験を経て教員になられた方が多いので、大学を卒業した後も役に立ちそうな話などを聞けたのが良かった。
 授業中のマナーが悪いと思います。先生の雰囲気でも大丈夫だと思うと、途端に私語が多くなるのが気になりました。
 カードリーダーを通して出て行く人ももっと厳正に対処すべきだと思います。最近多いです。
 全てにおいて充実していた。
 良い講義が多くて良かった。

観光ホスピタリティ学科

うるさかった。出席のやつをなんとかしてほしい。

教員と学生の距離が近く、丁度よかった。

興味深い教科があってよかった。

役立つ話が多かった。

もう少し活動すればよかったと思う。

なによりも大切な友人ができた。人選において色々な経験ができた。

教員と学生の距離が近く、講義について聞きやすい環境でした。

出席に関して、もっと厳しくすべきだと思う。

教員とのコミュニケーションが取れて、講義への取り組みがよくなった。

悪かったことは学生のマナーがなっていないこと。講義中のスマホいじりは当たり前のように見られた。

それらの学生が真剣に講義をうけている人と同じ評価を受けるのは納得できない。

素行の悪い学生が、授業の質を下げている。

教員によって当たりハズレが多い。

良かったことは地域に基づいて多くのことを学べたこと。

悪かったことは人数が多いのに、たまに教室が狭かったことです。

講義が分かりやすく、楽しくできた。

学びたいことが学べた。

下級生の授業態度にびっくりしました。講義中に床に寝そべりながら携帯をいじっていたり・・・。

授業は外へ出ることが多かったことが良かった。学びたいことを学べました。

授業中の居眠りが入学当初は多かったが、学年を重ねることに居眠りはなくなり、少し自立したと思う。

今後の為になるものが多かった。

「強化部だから」と出席を考慮したり、授業で寝ていても単位が取れるのはやめてほしい。

他の部だって試合も練習もある中で授業にしっかり出ているのだから、特別視するのはやめてほしい。やる気がなくなる。

良かったこと・・・先生に会えたこと！ 悪かったこと・・・あまり交友関係が広がらなかったこと。

一般教養をもう少し身につけられる授業があるとよかったと思う。

集中して授業が聞ける環境作りがあった。

自分で展開する授業や、みんなで取り組む作業的な授業が多かったように思う。アウトキャンパス等の学外の活動は緊張した。

パワーポイントやみんなの前で発表する機会もあり、緊張したが全体的に授業において楽しかった。とても印象に残っている。

就活のとき、先輩達のお話やキャリアセンターがサポートとしてくれてよかった。

自ら考え、足を運ぶ授業が多く、地域の実態を知れてよかった。楽しく勉強ができた。

たくさん人の活動に携わることができてよかった。

アウトキャンパスなど興味をそそるような内容はとても記憶に残っている。

寝てらくをしている人と、頑張っている人の差がある。

社会に出て役立つことをたくさん学べた。

学生の受講態度の悪い面が目立つように感じた。

大変な授業もあったが、今思い返せば多くの授業をとって良かった。もっと勉強しておけばよかったと、少し後悔している。

アウトキャンパスなど興味をそそるような内容はとても記憶に残っている。

講義は基本的にすべておもしろかったです。しかし、中には厳しい先生もいて、辛い時もありました。単位が取れるか

心配になる時もありました。あと、教員と学生の距離の近いのは大変良いことですが、時々近すぎると感じる時もありました。

健康栄養学科

学びやすい環境であった。
他の学科と一緒に授業だと騒がしい。
実習が多く本格的とても良かった。
1年前期がひまだった。応用栄養学Ⅱと、臨床の講義が平行で行われていると良いと思った。
実習が多くあり、頭だけでなく、体も使ってどのように実践すればよいかを学ぶことが出来てよかった。
頭のよい先生ほど、言っていることが分からなかった。
専門的な学びができて良かったです。他学部・他学科との合同講義が苦手でした。
補講が多い。授業時間の割に内容を詰めすぎて、理解できないことがあった。
先生同士の横の連携が足りないと思う。どの科目で学生が何を学んでいるかが先生たちが理解していないといけないと思う。
学ぶことが重複していることはいいと思うが、「〇〇の教科で教えてもらったから〇〇はとばします」と言われても、〇〇が教えてもらっていないことがある。
自分で勉強しても限度がある。
補講が多い。
受講する科目が多くて単位をとるのが大変でした。
カリキュラムについて、1年次に落とされた科目を再履修するのに時間割の都合で4年次になり、就活や国試、卒論などで大変だった。
6号館のPCの設備が足りない。遠くから通っているのに配慮が足りない。
国試対策を早くからやってもらえると良かった。どのようなところが重要なかなどを絞っていただけると、より良い学習につながったと思う。
悪かったこと・・・1年次に落とされた科目を、Bクラスは2年次に再履修できるのに対し、Aクラスは4年次しか再履修できず大変。(必須科目)
時間割がBクラスばかり優遇されている。Aクラス・Bクラスと分けるのではなく、日程を2つ出して置いて、学生が選べるようにしてほしい。(A・B共通で友達も作れるし)
選べないせいで遠方から通いの子は夜遅く帰らなければならず、朝弱い子は朝早く来なければならなかったり、身体への負担が大きかった。

今までの国試の過去問を授業中に触れた又はテストで扱った講義とあつかわなかった・触れなかった講義では、今の学力の差がはげしいと感じている。
できることならば、今後の講義などで積極的に過去問にふれる講義を行っていくことが、後輩たちのためになると感じる。

先生により、内容の深さがバラバラでした。しっかりと学生でもわかる言葉や説明で講義してくれる先生もいれば、ただ教科書を読むだけの先生もいて、理解のしやすさが科目によって違いました。
3年次の授業をもう少し減らして、1、2年次に分散させてもらえるとうり難かった。
専門的な知識や大学でなければ学べないことを多く学べ、先生方の対応も良かった。
3年生まで講義がつまっていた、レポートや課題なども忙しかったが、充実した生活を送れたと思う。
同じ時期に複数の科目で課題の締め切りが重複していたのが少づらかった。
なんだかんだ、あつという間で、特に印象に残っていること等はないです。
分かりやすく教えてくれる先生が多くて良かった。
丁寧に教えてくださる先生が多かった。
もっと勉学にはげめばよかったと思います。
大学生には時間に余裕があると思ったので、海外にもっと行って、語学力をつけたいと思った。第3外国語がなかったのが残念だった。
授業がのびることが多かった。突然の連絡(この日に授業をするなど)が多かった。
一休み時間10分でも、やろうと思っていたことができない。企業に電話の約束をしていたのに、できなかった。予定をやむなくずらしたこともあった。
予習復習のレポートが大変でしたが、毎日充実していました。
全てが役に立つ授業でした。
先生方(とくに国試に向けて)が、とても熱心に指導してくれた。他学科との授業が嫌でした。
入試日程が3月で、他の人より遅かったため、入学前のオリエンテーションが受けられず、2~3年生で専門科目がとてたくさん入ることを知らなかったため、1年生の時にもっと教養を入れとけば、4年生の時も少し楽になったと思う。授業内容はとても良かったし、充実していた。

授業がいっぱいあって辛かったけど、今思えば充実してたな〜って思える！
今までは自分の体を大切にしようと思うことが少なかったが、大学での学びを通して、自分の体は自分が食べたものからつくられると感じ、体を大切にしようと思うようになった。料理も作るようになったし、家族の健康づくりをしたいと思うようになった。
様々な分野で活躍していらした先生が専門で授業をしてくださったので、説得力があり、分かりやすかったです。
アウトキャンパスなど、地域について知ることができたのも良かったです。
知識だけで終わらず、実践的に活かせるような講義がよかった。実習の環境が良かった。
友達ができたこと、4年間通って楽しかった。
疑問に思った点などを、研究室に行くと、先生方が丁寧に教えて頂けることはとても良いことと感じる。
先生との距離が近く、分からないところもすぐ聞けたので良かった。
体験や実践的な内容が充実していたと思う。
大変な授業もありましたが、どの授業も楽しく有意義に過ごせました。
専門科目が多く、大変でしたが、丁寧に教えてくださったところが良かったと思います。
自分自身の努力が足りず、落としてしまった勉強があると思っている。
座学だけでなく、調理実習や実験、そして外部での実習など、とても充実したカリキュラムであると感じました。
栄養学に対して、やりたいことがはっきりした状態で入学したので、1、2年生はそれができる状態になく、やる気が低迷した。
3年からは希望ゼミにも入れたので、やる気が出た。
良かったと感じるのは、殆どの教科で、教科書を単に読み進めるだけの授業ではなく、資料やパワーポイントを用いて、分かり易く伝えようと工夫して下さっていた点。
調理実習や給食の授業では、仲間と協力することの難しさや大切さを学べた。献立作成は大変だったが良い経験になった。
臨床栄養学実習での身体測定や心肺蘇生の授業は印象的だった。レポートは結局何が正解なのかが分からなかった。
教養科目をもっと考えてほしい(3・4年生になって、私たちは受講できない科目の方が、受けたいと思う科目があった。)

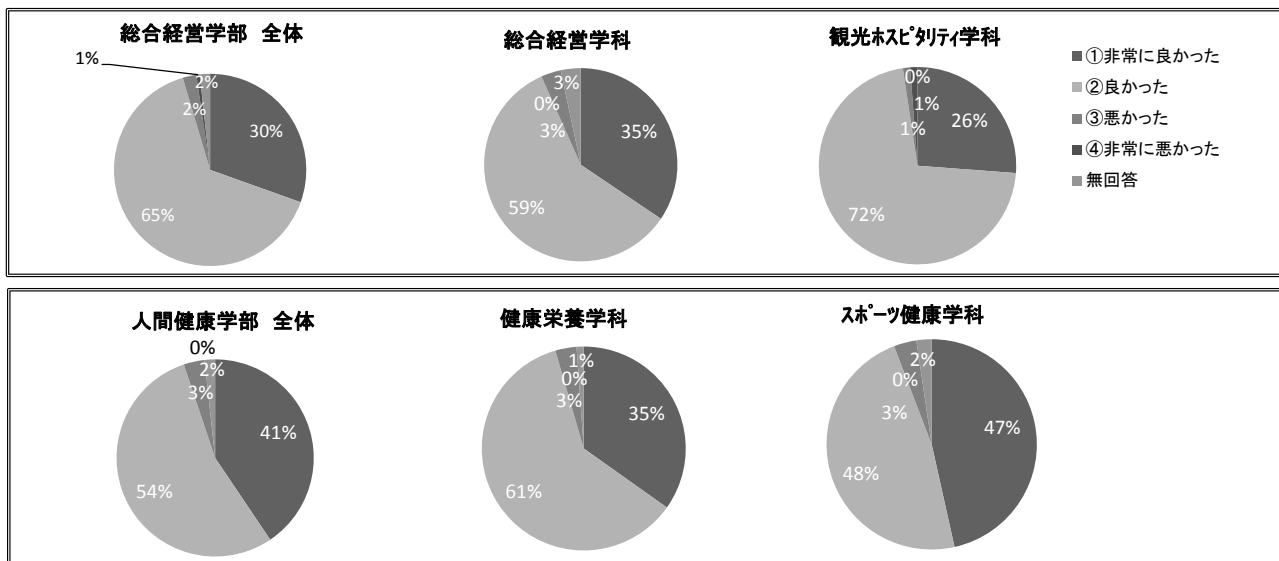
スポーツ健康学科

教員によって質が違う。
専門的知識を身につけることができてよかった。
資格を多く取ることができなかったこと。
良かった。
教員免許を取得できてよかった。
講義の良い先生と、悪い先生の差が激しい。
楽しい先生も多く、講義も楽しかった。
講義中うるさくても注意しない。
スポーツクラブでアルバイトしていたこともあり、運動指導に関わることを学べたのでよかった。
授業の休講連絡が遅くて困った。大雪の時の休講連絡も遅かった。授業で実習をもう少ししたかった。
授業態度の悪い先生が数人いたが、他の先生の授業はとでも理解しやすく、有意義な時間だった。
自分を変えることができてよかった。
少人数で自分のためになる学習ができた。
人数が少ないから、閉講は悲しい。名前はあるけど、結局、開講しないものは、開講するするサギだと思う。スペイン語など。
もっとしっかりしとけばよかったと感じます。
授業の中でもっと実験等、施設を使用した内容をやりたかった。
先生との距離が近いのが良かった。もっと授業で専門的な器具を使う場面がほしかった。
字が読めない人が多い。(黒板の)
とても勉強になり、来てよかった。
教職に就くために、「スポーツ健康学」として幅広い知識を得られたとは思いますが、講義では扱いきれていない自分で勉強しなければならない分野があり、教育学部でない教職課程のデメリットを少し感じた。
専門的なことを学べて良かった。
先生との距離が近い授業もありやりやすかった。
時間が足りない。
先生との距離が近くてすごい人達から刺激を受けることができてよかった。
しつこく個性や価値を否定されて精神的に落ち込んだ状態で4年間過ごしてしまったことはとても悔しい。その点は誇りに思えない。
分かりやすい方と、伝わらない方の2パターンの講義に分かれた。
自分の興味がある分野以外にも、人として大切なことを多く学ぶことができた。
教師との距離が近く、学びたいことをしっかり学び得ることができた。
たまに「ダメレ」と言ってやりたくなる時があった。
多くの学べる場、実践できる場があった。
入学前教育で一人暮らしをしている先輩から話をきけてよかった。講義の私語が多い。
授業中騒がしい。もう少し授業に集中できる環境が良かった。
全ての科目が社会に出ても通用する内容を取り扱ってもらえていて、現場の声や状況を近くで感じることができていた。
寒い時期に暖房がつかずに寒い上体で授業を受けることがあり、授業に集中しづらかった。
他大学と違い、学生と先生の距離が違い、すごく学びやすかった。
全体的によかった。
基本的などの授業もよかった。しかし、学ぶ人とそうでない人の差が激しかったり、テストの際に平等でないと感じることもあった。
充実した学習ができた。
先生方との距離が近くてよかった。難しい内容だったけど、学ぶ楽しさを知った。
スポ科で、教職のことについて学べてよかったです。興味のわからない講義もしっかりと受講すれば良かったです。
授業中、高校よりまわりがうるさくて、先生の声がきこえなかった。心理学等、自分自身のことを知る機会があったのは良かった。

質問9. 本学の教職員はあなたの学生生活の良きアドバイザーでしたか、該当する番号を選んで、その理由も書いて下さい。

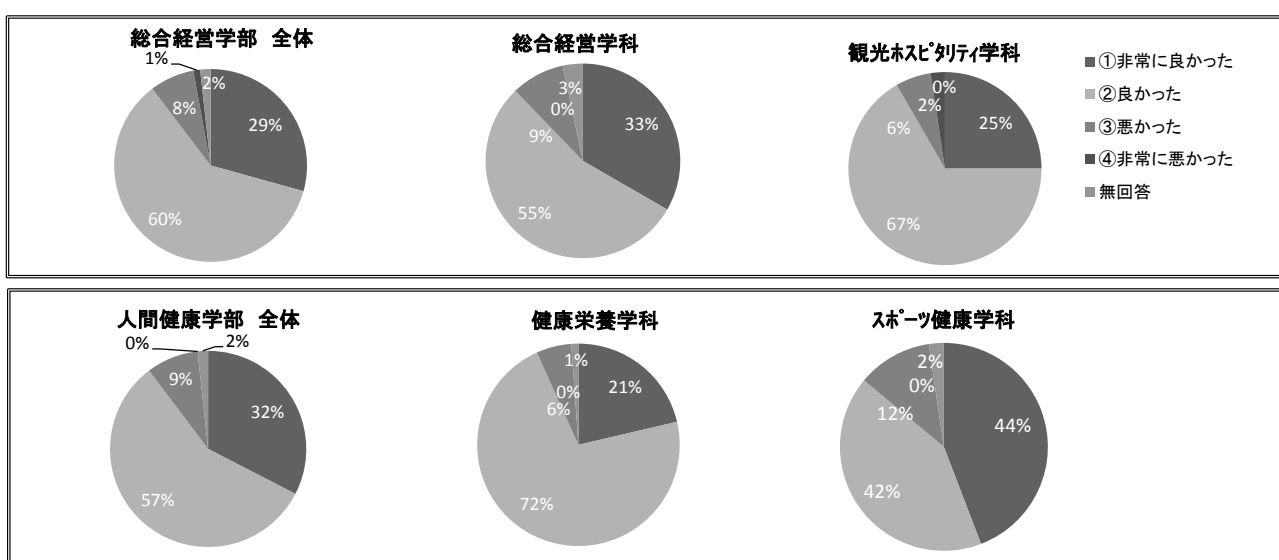
■教員

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	25	6	31	9	13	22	53	4	27	31	24	16	40	71
②良かった	34	19	53	43	17	60	113	4	50	54	29	12	41	95
③悪かった	3	0	3	1	0	1	4	0	3	3	3	0	3	6
④非常に悪かった	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
無回答	1	2	3	0	0	0	3	0	1	1	2	0	2	3



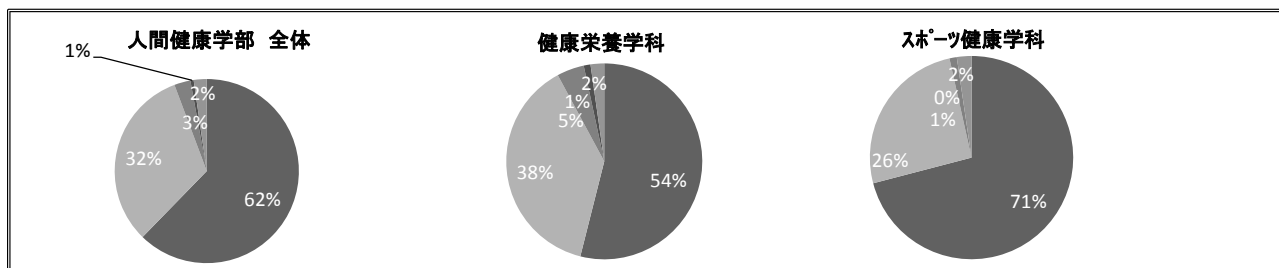
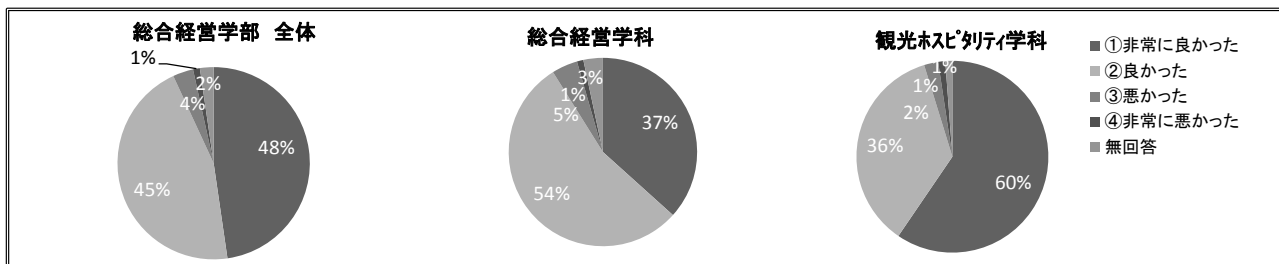
■職員

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	22	8	30	10	11	21	51	3	16	19	22	16	38	57
②良かった	32	17	49	37	19	56	105	5	59	64	25	11	36	100
③悪かった	8	0	8	5	0	5	13	0	5	5	9	1	10	15
④非常に悪かった	0	0	0	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0
無回答	1	2	3	0	0	0	3	0	1	1	2	0	2	3



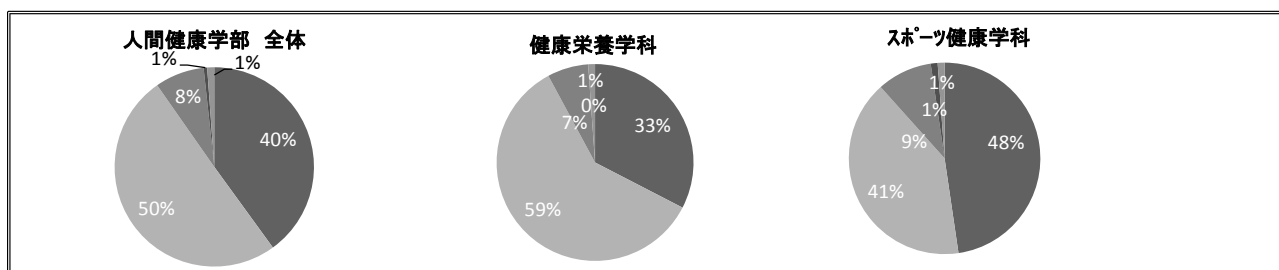
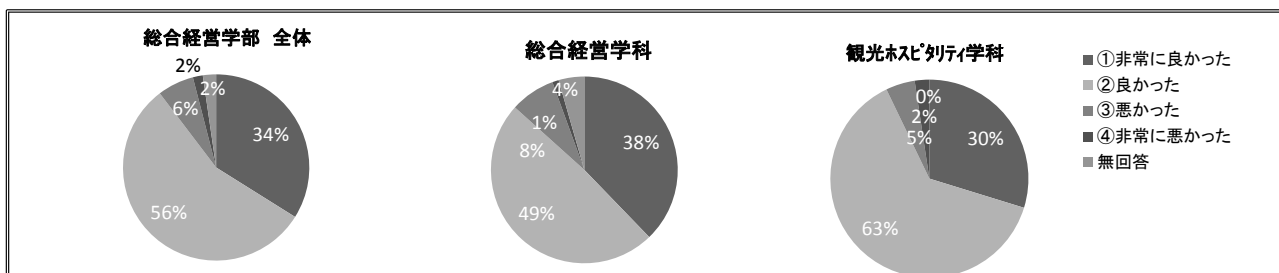
■ゼミ担当者

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	26	7	33	28	22	50	83	5	43	48	39	22	61	109
②良かった	30	19	49	23	7	30	79	2	32	34	16	6	22	56
③悪かった	4	0	4	1	1	2	6	0	4	4	1	0	1	5
④非常に悪かった	1	0	1	1	0	1	2	1	0	1	0	0	0	1
無回答	2	1	3	1	0	1	4	0	2	2	2	0	2	4



■キャリア面談員

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	30	4	34	15	10	25	59	3	26	29	24	17	41	70
②良かった	26	18	44	34	19	53	97	5	48	53	26	9	35	88
③悪かった	4	3	7	3	1	4	11	0	6	6	7	1	8	14
④非常に悪かった	1	0	1	2	0	2	3	0	0	0	0	1	1	1
無回答	2	2	4	0	0	0	4	0	1	1	1	0	1	2



【理由等】**総合経営学科**

キャリア面談員の方は、あまり印象に残ってないです。
 キャリア面談は毎回行って良かったと思った事はありませんでした。あまり参考になる話がなかったです。
 ゼミの担当の先生はとても話しやすく、良かったです。
 ゼミの担当の方々にはお世話になりました。
 わからないことがあったらいつでも教えてくれました。
 相談にのってもらったりと不安を解消できました。
 親身になって話を聞いていたので良かったと思う。
 いつもなにかしら不備があり、対応がすぐではなかったから。
 ゼミは入っていないので分かりません。
 距離感が近かった。親しくなった。
 就職活動の支援は非常に充実していた。学習自体は特に学ことは少なかったと感じる。
 悪かった点が思いつかないから。
 対応がとても良く分かりやすい説明で助かりました。
 困ったこと、気になったことなどの相談にのってくれた。
 就職にあたっては、教員の先生方、職員の方々に大変助けいただきました。不安で心が折れそうなきも良き助言を頂くことができました。
 強烈な差別主義者である、あの人は嫌いです。
 楽しい学生生活をおくる要因の一つになっていました。
 対応が良かったため。
 就職について良いサポートしてくれた。
 ゼミの担当者やキャリア面談員が話しやすい人が多く、少し困ったことでも、親身になって聞いてくれるので助かりました。教員や職員も良かったと思います。
 授業のことだけでなく、進路のことについても、親身になって相談に乗ってくださる方が多かったから。
 どの職員方も真剣に話を聞いてくれ、接しやすかった。
 就活の時はとても心強かった。
 キャリア面談員の対応がとても冷たかった。
 皆さんとても親身になって学生のお話を聞いてくれる、という印象です。
 すごく良かったです。大変お世話になりました。
 ことあるごとに、親身になって対応してくれた。
 キャリアなど、しっかり話をきいてくれた。
 自分の事を良く考えてくれました。
 非常に親切に教えてもらい、相談にもよくのってもらいました。

観光ビジネス学科

とてもやさしく教えてくれた。
 どの教員も親身になって接してくれたため。
 とても良く、優しく、とても為になる事を学びました。
 とても親切でした。
 皆さん話しやすい方々でした。
 とくにゼミの先生には良くしていただいた。
 ゼミ担当の先生には悩みごとの相談などお世話になることが多かった。
 学生生活をしっかりとサポートしてくれて相談しやすかったです。
 適切に対応しており、非常に役立ったから。
 入学してから就職活動まで色々アドバイスをもらえて助かった。
 自身の就活状況など聞いてもらい、適切なアドバイスを頂けた。
 ゼミ担当には非常に恵まれた。
 キャリア面談員がキャリア面接時の外部から来た方立ちを指すのであれば、地域企業に関してたいした知識があるわけでもなく、
 アドバイスもありきたりなキャリアセンター方立ちから聞けるようなことばかり。
 私が希望する業種に関しては否定するような物言い等、時間の無駄にされたとした思えませんでした。
 とても親切でした。
 外堀を埋められ、退路がなく、さして行きたくもない企業に就職させられた。
 話しやすかった。
 学生の目線で相談にのってくれました。
 ゼミ担当には大変お世話になりました。
 自分のことのように心配と一緒に考えてくれたことが嬉しかったからです。
 とてもお世話になりました。優しい先生が多かったです。
 対応がいい人と悪い人との差が激しかった。
 全員が徹底して自分の進路などの相談に乗ってくれて、とても話しやすかったし手助けになった。
 就職に関する事で悩み、相談すると、とても真剣な姿勢で相談にのってもらえていたので、とても頼りがいがあった。
 どの先生方も親身であつたりと、講義のこと以外でも相談に乗ってくれたり。
 親身になって悩みを聞いてくれた。
 キャリア面談では相談したことと少しずれた話をされた。面談する前とあまり変化が感じられなかった。
 悩み事があった時、就職活動時など、親身になって話を聞いてくださったから。
 親身になって話をきいてくれる方が多かった。
 困ったとき、迷ったときにいつでも相談にのってくれる。
 生徒と先生が仲が良いこと、相談しやすいところ。個性的な教員が多いところ。
 ひいきする人もいるので、その人とは極力関わりたくないと思った。
 教職員に話をする事で、自分の意思が固まったと思う。
 就活の時、とても親切に対応してくれたので。
 いつも親身になって対応してくれる良き先生が多かった。授業もなんとか理解してほしいという気持ちや願いを強く持っている先生が多かった。
 さらに、工夫して分かりやすく授業を進めようとしてくれる先生もいて、とても授業を受ける履修者のことを考えてくれていると思った。
 親身になって話を聞いてくれた。
 教員・職員・キャリア面談員の方は聞く耳を持って親身になって対応してくれた。
 教員に分らないことを質問しても分かりやすく教えてくださるのでとても良かった。
 就職についてもじっくり履歴書などを一つ一つ見てくださり的確なアドバイスを言ってくださりありがとうございました。(自分自身成長できました。)
 キャリアの方は本当に親身になって就職について一緒に考えてくれました。
 相談事があれば親身になって聞いてもらえた。
 楽しそうに話している先生の授業はとても魅力を感じた。
 学生や教務課の先生方はいつも親身に丁寧に話を聞いてくれた。ゼミの先生は私たちのことを本当によく考えてくれた。
 ゼミ担当(私の場合キャリア形成Ⅲの担当の先生)の先生が大変良くしてくれました。悩みなど聞いていただきありがたかったです。
 キャリア面談員は良い人とあまり好きではない人との差が激しかったです。

健康栄養学科

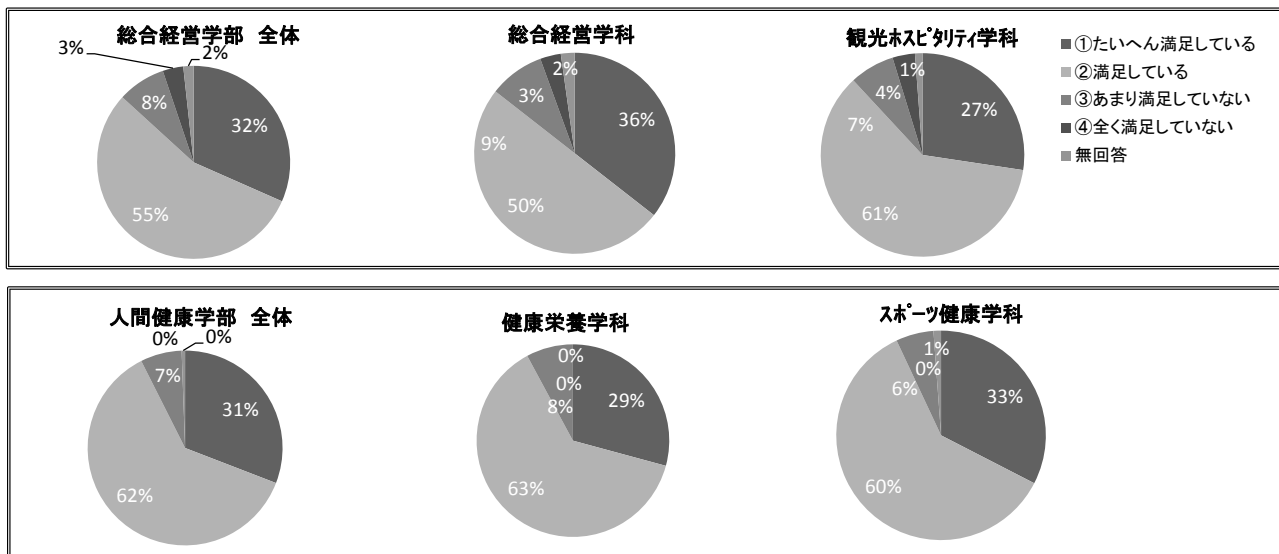
どの教職員も親切でした。
相談によくのって頂いた。
学生一人一人に気をつけてくれている感じがした。
相談に教員がのってくれたため。
優しく対応していただいた。
親身になって相談にのってもらい、感謝しています。
就職活動の際、親身に相談にのっていただき本当に感謝しています。ゼミの先生には大変お世話になりました。
いつでも相談にのってくれた。心強かった。
学びたい研究ができるゼミに入れて良かった！先生のおかげで進路や勉強など相談にのってもらえた！
ゼミの先生には悩み事を相談したとき、親身にきいてくださって、とてもありがたかった。
ゼミ担当者がいつも生徒のことを考えてくれたり大事にしてくれて心強かった。
相談に親身になってくださる方も沢山いらっやって助かったが、私の意見より、一方的な意見を押し付けられるような事もあった。
卒論のやり方・書き方なども1から教えていただいて分からないところはアドバイスをしっかりもらった。
就活についても3年の時から具体的な行動の仕方を教えていただけだったので、4年になってからすぐ行動できた。
何か悩んだり困ったことがある際にアドバイスや力になってもらった。
就活などで、キャリアセンターの方やゼミ担当の先生、面談員の方とお話できて、非常に助けになりました。
松本大学は生徒数が少ないため、一年次であっても教員の方々が顔を覚えて下さるのが嬉しかった。
ゼミ担当教員は2年間、本当によく面倒を見てくださったと感謝している。
生徒が分かりやすいスライドを作ってくれたり、分からないところは親身に教えてくださったため。(教員)
就活では、一人一人と向き合ってくれたり、顔を覚えてくれたり、面接練習を丁寧にして下さいました。(キャリア)
質問した時等の対応が丁寧でした。
聞いたことは答えてくれる。”最後は自分で決める”というのは、年齢的に分かっているのですが、アドバイザーかは分からないが、ヒアリングは良かった。
いろいろと相談にのってくれた。
助手の先生を含む、教員の方々、どの方も親切で、ここまでめんどろを見てくれるのかと思いました。とてもよい環境でした。
ゼミ担当は、互いの歩みよりが少なかったのが、良くなかったと反省しています。
ゼミの先生には大変お世話になりました。
ゼミで多くのことを学べた。質問に対し丁寧に分かりやすくしてもらった。
キャリアの方たちには就活中、就職以外の日常の悩みや丁寧なご指導を頂き、大変助かりました。ありがとうございました。
苦しい時、先生に支えていただき、非常に心の支えとなりました。
親身になって相談にのってくれたが、他の人にプライベートなことを言われてしまった。
学びを応援してもらったので。
キャリア面談の意味が分からない。
ゼミの担当の先生はとても親身でした。
ゼミ担がかわってからの所属があいまいでよく分からなかった。
とても親切に色々なことを聞いてくれたから。特にゼミの先生には就職から国試までとても面倒を見ていただきました。
授業でしか関わったことのない先生でも、一人一人の学生がしっかりと向き合っていたため。
ゼミ担当の先生にも、栄養科の先生方にもよく相談にのってもらった。
親身になって就活を応援して下さいました。
講義以外での相談・質問に快く対応していただいたため。
ゼミ担当の先生には相談にのって頂き、とてもためになった。キャリアセンターの職員の方々は、進路を選ぶ上で適切なアドバイスをしていただいた。
親身になって相談にのってくれたり、一緒に考えてくれるので、話しやすかった。自分の気持ちを打ち明けやすかった。
どの先生方も優しく相談にも親身になって答えてくれた。
丁寧に親身に教えてくださった。
良い人柄の教職員が多かった。
何か入試前と今とで変化した感じはしない。
授業で分からない所等、質問しに行くと、快く答えてくれた。自分に対して気にかけてくれる先生方が多く、自分のやる気に繋がったから。
悩みを相談しやすかった。分からない所を丁寧に教えてくれた。単位を落としてしまった時や勉強に困った時とても救われた。
親身になってくれた。
どの先生も親身に接して下さいました。
キャリア面談があったおかげで、将来自分がどういう方向性に進みたいのか見えてきたから。

スポーツ健康学科

全般的に様々な相談にのってもらえた。
自分のことを真剣に考えてくれた。
どの教職員も学生のことを考えて授業等してくれた。
話を聞いてもらうことができた。
密接に関わることができてよかった。
キャリアについては安易に利用できない状態だったから。たまに行った時は親切に対応してくれた。
学生課職員の態度冷たい。基礎科目の先生がひどい。
ゼミ担当の先生に相談したことが多かった。あとはほとんど自分で大学生活を進めた行った。
ささいな事でも相談に乗ってくれた。
多くの先生方やゼミの先生にお世話になりました。教務課や学生課の方にもとてもよくしてもらった。
就職に関してとても親身に接してくれた。
自分の将来の助けとなる関わりや助言をしてくれた。
職員の方の態度がたまに良くなかった。いやそうな顔をされた。
相談にのってくれる。
とても熱心に接してくれた。
分からないことを分かりやすく説明してくれたから。
相談した時に答えてくれた。
卒論に限らず、よく面倒をみてくださった。
分からないことは最後まで教えてくださり、とても充実した4年間になりました。
困ったときに相談に乗ってくれるいい先生・職員ばかりだった。
就職先を探している時、親身になって聞いてくれた。
特に就職に関して厚くサポートしてもらったので。
ゼミ担当の先生も良くくださって卒論など進めていけた。人間としても成長できた。
学生課の職員の方などの対応。(※職員・「悪かった」を選択)
ゼミ担当の先生には非常にお世話になりました。
職員の態度が良いと思わなかった。
優しく助けてくれたりアドバイスももらった。
自分を一人の人間として見てくれた。
非常に、一人ひとりのことを見てくれていると感じることが多かったです。
教員の先生方、いつでも親身になって、話をきいてくれた。
真剣になって考えてくれた(いろいろなことに対して)
どの方も親身になって聞いていただきました。
とても良くなってくれた。
親身になって聞いてくれた。
親身になってどの先生も話を聞いて下さった。
悩んでいることを相談したら、解決に導いてくれた。
ゼミ等で相談があった時にも親切にアドバイスや指摘をして下さった。
全ての方が、親身に相談にのってもらえたことや、会う時の対応が良かった。
良い人もいれば、あまり・・・な人もいる。
親密に話を聞き、的確なアドバイスを与えてくれたから。
プライベートなことも相談にのってくれた。
たくさん相談に乗って頂けたり、多くのことを学ばせて頂けた。
単純にそう感じるから。
悩みや不安を消してくれた。
親身になって対応してくれた。

質問10. 大学には、学生課・教務課・キャリアセンター・情報センター・総務課等があり、事務職員はそれぞれのところで皆さんのサポートをさせていただきます。皆さんにとって事務職員の対応はどうでしたか。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	23	9	32	13	10	23	55	6	20	26	16	12	28	54
②満足している	30	15	45	33	18	51	96	2	54	56	36	16	52	108
③あまり満足していない	6	2	8	5	1	6	14	0	7	7	5	0	5	12
④全く満足していない	3	0	3	3	0	3	6	0	0	0	0	0	0	0
無回答	1	1	2	0	1	1	3	0	0	0	1	0	1	1



【理由等】

総合経営学科

声をかけていただいたり心配りがあってやる気につながりました。
 キャリアセンターは、就職率を上げたいという風にか見えなくて、就職先はどこでも良いという雰囲気にとらえてしまいました。
 キャリアセンターの職員の方に、就活中丁寧にアドバイスをしていただきました。
 履歴書や面接練習などで親身になって相談にのってもらいました。
 サポートしてくれた。
 どんな時もやさしく対応してくれた。
 優しくしてくれました。
 皆さんとても親身になって学生のお話をきいてくれている、という印象です。
 とてもスムーズな対応でした。
 たびたび連絡が遅いときがあって、大変でした。
 キャリアセンターなどは、積極的に情報提供してくれ、役に立った。
 困ったとき、的確なアドバイスをくださったから。
 あまり使うことはなかったが、対応は良かった。
 困っている時は親切に対応してくれた。
 対応が良かったため。
 親身になって話を聞いてくれた。
 きびしい事もきちんとしてくれる方に、面倒を見て頂くことができ、自分の甘えと向き合うことができました。
 冷たい。事務的すぎて怖い。
 学生課の雰囲気は個人的に良くないと感じた。
 対応がとても良く分かりやすい説明で助かりました。
 不満がないから。
 キャリアセンターのサポートに満足しています。
 学生の気持ちになって親身に関ってくれた。
 いつも親切に対応してくれた。
 適当だった。

観光ホスピタリティ学科

困った時にもすぐ対応してくれ良かった。
 様々な問題も迅速に対応してくれた。
 キャリアセンターなどの対応やサポートが良かった。
 授業で分からないことがあれば、とても分かりやすく教えて頂けていたのでとても良かったと思う。
 優しく接してくれたからです。
 サポートしてくださり、良かったと思います。
 態度が悪い人、口が悪い人がいる。
 学費分は働いていると思った。
 事務的で学生によって態度を変える点。
 困ったことがあった場に、すぐ対応してもらえる。
 学生目線に対応していたから。
 しっかりと分からないことがあれば伝えてくださり、迷うことなく学生生活ができました。

どの課もとても良い。
しっかりサポートしてもらいました。
一人一人をしっかり見てくれていたと思います。
落としものをしたときに連絡できてくれた。
相談に乗ってもらい助かりました。
しっかり対応してもらえた。
困ったことにもすぐに対応してくれて良かった。
大変お世話になりましたが、本当の悩みは話すづらい雰囲気は感じました。
いつも丁寧に対応してくれて挨拶も快く返してくれた。
人により対応の差があった点のみ気になった。
質問にも分かりやすく教えて対応していただきありがとうございました。
用事があると、楽しく接していただきました。
部署により千差万別でした。
困ったことがあればいつも聞いてくれて、受付で優しく対応してくれて、笑顔で接してくれるから。
分からない所も分かりやすく説明してくれたので。
科目履修について悩んでいたりと困っている時など、教務課の方が親切に説明してくれた。
全体的には満足しているが、教務課には大変満足している。
丁寧な対応の方が多い。
学生課の方々には特によくしていただいた。
明るい対応で行きやすい場であった。

健康栄養学科

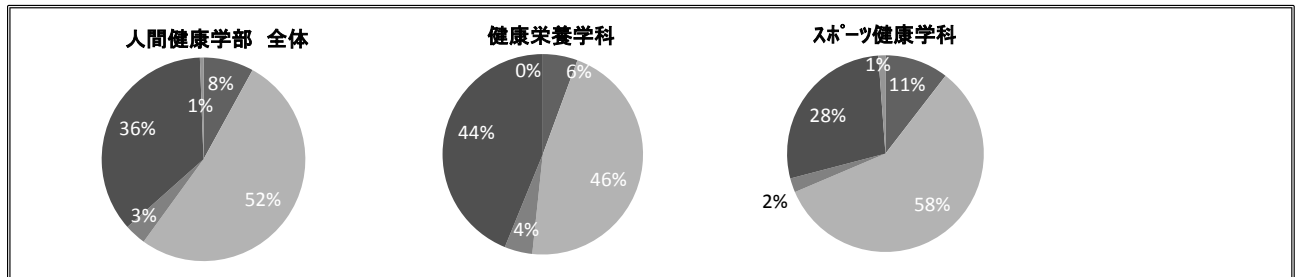
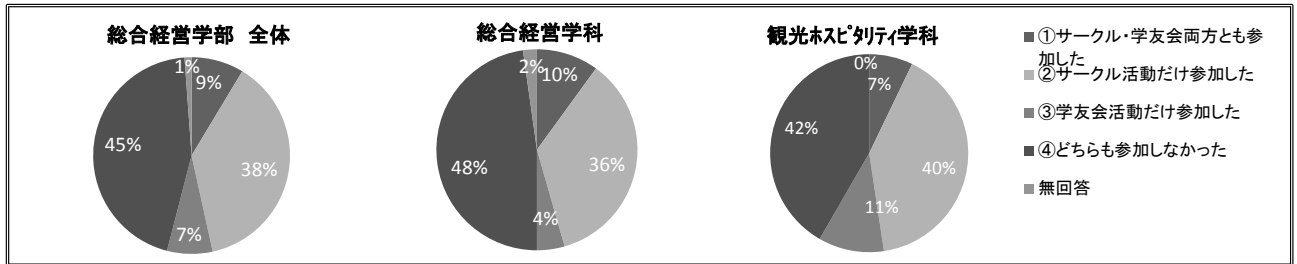
お世話になりました。
みなそれぞれサポートしていただいた。
就職支援などが充実していた。
キャリアセンターの人のサポートのおかげで就職できました。
態度の悪い方もいた。文化祭や就活の時にはとてもお世話になった。
学生課以外の対応は大変満足でした。学生課はとても怖いイメージがあります。
就活中、キャリアセンターの方に大変お世話になったから。
就活の時、お世話になった。
学生生活の中で困ったことがあると、親身になって話を聞いてくれる等、丁寧な対応をしてくれたため。
いつも対応が優しく良かった。他大学の友人は学生センター等の人の対応が悪いと夕手をこぼしていました、自分の学生生活においては一切そんなことはなかった。
優しく丁寧な対応をしてくれる。学生の立場を考えてくれる人もいる。
優しく、必要な情報をいつでもくれた。
丁寧かつ適切な対応をして頂いたため。
センターごとに良い先生がたくさんいた。本当にお世話になった。
すぐ対応してもらえた。
いつも丁寧な対応をしてくださる。
どの職員さんも丁寧に答えてくれて嬉しかった。
親切に対応してくださった。
上から目線でわからないから、窓口に行っているのに、嫌な思いをすることは多々あった。
学生に対する態度が粗雑な職員がいた。
キャリアセンターには特にお世話になりました。
優しく対応してくれたため。
入学時からとても親切で、4年間ありがとうございました。
嫌な思いをしたことがない。キャリアセンターには本当にお世話になりました。
丁寧に話を聞いてくださり、説明も分かりやすかった。
最初の頃は7号館に行っても、皆忙しいのかスルーされていて行くのが嫌だったが、最近とてもよくしてくれる(すぐ声かけてくれる)ので行きやすくなった。
丁寧な対応いつもありがとうございました。
わからないことについて丁寧に対応して下さった。
困ったことがあっても、親切に対応してもらった。
就職活動でとてもお世話になりました。
丁寧にしてくださる方が多くてよかったと思う。
対応がプロでした。やさしい、丁寧、迅速。
丁寧にしてくださる方ばかりで、おおむね満足しているが、教務課の方に、実習関連の連絡伝達を依頼したものが、教員に伝わっていなかったということがあった。
事務職員とのつながりがもう少しあってもいいような気がします。
学生課、教務課の皆さんには、分からない事を沢山教えていただいた。キャリアセンターの方には、就活の時、とても親切にいただいた。
丁寧にしてくださる。
キャリアセンターがなかったら、就職できていなかったと思います。
関わることは少ないが、用事があるときはしっかり対応してくれた。
普通に対応していただいた。
細かいところまでのサポートありがとうございました。

スポーツ健康学科

態度の良い人、悪い人がいる。
就職の際に非常に助けていただいた。
困ったことにしっかり対応してもらったので。
すぐに対応してくれた。
資格関係で助けていただいた。
親切に色々説明してくれた。
ていねいで分かりやすかった。
態度が良い人と悪い人の差が激しい。
時間がかかっても嫌な顔をせず、接してくれた。
教務課の皆さんラブです。バスの運転手さんもラブです。
特に可もなく、不可もない対応だった。
とても満足している。
対応があまり良くない人もいた。
多くの職員の方と楽しく話すことができた。
親身になって対応してくれた。
鍵を借りる時、人によっては大変時間をかけて探るので「覚えてよ・・・」と思ったときがありました。
何でも対応してくれて、嬉しかった。
いい人ばかりだった。
困ったときに手順を教えてくれたから。親切だったから。
相談等、親身になって聞いてくれていて、不安等なくすることができた。
優しく接して下さったり、情報を提供して下さったりして頂いた。
笑顔で接してくれた。
親切にしてもらった。
丁寧だった。
どんなことでもすぐに対応してくれた。情報発信がたまに遅いことがあった。
優しく対応してくれた。
何か分からない時は、カウンターや電話で聞くと、すぐに対応していただいたので、助かりました。
いつでも明るく迎え入れてくれた。
部活でお世話になったり、自分自身もお世話になりました。
いい人ももちろんいたが、中には不親切で接しづらい人もいた。

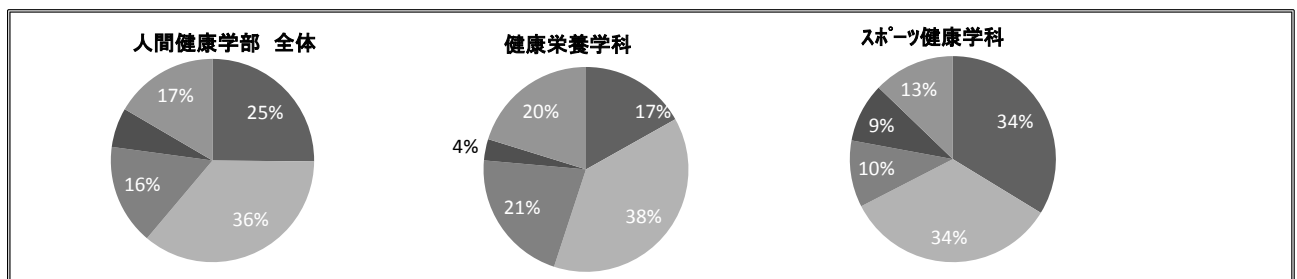
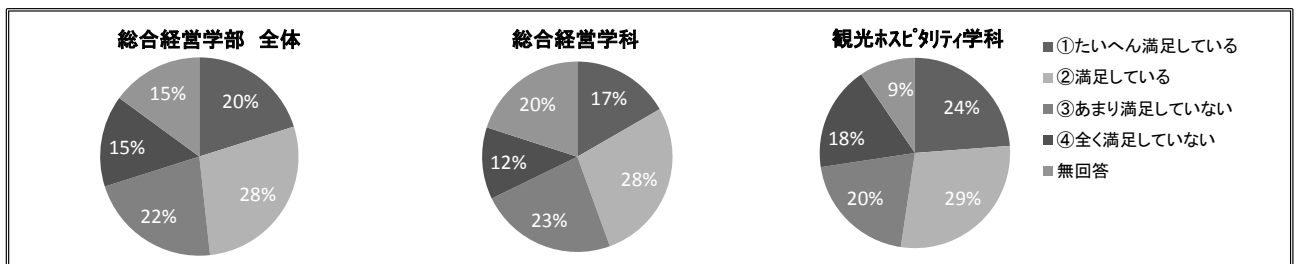
質問11. あなたにとってサークル活動や学友会活動はどうでしたか。

	総合経営学部						人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
①サークル・学友会両方とも参加した	5	4	9	3	3	6	0	5	5	7	2	9	14
②サークル活動だけ参加した	25	7	32	23	11	34	6	35	41	31	19	50	91
③学友会活動だけ参加した	1	3	4	2	7	9	0	4	4	2	0	2	6
④どちらも参加しなかった	31	12	43	26	9	35	2	37	39	17	7	24	63
無回答	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1



質問12. あなたはサークル活動や学友会活動に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	総合経営学部						人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	13	2	15	11	9	20	4	11	15	17	12	29	44
②満足している	15	10	25	14	10	24	1	33	34	22	7	29	63
③あまり満足していない	13	8	21	11	6	17	2	17	19	7	2	9	28
④全く満足していない	10	1	11	13	2	15	0	3	3	5	3	8	11
無回答	12	6	18	5	3	8	1	17	18	7	4	11	29



【理由等】**総合経営学科**

- ①の理由 サークル活動に参加することで、友人が増えたり、先輩・後輩と関ることができてよかった。
部活動を通じて人と協力したり、一つの目標に向かい努力すること、目標を達成することの楽しさを感じることができた。
ダンス部で部長をやらせていただいたり、大変満足している。
良い経験になって、社会に役に立てたいと思えた。
早い段階で友人ができたほか、先輩方も優しく、人間関係が大変めぐまれておりました。
部活動がすばらしかったです。
たのしかった。
非常にいい経験ができた。
- ②の理由 とても充実した毎日を過ごすことができました。
サークル活動に満足はしているが、学友会の活動は満足できなかった。
理由はいろいろあるが、一番は空回りした生徒のやる気と視野の狭さが不快だった。
体育館がせまい、あまり練習が出来ない。
体育館が壊されたことにより、部活動に支障がでた。
良好な人間関係を築くためにはどうしたらよいか考えるよききっかけになったから。
友人も出来ましたし、思い出もできた。
- ③の理由 体育館がなくなった。
もう少し、大きく活動できればよかった。
自分と同じレベルの人がいなかった為(硬式テニス)
また、大学の名前が出る大会でも予算が出たり出なかつたりで、よくわからない。高校で体育会系だった人にはものたりないと感じる。
あまり参加しなかったため。
- ④の理由 サークル、学友会ともに、活動が少なかった。学友会も自分たちが楽しむために活動しているように感じた。
やってない。
参加していないため。
一部の人が楽しんでいる印象。
ただのお遊び。
参加していないため。
- 無回答 参加していない。

観光ホスピタリティ学科

- ①の理由 部室などを増やしてほしい。
仲間が面白かった。
大学の思い出でもある。
サークルを通じて多くの友達ができただけからです。
学友会では体育局として参加させてもらい、イベントを自分たちで考えて、実行、というところが楽しさを感じることができたため。
皆で作上げるモノであるため、辛かった時もうれしかった時もとてもたのしかった。
貴重な経験ができた。
学友会、学生生活の中でも濃い思い出です。
サークル活動以外でもいろんなイベントに参加し、交流も技術も磨くことができた。
- ②の理由 心も体も成長することができた。
4年間、自分自身を成長させてもらえました。
サークルのみの参加だったが、楽しくすごすことができた。
新しい仲間が出来た。
他学部・他学科の友人ができ良かった。
様々な学部・学科の友人ができた。
参加した活動自体には大変満足しているが、もう少しかけもちもすればよかった。
サークルは途中で辞めてしまったが、そこで出会えた友人との思い出はとても大切。
- ③の理由 役員が自分のことに精一杯で下に指示をうまく出せていない。身内だけの盛り上がり。
学友会に学費使いすぎでしょ。
体育館取り壊しの際、練習場、時間を大学側は確保してくれなかった。
楽しかったのは友人がいたから、という理由だけだったような気がするから。
部活が多く、もっとサークルがあればよかった。
すぐ辞めてしまったので、一人の人に負担がかかりすぎだと思います。(サークル)
- ④の理由 方向性の違いが..
もっと分かるような活動を望みます。
活動内容を一部でしか取得してなかったため、全体への活動内容を提示して欲しい。
参加していなかった。

健康栄養学科

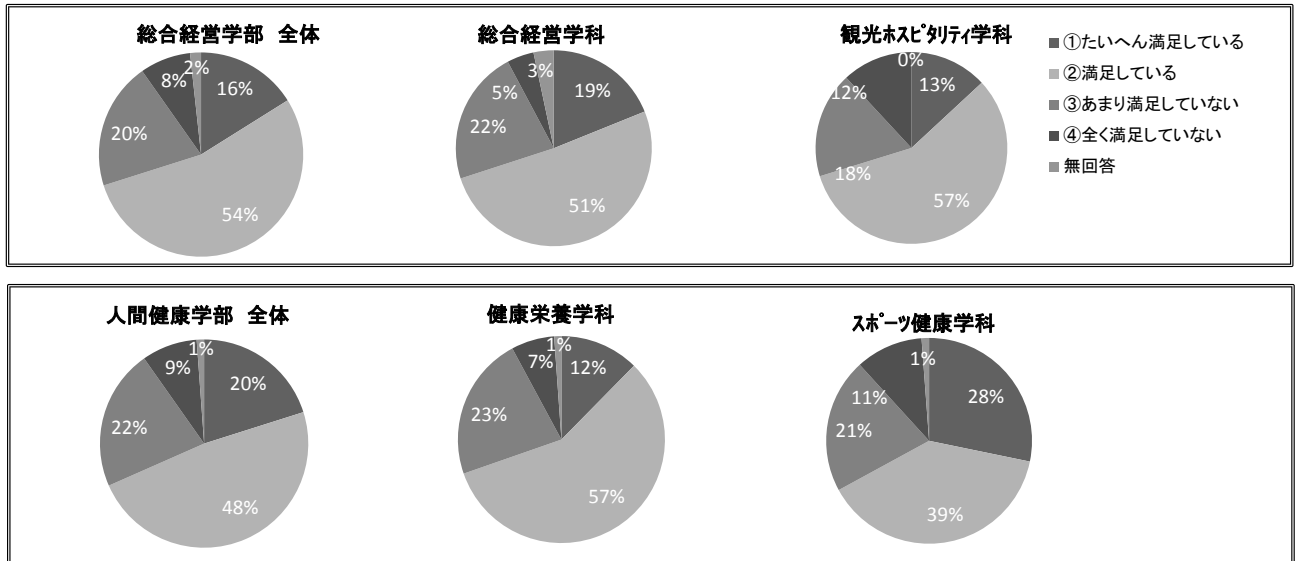
- ①の理由 学部・学科や学年を越えて交流できたし、友達の輪が広がった。
仲間がたくさんできた。
今まで自分が知らなかった世界に触れる事ができた。温方(?)は人とのつながりを築くことができた。
部長の仕事に努めることができ、色んな学科からの後輩とも仲良くなる事ができた。
先輩、後輩が増えて、人間関係が広がったから。大会にも色々挑戦して結果を残せたから。
アカベラサークル・学友会など、とても充実した活動ができた。
参加はしていないが、学際など楽しい企画が多く、良かった。
良い出会いがあった。
- ②の理由 学祭の際、大学が力を入れていたため。
2つの活動とも、学生への負担が大きい気がした。栄養科だと、活動に参加するとハードだなと思う。
学友会企画のイベント等では、学部外の方とも交友関係を築けた。
もっと積極的にやればよかったです..
よい経験ができた。
自分の活動の幅を広げられた。
学友会の方たちのおかげで楽しく思い出に残る文化祭になりました。
文化系のサークルも多く、良かった。
栄養の知識を活かし、復興支援を行うことができたため。
大会などには出場しなかったけど、部の皆と様々な催しをして楽しかったため。
とても良い友人に出会え、大切な人脈ができました。
気の合う仲間が見つかった。
他の学科との考え方の違いはあったが、栄養科だけではない人達と出会えて良かったから。
- ③の理由 学科が違うと、一緒にグループを組んでいる人と時間があわない。
講義と重なって行けなくなってしまった。
活動が少なかった。
サークルが少ない。
入ればよかった。
学友会は参加している人だけが内輪で盛り上がっているイメージがあります。
人間関係が難しいと思った。
一部だけが楽しめているという感じ。サークルも部によって差がある。
学友会は身内だけで盛り上がっている気がしました。
結局どこか一部の参加者が毎回参加しているように思う。
- ④の理由 参加してなかったため、また講義で忙しくサークル活動ができなかった。
- 無回答 参加していないのでなんとも言えません。
よくわからない。
どちらも参加していないため、よくわかりません。

スポーツ健康学科

- ①の理由 よい仲間ができた。
新しい友人ができた。
楽しめた。
大会などにも出場できたため。
一生の仲間。
活躍させてもらった。人間関係について、運営について学べた。
充実していた。
部活動では、仲間と一緒に同じ目標に向けて頑張れた。施設も良くして頂いてありがたかった。
大学全体で、後おししてくださっていたので、常に集中して行える環境が整っていた。
充実したサークル活動だった。学友会の対応の遅さにイライラした。体育館の割り振りを決める際もわざわざテスト直前や最中に持ってきたり、文化祭のスタッフパーカー毎回新しくしてくるし、スタッフなのに目立たなくて、パーカー着ている意味がないと思った。
みんないい人たちでした。
厚い応援、支援で思い切りプレーできた。
- ②の理由 楽しくできた。
楽しい行事ありがとうございました。
サークル自体は楽しかったが、強化部以外の扱いが雑だった。硬式野球部の態度、施設の使い方がひどかった。
仲間には恵まれた。
体育大会など多くあり、友人が増えた。
社会人との関わりあいをサークルを通して大学で行いたかった。
学友会の人事には不満だった。
楽しい部活だった。
体育館の使用日がいまいなことがあった。
良い仲間に出会えたから。
- ③の理由 指導者があまり好きではなかった。
途中でやめてしまった。
指導者がいいいない分、チームでのぶつかり合いが多かった。
どちらも不完全燃焼。
- ④の理由 学友会の身内だけで楽しんでいる雰囲気が嫌だった。
硬式野球部が日々偉そうな態度をしていた嫌だった。もっとお金を使ってあげるべき部活があると感じる。
学友会は、身内で盛り上がっているだけ。
硬式野球部が強化部の意味がわからない。成績良いところをきいたことなかった。
途中、体育館などが無くなり大変だった。
- 無回答 参加していない。

質問13. あなたは本学の施設・設備(コンピュータ教室、トレーナー室、体育館、教室、グラウンド、駐車場等)に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	13	4	17	8	3	11	28	0	11	11	18	6	24	35
②満足している	33	13	46	26	22	48	94	3	48	51	19	14	33	84
③あまり満足していない	12	8	20	10	5	15	35	1	19	20	11	7	18	38
④全く満足していない	4	0	4	10	0	10	14	3	3	6	8	1	9	15
無回答	1	2	3	0	0	0	3	1	0	1	2	0	1	2



【理由等】

総合経営学科

- ①の理由 PCを気軽に使用できたのがよかった。自宅でインターネットをつないでいないので。多くの設備があった。駐車場料金高い！！心地良かった。特になし。
- ②の理由 駐車場は無料が良かった。トレーニング室の利用をもっとしたかった。混雑して使えなかったことが少なかったため。グラウンドと駐車場はたくさん使わせていただきました。充実していた。きれいな教室で、その他設備も整っていた。いつもきれいに整備されていて、利用していて心地よかったから。不満点がないため。いつ来てもPCが使えるのは便利だった。パソコンは充実していた。駐車場料金を少し安くしてほしい。
- ③の理由 夏、冷房がききすぎていて寒かった。冷暖房が極端すぎる。駐車料金が高かったです。駐車料金が高いと感じました。駐車料金が高すぎる。お手洗いのハンドドライヤーを省エネの為停止しているにも関わらず、ほぼ誰もいない校内でイルミネーション利用し、無駄な電力を消費している。色々なところでの出費が多かったです。駐車場無料にしてほしい。お願いします。駐車場が高い。駐車場代が高かった。駐車場でお金をとられるのがいやだった。もっとパソコンを充実させてほしい。Sドライブがこわれるなんてありえない。
- ④の理由 駐車場の整備をしっかりとお願いします。トイレの手の乾燥機等、節約というのは分かるが、設備費を払っているので、使用できないのはどうかと思う。駐車場が高すぎる。学生に配慮しているとは思えない。そもそも自らの抱えている学生に対して料金を課すこと自体がおかしい。トイレの手の乾燥機が作動しているところを見たことがない。夜のイルミネーションとかに使うなら日ごろの設備にまわしてほしい。

観光ホスピタリティ学科

①の理由 とてもいい施設であった。

充実していた。
非常に使いやすかった。

②の理由 もう少しトレーニングルームの充実や駐車場が安いといいと思う。
施設はしっかりしていて使いやすい環境だが、ゴミなどの汚れが少し目立った部分も多かった。

パソコン室はよく使いました。
駐車料金をタダにしてほしかった。他の学校はタダなので不満だった。
故障が多い場面があったが、それ以外では快適に使用できました。
個人的ではあるが、コンピュータ室のパソコンの数を増やして欲しい。
施設・設備は充実していましたが、駐車場等お金がかかったのが満足に欠けました。
駐車場の料金が少し高い気がします。
トレーニング室があるのがよかった。
主にコンピュータ室を利用しましたが、空間も良く、調べ物・レポートを集中して書けたので良かった。
駐車場を無料にしてほしかった。
全体的に良く使用している所(教室など)を気持ちよく使えた。コンピュータは特に充実していた。
パソコン室は調べものやレポートでたくさん使わせてもらった。
設備には満足しているが駐車料金が安い。
設備はとてもしっかりしていて、キレイ。514等イスが固定されている教室は人がたくさんいると入れないことがある。
PCがとても充実していると感じました。その他の教室はあまり使ったことがありません。

③の理由 駐車場の料金が安い。
駐輪場での自転車やバイクのとめ方がひどい時がある。

駐輪場がもっと気楽に利用できるようにしてほしい。
もう少し工夫できると思う。
駐車場料金が安い。
図書館のゲートはいらなと思う。
駐輪場に金をとるのは理解にくるしむ。
駐車場の料金が1日200円というのはいや高すぎる。
駐輪場が高い。

④の理由 金がかかる駐車場。
グラウンドは使ったことがない。駐車場は普通に高い。160日しか登校しないのに取りすぎでは？

駐輪場代が学費に込まれていないからめんどくさい。
なぜ駐輪場が有料なのか。
ルール守らない駐車。当て逃げなどがふつうにあった。監視カメラが必要では？
駐輪場にも監視カメラを設置してくれないので、駐車スペース外の駐車や、当て逃げの取り締まり等しっかりしてください。
短い期間に3回も当て逃げされました。
駐輪場が有料な事で違法駐車がふえた。一人暮らしには負担となる。

健康栄養学科

①の理由 トレーナー室を積極的に使いたかったが、学生さんにはなかなか相談しにくかった。が、それ以外はとても満足している。

パソコン設備が充実しており、学習や卒論時にとっても役立った。
自由に使える。
トレーニングで体を動かせた。

②の理由 設備も充実していてよかった。

設備はいいと思うが、授業以外でトレーナー室、体育館、グラウンド等は使用できなかった。
使いやすかった。
駐輪場は使いやすいと思いますが、もう少し早く第一駐車場の凹凸を直してほしかったです。
駐輪場、自由に使えるようにしてほしい。
Wi-fiが使えないPCがあった。(自分のPC)
PCを6号館にもう少し増やしてほしい。
コピー機が全て壊れて困った。今までに50円程お金は入れたのに、返金してくれず、もやもやする。
パソコンはたくさんあったのでとても助かった。ただ、「栄養くん」のはいっているパソコン(貸し出し用)が少ないので、パソコンを持っていないとき、少し不便だった。
教室の時計が真ん中にあれば最高です。
駐車料金が安いと感じる時がある。
第2体育館が壊れてしまったので、部活の時間が減ってしまったのが悲しかった。
勉強できる空き教室が欲しかったです。
6号館に設置されているパソコンが少ないかなと感じたが、レポートなどで沢山活用することができた。
駐輪場について、雪が積もったときに雪かきがないと、駐車するのが大変でした。
トレ室を使えたのはうれしかった。ストレス解消！
どの施設もキレイで満足しています。トイレに「音姫」がないのが唯一不満でした。
勉強できる場が少ない。印刷機が増えてよかった。
トレーナー室はスポ料の人がこわくてあまり活用できなかった。
駐輪場があって便利でしたが、もう少し安くなるとありがたいです。
印刷がうまくできないときがありました。

③の理由 パソコンのつながりが遅いから。
体育館がもうひとつくらいほしい…。遠くの体育館まで練習しに行かなきゃいけないのが負担でした。

自由に使える勉強できる教室(6号館あたり)があつてほしい。
パソコン室があいているのか、授業中なのかが分かりにくく、入りづらかった。
壊れていることが多かった。(PC)
駐車場の値段が高いため。
パソコンが少ない(6号館)
駐車場料金が高すぎると感じた。貸し出し用PCの数が少ないと感じた。
6号館のPC、プリンターがよく壊れていた。
6号館にパソコンが少ない。
講義室(とくに5号館1階)の長機の間隔がせまい時があったり、夏の冷房が効きすぎていたりする時があった。
6号館のコンピューターを新しくしてほしい。
コンピューターが新調されるのが遅かった。起動にとっても時間がかかっていた。

④の理由 駐車場はタダでよいのでは。
コンピュータ教室が6号館から遠すぎる。

駐輪場が有料なのは本当にわからない。授業料も高いので、そこまで払いたくない。
6号館にパソコンを増やしてほしい。
6号館のコンピューターの立ち上がりが遅い。
駐車場の料金設定。
6号館のパソコンの台数が少なすぎて使えない。(パソコン教室が遠いので)
栄養くんが導入されているパソコンを増やしてほしい。
6号館のパソコンが古い。おそい。「栄養くん」が一つの教室にしが入っていない。プリンターのインクがないことが多い。コピー機の調子がわるい。

その他 無料駐輪場にしてほしい。

スポーツ健康学科

①の理由 いつでも空いていると使用できたのでよかった。

授業の間の時間利用させてもらった。

Wifiをもっとよくして欲しい。

トレーニングするのに十分な設備があった。

最高の取り組みができた。

一般の人が無料でとめることのできる駐車場が必要。今の時代、せっかきてくれた人がかわいそう。

無料で使用できた。

トレーニング室が充実していた。

トレーニング室のおかげで運動習慣が身についた。

とても使いやすかった。

沢山使わせていただきました。特に、パソコン、ジムはお金もかからず、使いやすかったです。

キレイ。

常にキレイにしている。

パソコン室を毎週使える時間を更新して、紙媒体で出してくれるのはありがたかった。

体育館がせまい。1つしかないのが不便。新しくした第二体育館もせまい。

②の理由 好きなききに使えた。

駐車場の有料なのが意味が分からなかった。

トレーニング室など使えて良かった。

図書館3階のパソコンの印刷機も学生証を使った印刷の仕方だとありがたかった。

駐車場を使う時に毎回車の登録が必要で面倒。

もっと使いやすく。

6号館のPCと印刷機の不具合が多い。その他は満足している。

トレ室の使用できる時間をもう少し長くしてほしい。

2階(6号館)のパソコンがおいてある所にもエアコンを付けてほしい……。

駐車場は無料かもう少し安くしてもらいたい。

施設的には満足だが、使うにあたり、許可の申請が大変。駐車場料金が高い。

③の理由 駐車券が高い。駐車場でのマナーが悪いことが多い。

体育館を増やしてほしい。

環境が悪い。金の使い道が悪すぎ。

体育館は使いづらい。(種目によっては適していない)

トレーニングルームが狭い。駐車場でお金を取る意味がわからない。体育館をもっと自由に使いたかった。

在学中に第二体育館がつぶれてその用具、部活が一体に集中して、練習時間が減った。

駐車料金が厳しかった。

駐車場の使用にお金をとられるのは少し辛い。

駐車場は有料だったので、少し不満だった。

6号館2階が寒かった。トイレの便座がつめたかった。

狭い。高い。電波が弱い。特定の人のたまり場。

駐車場料金は少し高いと思いました。

駐車場が高すぎる。他の学校はお金をとらない所もあるのに、畑の中にある駐車場なのに何万もするのがおかしい。

駐車場の利用マナーが悪い学生がいた。パソコンの起動が遅いものがある。

④の理由 駐車場が高い。

駐車場高い。

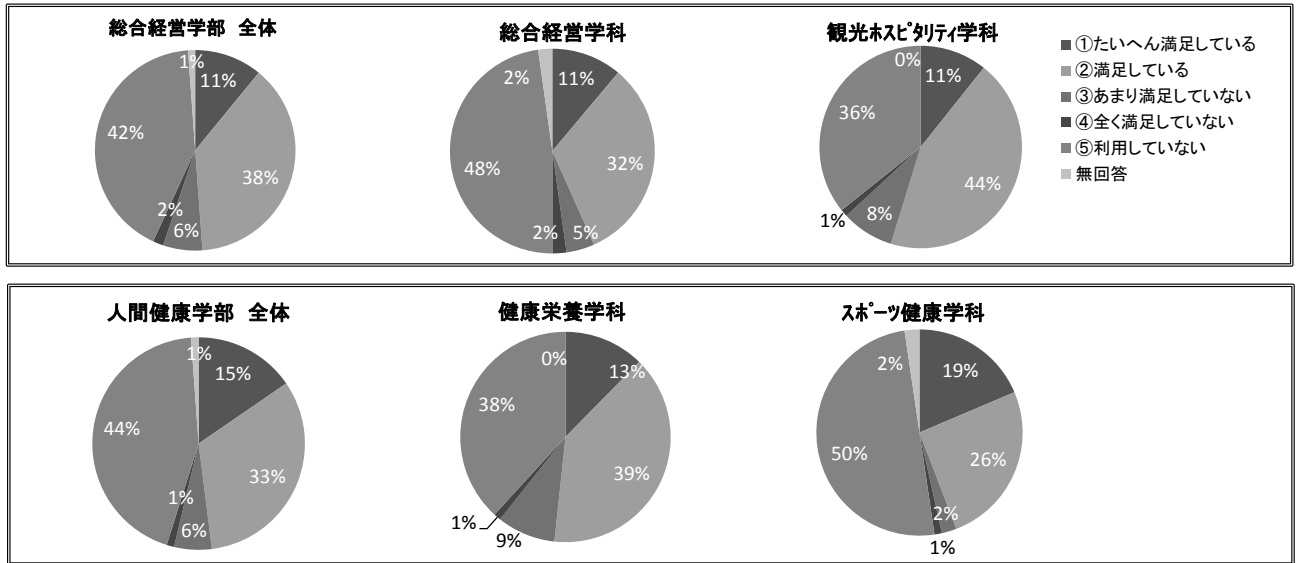
トレ室の道具の数が少ない。(選手が育たない)

トレーナー室が狭い。体育館が一つしかない。教室の暖房入るのが遅い。駐車場でお金取る意味が分からない。

図書館がせまい。テニスコート、電車が近くにありうるさい。トイレのドライタオルがつかえない。

質問14. あなたは各サポートセンター(基礎教育センター、国際交流センター、健康安全センター、地域づくり考房『ゆめ』、図書館等)に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	総合経営学部						人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	8	2	10	4	5	9	1	10	11	10	6	16	27
②満足している	18	11	29	22	15	37	0	35	35	15	7	22	57
③あまり満足していない	3	1	4	2	5	7	0	8	8	1	1	2	10
④全く満足していない	1	1	2	1	0	1	0	1	1	1	0	1	2
⑤利用していない	32	11	43	25	5	30	7	27	34	29	14	43	77
無回答	1	1	2	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2



【理由等】

総合経営学科

- ①の理由 楽しかった。
基礎教育センターはとても良いところです。「ゆめ」では威圧的で嫌な思いをした。
積極性がなければ使う機会がほとんどないのが残念。
- ②の理由 図書館よく利用しました。
ゆめでは、よい経験をさせていただきました。
自分の活動の話を聞いてくれたため。
図書館は、資格の勉強や研究で使わせていただき、集中できる環境だったのでとても助かった。
基礎教育センターで基礎学力をおぎなうのに大変役立ちました。
- ③の理由 あまり活用する機会がなかった。
- ④の理由 ほぼ利用しなかった。
- ⑤の理由 図書館前のゲートは本当に設置した意味が分からない。もっと他のところに使うべき。
近寄りがたい。
特になし。

観光ホスピタリティ学科

- ①の理由 図書館はとても良かった。
「ゆめ」で地域活動について思ったこと、企画について応援して下さいたり、手伝って頂いたこともあります。とても満足しています。ありがとうございました。
- ②の理由 時々担当がおらず見つけないのに苦労しましたがそれ以外はとてもよかったです。
あまりかかわることはなかった。
あまり利用しなかったです。
もう少しDVDの数を増やしてほしい。
空き時間に図書館やDVDを視聴できてよかった。
基礎学習センターの方の対応が良く、今でも印象に残っているから。
いいサポートがあったが、あまりよくないサポートセンターもあったため。
特に図書館はよかったと思うが、小説(現代)のものが少なかったと思う。
「ゆめ」の活動は今でも続けているが、とても良い経験になっている。
- ③の理由 健康安全センターが対応がよくなくて、使いづらかった。
「ゆめ」に行った時の教員の対応があまりよくありませんでした。(1年次) その後は良くなったのかもしれませんが・・・。
基礎教育センターでは自分の苦手なところなどを重点的に学べるところが魅力的だったから。
健康安全センターにおいてはテスト期間中に寝不足扱われたのに、途中で追い出されたのでそれ以降利用しなくなりました。勝手に決めつけられて不快だった。
活用しなかった。
- ④の理由 ほとんど利用しなかったから。
- ⑤の理由 興味をひかれなかったため。

健康栄養学科

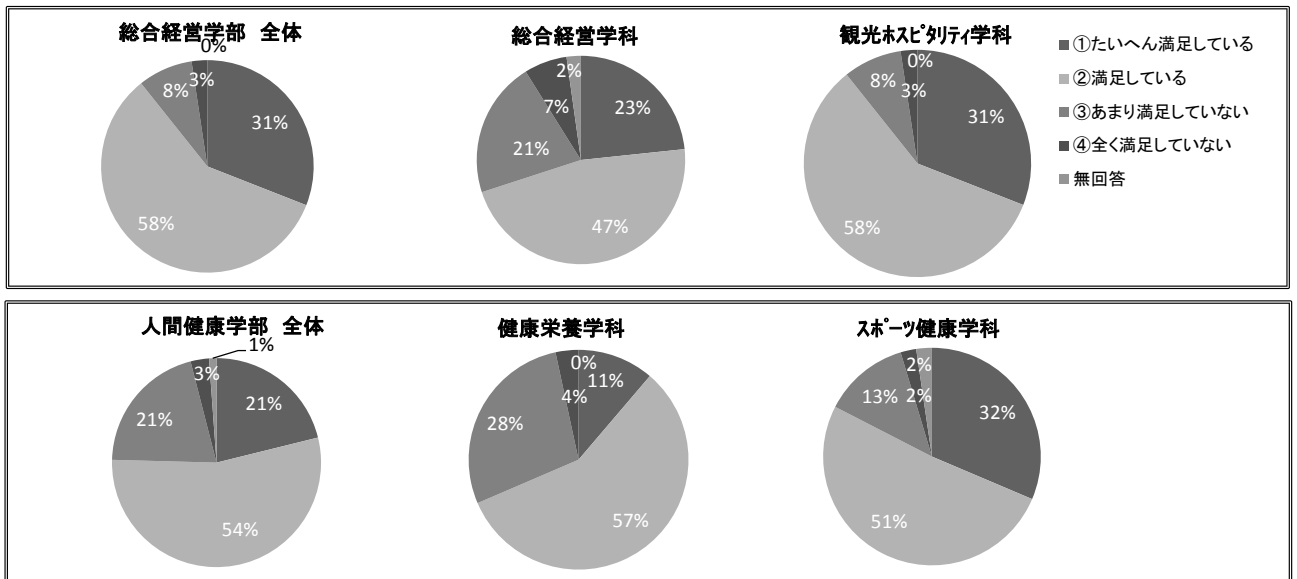
- ①の理由 基礎教育センターには大変お世話になりました。とても良い学習環境でした。
図書館のペットボトル持込OKはありがたかった。
『ゆめ』の活動に参加した。地域の人とふれあい、コミュニケーション能力も身につけた。
ゆめでは、とても楽しい学びや身になる学びができた。図書館はこれからも利用したい。
学びたい教科ややりたいことをサポートして頂いたため。
学生のとときしか味わえない活動を「ゆめ」で行うことができた。スイーツ開発、大学際、料理教室にたずさわれた。
サポートがとても良い。
図書館は雑誌がおいてあるのがとても嬉しかったです。
地域に出て自分たちがしたいことに沢山チャレンジでき、自分の成長につながった。
②の理由 冬の時期に図書館が寒い。具合が悪かったのに、健康安全センターで休ませてくれなかった。
就活の際の教養の勉強のサポートしてもらいました。助かりました。
『ゆめ』での活動はいい経験になった。
図書館以外利用していませんが、図書館はとてもよかったです。
使いやすかった。
『ゆめ』に所属していたが、地域の方との交流もでき、とても良いところだった。
健康安全センターの利用のしかたがよくわからなかった。具合悪くて行ってもいやそうな顔をされた。
図書館では、すごく勉強がはかどる環境でした。
図書館しか利用していないがよかった。
基礎教育センターの質をもっと向上させるとよりよくなると考える。
図書館の冬場、暖房が弱くて、寒い。1階がとくに寒い。
図書館をよく利用したけど、いつもきれいで図書館の人の対応もよくて、勉強しやすかった。
図書館をよく利用しているが普段は静かで勉強しやすいです。テスト期間は席が空いていないことが多いです。
「ゆめ」での活動が楽しかったです。
健康安全センターの先生は、とても親切だった。10分学習の解説が分からない人は置いてけぼり。
あまり利用しなかったので分かりません。
図書館、勉強しやすい環境だと思う。
保健師の先生に相談のって頂いた。
考房「ゆめ」でたくさんの人と関ることができた。
③の理由 図書館が寒いとよく感じるため。
遠くに行く気にならなかった。
図書館をもっと広く専門書をふやして欲しい。
十分間学習の数学の問題が同じような問題であることが多かった。
ほとんど利用していなかったため。就活時に基礎教育センターは役立った。
基礎教育センター、部屋に入りづらかった。
④の理由 自分で何とか出来そうだったため。(基礎教育センター)

スポーツ健康学科

- ①の理由 地域活動ができた。
気軽に接してくれた。
図書館の居心地がよかった。
「ゆめ」の活動を通して、自分が成長できた。参加してよかった。
図書館の蔵書が多く良かった。
基礎教育センターの先生方には仲良くしてもらった。
②の理由 図書館しか利用したことはないが、とても使いやすかった。
健康安全センターの人にはお世話になりました。
怪我をした時に、健康安全センターの方にお世話になりました。適切に対応してくださいました。
基礎教育センターでは、今まで、あまりできなかった勉強ができ、また、指導もしていただき、うれしかったです。
図書館には満足している。
③の理由 健康安全センターの人は必要な時にいないし、行っても対応が冷たいし、十分なサポートはしてくれなかった。話し方にトゲがあってイライラする。
⑤の理由 基礎教育センターも外から中が見えたほうが入りやすいと思う。
時間がなかった。よく知らなかった。

質問15. あなたは生協のフォレストホール、カフェテリア、購買に満足しましたか、満足できませんでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	18	3	21	16	10	26	47	0	10	10	18	9	27	37
②満足している	26	16	42	30	19	49	91	6	45	51	29	15	44	95
③あまり満足していない	12	7	19	6	1	7	26	1	24	25	8	3	11	36
④全く満足していない	6	0	6	2	0	2	8	1	2	3	1	1	2	5
無回答	1	1	2	0	0	0	2	0	0	0	2	0	2	2



【理由等】

総合経営学科

- ①の理由 購買の方々の人柄が非常に良かったです。
各商品が安く、学生としてはありがたかった。
若い人向けで良かったです。
おぼちゃんが優しい。
品揃えが良くて良かった。
大変お世話になりました!!
- ②の理由 もう少し人が座れるようにしたらもっといいと思う。
生協が開く時間がもう少し早ければ良かった。
たくさん利用しました。
少し購買の料金が高い(安くない)気がした。
よかったけど、入れる人数が少ない。
年間いろいろなイベントをやっていて楽しかった。
安い。
とても良かったです。
リーズナブルで利用しやすかった。
自分が必要とするものは、たいがいそろえられたから。
生協はイベントなどあって、見ていて楽しかった。
- ③の理由 あまり充実しているとは思えなかった。(品数や値段、店員の方の態度など)
購買はコンビニよりも高いものが多いので、もう少し低価格にしてほしい。
昼食時に食べるスペースが少ないです。
混んでから行きたくない。せまい。
もう少し品揃えがほしかった。(文具、食品等)
フォレストホールは狭い。座席がたりない。
フォレストホールのメニューがいつも同じ。
品揃えも悪いし、価格も高額であった。
種類が少なすぎる。
価格が高い。
狭い。
- ④の理由 人が多すぎ。
あまり利用していない。
学食の席がせまい。学生千人以上いるのに席が無さすぎる。学食のメニューが高い。値段の割りにクオリティが低すぎる。
購買が狭すぎる。これに関しても、千人以上いる学校の購買とは思えない。あと、メニューが高い。出資している人だから安くしてほしい。
コンビニより高い。スーパーの値段にしてください。

観光ホスピタリティ学科

①の理由 安くて使い勝手がいい。

足りないものを買ったりできとてもよかったです。

おいしかった。

生協のおばちゃんのあいさつが気持ちよかったです。

おいしかった。

購買の店員も優しいし、時間の空いてる時にフォレストを利用できるのは満足でした。

便利。

購買の営業時間をのばしてほしい。いつでも買えるのが良かった。

学食はおいしいし、メニューも豊富で良い。生協でおかしやお弁当を買えるのも便利で楽しい。

学食や生協も学校に行くひとつの楽しみだったと思う。

②の理由 よく利用しました。

なくてはとも不便だと思いました。

もう少しスペースを確保してほしい。

かまたまそばがうまい。

購買の人がいい。

要望にこたえてくれた。

数多くの品があって良かった。

広くしてほしい。

購買に必要な物、品数が良く、利用してて楽しかったです。

学校で何か買ったり、ランチが食べられる機会や設備が整っているのは魅力的だと思う。

生協の方と仲良く話せたりして本当に利用しやすかった。

学食がおいしかったです。ただ混み具合がもう少し緩和されると良いと思います。

生協の方も話しやすい。

③の理由 松大井を前期での松大井に戻してほしいです。

あまり利用しなかった。

買いたいものがなかったりする。

営業時間や品数を増やしてほしい。

健康栄養学科

①の理由 美味しかったです!!

週替わりで安いものがあり、嬉しい。

開放的な空間の学食でとても気持ちがよかったです。

前店長さんはとてもいい方でした。現店長さんはお話したことがないのでわかりません。スタッフの方もいい方です。

店長さん変わったけど、赤字脱却のためにがんばっている。

②の理由 ほぼ毎日使わせていただいて、とても助かった。

いつも混んでいる。

教育学部もできるので、購買部を広くした方がよい。

混んでいて、席がなかった。メニューが減っていました。利用する回数も減った。

もう少し大きくOR増やしてもいいと思う。パンの自販機をもうひとつくらいほしい。

とても良い場所ですが、栄養科がフォレストに行く頃には、他の学科に占領されている事が多く、ほとんど食べれた事がなかった。

お昼を食べられるところが少なく感じることもあった。

学食が学生数に対して狭いと思った。

おいしいごはんありがとうございました。

テスト期間中の食堂はとても助かった。

便利で使いやすかった。

お弁当だったので、学食はあまり利用しなかったが、購買はコンビニ並みの値段で少し高いと思いました。

学生が利用するものなのでもう少し安い方が良かったと思った。

生協が少し狭い。お弁当は揚げ物が多すぎる。

メニューに飽きてしまった。

購買をよく利用していますが、案外高いという印象があります。

少量のお弁当を用意していただけたら良いと思いました。

お弁当作れない日とか凄く助かりました。ただ、閉店する時間がすこし早いかなと思います。

もっと食べたかった！フォレストに麺がなくなったのは悲しい。

バランスよく食べられる。

フォレストホールがもう少し席数があればよかったです。定食はけっこうよっぽいときがありました。

生活応援メニューが好きでした。

③の理由 学食は単品で売っていたところはとても良かった。生協は安くてよかった。

お昼を過ぎるとお弁当やパンがなくなって悲しかったから。

フォレストのメニューが少ない。いつも同じだった。丼が多い。

朝ご飯のために1限前に購買が開いていたらよかったです。

混雑

購買の営業時間を、テスト前だけでも延長してほしい。

フォレストホールとカフェテリアのメニューを一緒にするべきだったと思う。

すぐにお弁当がなくなってしまう。

閉まるのが早い。5限まであいているといい。学食はおいしくない。

購買がせまい。フォレストの食堂もサラダバーとか、もっとメニューを充実してほしい。

生徒数に対して、規模が見合っていない。

フォレストのメニューもう少し充実させてほしい。

ほとんど利用しなかった。栄養学科があるのにそれが反映されていないと思う。他の栄養学を置く大学はこういうところもしっかりしている。

オープンキャンパスの学食体験もむしろこういうものしかないのかと不安だった。

学食がおいしくないため。

6号館の方の学食のメニューが少ないと感じた。

もう少しサラダを増やしてほしい。

メニューがいつも同じようなものであったり、栄養科があるのにもったいない運営だと感じる。購買の営業時間が短い。

5限後も購買がやっていると思う。

食堂が学生の人数に対してせますぎると感じた。

生協はもっと安いものだと思っていました……。

もっとバランスを考えたいお弁当が欲しかったです。

味が濃い。営業が終わっても学生はいるのに電気を消される。

④の理由 生協が高い。フォレストの営業時間の短さ。

いつも同じメニューで飽きるから。フォレストがせまい。

お弁当が美味しくない。お昼を食べるスペースがとても少ない。

スポーツ健康学科

①の理由 様々な商品があつたりしてよかった。

学生相手にしては少し高い購買。

いつも笑顔で接してくれた。

学生に優しい値段。

とてもお世話になりました。

安い。

必要なものが安く変えるところ。

マヨソースカツ丼がおいしかったです。

キレイ。

生協のおばちゃんたちは、笑顔でおもしろかった。

フォレストでご飯を食べれたり、購買もあり役立ちました。

手軽な価格で食事することができたので満足。

生協職員さんと話すのが楽しかった。

②の理由 便利だった。

おいしかった。

少し高い。

もう少し値段が安くなればいいと思う。

気軽に利用できる。

いつも使わせてくださっていた。

フォレストのやカフェテリアはメニューを増やしてほしい。特に野菜系。購買も特にデザート類の品揃えがもっとあれば良かった。

生協、学食の営業時間をもう少しのばしてもらったら、夜おそくまで学校にいても、便利だと思いました。

弁当の種類が増えてほしい。ヘルシーなものをおいてほしい。

生協のおばちゃんたちが、優しくかった。

きれいで利用しやすかったから。

混雑する時間に勉強している人がいる。職員も注意しない。

おいしい食事をありがとう。

もう少し広くしてもいいと思いました。

高かった。

③の理由 購買よりもスーパーに行った方がはるかに安い。

飲料の品数を増やしてください。

もう少し、料理の種類が欲しかった。

種類が少なかった。(メニュー)

値段が少し厳しかった。

メニューふやしてほしい。もう少し安く！

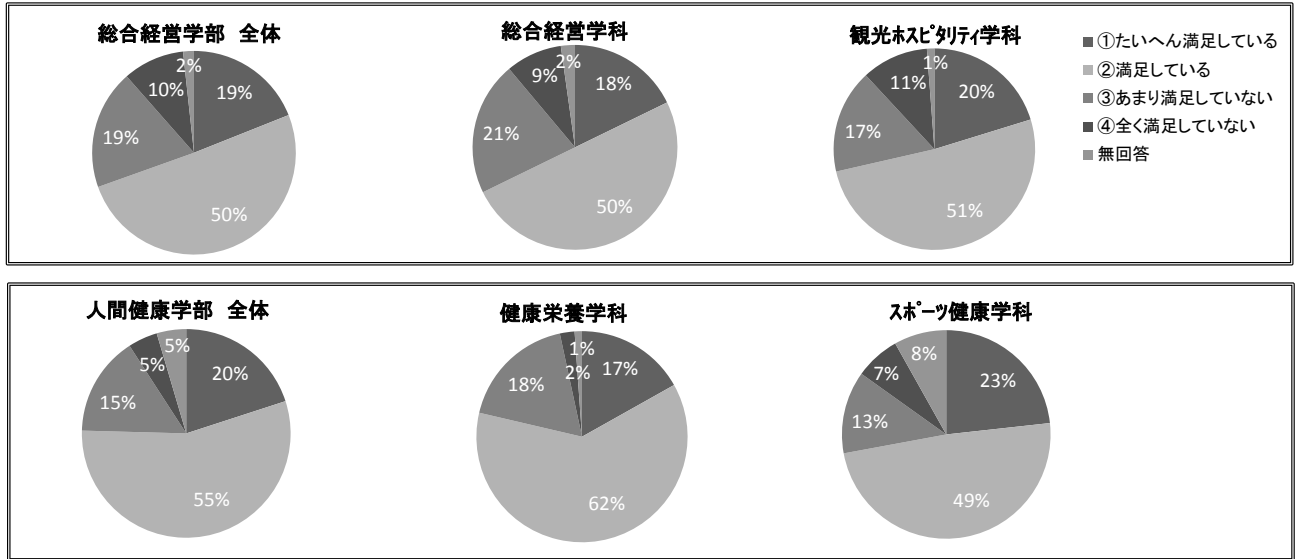
おかずだけとかほしい。

狭い。バリエーションの少ない弁当。サラダも一緒にしているものがない。狭い。

④の理由 購買がせまい。学食のメニュー少ない。野菜とかヘルシーなものをふやしてほしい。

質問18. あなたは本学の行事(大学祭、新入生歓迎会、体育大会、花火大会)についてどのように感じましたか。
その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	14	2	16	8	9	17	33	2	13	15	14	6	20	35
②満足している	31	14	45	27	16	43	88	2	53	55	31	11	42	97
③あまり満足していない	12	7	19	9	5	14	33	1	15	16	7	4	11	27
④全く満足していない	5	3	8	9	0	9	17	2	0	2	2	4	6	8
無回答	1	1	2	1	0	1	3	1	0	1	4	3	7	8



【理由等】

総合経営学科

- ①の理由 交流の場面が増えたから。とても楽しかったです。楽しかった。いい思い出になった。
- ②の理由 全部参加はできなかったけど、楽しめました。人気の有名人が来たりしておもしろかった。楽しかった。学生間の親交を深めるきっかけになったから。メールなどで告知してくれ、参加しやすかった。規模が大きく楽しめた。お金がかかっていて、すごかった。たのしかった。企画が充実していた。資格試験とかぶってしまい、あまり大学祭に参加できなかったことだけは心残り。
- ③の理由 参加する学生が少ない。魅力がない。あまり参加しなかった。特になし。
- ④の理由 出てない。参加していない。満足というより、ほとんど参加していない。必要性なし。参加していないので、満足するわけない。

観光ホスピタリティ学科

- ①の理由 楽しかった。ひきつづき続けてほしい。もっと規模を大きくしても良いかもしれません。大学祭は模擬店も多くて、ゼミの仲も深まるし、ゲストも豪華ですばらしい。交流を深められた。体育大会は特に楽しかったです。
- ②の理由 大学祭のような盛り上がり他行事でも実現して欲しい。大学祭は、有名人を呼ぶあたりが、さすが大学祭という感じで楽しめた。たくさんのイベントを設けてもらって感謝してます。やりたいことができてよかった。大学祭は楽しかったです。ほかはあまり参加できていません。運営の連絡不足に不満があった。(学祭) その季節ごとの企画があって良かった。大学祭のファッションショーや企画がとても面白くて参加して楽しめました。体育大会はもっと増やしてほしい。主に大学祭。
- ③の理由 参加している人が限られている気がする。イベント自体は楽しかった。学友会だけで盛り上がっている感じがしました。学友会だけで満足している感じがある。あまり参加していない。そもそも参加していないけど、みんなで賑わう参加型には基本あまり参加しようと思わないから。あまり参加しようとは思えなかった(特に時間が遅いのが多すぎる)電車に来ていてる人のことも考えて。
- ④の理由 任意で参加するイベントに多額の学費が使われていると思うとイライラする。学友会だけが楽しんでいるだけ。参加しなかった。

健康栄養学科

①の理由 栄養科2・3年生は丸1日授業のことが多かったりするので、日程をもう少し参加しやすい日にして欲しい。

どの企画も楽しかった。

学祭がたのしかった。アカペラサークルの発表は思い出に残った。

楽しかった。

大学祭はみんなと楽しく過ごせて良かった。いい思い出になったと思います。企画プランが豊富だったことが凄いなとおもいました。

色々な人と友達になれたし、思い出ができた。

②の理由 楽しく参加できた。

有名なライブやトークショーがあって良かった。他学部と話すことができて良かった。

とても楽しかったです。

あまり参加していませんが、大学祭は充実していると思ったし、ゲストもたくさん呼んで頂いて面白かった。

楽しいイベントが多かった。

どれもとても楽しかった。

参加制限あるときとか、景品にお金がすごいかかるとときとか、出てない人には不利益だと思う。

大学祭は充実していたので満足しましたが、少々、遠方からの学生は参加しにくいかな、と感じていました。

普段あまり関わらない人も交流できたため。

イベントは主に1、2年生が多く参加するので、3、4年生になると参加したくても参加しにくかった。「3、4年生限定！」みたいなのがあればよいと思う。

ベッキーと握手できたのがうれしかったです。

③の理由

学祭の司会の人がつまらなかった。

毎年やっているコンサークルの人たちが自分たちだけで楽しんでいるように思えた。ダンスは良かった。

栄養科は授業の関係で出れないものが多いのもっと考えたものにしてほしい。

参加していない。

参加していないことが多い。

身内感が否めない。

あまり楽しくなかった。

興味がなかった。

運営自体がはっちゃけて楽しんでいる感じもなく、楽しそうに思えない。

家が遠い人は花火大会は参加しにくい。参加できないものばかりだった。

あまり参加していません。すみません。

④の理由

花火ってそんなにかんたんに打ち上げてもいいものなんですね。

その他

参加しなかった。

スポーツ健康学科

①の理由 楽しく参加できた。

毎回行事に満足していた。

いろいろなものもあるかもしれないけど、それが雰囲気作りに役立っているから必要。

運営に携われてよかった。

イベント全てが楽しめるものばかりだったので満足できた。

楽しく参加することが出来た。

たのしかった。

②の理由

もう少し早めに連絡してほしい。

学生が一つになれたので。

芸人など普通見れない人が見れたため。

大学祭ではとてもいい思い出をつくることができた。

ほぼ不参加。

大学祭は学友会のためにやっている気がして参加する気になれなかった。

大学祭はもっと大人数を巻き込んでほしい。

③の理由

身内感が凄かった。

参加していないから。

学友会が楽しんでいるだけ。

ほとんど参加していない。

学友会の人たちが楽しんでいる感じがした。

学祭での学友会のルール等の統一が必要だと感じた。

あまり参加していない。

あまり行事には参加しなかった。

④の理由

どれもあまり楽しくなかったです。

主催者だけがたのしんでいて、アウェー感があった。

参加してないです。

学友会だけでもりあがっている感じがつよい。

参加したいと思える内容でなかった。

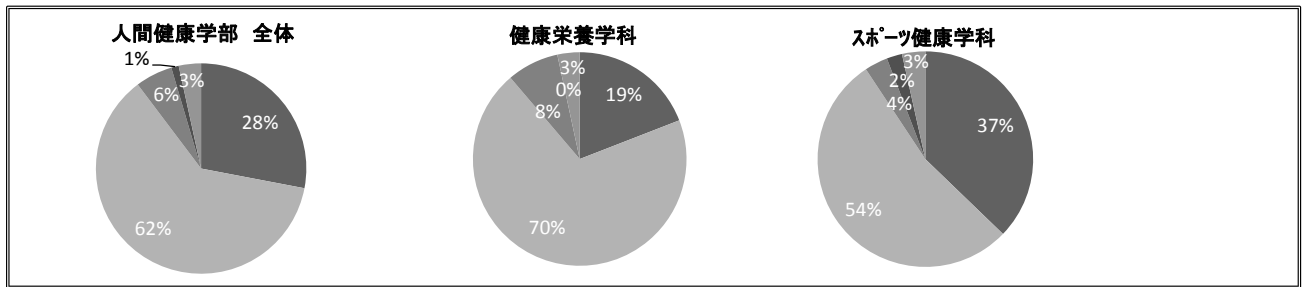
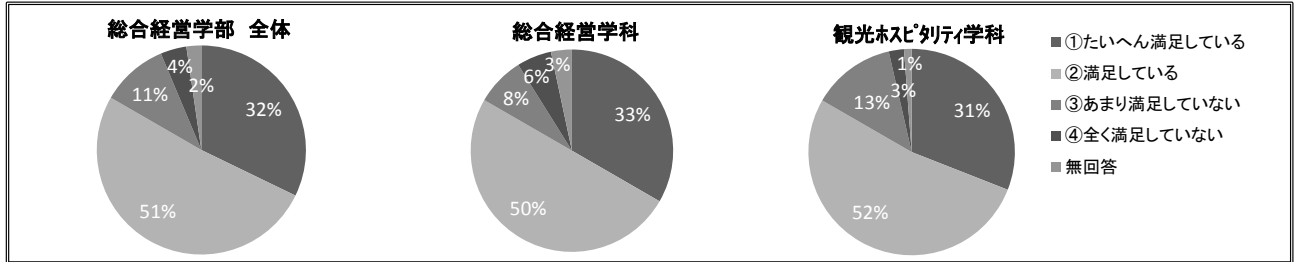
無回答

参加していない。

記憶に残っていない。

質問19. あなたは卒業後の進路に満足していますか、満足していませんか。

	総合経営学部						人間健康学部							
	総合経営			観光ホスピタリティ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	24	6	30	15	11	26	56	1	16	17	23	9	32	49
②満足している	30	15	45	30	14	44	89	6	56	62	28	18	46	108
③あまり満足していない	4	3	7	7	4	11	18	1	6	7	3	0	3	10
④全く満足していない	4	1	5	2	0	2	7	0	0	0	2	0	2	2
無回答	1	2	3	0	1	1	4	0	3	3	2	1	3	6



【理由等】

総合経営学科

- ①の理由 行きたいところへ行ける。
行きたいところに行けた。
無事就職することができました。
とても良い進路につけた。
無事就職できた。
自分の行きたい道に行けた。
自然体の自分を受け入れてくださった会社から、内定をいただいたから。
希望の職につけた為。
夢が叶いました。
- ②の理由 頑張りたいです。
就職して頑張りたいです。
普通。
一応県内に就職できたから。
不満点がないから。
不安はあるが、満足はしている。
出会った企業でいきたいと思っていた所に就けたため。
がんばりたいです。
- ③の理由 志望していた企業は落ちてしまった為。
結局おさまるところにおさまった感じ。
- ④の理由 進路が決まっていない。

観光ホスピタリティ学科

- ①の理由 キャリアセンターの方々の協力もあって内定できた就職なので、これから気をひきしめていきたい。
とても満足しています。
希望する職種に就くことができました。
第一志望へ行くことが出来た。
就きたい職に就けたため。
社長になる。
自分が決めた道をとにかく一生懸命がんばりたいと思っています。
進路を決めることができたのは、ゼミの先生、キャリアセンターのサポートがあって決められたので、本当に良かったと思います。
自分の志望する企業に内定を頂けたから。
就活に関して、自分の力で努力して良かった。
- ②の理由 不安が大きいですけど頑張ります。
勤務地が地元で安心して働ける。
自分の可能性が分かり、満足しているから。
今後の自分がみえてくるような感じがします。
地元で働くことができるから。
長野県内の企業とのつながりが強く、自分も希望する企業への内定が決まったから。
就職だけに満足せず、これから頑張りたい。
好きなことができるため。
- ③の理由 キャリア向上。
就職をしないからです。少しずつ決めていけると良いなあとと思います。
先の見通しが立っていないから。
- ④の理由 就職できていない。

健康栄養学科

①の理由 入学前からなりたいた職業につけるから。

希望しているところへ就職が決まったから。

長野県内で地域に出て沢山チャレンジしたからこそ、内定先に内定をいただけたと思うため。

満足できる進路にできた。好きを仕事に!!

地元で働きたいというの叶ったし、人柄の良い方にも会えた。

夢の第一歩が踏み出せた。管理栄養士に近づけた。

大学を通してさらに好きになった食の分野に行けたし、とても優しく楽しい方たちであったため。

さんさん悩んで決めたので。

希望通りのことができる。

②の理由 高校から目指していた職業につけて満足しているが、不安。

資格も、今までの経験も活かせるところがよかった。

栄養士職を使うことができるから。

資格を活かして働けるから。

希望の職種にいけたから。

希望通りの企業に就職できた。

自分のやりたいと思う仕事に就けた。今後が楽しみ。

希望する業種に決まったため。

行きたい所に進めたから。

自分の行きたいところへ内定を頂けた。

自分で決めた道なのでがんばりたいと思います。

自分が何をしたいのかよく分からなかったが、一番自分に合っている道を選べたと思う。

まだ多少の不安はありますが、社会人として胸を張ってがんばれるようにしていきたいです。

第一志望には落ちてしまいましたが、まあまあなところに就職できてよかったです。

栄養の知識を活かせるため。自宅から通勤できるため。

やりたい仕事だけど、不安がある。(本当によかったのかな?みたいな..)

希望の企業に内定しました。

③の理由 そんなところだと思う。

スポーツ健康学科

①の理由 将来につながる。

今後が勝負。

自分の進みたい道に進むことができたと思うから。

良い会社に就職できた。

自分の希望通り事が進んだので。

大学で学んだ知識が活かせるから。

やりたい事ができるため。

希望の会社へ就職できたから。

自分がしてきた事が活かせる道に進んだと思う。

自分の行きたいところに、決定したため。

第一志望に内定が決まってよかった。

教員免許が取得でき、学校現場で働くことができるから。

資格や今までに学んだことを生かした職なので満足している。

自分で決めたところに内定をもらえた。

なりたいた職だから。

②の理由 やりたいこと。

良い雰囲気の会社に行くことができる。

スポーツを続けられる。

会社の情報が少ない。

満足できる就職活動ができた。ただ就職がベストな選択だったかどうか自信がない。

やりがいのある仕事だと思っています。

安定した企業に入れた。

偏って見れば、裏口入学。

不安しかない。

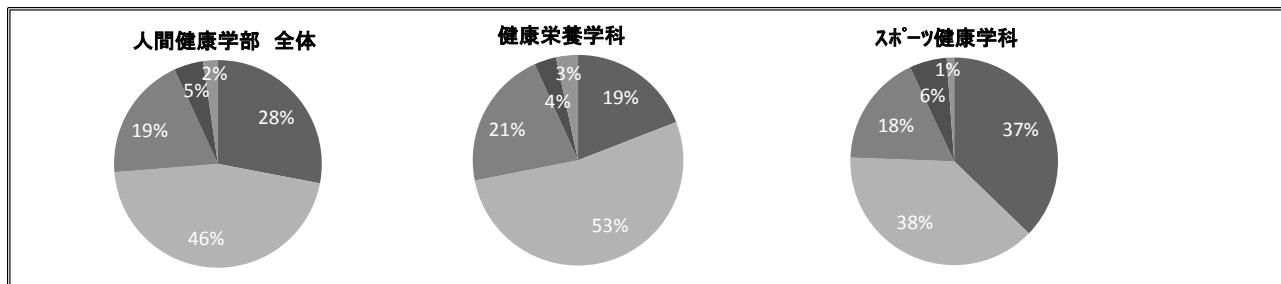
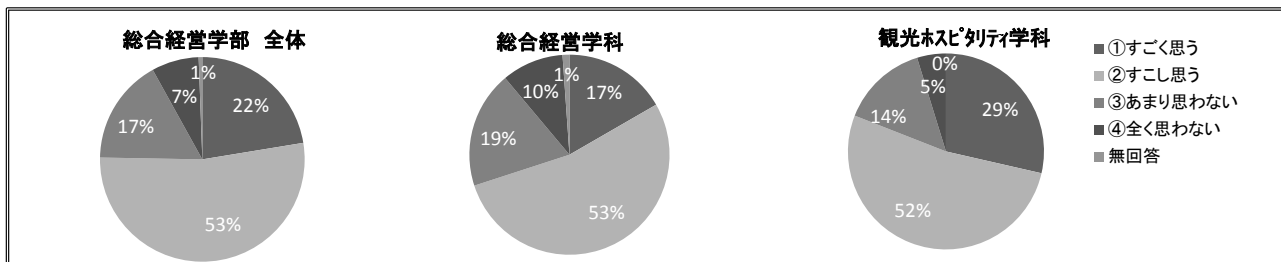
大学で学んだことを生かせる進路に就くことが出来た。

自分の就きたい仕事に就職することができたから。

③の理由 就活が自分に向かず妥協してしまった。

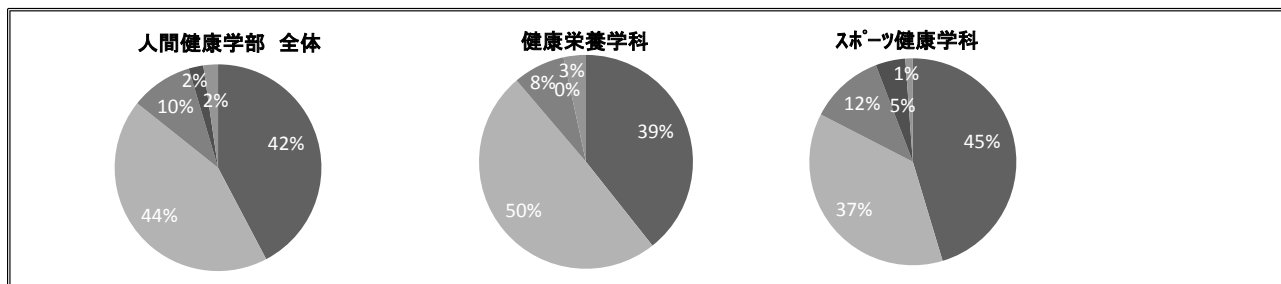
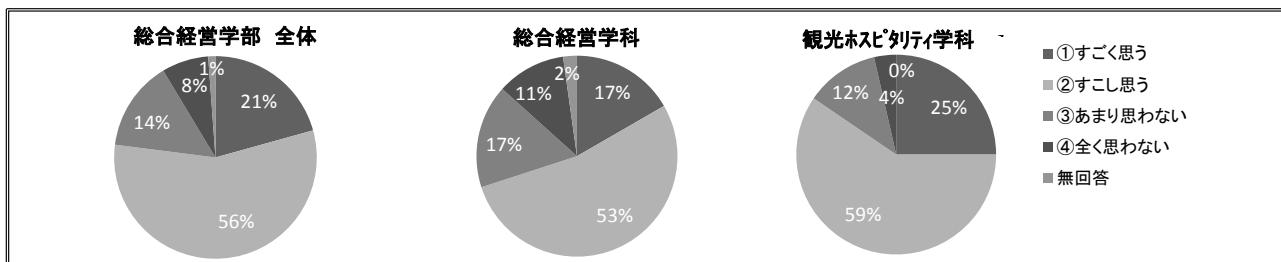
質問20. あなたは「松本大学」を誇りに思えますか。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①すごく思う	9	6	15	13	11	24	39	0	17	17	19	13	32	49
②すこし思う	33	15	48	27	17	44	92	3	44	47	23	10	33	80
③あまり思わない	12	5	17	10	2	12	29	4	15	19	12	3	15	34
④全く思わない	9	0	9	4	0	4	13	1	2	3	3	2	5	8
無回答	0	1	1	0	0	0	1	0	3	3	1	0	1	4



質問21. あなたは「所属学部・学科」を誇りに思えますか。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①すごく思う	9	6	15	12	9	21	36	2	33	35	24	15	39	74
②すこし思う	32	16	48	29	21	50	98	5	39	44	23	9	32	76
③あまり思わない	11	4	15	10	0	10	25	1	6	7	8	2	10	17
④全く思わない	10	0	10	3	0	3	13	0	0	0	2	2	4	4
無回答	1	1	2	0	0	0	2	0	3	3	1	0	1	4



質問22. 松本大学をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。

(例えば ①こんな授業があったらいい、②こんな制度があったらいい、③こんなところを変えてほしい等、何でも結構です。)

【意見・提案】

総合経営学科

喫煙所をなくしてほしい。
駐車場は学生なら誰でも無料でいいと思う。(学生証をかざせば開くなど)
もっとひとつのことを深められる授業があったらいいと思う。
メソフィアで履修登録をする時に、専門科目が教養科目かの表示をもらえる、さらに登録しやすくなると思いました。
まだまだ知名度もレベルも低いと思うので、長野県といえば松本大学となると嬉しい。
特にない。
このままでいいと思う。
路上駐車が多すぎると感じた。大学そばにある小野神社の敷地内に駐車する学生をよく見かけましたが、新村の住民の方がとても迷惑がっていたので改善してほしい。地域の方々に、まず誇りを持っていただけるような大学になってほしいと感じた。
お昼の時間が短い。
設備の点。
カードを読み込んで印刷できる機械ももっと増やすといいと思う。
もう少し人の前で発表するなど意見を言える機会を増やしたほうがいいと思います。
学食をおいしくする。
大学内の希望者だけが学部・学科を分けずに、参加する授業があったら面白いと思います。
特にないです。駐車場の料金をもう少し安くしてほしい。
カフェテリアをふやしてほしい。図書館のイスなどをふやしてほしい。
連絡システムを変えて欲しい。(メソフィアの見やすさの向上、連絡を早く届くようなシステム)
駐車場が高い。無駄金が多い。
ケンタをどうにかした方がよい。
禁煙。
現状で良い。
無駄なところにお金をかけすぎている。
外部から講師を呼んで、ありがたいお話が聞ければと思います。
駐車場無料にしてほしい。
駐車場を無料にする。
連絡システムを変えて欲しい。(メソフィアの見やすさの向上、連絡を早く届くようなシステム)
数々の出費を減らす。
地域の方々と直接ふれあえる授業等をもっとふやしていくといいと思った。
平均値が2.0以下の学生には学位を与えないようにすると良い。
喫煙所を廃止。
とにかく学生のマナーがひどい。
学生への連絡をもう少し早くしてほしい。
全教員マイクを使って講義を行ってほしい。
今後も学生を増やそうとするなら学食棟を建てるべき。夜のライトアップとかするならトイレの乾燥機とかの設備に金をまわすべきだ。
駐車料金の廃止、または値下げ。近隣の住民が学生の違法駐車で迷惑していると言うが、そもそも駐車料金が高すぎるせいである。
それを改善すれば一発で解決すると思う。
私が6単位分受講した講義で、声が小さく、何を言っているのかわかりませんでした。
お金の使いどころがわからない部分がある。あまり必要性を感じない設備等。

観光ホスピタリティ学科

全館禁煙！あと駐車場はもう少しと安くならないのか。
入学の敷居をもっと上げた方がいい。
駐車場の料金をもっと安くしてほしい。
キャリアの就職支援がもっと良くなると良いです。
体を動かす講義を多少増やして、たくさんの人と交流できること。
駐車スペースの個人指定。
学費の使い方、イベントや無駄なイルミネーションを無くしてほしい。
日本の文化に関する講義があればいいと思う。
キャリアセンターの先生方の入退室状況も分かるようにしてほしいです。
海外留学の経験をつみたい。
駐車スペースを個人指定にほしいです。申請書を出しているのでもれぐらい出来そうだと思うのですが。
学生からの意見を集めるような掲示板やアンケートの機会を増やす。
フロレストをデカくする。
全面禁煙！
年間事業表みたいなものがある、オリエンテーション時に配布すればよいと思った。
大学生として恥ずかしい騒ぎ方をする学生に対する処置。
留学に関してもう少ししやすい環境があるといいなと思いました。
大学に非はないが、講義やレポートに対する姿勢が甘い学生が多く見受けられる。
リラクスルームなど、休める場所やカフェテリアができればいいと思う。(今後、学部も増えるので)
連絡等(全大会など)をもう少し早くしてほしい。メールも。
けじめのつけられる生徒に育つ学校をめざしてほしい。例えば、たばこを吸うコーナーは設けなくてほしい。
もう少し講義のサポートをしてほしいです。わからないところをきけるような・・・。
充実した学生生活が送れました。大変お世話になりました。
駐車料金の改定。(せめて1日100円)ロッカー代の改定。
一般教養をもう少し増やしてほしい。

健康栄養学科

立地が悪い。
わからない。
駐車場無料、または成績良い人は無料。
クリスマスの電飾は必要ですか？
イベントに参加できるのはわずかな人だと思う。イベントに使っているお金は参加していない人にとって不利だと思う。
まだ社会のことをあまり知らない。特に社会にはどんな職種等があるのかわからないのはほんの一部だけだと思うから、仕事を紹介する授業や講座がほしい。
6号館から5号館へ行く2階の通路が冬場凍って危険だと思う。
遠いところから通学を出来ることを売りにするなら、休校(休講)の対応をしっかりとってもらいたい。
駐車場が高いです。
栄養科専用の学習室のようなものがあると、国試のための勉強場所に困らず、安心して落ち着いて学習できると思う。
6号館で使えるパソコンの台数が増えるといいと思う。
就職活動の際のキャリアセンターのサポートはこれからも続けていただきたいです。(夏合宿等)
土日も学校を開けてほしい。
土曜日は学校を開けてほしい。学食のメニューを増やしてほしい。
学習室の増設。生協購買の営業時間の延長(例 9:00~18:30)
図書館内がうるさいので改善してほしいとよく感じました。
学習室が欲しかった。(図書館の学習スペース以外にも、市立や県立図書館等にあるような、静かな空間。空いている講義室を探すのが困難な時があった。)
「ゼミ室」というものが、あるゼミとないゼミがあって、不公平かなと思っていました。
勉強、お昼を食べるスペースを充実させてほしいです。
上高地線と授業時間を合わせてほしい。
図書館、生協の営業時間を延ばしてほしい。5号館入り口の猫よけの音が頭痛くなる。
学部にもネイルの授業があったらうれしい。
学食や購買が人数比と合わず小さいと思いました。
国試対策は週1に集めるだけでなく、もう少し学校で対策があればよかった。
他学部との交流。
冬、滑りやすいところにマットを敷くのは良いと思います。
パソコンの台数が増えたらいい。
授業の空き時間に利用できるスペース(コモンルームのようなところ)が増えたらいいと思った。
勉強できるスペースが図書館くらいしかない。テスト前はみんな利用するため場所がない。
雪のときに電車通学の人のために早めに対応してほしい。
メソフィアで、卒業要件まで教養・専門とそれぞれあと何単位です、とかカウントダウン表示があると分かりやすくてうれしいです。
外国語が少ないと思った。観光地でもあるのもっと外国語にふれられる機会があると良いと思った。
学生課、教務課のからの連絡が遅いと思う。前に、学校に着いた後に大雪で全休の知らせがきた。(家が遠い人は早く来るので)
色々なものの期限が短い。学費が高い分、PCやプリンターの整備はきちんとしてほしい。卒業までに必ず必要な分は学費に入れておいてほしい。
来年度からなるのかもしれないが、教職単位をもう少し卒業認定単位に加えてほしい。
学食をもっと栄養バランスよく。

高い学費を払っている割に返ってくるものが少ない。イルミネーションとかわざわざ業者を入れるほどではない。入れるならもっとクオリティー上げた方が良いでしょう。
学費の使い道をこまかく学生に提示してほしい。むだなことが多すぎる。オリエンテーションなど呼び出しの連絡が遅すぎる。遅くとも1ヶ月前に必ずだすようにしてほしい。生徒のことを考えていなさすぎる。生徒にも生徒の都合はあります。

もっと学部を越えての交流があったらいいと思います。
全く違う事を学んでも、一緒にできる授業で地域貢献ができれば楽しいだろうなあ・・・と思いました。

スポーツ健康学科

駐車場くらい無料に。
もっと授業の数を増やしてほしい。4年になって受けてみたい講義がなくて困った。
スポーツ施設を増やしてほしい。
外部とのかかわりあいをもっとしていくこと。
学費等のお金の使い道が悪すぎ。
色々高い。
講義の内容をもっと専門的に深くしてレベルを上げてほしい。
施設を使用した授業が増えれば良いと思った。
人の健康に運動と食は両方大切なものなので、スポ科と栄養科の関わりや連携が必要と感じました。
ウォシュレットのトイレをもっと増やしてほしい。
理系の講義も少し増やして幅広く理解を深められるようにするのいいと思う。プールがほしい。
トイレの見直し。
変なところにお金をかけすぎている。
授業中の生徒の態度やトラブルなどをもう少し目を光らせてほしい。
一つのゼミが地域とのつながりを強くするのはなく、全てのゼミが外とのつながりをもっと強くしていくべき。
よく分からない所でお金を使わないでほしい。
Wifi環境がもう少し充実した方が良く思う。
学校の敷地を広くする。
もう少し厳しくあってもいいと思う。
忌引きはあったほうが良いと思います。
マッサージ。テーピング。野球部(硬式)の態度やトイレ室、その他の施設での使い方が悪い。
怪我に対する対応の仕方等の授業の実施。
松本大学として、授業の中で、貢献できるイベント等の計画できるようにしたら良い。
テーピングのまき方。マッサージのやり方。
駐車場カードの代金が高い→学生証などで、強化部の見直し(特に野球部)。体育館使用の見直し。
先生のプリントを配布する時等の効率が悪い。学費が高すぎる!!!よくわからない所にお金をかけて、納得できない。履修についての説明がわかりにくい。
いまのままでもよい。
学友会の私物化をやめてほしい。コピーするのも学生はお金払ってコピーしているのに、学友会の人は学友会室でタダでコピーしている。
学費返せと思う。年度始めに発行している「スタート」も学友会の自己主張激しすぎ。
発行しているから大目に見ているが、もっと学校のことや部活や行事などを詳しく書いてほしい。
昔のことばっかりやらず、今の生きた情報もほしい。何事にも金の免除。
志の低い者と分けてほしい。時がある。

質問23. 所属学部・学科をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。

(例えば ①こんな授業があったらいい、②こんな制度があったらいい、③こんなところを変えてほしい等、何でも結構です。)

【意見・提案】

総合経営学科

卒論は必須にするべきだ。
先生が授業で、学生を見ながら行ったら良くなると思う。
もっとお金についての授業があったらうれしかった。(株投資等)
すべての講義で座席指定。
社会でつかえることや事情を詳しくつたえる授業があるといいと思った。
授業内容は文句ないです。先生の連絡だけを早めにして欲しい。
経営についてもっと専門的な授業があったら良い。
卸売りに関する講義を増やしてほしい。(営業、商社)
空調設備がおかしいことがあった。
先生ごとの温度差がある。
現状でよい。
生徒の質を上げる。
金の使い方。
グループワークやアウトキャンパススタディを特に総合経営学科でもっと取り入れてもいいと思います。

観光ホスピタリティ学科

講義内で取れる資格をもっと増やしてもいいと思う。
もっと教員間の情報伝達を徹底して欲しいです。
講義に関する説明をもう少し明確にすべきだと思う。
もっとみんなと交流ができる機会。
観光に関する図書が充実。
いろんなこと学びました。
もっといろいろな所に講義として、観光に行きたかった。
社会福祉士を目指す学生のキャリア形成、企業の就活と全然違う(時期など)
ファッション経営や観光経営など、学生が興味がありそうなものを授業であつたらいいと思う。また、他学部の授業をもっと取れるようになったらいいと思う。
もう少し講義のサポートをしてほしいです。わからないところをきけるような・・・。
学科内ではなく、学部内で専門研究が選べるというのではないかと考えた。
進路にあわせた授業がもっとあると、やる気が損なわれなくていい。
これだから、こうだからという目的や動機ははっきりしている授業が増えてほしい。必要性を感じられるようになりたい。

健康栄養学科

熱心に学生たちに教育をしていることが、伝わってきた教員の方もいたので良いと思ったし、ありがたかった。
栄養科は寮がほしい。
授業がびっしりすぎる。休みの日の補講が多い。
もっとネットを使った周知方法があつたりすればいいと思う。イベントのアンケートとかってそういうもの。
他の学部・学科との交流の場があつてもいいと思う。違う分野を学んでいる人の話も聞けば、お互いにより刺激になると思う。
ジビエについてもっと極めてほしい。マナーと接遇の講義の時期が悪く、逆に就活できないとみんな言っていたので、なんとかしてほしい。
資格取得のための授業(栄養演習)は、これからも続けていただきたいです。
土日も勉強をしに学校に行きたかった。
過去問に触れる授業を増やしてほしい。
授業のやり方が良くないと思う先生がいる。授業アンケートがマークシートのため、思ったことが書ける自由記入の欄があればいいと思った。
特になし。
調理師免許もとれるといい。
地域に出て活動したり、地域の人と交流がある学習を増やす。
管理栄養士の資格取得のために、先輩がどのように勉強していたか、お話を直接聞ける機会を何回か設けていただけると参考になると思います。
学部でもふれ合いを増やす！
6号館調理実習室の師範台に鏡をつけてほしい。6号館のWifiが弱い。
今のところは十分です。ありがとうございました。
国試を勉強するための自習室がほしいです。
資格保証制度。
国試対策、薬剤学。
学食や生協のお弁当を栄養科学生が考案して販売したら良いと思います。
卒論が選択式だったらいい。
管理栄養士国家試験に向けた対策を充実すると良いと思った。(傾向の分析に重点をおいたもの)
卒業必須が4年次にあるのは大変。(卒論除く) 国試と卒論両方行うのは大変でした。せめて4年前期に終わると良いなども。
国家試験に集中したい人のためにも、卒業研究はやる、やらない選択できるようにしてもよいと思う。
ジビエについてもっと極めてほしい。
マナーと接遇の講義の時期が悪く、逆に就活できないとみんな言っていたので、なんとかしてほしい。
キャリア以外の講義でも、学部ごと(スポ科、栄養科)の専門の講義があるとさらに面白いと思う。
例えば、栄養科はSATや栄養教育実習をスポ科に対して。スポ科はトレーニング指導や運動指導(?)を栄養科に対して等。
専門科目の授業で、授業毎、初めの10~20分間、何の為にものならない話(自宅の猫が・・・など)をするために使い、最終的に授業範囲まで終わらない、という教員がいた。
栄養科に対してのあつかいがひどいと思います。なぜタブレットは栄養科にないのですか？
栄養科だって使う場面はとて多いと思うのですが、「栄養君」はなぜ一人一つ買わなければいけないのですか？共有できるじゃないですか？何故ですか？
栄養科が勉強できる教室、自由に自習ができる教室がもう少しあると嬉しいと思いました。
フルで授業がある事が多いので、授業が終わってから図書館に行ったりすると、テスト前は席がなくて困ったことが多かったです。

スポーツ健康学科

特にないです。応援しています。

私語が多い者への対応。

再試をすればよい。

栄養科とスポ科で合同実習などあれば、運動の面、栄養の面から両学科学ぶことができ、どちらにもプラスになると思う。

授業中の生徒の態度を見直してほしい。

せっかく良い実験器具があるので、もっとそういったものを使う機会を作るべき。

静かに授業を受けたい。

2階に道を増やしてほしい。芝の広場がほしい。

栄養科にあるような講義をスポ科にも開講してほしい。今のままでは聴講しかできないので。

再試を平等にする。

もっと授業の数を増やしてほしい。4年になって受けてみたい講義がなくて困った。

学部内の交流がなかった。

コミュニケーション能力を高められる実践を含めた授業。図書館の利用時間をもう少し増やして欲しい。

サークル、部活に入っている人が多かったこともあるが、同じ人とか一緒にいられない人ばかりで、

臨機応変に対応できる人を育てるような教育をしてほしい。自立ができてない人が多すぎる。

教員の語れる授業。教員の心が休まる時間をあげてほしい。

他の大学の講義も見てみたい。感じてみたい。知りたい。

テーピングやスポーツに特化した授業。

アウトキャンパスをもっと広げていく。

もっと専門的な授業を増やした方がおもしろい。

授業は少人数のが学びやすいと思う。

2. 松本大学松商短期大学部卒業予定者アンケート

質問1. あなたの所属についてご記入ください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
卒業予定者数	6	70	76	10	83	93	169
回収数	5	62	67	7	77	84	151
回収率	83.3%	88.6%	88.2%	70.0%	92.8%	90.3%	89.3%

質問2. 授業全般を通して、良かったこと、悪かったこと、感じたことを何でも自由に書いてください。

商学科

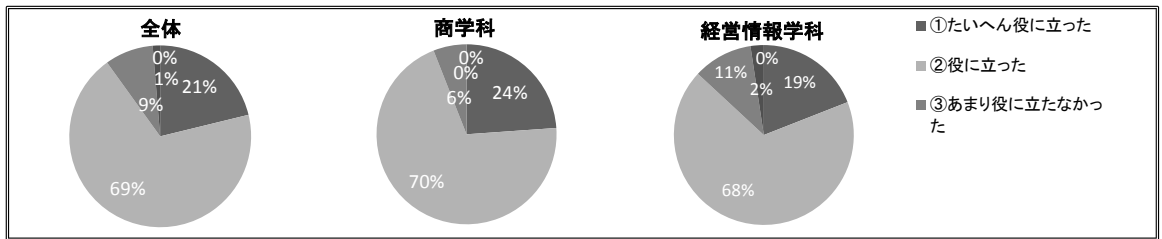
授業内容が充実していて、幅広く勉強ができてよかった。
 全体的に冬の時期の教室が寒い。
 自分のやりたい授業が選択できて良かった。
 資格取得のための授業もたくさんあって、資格もたくさん取れて良かったです。
 良い意味で「自由」だったので、のびのび勉強できた。
 色々な授業を受けることができて良かった。
 全体を通して良かったと思う。
 先生達がフレンドリーなので、分からないことも聞きやすかった。ユニットを通して、一部の分野に詳しくなれて良かった。
 この2年間の間に資格がたくさん取れたことが良かったです。
 騒がしいことが殆どなく、良い学習環境だったと思う。暖房の効きが悪いところをもう少し改善してほしい。前の席は本当に寒かった。
 授業が全般的に分かりやすかった。
 幅広い分野があってよかった。2年ときの授業内容をもう少し充実させてほしいと思った。
 色々な教科をとれて勉強できてよかった。
 空調が悪い部屋があった。
 アロマやネイルやベビーシッターも、授業料とは別にお金を払う意味が分からなかったです。
 後期(2年)は殆ど授業無いですが、あんなに高いお金払うのは少し嫌でした。私立だから仕方ないとは思いますが、2年の後期の授業をもっと楽しいものを増やせば、単位が足りていても授業とろうと思うし、もったいないと思いました。
 友だちが出来ました。
 2年間はあっという間でした。
 お金をたくさん払っているのに、寒い部屋が多かったです。どうにかしてほしいです。ただ教科書を読むだけで、滑舌が悪いから何も分からなかった。読むだけなら教科書だけ買えば済むことで、なぜ授業料払って読み聞かせされているのだろう、と。それなら私にも出来ます。
 2年の授業でやりたいと思えるものが殆ど無かったです。
 2学年後期に授業数が少なすぎる。
 資格に関連した授業が多くて良かったです。
 フィールドが不便でした。
 ユニットが大変。仕組みや説明が良く分かりませんでした。
 生徒を好き嫌いでいる先生がいて、それは嫌だと思いました。
 授業全体がきめ細やかで分かりやすかったです。
 時々、机の下や中にお菓子を食べたあとの袋があること。
 寒い部屋がありました。
 色々な種類の授業が受けれて楽しかったです。ためになりました。ユニットのシステムが少し嫌でした。

経営情報学科

授業数が少ない。
 生活環境がとても良かった。
 マイク、スピーカーの調子が悪く、内容が聞き取れないことがあった。
 駐車場から遠い。
 冷房暖房などの空調が効いており、過ごしやすかったです。232教室は前の方が暖房がなくて寒かったです。
 資格をとれたこと。
 板書が大変でした。
 教室が寒い。
 メモをとる習慣が身についたと思うので良かった。
 楽しい授業は楽しかった。後期の授業にあまり興味を持てなかった。
 友だちがたくさん出来ました。
 授業についていけなくなると、態度に出す先生がいた。
 授業中の室温が、寒かったり暑かったりした。
 資格などたくさん取得できて良かった。自分の学びたい事が学べて良かった。また入学して学びたいと思えたものがあって良かった。
 ユニットは正直いらなくと思う。
 スクリーンの文字が大きくて分かりやすかったです。
 チャイムが聞こえない時や場所があること。
 授業で、一部の生徒が少し騒いでいただけに、その生徒だけでなく、真面目に受けている生徒まで追い出されて、真面目に受けている生徒が出される意味が分からない。1回追い出されたら2回目、3回目も出席だけとって、それ以降の授業は受けさせてもらえなかった。
 休講連絡などが遅いときがあった。
 色々なことが学べて、人としても成長できたと思います。
 授業によっては全く身にならないものもあった。参加型でなく、先生だけ突っ走っている授業もあった。(聞いているだけの授業など)
 ほしい資格がとれることは嬉しかったが、アロマなどが被っていて出来なかったのは悲しい。
 色々な資格の勉強ができて良かった。
 やる気になる授業はやはり自分の好きな授業。先生のやる気も学生に伝わってくるので、大切だと思う。
 怪サー楽しかったです。
 様々な講義があったので、自分の視野を広げることができました。
 先生と気軽に話したり、相談できたことが良かった。
 簿記など難しく嫌だったが頑張りました。Excel本当に嫌いです。
 先生と仲良くできて良かった。検定も色々取れて良かった。
 良くも悪くも、浅く広く学んだ。多くの高校、中学などでは学べないであろう、専門的な分野を学べた。
 取りたい授業が被ると、どちらか選ばないといけないことは辛かった。
 メモ力が必要な授業が多かった。
 生協、少し高いと思った。
 ユニットがだるかったです。
 学生が主体となった行事があるので、自分の考えて意見を出す力や行動力が付いた。
 興味のあることを学べたのはもちろん、興味はあまり無かったけれど、必修や単位、ユニットの不足分のために受けた授業で面白く感じられて、興味の有無だけでは学ぶことが無かったであろう授業を学ぶことができて良かった。
 分かりやすい授業ばかりでとても良かった。
 就職に役立ちそうな勉強が出来たのが良かったです。2号館の学生課の人は親切な人が多く行きやすかったが、4号館の大きい事務所の学生課の人は一部面倒そうに対応するので話しかけにくかったです。

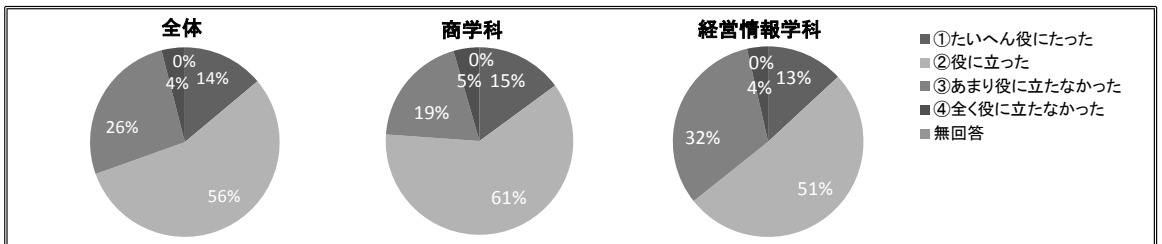
質問3. 選択必修科目での出席レポートは、学生としてのあなたの能力を伸ばす役に立ちましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん役に立った	0	16	16	3	13	16	32
②役に立った	5	42	47	1	56	57	104
③あまり役に立たなかった	0	4	4	2	7	9	13
④全く役に立たなかった	0	0	0	1	1	2	2
無回答	0	0	0	0	0	0	0



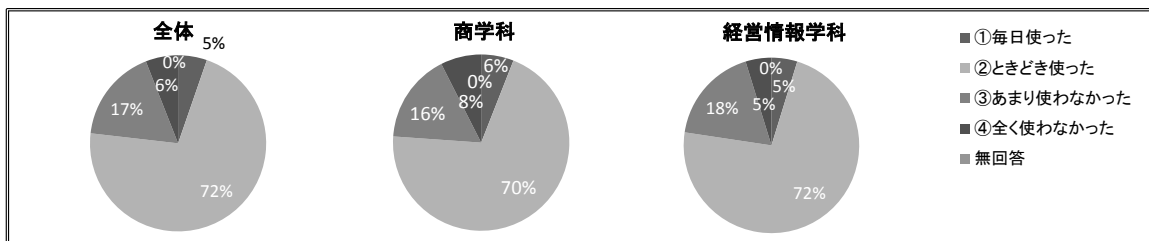
質問4. 1年次前期の「基礎ゼミナール」で学んだ、ノートの取り方、レポートの書き方等の初年次教育は、短大のその他の授業を学ぶときに役立ちましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん役にたった	0	10	10	0	11	11	21
②役に立った	5	36	41	4	39	43	84
③あまり役に立たなかった	0	13	13	3	24	27	40
④全く役に立たなかった	0	3	3	0	3	3	6
無回答	0	0	0	0	0	0	0



質問5. 配布されたモバイルPCは学習に利用しましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①毎日使った	0	4	4	0	4	4	8
②ときどき使った	3	44	47	4	57	61	108
③あまり使わなかった	1	10	11	3	12	15	26
④全く使わなかった	1	4	5	0	4	4	9
無回答	0	0	0	0	0	0	0



【理由等】

商学科

①の理由

家にあるパソコンよりも手軽に使用できたから。レポートで使っていた。卒論やレポートの作成に使いました。

②の理由

レポート作成の時しか使わなかった。
レポート、課題に役立った。
レポートや、調べる時に使いました。
1年生のときはレポートで使ったが、2年生では使わなかった。
授業でも家でも使う機会が多かった。
Word、Excelなど課題の作成。
授業、卒論、レポート。
2年になってレポート課題が減ったから。
レポート、就活。
授業や、学校にいるときに使えた。
レポート提出のとき、Excel、Wordもあって使えた。が重かった。
家にパソコンが無かったので、課題をやるために使いました。

③の理由

自分のパソコンを使っていたから。
使う講義があまりなかった。持ち歩くのに重い。
重い。

④の理由

パソコンをひらくことが面倒。
使いつらい。すぐ壊れる。
学校では図書館のパソコンを使っていて、家では自分のを使っていたから。

経営情報学科

①の理由

レポートなど作成したときにとても助かった。
家でネットするから。
レポート作成の他、就職活動をする上でとても助かった。

②の理由

授業数が少なくなった2年生になってからは殆ど使いませんでした。家にPCがあったというのがあります。
すごく助かった。
提出レポートやプレゼンの用意。
レポートや卒論。
授業で使うときだけ使用した。家では自分のPCを使った。
課題作成のため。
レポートを作るときなどに利用したから。
課題をやる時、または授業で。
Wordの活用に役立った。
レポートが家で書いて助かった。
ゼミの時間等で使う機会があったので。
レポート、調べ物、卒論など。
画面が小さく、使いつらかった。
レポートを作るときなどに利用したから。作成するときに役立ちました。感謝します。
学校でレポートをやるとき。
便利でした。欲しかったです。
課題や疑問点を調べるため。
パソコンが無いから助かったが、使いつらく、たまにしか使用しなかった。

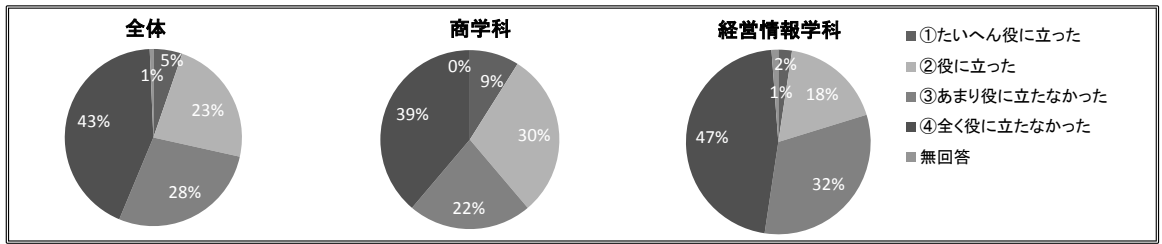
③の理由

PCを使用する講義をあまり受講しなかったから。
2年になって全然使わなかったです。
Wi-Fiのつながりあまりよくなかった。
容量が少ない。
容量が小さくて、卒論を作っていたら全ての画像がとんだ。
使いにくかった。
授業以外で使わなかった。
家のPCで作業することが多かった。
重かったので使いたくなかった。
課題に追われているときにしか使わなかった。

④の理由

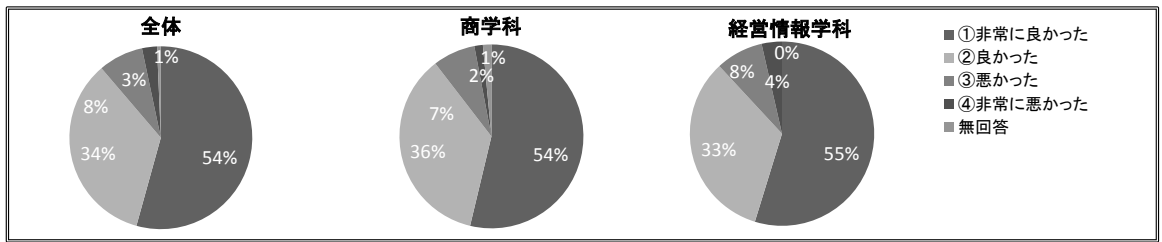
質問6. 携帯メモ手帳「EYE」は学生生活の中で役に立ちましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん役に立った	1	5	6	0	2	2	8
②役に立った	0	20	20	1	14	15	35
③あまり役に立たなかった	2	13	15	2	25	27	42
④全く役に立たなかった	2	24	26	4	35	39	65
無回答	0	0	0	0	1	1	1



質問7. セミナール担当者はあなたの学生生活の良きアドバイザーでしたか？

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	3	33	36	3	43	46	82
②良かった	2	22	24	2	26	28	52
③悪かった	0	5	5	2	5	7	12
④非常に悪かった	0	1	1	0	3	3	4
無回答	0	1	1	0	0	0	1



【理由等】

商学科

①の理由

真摯に対応していただいたり、相談に乗っていただきました。
 明るい雰囲気楽しかったから。
 就活に対して1年のときから熱心に指導してくれたので、安心感があった。
 面白くて、ゆるくて、楽しいゼミでした。
 色々相談に乗ってくれました。
 就職に関するアドバイスをもらった。
 優しく、何か心配事があると相談に乗ってくれた。
 母親のように何でも話せた。が、ゼミ担ではない男性の先生の方が色々相談できたり、たくさんお話ししてくれた。
 たくさん怒られたが、担任的存在でたよれる場所だった。
 何でも話せる先生です。
 いつでも話を聞いてくれた。
 何でも相談に乗ってくれたので嬉しかったです。話し相手にもなってくれたので、それも嬉しかったです。
 就職活動や世間話等色々。
 採用情報などをメールでもらえたり、ゼミの内容も役に立ったと思います。
 文章を変えて、より良い志望動機にすることができた。

②の理由

熱心だった。
 主に卒業レポートでお世話になりました。
 色々相談できた。
 厳しい先生だったからこそ、卒論が卒論らしくなって良かったです。ありがとうございました。
 とても優しい先生でした。
 相談に乗ってくれた。
 話しやすい。

③の理由

アドバイスして欲しいときにしてもらえない。

④の理由

方向性がバラバラ。言っていることがころころ変わって、何を伝えたいのかが分からない。自分のゼミを良いゼミと思っていない。

経営情報学科

①の理由

就活等でも相談に乗ってもらえたから。

先生が良くしてくれました。

何でも相談に乗ってくれた。

小さいことまで気にかけて、様々なアドバイスをくれた。

学校のこと以外も、話をたくさん聞いてくれた。

就活以外にもたくさん相談に乗ってもらえた。

大好きです。

就活のとき、親身になってくれた。

就活で辛かったときなど励ましてもらったり、助けてもらったりしてとてもありがたかった。感謝しかないです。色々なアドバイスもくれた。

親身になってくれた。

就活や卒論のときに助けてもらえて良かった。頼りになった。

大変お世話になりました。

スケズケ聞くタイプではなかったから相談しやすかった。

色々話も聞いてくれたり、いつも気にかけてくれていた。

就職のときにとても協力してくれて助かった。

就活のとき、履歴書の添削など助かりました。

ゼミ担当大好きです。

厳しかったが、就活でアドバイスを的確にくれた。

②の理由

就活しているとき、いいアドバイスをしてもらえた。

話しやすかった。

進路など色々相談に乗ってもらった。

よく相談を聞いてもらえた。

お土産をたくさんくれた。

楽しかった。

ダメなところはしっかり言ってくれて良かった。

③の理由

個人的なことにあまり踏み込まないで欲しい。

いて欲しいときにいないときがあったから。

あまり話を聞いてくれなかった。

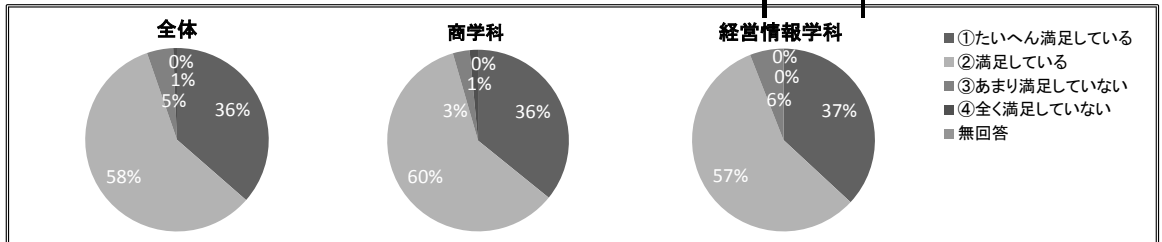
親身になって相談に乗ってくれなかった。

④の理由

話が合わない。

質問8. 大学には、学生課・教務課・キャリアセンター・情報センター・総務課等があり、事務職員はそれぞれのところで皆さんのサポートをさせていただきます。皆さんにとって事務職員の対応はどうか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	2	22	24	2	29	31	55
②満足している	3	37	40	4	44	48	88
③あまり満足していない	0	2	2	1	4	5	7
④全く満足していない	0	1	1	0	0	0	1
無回答	0	0	0	0	0	0	0



【理由等】

商学科

①の理由

丁寧な対応をしていただいて良かった。
 対応が早かった。
 キャリアセンターの方、良かったです。
 いつも親身で優しく対応してくださいました。
 就活のとき、とてもお世話になりました。
 事情があって面接の申込が遅くなってしまったのに、忙しい中対応していただけて本当にありがたかったです。
 無事就職できたのも、キャリアセンターのスタッフのおかげです。ありがとうございました。
 困ったときなどすぐに対応してくださり、ありがたかった。

②の理由

親身になってくれることが多かった。
 就職関係で対応を多くしてもらったから。
 丁寧に対応していただいたので良かった。
 キャリアセンターは就活で大変お世話になりました。
 17:00に閉まるのは早い。
 丁寧に対応していただき、ありがとうございました。
 皆優しくかった。
 キャリアセンターに過去の就職情報があったり、相談ができたので参考になりました。

③の理由

キャリアセンターの先生たちは皆優しいのに、学生課や教務課の先生たちは皆冷たくて悲しかった。
 連絡が遅い。態度が悪い人がいた。

④の理由

態度が悪い。話しかけづらい。来ているのに無視して仕事をしている。メールの連絡が遅い。

経営情報学科

①の理由

親身になってくださったから。
 情報センターとキャリアセンターの方々がとても親切で親しみやすかったです。ありがとうございました。
 とても丁寧でした。
 困ったことがあった時に助けてもらった。
 たくさん声を掛けてもらったし、距離が近く感じました。楽しかったです。
 就職の資料が多くあり、分かりやすかった。
 キャリアセンターの先生達が話を聞いてくれた。
 学生課、キャリアセンターをよく利用していてとても助かった。
 皆さん優しくかった。
 優しく説明してくれて助かった。

②の理由

優しくかった。
 基礎教育センターが楽しかったです。
 優しく丁寧に接してくれました。
 情報センターにはお世話になりました。
 キャリアセンターの人が親切だったから。
 話を聞いてくださり、助かりました。
 よく相談に乗ってくれた。
 就活において、よくサポートしてもらった。
 課によって人が冷たい。
 教務課は親切でした。キャリアセンターは「どこでもいいから就きなさい。」という印象が強かった。

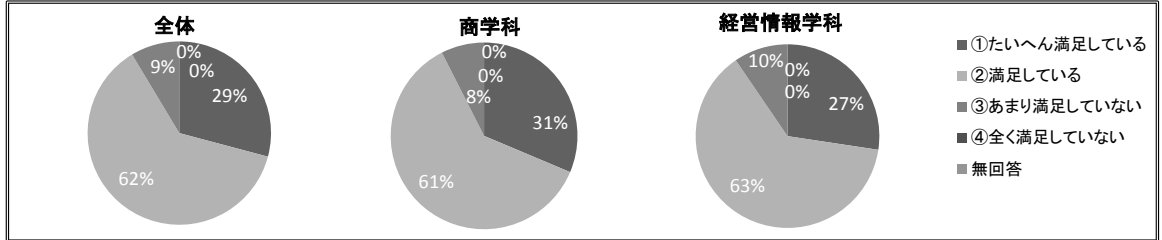
③の理由

学生課や教務課の中の人に、冷たい態度をとられたときがあった。

④の理由

質問9. あなたは本学の施設・設備(コンピュータ教室、体育館、教室、グラウンド、駐車場、7号館1階コソールム等)に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望などお気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	1	20	21	2	21	23	44
②満足している	4	37	41	5	48	53	94
③あまり満足していない	0	5	5	0	8	8	13
④全く満足していない	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	0	0	0



【理由等】商学科

①の理由

パソコン室が多くて助かりました。
パソコン室を19時くらいまで使いたかった。
コンピューター教室、プリンター助かりました。
使いたい時に使えて便利でした。

②の理由

キレイに保たれていて良かった。
クーラーや暖房を強化してほしい。
駐車場の料金が高い。
Wi-Fiが繋がらない。
駐車場料金をとる意味が分かりませんが、他は普通だと思います。
ものづくりのパソコン、ありがたかったです。
寒暖差が激しすぎる場合があります。
232教室で、後ろの方は暖かいのに、前が寒すぎて、差がありすぎる。
第二駐車場の出口から、通行する車が見えづらいので出にくい。
印刷も出て、役立った。

③の理由

図書館の個人の席がもっと欲しかったです。
駐車場が高すぎます。

経営情報学科

①の理由

利用しやすいから。
全て良かった。
PCルームは遅くまで開いていて良かった。

②の理由

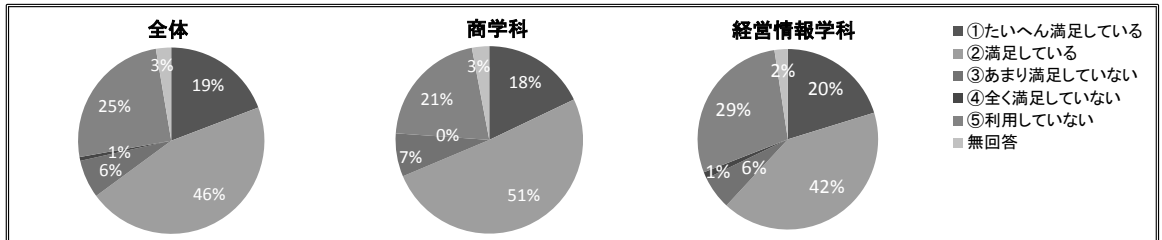
コンピュータ教室は勉強や自由時間によく利用したから。
駐車場が遠いこと、高いこと。
コンピューター室のソフトを統一してほしいです。
Shadeが入っていない教室が多くて困った。
空調やイスのような座る場所が、多少問題ある時もありましたが、満足しています。
時々机が汚かったこと以外は満足しています。
冬、下の方の席のときにすごく寒かったです。
たまに教室が寒いときがあった。
232のように大きい教室の前側が寒かったこと以外は満足している。
パソコン室それぞれに入っていないソフトがあって、違う授業でそのパソコン室を使っていると課題ができないから。
コモン以外、もう一つくらい、皆が集まれる大きいホールを作ったほうがいいのではと思った。コモンで座れない時があるので。
パソコン設備が良かったと思う。
暇つぶしになった。
第一駐車場の満車の表示が見えないため、混雑する。パーまでの距離があるので、後ろから詰められて立ち往生しているのを見かける。

③の理由

トイレのジェットエアーを使えるようにしてほしい。
駐車場が短大から遠いと思う。
ソファが欲しい。
パソコン重い。
Wi-Fiが繋がりにくくて、コンピュータが重い。

質問10. あなたは各サポートセンター(基礎教育センター、国際交流センター、地域づくり考房『ゆめ』、図書館、健康安全センター等)に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	1	11	12	1	16	17	29
②満足している	2	32	34	2	33	35	69
③あまり満足していない	0	5	5	1	4	5	10
④全く満足していない	0	0	0	0	1	1	1
⑤利用していない	1	13	14	3	21	24	38
無回答	1	1	2	0	2	2	4



【理由等】

商学科

①の理由

先生方に良くしてもらいました。

②の理由

図書館に、たくさん机やパソコンがあって、自習できた。
細かいところまで教えてもらった。勉強以外の話もできて、息抜きになった。
使用した場所と使用しなかった場所の差がありましたが、それなりに満足しました。
図書館のみ使用していた。あとは何をしているのかあまり知らない。
図書館の個別の机が良かったです。
図書館のPCをもう少し増やして欲しいです。
基礎教育センターは利用して良かった。
図書館がとても良かったです。

③の理由

保健室の方の対応が悪く、転んだのに傷の範囲が収まらない絆創膏をされて痛かった。

④の理由

⑤の理由

経営情報学科

①の理由

図書館が好きです。
図書館をたくさん利用しました。地下1・2階とあって、本も充実していて良かった。国際交流センターでは本当にお世話になりました。
図書館で過ごす時間が多く、とても良かった。一人で座れる場所があるのは嬉しい。

②の理由

図書館しか利用していませんでしたが、とても過ごしやすかったです。もう少し本の種類があればいいなと思いました。
基礎教育センターではとても良い対応でよかったです。
健康安全センターの先生の対応が雑すぎる。
利用していないところもありますが、利用した際は良くしていただきました。
基礎教育センターの先生は、親身になって優しく教えてくれた。

③の理由

健康安全センターの場所が分かりづらかった。
配布PCが図書館で使えず、レポートが出来なかったこと以外は満足している。

④の理由

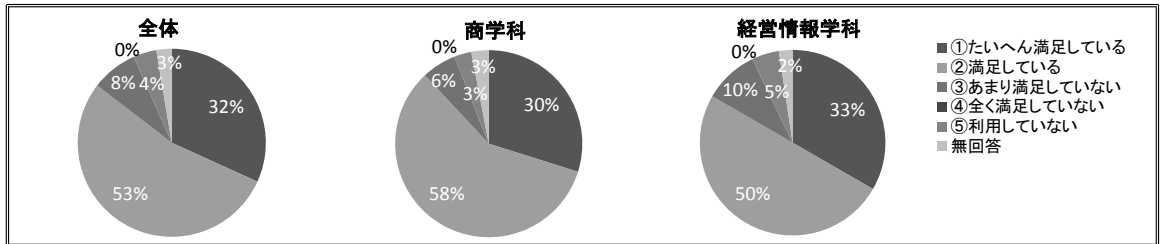
健康安全センターに数回行ったが、職員が居たためしが無い。

⑤の理由

興味がないから。

質問11. あなたは生協のフォレストホール、ラウンジ、購買、ミニショップに満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	2	18	20	1	27	28	48
②満足している	1	38	39	4	38	42	81
③あまり満足していない	0	4	4	1	7	8	12
④全く満足していない	0	0	0	0	0	0	0
⑤利用していない	1	1	2	1	3	4	6
無回答	1	1	2	2	2	2	4



【理由等】

商学科

①の理由

ほぼ毎日利用しました。
 少し安く提供してくれていて、たくさん利用させていただきました。
 品ぞろえが良い。
 お弁当持参してなくても、あるおかげでとても良かった。

②の理由

品揃えが良かったです。
 冬は寒いので、購買の時間をもう少し延ばしてほしいです。
 生協で、レシート欲しいと言いくい。
 美味しいものがありました。
 時間によって買えるものが限られる。
 生協のお弁当などはもう少し安かったら嬉しい。

③の理由

ミニショップの営業時間が短い。もっと長くして欲しい。
 高い。品数が少ない。
 パンがまずかった。
 7号館のところが14時に閉まってしまうので早すぎる。コンビニくらい高かった。

④の理由

⑤の理由

経営情報学科

①の理由

短大の生協の営業時間をもう少し延ばしてほしい。
 近くにあるから使える。
 少し品数が少ない。
 結構利用し、思い出の一つになりました。
 ラウンジのご飯がとても美味しかった。

②の理由

文具やUSBを売っているところが良い。
 学生生活に必要なものが揃っていた。
 開いている時間が短い。
 ミニショップの昼食時の商品在庫をもう少し増やして欲しいです。
 7号館もずっと開いていて欲しい。
 時間が短くて困ることもありますが、よく利用させてもらいました。
 ドーナツ販売、美味しかったです。
 生協はとても役に立ちました。
 たまに使うくらいだったが、お弁当などお腹に溜まるものがすぐに売り切れるのは辛かったです。
 便利だったが、7号館の購買の営業時間が短いと思った。
 美味しかったです。
 ミニショップの開いている時間が短い。

③の理由

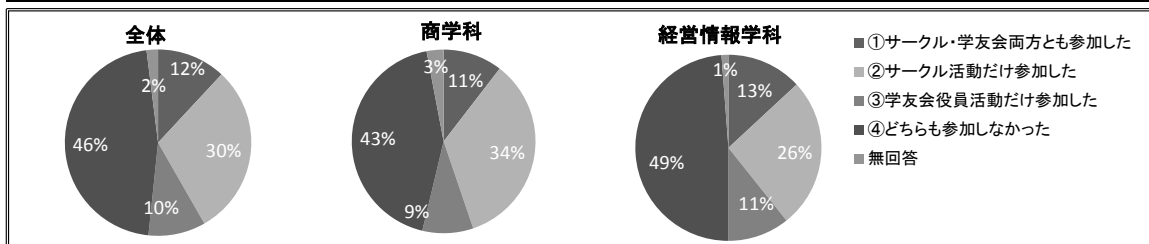
値段が高い。
 短大側のミニショップの閉まる時間が早いと思った。

④の理由

⑤の理由

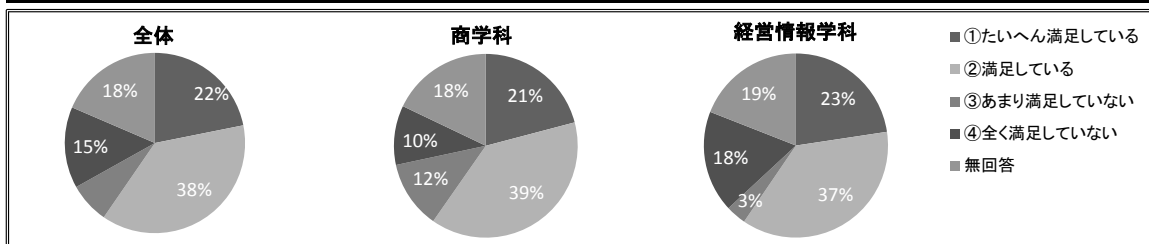
質問12. あなたはサークル活動や学生会役員活動に参加しましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①サークル・学生会両方とも参加した	1	6	7	1	10	11	18
②サークル活動だけ参加した	2	21	23	2	20	22	45
③学生会役員活動だけ参加した	0	6	6	0	9	9	15
④どちらも参加しなかった	1	28	29	4	37	41	70
無回答	1	1	2	0	1	1	3



質問13. あなたはサークル活動や学生会活動に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	1	13	14	1	18	19	33
②満足している	2	24	26	4	27	31	57
③あまり満足していない	1	7	8	1	2	3	11
④全く満足していない	0	7	7	1	14	15	22
無回答	1	11	12	0	16	16	28



【理由等】

商学科

①の理由

良い経験になりました。
来年度のダンス発表の時間を削らないで、たくさんあげてください。

②の理由

楽しかったです。
ファッションサークル楽しかったです。
学際での発表の場があったので良かったです。

③の理由

サークルは支給してほしかった。学生会活動が大学のスポーツ大会？と比べて予算が違いすぎて悲しくなりました。

④の理由

参加しないから。

経営情報学科

①の理由

楽しかった。
フレンドリーな人が多かった。
交流が増えた。
海外の人達と交流しました。いい経験になりました。
特にやることなく良かったです。
両方ともやっていたことで、責任感を持つことや、色々なことが勉強になった。
学生会を通じて、自分の自信や行動力、社会へ出るうえで必要なマナーなど身に付いた。

②の理由

大会楽しかった。
1年のとき、最初に入ろうと思ったサークルがあったのですが、学生課に手続きをしに行ったら「活動してないよ。」と言われてしまいました。活動していなかったり、すでに部員が居ないサークルは大学のHPやパンフレットから名前を消すか、活動していないことが分かるよう表記しておいてもらえると助かります。

③の理由

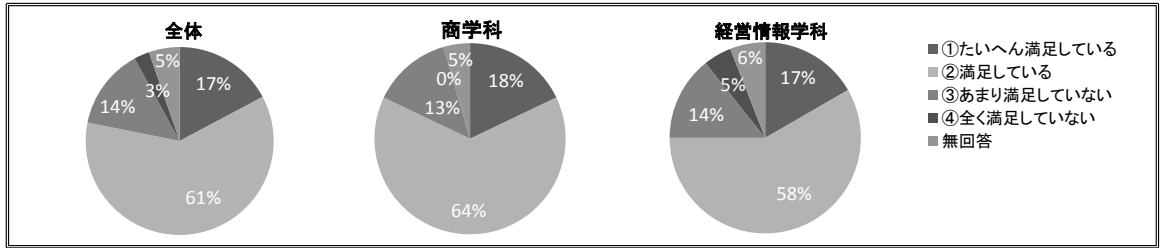
あまり参加していないから。
体育館を使えるときが少なかったから。

④の理由

参加していないから。
活動しているの？という感じでした。テニスやりたかったです。

質問14. あなたは本学の学生会行事(大学祭、新入生歓迎会、体育大会、クリスマス会等)についてどのように感じましたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	1	11	12	1	13	14	26
②満足している	4	39	43	4	45	49	92
③あまり満足していない	0	9	9	1	11	12	21
④全く満足していない	0	0	0	0	4	4	4
無回答	0	3	3	1	4	5	8



【理由等】

商学科

①の理由

学祭スタッフをやってみて、改めて楽しさが分かった。
学祭といった感じでよかったが、佐藤健見たかったので、抽選が嫌でした。
とても楽しかったです。
大学祭、体育大会、騒がしく楽しかった。

②の理由

お金をかけて豪華。
色々な行事があって楽しかったです。
模擬店は色々ハブニングがあったが楽しかった。
体育祭、何だかんだで楽しかったです。
全部楽しかったです。
大学祭で、ガス関係や注意事項についての説明が曖昧なときがあった。
体育大会の運営のやり方については③であまり満足していない。指示が届いていないと思った。

③の理由

体育大会は自由参加にするべき。
1年や2年のとき、ルールが分からないところがあった。
体育大会がいつもグダグダで良くなかった。時間のことや運営体制をしっかりとできないなら、やらないほうがよい。
あまり参加していないので。
全員が参加できる時間にやってほしかった。

④の理由

経営情報学科

①の理由

大学祭は最高です。
豪華な大学祭。
楽しかったです。

②の理由

クリスマス会などでコモンルームを通れなくなるのは迷惑だと感じた。
大学祭の食べものが美味しかった。
もっと好きなアーティストだったら良かったな、と。
主催している学生が頑張っていました。
このような行事があると学生生活も楽しみになっていいと思いました。
ゼミの人と仲が深くなって良かった。
学際で、ゼミの人数が少なかったので大変だった。
進行等に不備を感じることはありましたが、参加した際は楽しませていただきました。
今年の体育大会は、お弁当が美味しくなかったり、スポーツとは言えないような種目があり、微妙でした。
体育大会など、もう少しスムーズな進行、皆が楽しめる競技選びだったら良いかと思います。
クリスマス会など、有志なのにたくさんお金を使うことは好きではないです。
体育大会のルールが厳しすぎたので、もう少しやさしくしたら良い。

③の理由

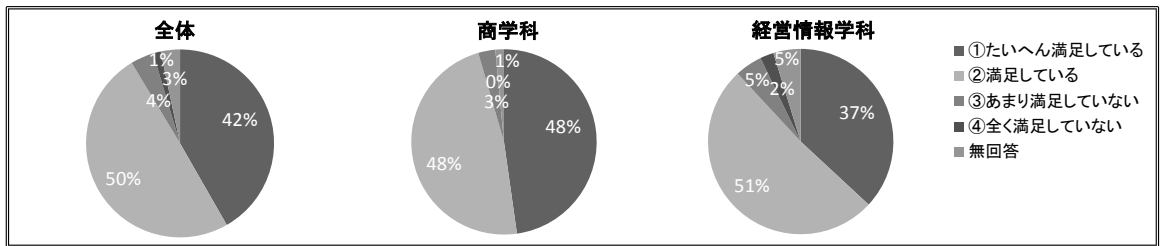
体育大会いらないです。
授業がある時にやられても。
進んで参加したいとはあまり思えなかった。
体育大会でいつも終わりがバタバタしていたり、お弁当の量が多くて困ったから。クリスマスは授業の開始と被って行けなかった。
体育大会が楽しくなかったから。

④の理由

皆が楽しめるイベントではなかった。
周りを見れてなかった。

質問15. あなたは勉学、生活、進路を含めて、2年間の短大生活に満足していますか。満足していませんか。

	商学科			計	経営情報学科			合計
	男	女	計		男	女	計	
①たいへん満足している	0	32	32	3	28	31	63	
②満足している	5	27	32	2	41	43	75	
③あまり満足していない	0	2	2	0	4	4	6	
④全く満足していない	0	0	0	1	1	2	2	
無回答	0	1	1	1	3	4	5	



【理由等】

商学科

①の理由

非常に楽しい学生生活を送れました。
 検定や、やりたかった勉強ができたので良かったです。
 友だちや先生と仲良くなれて良かった。
 充実していたと思います。
 全て楽しかったです。
 色々あったが、結果良かった。
 2年生の後期はとる授業が少なくて暇でした。
 色々な資格を取得することができ、充実していたと思う。
 自分の力になったと思います。
 色々な資格も取れたし、友だちと遊んだり、ゼミがとても楽しく充実していたから。

②の理由

楽しい仲間に出会えた。
 出会えた皆に感謝。
 面白い授業に打ち込めた。
 やりたかった心理学やボランティア活動で、とても充実した生活を送れました。
 パソコンの使い方が勉強になりました。

③の理由

2年が短い。

④の理由

経営情報学科

①の理由

しっかり学べたから。
 怪サー楽しかった。
 2年間、あっという間でした。
 新しい経験をたくさんしました。この2年間は私の宝物です。
 楽しい思い出が増えました。
 自分の学びたい事も学べたし、自分の成長もできたと思うので良かった。
 とても楽しかったです。

②の理由

2年が短いです。
 勉強に力を入れたので、就職もスムーズに決まった。
 色々な資格がとれたので満足です。
 友人にも恵まれ、満足できる2年間でした。
 愉快的仲間たちに出会えました。
 自分たちのペースで学べた。
 ゼミ選択を失敗したかと、少しもやもやしています。
 就職が無事に決まった。

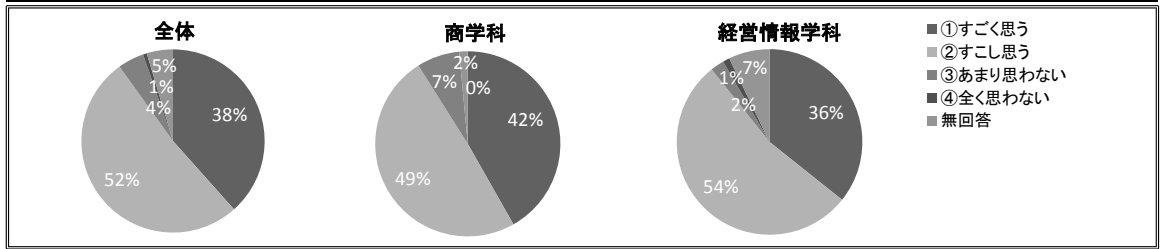
③の理由

もっと人との交流が多いと良かった。

④の理由

質問16. あなたは「松本大学松商短期大学部」を誇りに思えますか。

	商学科			計	経営情報学科			計	合計
	男	女			男	女			
①すごく思う	2	26	28	3	27	30	58		
②すこし思う	3	30	33	2	43	45	78		
③あまり思わない	0	5	5	1	1	2	7		
④全く思わない	0	0	0	0	1	1	1		
無回答	0	1	1	1	5	6	7		



質問17. 松本大学松商短期大学部および所属学科をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。

(例えば ①こんな授業があったらいい、②こんな制度があったらいい、③こんなところを変えてほしい等、何でも結構です。)

【意見・提案】
商学科

祝日もちゃんと休み。
駐車場の料金をもう少し安くしたほうがいいと思います。
検定結果をメールで教えてもらえたら便利だと思った。特に夏休み中とか。
教室によって使えるソフトが限定されるので、それがパソコン教室全てで共有になると授業外でも学習できて良いと思いました。
やりたい授業が重なる時があった。1年の時は2年でやれば良いと思うが、1年生で全て終わらせておきたいと思ったので、補習制度などあればいいと思った。
食事のスペースが少ないと思いました。食べてもいい教室があるという話があったが、それがどこなのかわからなかった。もっと分かり易くしてほしいです。
ユニットは無くても良い気がする。2年の後期は授業自体が少ないからユニット取りづらい。
駐車場を安くしてほしいです。
学内のWi-Fiがつながりつながらなかったりして困る。5号館の3F、6限の時間に全く利用できない。
授業をやっているときにタブレットPCを使うこともあるので、きちんとつながるようにしてほしい。
生協のお弁当の種類(カップラーメンとか)を増やしてほしい。
2年生のときの授業を増やすといいと思う。
1号館にロッカーがあってもよかった。
生協の時間を長くしてほしい。
部屋全体に冷暖房が効くようにしたらもっといいと思いました。
2年後期に簿記演習の講義をやってもよかった。
駐車場、たまに使用したいが、回数券?面倒です。
授業が週1回なので、被ってしまうと取りたい講義が取れなくて残念。なるべく被らないようにしてほしい。
Wi-Fiの接続状態をもっとよくしてほしいです。
商学科、経営情報学科のくくり、必要ですか?就活の時に違いを何回も聞かれ、困りました。

経営情報学科

駐車場を広くしてほしい。
トイレの手を乾かす機械、作動させてほしいです。ハンカチを持っていない人がそのままボタボタ床にたらしながら出て行っているの、掃除の方にも迷惑だと思います。
今のままでも十分満足。
ユニットが面倒だった。
学生が主体となって行動するイベントをもう少し学生に伝えてほしい。
ロッカーの返却期間を、テスト期間中から始めた方がよい。
教室が寒すぎる。
学費が高いと思います。
受けてみたい講義の日時が被っていて、どちらかしか選べなかった。何とかしてほしい。
取りたい授業が被っていて取れないものがあったので、考えてほしい。ユニットが複雑。
もう少しお昼を食べるスペースが増えるといいと思いました。
2年後期は授業が少ないのでユニット取りづらいです。
語学の種類をもう少し増やしたらいいと思う。キャリアアクリエイトで進学や就職希望していない人まで参加しなくてもいいと思う。就職決定者は出席しなくても良い時に出席させられるので。
2年の時に行ったCGの基礎ですが、1年の時に行って欲しいと思った。就活で休まないといけないときがあるので。
学科の違いが無いので、1つにすればいいと思う。
修学旅行。
取りたい授業が2・3回被っていた期があり、そこを分散して欲しかったと思います。
アロマなどをたくさん増やしてほしいです。ペン字もやりたかったです。
ユニットが組みづらい。
ユニット制度いらぬです。
手話の授業で、長期休みの間に集中講義があれば、最初の資格がとれると先生がおっしゃっていたので、集中講義をしてほしいです。
もっと図書館のパソコンと印刷機を増やしてほしい。
授業中、前の方が寒い。

3.松本大学松商短期大学部在学生アンケート

質問1. 所属について

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
在籍者数	16	102	118	15	96	111	229
回収数	12	92	104	15	87	102	206
回収率	75%	90%	90%	100%	91%	92%	90%

質問2. あなたが受講した授業の中で良かったこと、悪かったことなど、感じたことを何でも自由に書いて下さい。

商学科

どの講義もとてもおもしろく、自分の為になりました。
 受講中、話し続ける生徒がいたが、注意する先生がいて良かった。
 体育は楽しい。
 先生がしっかり教えてくれる授業は楽しい。
 ユニットが面倒くさい。
 プロジェクターなどを用いて分かりやすかった。
 ハングルの勉強が楽しかった。アウトキャンパスと検定が被っていたことが悪かった。
 英語を教えて下さった女の先生が大好きです。授業がとても面白くて、その先生のおかげで英語が好きになりました。
 テスト範囲と指定した場所からテストを出さないところがどうかと思う。
 後期の成績は大事だと聞いていたのでテスト勉強頑張ったが意味がありません。改善してください。
 部屋が寒すぎる。
 医療事務講座。
 全く同じ問題を授業で何回も解いて、同じ問題は家で解けるので違う問題をやりたかった。
 悪かったことは、工業簿記の後半の授業で同じ問題が5回くらい出て、後期試験まで同じ問題で嫌だった。
 商業簿記で、先生が週ごとによって変わってやりにくかった。
 メモ力がついた。
 大きい教室の前の席がとても寒いです。
 どの授業も役に立ってよかった。
 自分がなりたい就職の授業、とても役に立って勉強になりました。
 席を指定にしてもうるさい人がいて、集中できない。全ての授業で指定してほしい。
 真面目にやる時はやるなど、メリハリをつけられたので良かったと思います。
 初めて勉強する科目などをしっかり理解することができた。(簿記やマーケティング心理学など)
 先生によって分かりづらい授業もあった。(黒板の字が小さくて読めない等)
 基本、どの授業も良かったと思います。例えば、サービス、マーケティングで一部うるさかったです。
 知らなかった知識が増えた。
 色彩、カラーコーディネートで先生の話が心に残った。
 分かりやすい時は分かりやすい。
 簿記(商業)は、対策をしっかりしてくれて良かった。
 PCの調子が悪い時があった。Wi-Fiをつなげてもうまくつながらなかった。
 232などの大きい教室で、冬だと前と後ろの温度差がかなりあって、前のほうが寒いので何とかしてほしい。
 パソコンの不調が多かった。Wi-Fi環境が悪い。
 教科書をひたすら読んでるだけの授業があって、とっている意味が分からなかったです。
 他の教科もあるのに課題が多くて困った。
 他の授業と補講が被っていることがあった。
 受講して、初めて知ったことと興味を持ったことがあったので、受講してよかった。体育が一番楽しかった。
 今まで習ったことがなかった新しいものを学べたことが良かった。それにより、自分の考え方が多少変わった。
 逆に、自分に合わない、面倒くさいとおもうものもあった。
 ソーシャルスキルの講座では、呼吸法やリラクゼーション法などの体験をし、実際にコミュニケーションなどをしてアサーションなどの対人関係を教わったりした。先生が分かりやすく説明してくれたので良かった。
 簿記の授業でほとんど問題を解かず説明ばかりで、しかも説明も下手で、先生の自己満足な授業と感じた。
 アロマやネイルなどとても楽しかったし、生活で使えた。
 資格がたくさん取れて良かったです。
 大きい教室の前の方の席が寒い。
 割と全て良かったし、学べて楽しかった。
 分からなかったり疑問に思ったことを丁寧に教えてくださる先生ばかりでとても良かったです。
 先生の都合で補講が多い。補講の時は皆出席してほしい。
 分からないところや分かりづらいところをプリントを作ったりして丁寧に教えてくださり助かりました。
 高いお金を払っているのに、トイレの乾燥機くらい付けてほしい。そして寒いです。
 ソーシャルスキルの授業が良かった。実際に使えるスキルが身に付いたと思う。
 簿記の授業では、これからの就職活動のためになる資格を取れたので、短大で勉強してきて良かったと思います。
 前期・後期と受けた心理学の授業は、ストレスへの対処法や人との付き合い方など日常生活で役に立つこともあったり、とても興味を持って授業を受けられました。
 新たな知識が身に付いたかなと思います。
 簿記の講義は楽しかった。
 「分からない」と言えばどの先生も丁寧に教えてくれるところは良かった。人数が多すぎて満席の講義はしょうがないかもしれないが、出来れば人数を半分にして受けることが出来ればありがたかったと思った。
 テスト範囲が伝わらず、勉強のしようが無い。

経営情報学科

自由席と指定席があり、気分転換に丁度いいと思った。

簿記が楽しかった。

学生のことをよく考え、気を使ってくれる人がいたので良かった。

私語がうるさく集中できなかった講義があったが、全体的には集中して講義に臨めたので良かった。

教科書をただ読む授業はつまらなかった。

どの授業も興味をひかれる内容で、学べて良かったです。

パソコンの調子が悪い。

暖房が効きすぎたり、寒かったり、差が激しい。

自分が知らないことなど、様々なことが学べて良かったです。

ITパスポートの授業が、メモをとるわけでもなく、ひたすら話を聞くだけだったので殆どの人がだらけていた。改善するべきだと思います。

絵本・・・色々な人と関わって仲良くなれたからです。

簿記やExcelなど、資格を取るために頑張れて良かった。

体育の授業がとても楽しかった。来年もあってほしい。

体育楽しかった。2年の前期にも体育がほしい。

法学概論。良かった点は、映像を作って分かりやすく説明していたこと。悪かった点は、足でリズムをとって気が散ったこと。

サービスマーケティング。良かった点は、先生の話が面白かったこと。悪かった点は、出席レポートが面倒。

Excelの使い方が上手になったこと。

色々な検定に挑戦できて良かった。

簿記の進むスピードが遅かったので、もっと早くしてほしい。

座席指定の授業がたくさんあり、そのおかげで授業に集中して取り組むことができたので良かった。(私語が少なくなったため)

先生も皆いい人でした。

授業に興味あることなので、毎日学校に来るのが楽しみになって良かった。

授業は楽しいものが多かった。授業によって人が多いと席が狭く感じました。

黒板に書いた字が小さくて読めない時があったり、早口で何を言っているか分からない時があった。

パソコンの授業が分かりやすく良かった。

レポート作成が大変だった。

就職に役立つ講義や話を聞いた。資格が取れた。

楽しく受けられる授業もあったし、分からないことは先生に聞けたので良かったです。

検定合格に向けての対策をしているところがよかった。説明が分かりやすいのが良かった。

とある先生が説明ばかりでなかなかやりにくく、問題を理解するのに時間がかかった。

心理学の授業とExcelの授業がとても受けて楽しかったし、身に付いたと感じました。

簿記はついていくのが必死でした。もっとクラスを分けて、なるべく少ない人数が良かったと思う。

周りがうるさく集中できない時があった。座席指定が良い。

つまらない授業が多い。評価に受講態度が含まれていない授業があり、レポート、テストで100%の評価をされるのが辛かった。

寒いので、空調をどうにかしてほしい。

資格取得のために対策をして下さって合格することができたので良かったです。

座席指定で間隔が狭かった。

メモ力は大切だと思うのですが、話ばかりの授業だとノートをとることはとても大変だと思いました。

書道。

様々な資格が取れて良かった。冷暖房が効く場所と効かない場所があるので少し困る。

講義室がとにかく寒かった。(232や121)

ペン習字が良かったです。

受講しやすかったです。

ネイルアートの授業が良かった。

スライドを使う授業で電気が付いているので、前から見にくい。

メモ力が付いた。

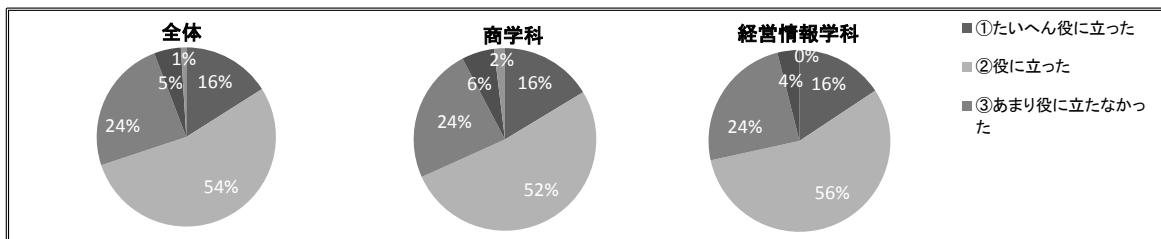
ソーシャルスキルが良かったです。キャリスタの英語が分からなすぎて泣きそうでした。

今まで自分が興味のない科目が意外と楽しく、分野が増えて良かった。

232の教室が寒い。

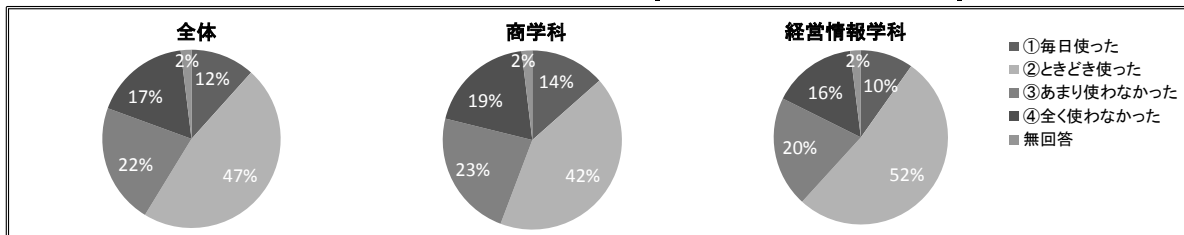
質問3. 今年度の「基礎ゼミナール」(4月～7月)の中で行われた初年次教育(ノートのとり方、テキストの読み方、要約の仕方、図書館の利用、レポートの作成など)の内容は、その後の授業で役に立ちましたか？

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん役に立った	3	14	17	2	14	16	33
②役に立った	6	48	54	7	50	57	111
③あまり役に立たなかった	3	22	25	5	20	25	50
④全く役に立たなかった	0	6	6	1	3	4	10
無回答	0	2	2	0	0	0	2



質問4. 配布されたiPadは利用しましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①毎日使った	2	12	14	1	9	10	24
②ときどき使った	4	40	44	8	45	53	97
③あまり使わなかった	2	22	24	3	18	21	45
④全く使わなかった	3	17	20	3	13	16	36
無回答	1	1	2	0	2	2	4



【理由等】

商学科

①の理由

調べたいことがあると利用していた。
wordなど使った。
英語の学習に。
復習でGlexaを見るのに役立てた。
暇な時間の暇つぶし。画面が大きいので扱いやすい。
ゲームで使った。
シラバスやグレクサを見ました。
課題などで使用した。

②の理由

図書館の授業で使っていたから。
商業簿記の答えを見るため。
使っていないのに充電がすぐに無くなる。
簿記の授業で使った。分かりやすかった。
Glexaを開く時に使った。少し重い。
簿記でしか使わなかった。
商業簿記で使うので、時々資料を見返したりする時に使いました。
健康管理の宿題(メソフィア)で漢字検定の勉強ができるアプリを使っている。
自宅学習などに使いました。
使う講義が1つしかなかった。
使うと言われた講義以外では使う機会が無かった。iPadの動作が重くて使いづらかったことと、Wi-Fiにつながりにくかったため。
使う講義と使わない講義の差が激しい。スマホと代替できるのであまり必要性なし。
授業で必要だったから(簿記・図書館情報技術論・情報サービス論など)。
Glexaでのテストや簿記の答えで使った。
ゼミの時間や授業で使えるので、あって助かった。
授業の答えを見た。
レポートや課題で調べ物をする時。
簿記の回答確認。
最初の頃は持ち歩いていたが、重いので、後半はあまり持っていなかった。

③の理由

家でYou Tube見えています。
使う授業もあったがiPadよりPCの方が良かったし、重いだけで良くなかった。
使うことが少なかった。
スマホがあったので。
携帯で見ることができなかったので使わなかった。
荷物になる。
iPadを使う講義が少なかったため。
持ち歩いていないから。
携帯があるのでそちらを使用しています。iPadは重いので持ち運びが不便。
学校に持ってくのが面倒。
使う授業が少なかった。

④の理由

使う機会ない。
iphoneを使うから。
家に帰ると使えないから。
最初から充電できなかったから。
iPadは持っているの。
自分の携帯があれば十分。パソコンもあるので使わなかった。
学校では使わない。Wi-Fi切れて使えない。
学習以外のところで使った。
スマホで間に合うことが多かったの。iPadよりPCを貸してほしい。

経営情報学科

①の理由

検索するし、手間が省けるから。
簿記や調べ物など。
授業で使ったり、簿記の解答を見たり、授業の資料を見たりした。
使えるから。便利だから。
画面が大きくて助かります。
スマホを持っていないため。
ゼミで使った。

②の理由

授業の資料が載っているから。
調べ物をする時や、授業のパワーポイントをダウンロードするようにしました。
使う授業がそんなに無い。
簿記の時間や暇な時に見た。
授業で使うことが多かった。
重いので持ち運びが不便。
ゼミ・ゲーム・ネットで。
簿記の答え見る以外は使う用途が無かった。スマホがあるのでiPadは無くてもいいと思った。
授業で使った。
持ち運びが大変だったのでiphoneで対応した。
レポートを書く時、インターネットで調べることがあったから。
授業で教えてもらったことを振り返るために配信された資料を読んだ。
簿記と英語で使った。
簿記の授業など配布資料がある授業でiPadがとても役立った。
配布されたiPadが画面をタッチしても反応しなくて使いづらかった。
便利。
簿記の解答を見る時や調べ物をする時に使った。
簿記の授業や復習に使った。
なかなかつながらない時があるから。スマホより画面が大きいから。
ノートとかで十分だった。

③の理由

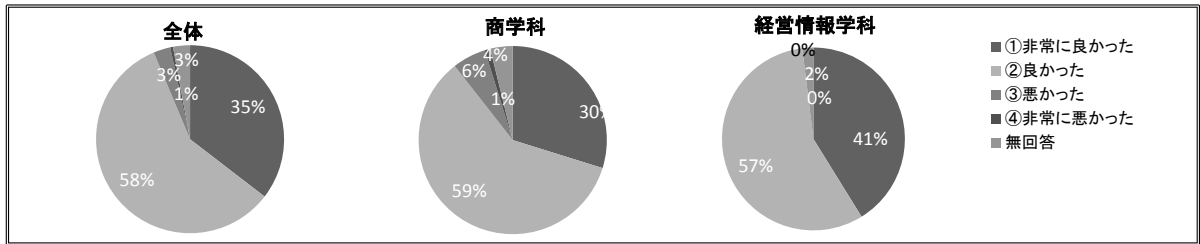
動きが遅くない。
家でWi-Fiを使って利用しようとしたが、つながらずに何も出来ない状態になってしまったから。
グレスサが遅い。
自分のスマホで調べたりしていた。
パソコンの方が活用できたと思う。
パソコンの方が嬉しい。
自分のスマホで出来る。
使う機会が無いから。スマホで間に合う。
iPadは殆ど使わなかった。パソコンが良かった。
簿記の答え合わせ。
自分のスマホで見れるし、壊した時が怖いので使えなかった。
充電等に時間がかかる。
学校では調べる時に使うが、家ではパソコンがあるので。
重いので。
最初は使ったが、つながりにくいし重いのでやめました。

④の理由

スマホで十分。
重すぎます。
使う授業が無かった。
携帯があるから。
授業で使えと言われなかった。
持ち運ぶのが大変。
充電が勝手に減っているから。
パソコンの方が良かった。
タッチ操作が慣れない。2年と同じパソコンが良かった。

質問5. ゼミナール担当者はあなたの学生生活の良きアドバイザーでしたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	6	25	31	6	36	42	73
②良かった	5	57	62	9	49	58	120
③悪かった	0	6	6	0	0	0	6
④非常に悪かった	0	1	1	0	0	0	1
無回答	1	3	4	0	2	2	6



【理由等】

商学科

①の理由

よく話を聞いていただいた。
 さすが経営者。
 話しやすく、とても信頼できるから。
 レポートやゼミ活動でアドバイスをくれた。
 困ったときに相談に乗ってくれた。
 楽しくて優しく最高でした。
 関わるが多かったので、話す機会も多かったです。
 いつも優しく教えてくれました。
 たくさんお世話になりました。
 相談相手になっていただきました。
 個人的にも相談に乗ってもらったりしたから。
 相談しやすく話しやすく助かった。
 生徒のことをしっかり見てくれていて、アドバイスもしっかりしてくれる。
 一人一人をよくしっかりと見てくれている。
 親身になっていただきましたし、相性が良かったです。
 相談に乗ってくれて良かった。

②の理由

個人的な相談にも乗ってもらいました。
 色々相談に乗ってくれた。
 しっかり話を聞いてくれた。
 一人一人のことを見ていると思いました。
 優しいし穏やかな人です。
 良くも悪くもない。
 研究室に訪ねて話をしたりなどできたから。
 予定を前もって教えてくれた。
 話しやすかった。
 不安が解消された。
 あまり相談していない。
 少人数なので。
 ゼミ生をよく見ていた。

③の理由

もう少し何かしてほしかったから。
 あまり関わりがなかったから。
 特に何もしてくれなかった。

④の理由

経営情報学科

①の理由

親身になってくれた。
研究室へ行くと、親身になって話を聞いてくださったから。
楽しくゼミを受けられたと思います。
思ったことは言ってくれるから。
気になることを少しでも多く相談できた。
ゼミに入るととても良かったです。
就活について知れた。
お父さんみたいに話しやすかった。
優しい。
どんなことでも話せて安心できた。
相談にも乗ってくれた。
グループディスカッションで皆の前での発表が嫌だったが、少しずつ慣れていけないういけないので良かった。
先生大好きです。
就活カードのアドバイスがとてもためになりました。
県外出身者で地元就職するつもりですが、先生が自身の体験等の話をしてくださった。
相談にすぐ乗ってくれた。
就活対策をばっちり行ってくれた。良き相談相手です。
面接の文と一緒に考えてくれた。
色々なアドバイスをしてくれたから。
アドバイスが的確でした。
面白い先生だから。
熱心さは伝わってきました。優しい。
求職カードを直してくれた。
楽しかった。

②の理由

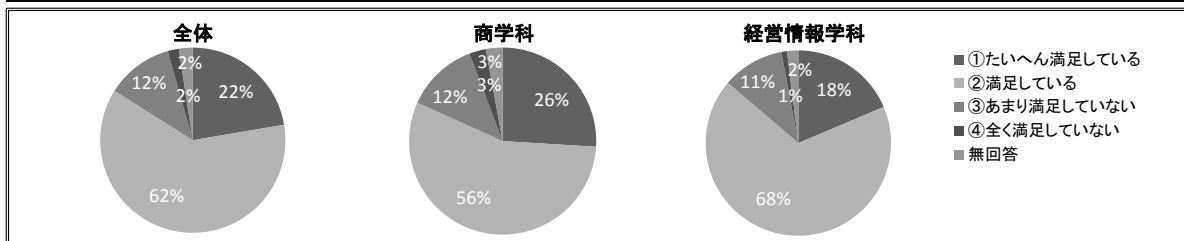
楽しかった。
使えるものを使わせてくれる。
話しやすい。
親身になって話を聞いてくれた。
進路活動でこれからもっとアドバイスをもらっていきたい。
求職カードを書く時、アドバイスしてくれた。
就職のことなど一緒に考えてくれた。
色々分かった。
求職カードのとき、助けてもらいました。
アドバイスしてくれた時もあったから。
きちんと答えてくれた。
とても聞きやすかった。
まだ相談などの話をしていないからわからないが、話しやすい。
進路について相談した時、相談に乗ってくれた。
ためになる話をしてくれる。

③の理由

④の理由

質問6. 大学には、学生課・教務課・キャリアセンター・情報センター・総務課等があり、事務職員はそれぞれのところで皆さんのサポートをさせていただいています。皆さんにとって事務職員の対応はどうか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	2	25	27	2	17	19	46
②満足している	6	52	58	13	56	69	127
③あまり満足していない	2	11	13	0	11	11	24
④全く満足していない	1	2	3	0	1	1	4
無回答	1	2	3	0	2	2	5



【理由等】

商学科

①の理由

分からないところを聞きにいった時に、とても丁寧に説明してくれた。
フレンドリーで話しやすかった。
困ったことがあっても丁寧に对应してくださったので良かったです。
丁寧に对应してくださったので良かった。
優しく接してくれたので良かった。
皆さんフレンドリーに対応してくれた。
分からないこともしっかり教えてくれたので良かった。
学生課と情報センターの方々には、とてもお世話になりました。

②の理由

携帯の故障もみてもらえたから。
困ったらすぐ対応してくれる。
情報センターの職員の対応が悪い。
対応が良かったので助かっています。
良く対応してもらいました。
丁寧に指導してもらえた。
家のことなどで学生課に色々お世話になっているから。
勉強を教えてください。
分からないことにきちんと対応してくれたため。
分からなかったことも再度丁寧に教えてくれた。
丁寧で分かりやすい。
優しく対応してくれて良かった。

③の理由

良い対応をしてくれた人もいましたが、良い対応をしてくれない人もいました。
関わらない。
怖い。
まず教室に入りにくくてなかなか行けなかった。怖い。
学生課の職員の態度が悪い。
時々少し態度が悪い時があった。
その先生の気分で怒らないでほしい。
多くの先生が良かったが、冷たい態度が気になることがあった。

④の理由

学生課の人達の対応が悪すぎた。キャリアセンターの方は良くいただきました。

経営情報学科

①の理由

適切な対応をされており、とても行きやすい環境だった。
とても優しく、色々教えてくれる。
分からないことを聞いたら、とても丁寧に对应してくれた。
優しい。
丁寧に对应してくださり、感謝しています。
気になることを質問したらすぐ答えてくれて嬉しかったです。
受験票や合格証を取りに行った時に丁寧に对应してくださった。
キャリアセンターでは就職の相談をしてもらって、ためになりました。情報センターでもお世話になりました。
あまり利用していないが、いいと思います。
教務職員は皆いい人で満足。

②の理由

学生に対して、心配したり、何とかしてあげたいと思っているのだと思った。
あまり利用しなかったので、今後利用していきたいと思います。
少し冷たい態度の時がある。
情報センターやキャリアセンターの方は様々な対応をしてくれたので助かりました。
皆さん優しい。
いつも分かりやすく対応してくれた。
特に悪いと感じたことはなかったです。
キャリアセンターで面談した時に、自分の気持ちを話せて良かった。
たまに分かりにくい言い方をされました。
いい人。
質問に行くと快く答えてくれる。
たまに対応が悪いときがあった。(特に学生課)
忙しいのに丁寧に对应してくれた。
もう少し優しくしても良い。

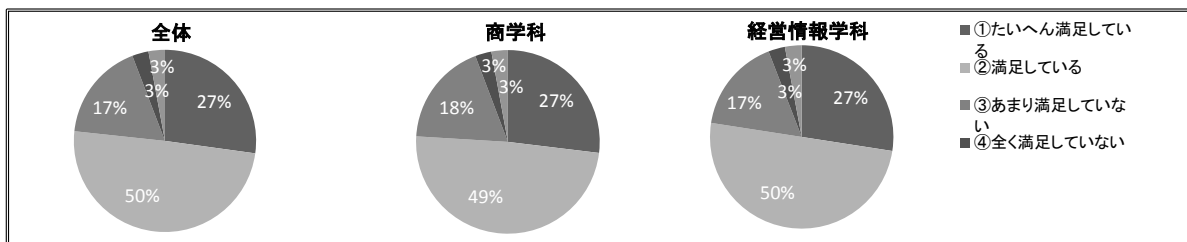
③の理由

たまに冷たい対応をされた。
キャリアセンター・情報センターの人は◎。教務課の人と事務員はあまり関わっていないから分からない。あとの人の中で良いと思う人は一人しかいない。
学生課の男性職員の方の態度に思うところがありました。
たまにそっけないというか、冷たい人がいる。
ロッカーの変更先を教えてください。
人によって違うが、あまり感じのいい対応をしてくれなかった人もいる。
キャリアセンターの人たちは結構丁寧で良かったのですが、その他の学生課・教務課の人たちの対応が悪い。
キャリアセンターの人が冷たいです。
キャリアセンターの人がとても優しい。

④の理由

質問7. あなたは本学の施設・設備(コンピュータ教室、体育館、教室、グラウンド、駐車場、7号館1階コモンルーム等)に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	5	23	28	4	24	28	56
②満足している	5	46	51	8	43	51	102
③あまり満足していない	1	18	19	3	14	17	36
④全く満足していない	0	3	3	0	3	3	6
無回答	1	2	3	0	3	3	6



【理由等】

商学科

①の理由

良い設備で満足している。
 ただ、駐車場代が高い。
 レポートの印刷等でよくPC室を使わせてもらっていたので良かったです。
 空き時間を過ごせる場所があった。
 コンピューター室を空いている時間に使えることが、レポートや課題をこなす上でとても便利に感じました。

②の理由

コモンルームが臭いです。
 不便は無かった。
 駐車場が短大の近くにも欲しい。
 時々、清掃が行き届いておらず嫌ですが、空調は丁度良いです。
 コンピューター室はよく利用するので助かっています。印刷ができることがいいと思っています。
 勉強をする場として使いやすかった。
 パソコン教室のパソコンがたまに調子が良くない。
 空き時間に勉強したり出来たので良かったです。
 暖房が効いていないところがあったが、充実して過ごせました。
 パソコンが使えることにより、レポートなどの作成に役立った。それ以外は使う気にならなかった。
 1号館のところは寒いので、ヒーターなどを入れてほしい。
 7号館が寒い。
 コンピューターの調子が悪いところが多かった。
 PC室が、貼ってある紙に講義が無いと書いてあるのに講義をやっていて、入っていいのかだめなのか分からない時があった。

③の理由

コモンの生協が閉まるの早すぎます。
 駐車場をもっと広くしてほしい。入れない時がある。
 121・232教室の前の列が寒すぎる。
 寒い教室が多い。トイレの節電をやめてほしい。
 教室が寒かった。
 PC教室を自由に使えることはいいが、ネットに接続するのが遅かったり、授業中に固まることもあったので。
 コンピューターの調子が悪い。
 PC室で動作が悪かったり、再起動することがあって困ったため。
 体育館を自由に使えたら嬉しい。
 駐車場が遠すぎる。
 ひたすら寒い。
 MOSが使えないパソコンがあって少し不満でした。
 暖房が効きすぎたり壊れているところがあった。

④の理由

昼食場所が無い。狭い。
 人が多すぎる。

経営情報学科

①の理由

ほぼ常に空いているパソコンがあるので、長い休み時間に作業が出来る。
高校の施設・設備よりもはるかに良い環境だったため、モチベーションが上がり、快適に過ごせた。
勉強や暇つぶしに良く使っています。ただ、朝だと急に電源が切れることがある。
設備環境はいい。パソコンは有効活用していた。
パソコン室はいい。体育館を自由に使いたい。
コンピュータ室は利用しやすかった。
きれいだ。
授業が入っていない時間にパソコンを使えるから。
コンピュータ室はともにも使いやすい。
パソコン室が自由に使える。
3階のパソコン室が使いやすい。

②の理由

きれいだ。
教室が寒いところがある。
使いやすかったが、寒いから。
パソコンやエアコンの故障などが多く見られた。トイレを流すところの部分が水漏れしている階があった。流れにくい。
コンピュータ室は課題なので使っていた。
体育館を自由に使わせてほしい。
232教室の前が寒い。
短大の建物からは駐車場は少し遠いと感じました。
駐車場が遠い。
コンピューターが古い教室があったので、正常に動かない時があった。駐車場が遠い。
コンピュータ教室の開く時間が教室によって違うので、8:30にしてくれるとありがたい。
集中して受けられた。
コンピュータ室が多くて、空き時間に使えるので便利。
コモンルームやパソコンがとても良い。

③の理由

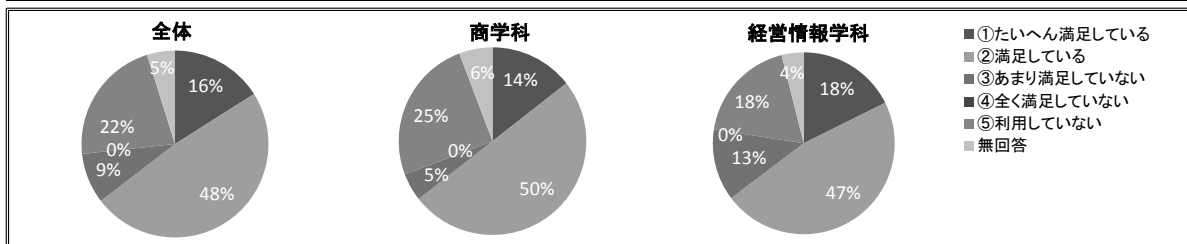
駐車場が遠い。自転車置き場をもっと広げてほしい。
駐車スペースが狭い。
コンピューターの調子が悪い。
冷暖房の効き方。
広い教室だと下がとても寒くて大変でした。
MOSが無いところがある。
駐車場から遠すぎる。
Wi-Fiの接続が悪い。コンピュータ教室の場所によって、MOSが起動できないところがあったため。
コモンルームをもっと広くしてほしい。

④の理由

コモンルームが寒い。教室232・121寒い。先生によって暖房をつけてくれない。
駐車場が遠い。料金が安い。

質問8. あなたは各サポートセンター(基礎教育センター、国際交流センター、地域づくり考房『ゆめ』、図書館、健康安全センター等)に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	3	12	15	2	16	18	33
②満足している	4	48	52	7	41	48	100
③あまり満足していない	1	4	5	1	12	13	18
④全く満足していない	0	0	0	0	0	0	0
⑤利用していない	4	22	26	4	15	19	45
無回答	0	6	6	1	3	4	10



【理由等】

商学科

①の理由

図書館をよく利用していて、とても便利である。
 基礎教育センターは頻りに利用しています。先生方が優しく、落ち着いて勉強が出来るのでとても良いです。
 基礎教育センターの先生たちは、一人一人名前を覚えてくれて、教え方も分かりやすかった。
 図書館は、設備も機能も大変良かったし、勉強にもよく利用していました。
 図書館のブラウジングコーナーが良かった。

②の理由

主に基礎教育センターを利用して、基礎学力向上にとっても役立ったと思う。
 『ゆめ』は大変お世話になった。人を助ける活動は尊敬する。
 一人の時はよく図書館を利用している。
 勉強を教えてもらった。
 勉強に役立った。
 基礎教育センターなどはとても助かりました。
 図書館のパソコンはすぐ印刷できるので良かったです。
 図書館でPCなど使えるし、勉強できるスペースも多くあって良かった。
 図書館を利用しているのですが、とても居やすかった。

③の理由

『ゆめ』の活動で教室を使用した時、(今はいない)職員の方に自分の見た目のことをけなされて嫌な気持ちになった。
 基礎教育センターなど行きづらい。図書館はわりと行きやすく、待ち時間などに利用しているが、1階がとても寒い。

④の理由

⑤の理由

経営情報学科

①の理由

サポートセンターに入った際に出迎えてくださる先生方がいつも笑顔で接して下さり、嬉しく感じたから。
 脱出ゲームが楽しかった。
 図書館は利用しやすい。
 優しい。
 勉強するにも、話し合いをするにも、一生懸命になれる環境が整っている。
 図書館は集中できる。
 図書館はそれなりの座席があり、パソコンも使えるから。
 勉強する時に図書館を利用していた。

②の理由

図書館の机は使いやすい。
 図書館はとても使いやすかった。
 基礎教育センターに最近初めて行ったが、細かく教えてくれて良かった。図書館は落ち着き、テスト前によく活用した。
 個人で勉強する席の数が少ないと思います。
 図書館で映画が観れて嬉しいです。
 図書館で就職の本を借りて役立った。
 図書館を利用し、良い雰囲気を利用しやすい。
 図書館以外使う機会が無かったのですが、静かで良かった。
 健康安全センターの場所がよく分かりません。図書館が使いやすかった。
 考房『ゆめ』と図書館、健康安全センターを利用しました。皆さん優しくかったです。
 図書館の食べる所が少ない。

③の理由

あまり行っていないので。
 全体的に行きづらい。
 教育センターに行く勇気が持てない。そしていまいち場所が分からない。

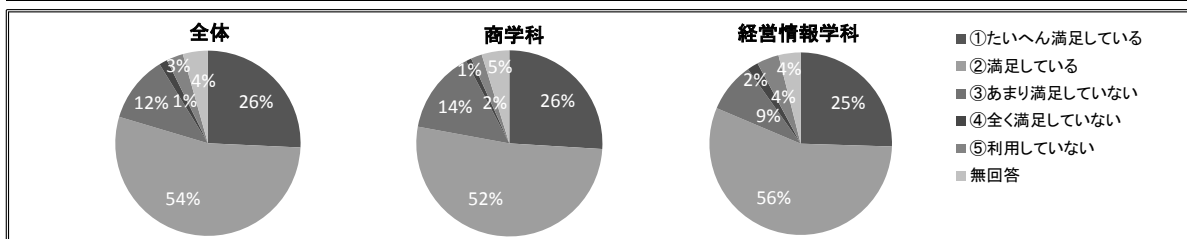
④の理由

⑤の理由

場所が分からない。

質問9. あなたは生協のフォレストホール、ラウンジ、購買、ミニショップに満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	2	25	27	4	22	26	53
②満足している	9	45	54	10	47	57	111
③あまり満足していない	1	14	15	0	9	9	24
④全く満足していない	0	1	1	0	2	2	3
⑤利用していない	0	2	2	0	4	4	6
無回答	0	5	5	1	3	4	9



【理由等】

商学科

①の理由

チョコブラウニーが美味しかった。安くなっているものが多くて助かった。
 優しい。
 とても便利で助かっています。
 毎日のように利用していました。
 ちょっと買いたい時にすぐに買いに行けて良かった。
 使いやすく、よく利用している。

②の理由

あまり利用しなかったが、満足している。
 色々な物が売られているから。
 購買について、もっと長い時間開いてくれると嬉しい。
 ファイルの種類をもっと多くしてほしい(パチっとなるもの)。
 ドーナツが良かった。
 購買の品数を増やしてほしい。
 行きやすかった。
 色々商品が揃っていいが、7号館の生協が狭くて買い物しにくい。
 ミニショップの閉店時間が早い。
 生協が2店舗で、終わる時間が違うのが謎。不便。
 生協色々あってよく利用しているが、営業時間を朝から夕方までやってほしい(短大の方)。
 満足はしていますが、7号館の購買にある商品をもう少し多くしてほしいです。
 季節ごとのおすすめ商品や、生協価格で安くなるのが良かった。
 ポットのお湯が少なくなったら足してほしい。7号館の電子レンジが一定の時間までしか使えないのは困る。時間が経つと商品が少なくなる。足さないのはなぜ。
 食べ物美味しいです。
 もう少し品揃えを増やしてほしい。
 あまり利用しないけれど、買いやすかった。

③の理由

値段が高いから。
 購買を利用したが、価格が高いと思った。
 閉まるのが早すぎる。
 短大の方の購買について、もっと長い時間やってほしい。
 短大の生協の営業時間が短い。
 購買等の商品の種類を増やしてほしい。
 購買が短大から遠くて大変であることと、ミニショップがお昼しか開いていないのが不便だった。
 狭い。

④の理由

7号館の生協の営業時間が短すぎる。

⑤の理由

経営情報学科

①の理由

色々な商品があった。
景色が良く、快適でした。
小腹が空いた時に通いやすい。
美味しい。
優しい。
安い値段の物もあり、よく利用した。
文房具が切れたときに買いに行くことが出来たから。
たまに使用するが、商品が充実してよい。
短大の方のミニショップの営業時間を延ばしてほしい。
開始時間を30分ほど早くしてほしい。
丸ごとじゃがいもパンとはるさめスープが美味しかったです。
生協の人が好き。

②の理由

種類が豊富。
気温が適温。
肉まんをもっと増やしてほしい。短大の営業時間をもう少し延ばしてほしい。
値段が高い。おにぎりが少ない。
買いたいものが買えたから。
購買について、安い時もあるので、学生にとっては嬉しい。もっと種類増えてもいいと思う。
フォレストの生協も24時間営業にしてほしい。
新商品も入れてほしい。
好きな商品があったから。
見る限りでは何でも揃っていていいと思う。
パンの種類をもう少し増やしてほしい。
安く購入できるから。
少し高い。
お菓子がたくさん。ピザまんが美味しい。
もう少し安くしてほしい。
肉まんが無い時が多い。
色々取り揃えているから。
購買に行ったら閉まっていた時があるので、もう少し長くやってくれると嬉しいです。
意外と色々揃っていた。
品数をもっと多い方がいい。
安いから。
11時前に営業してほしいです。

③の理由

短大側の生協の閉まる時間が早い。
もっとバリエーション増やしてほしい。
値段を安くしてほしい。
7号館の購買は品数が少なすぎる。すぐ無くなる。
品揃えが悪い。
短大の購買の品揃えが少なすぎる。
もっと安くしてほしい。
少ない。

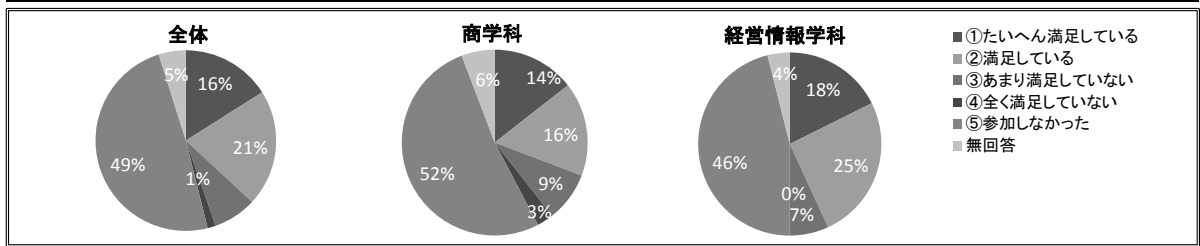
④の理由

コモンルームのところの生協、閉まるのが早すぎる。せめて17時までやってほしい。品揃え良くない。店員の愛想も無い。物も高い。もっと割引してほしい。
閉まるのが早い。

⑤の理由

質問10. あなたにとって、サークル活動はどうでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	0	15	15	4	14	18	33
②満足している	2	15	17	6	20	26	43
③あまり満足していない	2	7	9	1	6	7	16
④全く満足していない	0	3	3	0	0	0	3
⑤参加しなかった	8	46	54	3	44	47	101
無回答	0	6	6	1	3	4	10



【理由等】

商学科

①の理由

とっても楽しい。
 年上の先輩と話す機会が出来たのいうのは大きく、楽しみながら活動を行うことが出来た。
 とても楽しい。大学の人も関わられるので。
 コートがオムニだから。

②の理由

楽しいが、回数少ない。
 国際交流クラブに所属しているが、他国に興味を持てて良い。
 ベースがゆったりで参加しやすい。

③の理由

活動が少なかった。
 サークルによって活動が少ない。

④の理由

入りたいサークルが無かった。入ってはいるが、殆ど参加していない。

⑤の理由

興味が無い。
 マツナビと掛け持ちは出来なかった。
 時間が無かった。

経営情報学科

①の理由

楽しいです。
 ボランティアの活動のところに入って話し合いをして、活動をしていると実感できるから。
 自分を成長させることが出来たから。

②の理由

良い人に巡り会えた。
 楽しかった。
 もっとやりたかった。
 文化祭が楽しかったです。
 色々な交流が出来て良かった。
 場所が2つあり、移動が大変だった。8号館が出来たら、音楽室を使わせてほしいです(吹奏楽)。
 程よい。

③の理由

自分があまり参加していなかった。来年はしっかり参加したい。
 あまり活動が無かった。
 やめた人に対する対応がひどかった。
 あまり楽しくない。
 ファッションショーに出たりして楽しかったが、その後のサークル内の雰囲気が悪くてやめました。

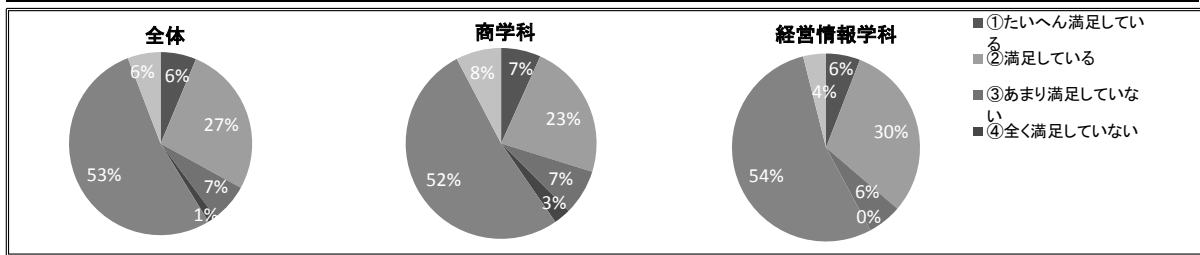
④の理由

⑤の理由

帰宅時間があるため。
 家が遠いので参加が出来ない。
 通学が大変だったので。

質問11. あなたにとって、学生会活動はどうでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	0	7	7	1	5	6	13
②満足している	1	23	24	6	25	31	55
③あまり満足していない	0	8	8	0	6	6	14
④全く満足していない	0	3	3	0	0	0	3
⑤参加しなかった	10	44	54	7	48	55	109
無回答	1	7	8	1	3	4	12



【理由等】

商学科

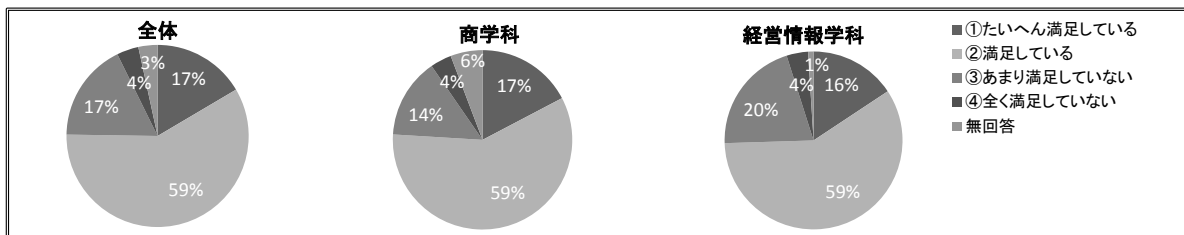
- ①の理由 _____
- ②の理由
文化祭が楽しかった。
先輩がいい人だった。
連絡を早くしてほしい。
- ③の理由
準備などはきちんとしてきたが、打ち合わせのときに内容をはっきりさせてから進めてほしかった。
自分が見ていない、気にしていない、ということもあるが、あまり分からない。
- ④の理由
何もしていない。
- ⑤の理由
普段何かしているのか？
いつあったか分からない。
あまり興味が無かった。
時間が無かった。

経営情報学科

- ①の理由 _____
- ②の理由
自分が参加する活動が少なかったから。
これから頑張りたい。
花火大会が楽しかった。
あまり活動をしていなかったのが特にはないです。
先輩と話をする機会を持てた。
- ③の理由 _____
- ④の理由 _____
- ⑤の理由
通学が大変だったから。
忙しかったから。
どのような活動なのか分からない。

質問12. あなたは本学の学生会行事(大学祭、新入生歓迎会、体育大会、クリスマス会等)についてどのように感じましたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	2	16	18	4	12	16	34
②満足している	7	54	61	6	54	60	121
③あまり満足していない	2	13	15	5	16	21	36
④全く満足していない	0	4	4	0	4	4	8
無回答	1	5	6	0	1	1	7



【理由等】

商学科

①の理由

佐藤健が良かった。
イベントがあると盛り上がる。楽しみが増え、友人を誘いたくなる。
模擬店の数の多さも良かったし、やる内容も良かったです。サプライズゲストも良かったです。
体育大会も皆と協力できる機会ができるのでいいと思います。
体育祭や学祭、とても楽しかった。来年度も楽しいと嬉しい。
先輩方が優しく接してくれたので、不安が解消されました。

②の理由

楽しめたから。
皆で楽しめるように工夫を凝らしてくれた。
楽しく参加することができた。
体育祭知らない。
今年の大学祭にすぐお金を使っていて、来年以降が心配。
たくさん有名人やアーティストと会えて、貴重な体験が出来た。
山賊焼きが美味しかった。

③の理由

あまり楽しくなかった。
体育大会が日曜日で、振り替えが無いのが辛かった。夏休みが長くて、冬休みが短すぎたので、もう少し配慮してほしい。
体育大会の段取りが悪かった。
やるからには中途半端にやらないでほしい。
体育祭は土日にあるのに、振り替えが無くて困った。授業数の関係もあると思うが、土日にやるくらいならやらなくていいと思う。
祝日の授業日が多い。

④の理由

人が多い。
体育大会、競技ルールを変えた方がいいと思います。バドミントンだったが、4時間待って1回しか出来なくて、全く楽しくありませんでした。

経営情報学科

①の理由

先輩方が盛り上げてくださり、楽しく参加できたから。
ケーキバイキングが美味しく、楽しめました。
ゼミのアウトキャンパスで普段行かない所へ行くことができ、貴重な体験ができたから。
お茶がありがたかった。
楽しい思い出になった。

②の理由

大学祭は楽しかった。
楽しかったが、体育大会はとても退屈でした。
楽しかったです。
バレーのボールを軟らかくしてほしい。
ゼミでの活動だったので、活動しやすかった。
普通でした。
花火大会も体育大会も楽しかった。
進行や時間は守ってほしい。
芸能人がたくさん来て楽しかった。
大学祭や体育大会は結構盛り上がっているのいいと思いますが、クリスマス会などは、人がかなり少なかったの、やる意味があるのかなと思いました。
学祭は楽しかった。体育大会はやらなくてもいいと思う。
大学祭について、もう少し1年にも情報を流してほしい。

③の理由

寒い。
よく分からなかった。
つまらない。
家が遠い人は参加できない。
体育大会の段取りがあまり良くなかった。
ゼミごとの差がひどすぎる。
全学部の体育大会などをやってほしい。
行事をもっと増やしてほしい。

④の理由

知らない。体育大会の会場が分かりづらい。
興味無い。
焼イモ大会をしたかった。

質問13. 松本大学松商短期大学部をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。

(例えば ①こんな授業があったらいい、②こんな制度があったらいい、③こんなところを変えてほしい等、何でも結構です。)

商学科

①単位3の講義 ②講義中も喫煙 ③喫煙所増やしてほしい

単位を50単位にしてほしい。

①性教育 ②単位復活 ③先生の上から目線が嫌です

とりたて授業が被ってしまったことがよくあるので、そこを相談次第で改善されたいと思います。

電車の時間が意味不明。18分発なのに、授業が20分に終わる。

もっと少人数にしてほしい。

短大の方に駐車場がほしい。

イルミネーションいらぬです。そういうところに使うお金があるなら暖房にまわしてほしいです。

制作に関わるものがあるのもいいと思います。

7号館の購買の商品をもう少し増やしてほしい。美術みたいな授業があれば楽しいと思います。

体育館が空き時間の時に自由に使えたら嬉しい。

とりたて講義が被っていることが結構多いです。

施設が狭い。図書館HPを充実させてほしい。

生協の終わる時間を延ばしてほしいです。

体育の授業を増やしてほしい。

コモンルームのようなものを増やしてほしい。

奨励金制度をもっと増やしてほしい。

232教室の下の方が寒い。ゼミは希望するゼミに入りたかった。

100%皆のアンケートに応えられないのなら、アンケートとっている意味が分かりません。

パンの自販機がほしい。

ロッカーを増やしてほしい。パソコンが使える教室を増やしてほしい。

①もっと国際系の授業がほしい。大学の授業をもっととりたて。

①データベースを多くしてほしい ②テスト前に範囲だけでなくプリントがほしい ③学生証をもっと使えるように、購買では10%割引等やってほしい

④食事する場所(広場)を多くしてほしい ⑤上だけ暖かくて、下の席の人は寒いので、どうにかしてほしい

経営情報学科

iPadのWi-Fi環境をより良くしてほしい。一齐に使うと重くなってしまったり、家で使おうとしても機能しなかったの。

いくら休んでも単位をとれる。

面白い人が学友会をしてほしい。

駐車場が遠い。大学祭などの行事を自由参加にしてほしい。

駐車場を近くに作ってほしい。駐車場代金が高い。

マナーについての授業をやった方がいいと思います。

ネイルや美容系の授業を増やしてほしい。

掲示板と生協と空調の数を増やしてください。

トイレの乾燥機の電気をつけてほしい。不便。

エステやメイクの授業。

短大側に駐車場を作ってください。

音楽の授業があったら面白いと思います。

パソコンの授業の時に、パソコンの調子が悪い時があったので、直してほしいと思います。

車椅子の昇降機を、授業がある時だけでも使えたらよかったです。

公務員講座の時間をもう少し早くしてほしい。

簿記のクラス分けのことですが、入学前にとったアンケートのやり方だと人によってそれぞれ理解度が違うので、

ついていけない人も中にはいました。それでは必修の意味もなくなってしまう。

図書館隣の自転車置き場はいつもあふれています。この近くに自転車置き場をもう一つくらい設置した方がいいと思います。

図書館のご飯の食べるスペースを増やしてほしい(お昼の時間のみなどで)。

部室にストーブやエアコンがほしい。

③重要な連絡は電話にしてほしい。メールは気付かない。

iPadを使用した授業が少なく、後期では全く学業としてではなく、ただの遊ぶためのものになってしまっている人が多かったので

改善した方がいいと思いました。

学生課やキャリアセンターに用事があり、行った時に複数の方がいて、誰に声を掛けたいかわからない時や、

作業をしていて声を掛けづらいと感じてしまう時があります。

232教室や121教室の机の間隔が狭いと思うので、改善できたらいいと思います。

短大側の生協の時間を延ばしてほしい。

2年生でも体育の授業をやしてほしい。

電車の時間が微妙なので変えてほしい。例えば15:00に3限が終わるが、電車が15:02にあるため間に合わない。

5限の時は18:18に電車があるが、授業が18:20までのためギリギリ乗れない。これに乗れないと家に付く時間が1時間半も遅くなるので、

電車の時間を変えられないのであれば授業の時間を変えて下さい。

2年生でも授業で茶道をしたい。机にかばんを掛けるフックをつけてほしい。

駐車場が広がったらいいと思います。

留学できるようになりたい。

駐車料金が安い。

キャスタの社会以外の先生を変えてほしい。説明がわかりにくい、声が大きすぎてうるさい、無駄話が多い、発音が下手。

体育館を自由に使えるようにしてほしい。

色々とお金掛けすぎです。

もっと資格や検定の授業を増やしてほしい。一石二鳥だと思うから。電車に間に合う時間がいい。

短大から駐車場が遠い。

パソコンが良くないので変えた方がいい。

パソコンの調子が悪いので、どうにかしてほしい。